

PRINT DATA EXCHANGE - Form Designer

解説・手引・文法・操作書

3020-3-P03-60

対象製品

R-1521C-241 PRINT DATA EXCHANGE - Form Designer 02-00 (適用 OS : Windows Server 2008 R2 , Windows Server 2012 , Windows 7 , Windows 8)

R-F1521C-2411 PRINT DATA EXCHANGE - Form Overlay Source Option 02-00 (適用 OS : Windows Server 2008 R2 , Windows Server 2012 , Windows 7 , Windows 8)

輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

商標類

InstallShield は、Macrovision Corporation の米国および/または他の国における登録商標または商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

マイクロソフト製品のスクリーンショットの使用について

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは、マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

表記	製品名
Windows 7	Microsoft(R) Windows(R) 7 Enterprise
	Microsoft(R) Windows(R) 7 Professional
	Microsoft(R) Windows(R) 7 Ultimate
Windows 8	Windows(R) 8 Enterprise
	Windows(R) 8 Pro
Windows Server 2008 R2	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Datacenter 日本語版
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise 日本語版
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard 日本語版
Windows Server 2012	Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Datacenter
	Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard

・ Windows 7 , Windows 8 , Windows Server 2008 R2 , Windows Server 2012 を合わせて Windows と表記することがあります。

発行

2013 年 4 月 3020-3-P03-60

著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2007, 2013, Hitachi, Ltd.

All Rights Reserved. Copyright (C) 2007, 2013, Hitachi Solutions, Ltd.

変更内容

変更内容(3020-3-P03-50) PRINT DATA EXCHANGE - Form Designer 02-00 ,PRINT DATA EXCHANGE - Form Overlay Source Option 02-00

追加・変更内容	変更箇所
書式中に任意倍率指定の文字を定義できるようになりました。	4.5.2, 付録 G(2)
書式イメージで使用できるドットパターン, 文字, 図形などの数の制限を緩和しました。	4.6.3, 付録 I
PRINT DATA EXCHANGE - Form Designer で, 書式イメージが生成できるようになりました。	1.3, 2.3
IT Report Utility を利用した保守情報の採取ができるようになりました。	13.3
次の前提 OS を追加しました。 <ul style="list-style-type: none">• Windows 8• Windows Server 2012	-

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

このマニュアルは PRINT DATA EXCHANGE - Form Designer および PRINT DATA EXCHANGE - Form Overlay Source Option の使用方法について説明したものです。

以降、この製品を PDE - Form Designer および PDE - Form Designer 記述文オプションと表記します。また、PDE - Form Designer および PDE - Form Designer 記述文オプションを合わせて PDE - Form Designer と表記することがあります。

対象読者

このマニュアルは、次に示す方を対象としています。

- 次に示す製品で使用する制御イメージを Windows 環境で作成したい方
 - ・ PRINT DATA EXCHANGE - Electronic Document Option
 - ・ PRINT DATA EXCHANGE - Enterprise Printer Option
 - ・ PRINT DATA EXCHANGE - Portable Document Format Edition
 - ・ PRINT DATA EXCHANGE - Print Edition
 - ・ PRINT DATA EXCHANGE for Open
- Windows 上で書式定義して書式記述文を生成したい方
- Windows 上で書式記述文から書式イメージを生成したい方

また、次の条件を満たす方を前提としています。

- 上記製品を使用するシステムの開発で、システム管理者レベルの知識がある方
- システム管理者の指示を受けて、PDE - Form Designer および PDE - Form Designer 記述文オプションを操作する方
- メインフレームの知識がある方

マニュアルの構成

このマニュアルは、次に示す章と付録から構成されています。

第 1 章 概要

PDE - Form Designer の機能と特長について説明しています。

第 2 章 インストール / アンインストール

PDE - Form Designer のインストール / アンインストールについて説明しています。

第 3 章 環境設定機能

PDE - Form Designer の環境設定機能について説明しています。

第 4 章 書式定義機能

PDE - Form Designer の書式定義機能について説明しています。

第 5 章 書式オーバーレイモジュール生成機能

PDE - Form Designer の書式オーバーレイモジュール生成機能について説明しています。

第 6 章 FCB イメージ作成機能

PDE - Form Designer の FCB イメージ作成機能について説明しています。

第 7 章 ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能

PDE - Form Designer のラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能について説明しています。

はじめに

第 8 章 デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能

PDE・Form Designer のデフォルト機能キャラクタイメージ作成機能について説明しています。

第 9 章 ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能

PDE・Form Designer のラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能について説明しています。

第 10 章 書式記述文生成機能

PDE・Form Designer 記述文オプションの書式記述文生成機能について説明しています。

第 11 章 書式イメージ生成機能

PDE・Form Designer 記述文オプションの書式イメージ生成機能について説明しています。

第 12 章 制御イメージ一覧機能

PDE・Form Designer の制御イメージ一覧機能について説明しています。

第 13 章 トラブルシューティング

PDE・Form Designer の運用中にトラブルが発生した場合の対処方法などについて説明しています。

第 14 章 エラーメッセージ

PDE・Form Designer が出力するエラーメッセージの出力形式と内容について説明しています。

第 15 章 書式設計の操作例

PDE・Form Designer で初めて書式設計をする場合の、基本的な操作手順について説明しています。

付録 A VOS3 KAPS E3 (KLIB) 制御文に対するサポート範囲

VOS3 KAPS E3 (KLIB) の制御イメージ作成機能で使用する制御文・オペランド指定値に対する PDE・Form Designer でのサポート範囲について説明しています。

付録 B VOS1 KAPS (KLIB) 制御文に対するサポート範囲

VOS1 KAPS (KLIB) の制御イメージ作成機能で使用する制御文・オペランド指定値に対する PDE・Form Designer でのサポート範囲について説明しています。

付録 C VOSK EDIT DCI コマンドに対するサポート範囲

VOSK EDIT DCI コマンドに対するサポート範囲について説明しています。

付録 D VOS1 FCB マクロに対するサポート範囲

VOS1 FCB マクロに対するサポート範囲について説明しています。

付録 E PDE・Form Designer での文字コードの扱い (分散タイプ PDE だけ適用)

PDE・Form Designer での文字コードの扱い (分散タイプ PDE だけ適用) について説明しています。

付録 F STAMPSII からの移行

STAMPSII からの移行方法について説明しています。

付録 G オプション設定ファイル

オプション設定ファイルについて説明しています。

付録 H 書式記述文の生成規則

書式記述文の生成規則について説明しています。

付録 I 書式イメージの生成規則

書式イメージの生成規則について説明しています。

付録 J このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報について説明しています。

付録 K 用語解説

このマニュアルで使用している用語の意味について説明しています。

読書手順

このマニュアルは、利用目的に合わせて章を選択して読むことができます。利用目的別にお読みいただくことをお勧めします。

マニュアルを読む目的	記述箇所
PDE・Form Designer の概要について知りたい。	第 1 章
PDE・Form Designer のインストール/アンインストールについて知りたい。	第 2 章
PDE・Form Designer の環境設定機能について知りたい。	第 3 章
PDE・Form Designer の書式定義機能について知りたい。	第 4 章
PDE・Form Designer の書式オーバーレイモジュール生成機能について知りたい。	第 5 章
PDE・Form Designer の FCB イメージ作成機能について知りたい。	第 6 章
PDE・Form Designer のラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能について知りたい。	第 7 章
PDE・Form Designer のデフォルト機能キャラクタイメージ作成機能について知りたい。	第 8 章
PDE・Form Designer のラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能について知りたい。	第 9 章
PDE・Form Designer 記述文オプションの書式記述文生成機能について知りたい。	第 10 章
PDE・Form Designer 記述文オプションの書式イメージ生成機能について知りたい。	第 11 章
PDE・Form Designer の制御イメージ一覧機能について知りたい。	第 12 章
PDE・Form Designer の運用中にトラブルが発生した場合の対処方法などについて知りたい。	第 13 章
PDE・Form Designer が出力するエラーメッセージの出力形式と内容について知りたい。	第 14 章
PDE・Form Designer で初めて書式设计をする場合の、基本的な操作手順について知りたい。	第 15 章
VOS3 KAPS E3 (KLIB) の制御イメージ作成機能で使用する制御文・オペランド指定値に対する PDE・Form Designer でのサポート範囲について知りたい。	付録 A
VOS1 KAPS (KLIB) の制御イメージ作成機能で使用する制御文・オペランド指定値に対する PDE・Form Designer でのサポート範囲について知りたい。	付録 B
VOSK EDIT DCI コマンドに対するサポート範囲について知りたい。	付録 C
VOS1 FCB マクロに対するサポート範囲について知りたい。	付録 D
PDE・Form Designer での文字コードの扱い(分散タイプ PDE だけ適用)について知りたい。	付録 E
STAMPSII からの移行方法について知りたい。	付録 F
オプション設定ファイルについて知りたい。	付録 G
書式記述文の生成規則について知りたい。	付録 H
書式イメージの生成規則について知りたい。	付録 I
このマニュアルを読むに当たっての参考情報を知りたい。	付録 J
このマニュアルで使用している用語の意味について知りたい。	付録 K

このマニュアルで使用している記号

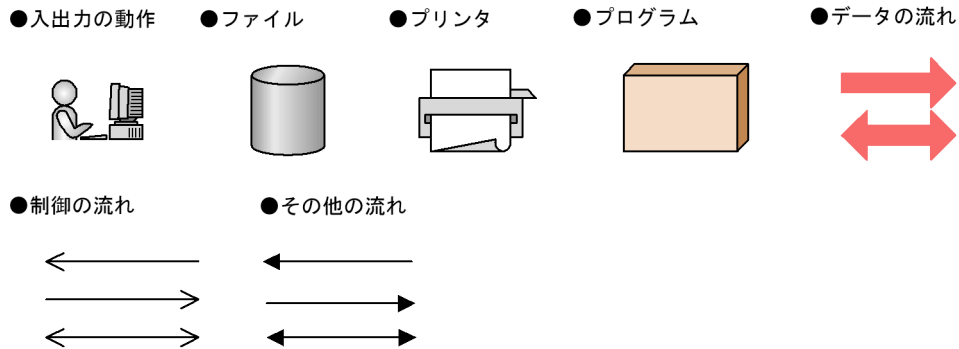
このマニュアルで使用している記号を、次のように定義します。

記号	意味
イタリック体	イタリック体の語または文字は、ユーザが指定する変数値を表しています。

記号	意味
[]	画面名，画面の項目名，メニュー項目，ボタン名，アイコン名，またはキーを示します。
[] - []	画面の項目を選択することを表します。
[]	[] 内の項目を省略できることを示します。
{ }	{ } 内のどれか一つを選んで指定することを示します。
	{ } 内の選択肢の区切りを示します。
<u>下線</u>	オペランドを選択しない場合に仮定されるパラメタを示します。
~	この記号の直前に位置する項目を，この記号以降の < > で示す文法規則に従って記述することを示します。
< >	指定できる文字や構文要素（文字列）などを示します。 例：ID = 識別名 ~ < 1 ~ 4 けたの文字列 > 識別名を 1 ~ 4 けたの文字列で示すことを示します。
《 》	値を指定しない場合に仮定される値を示します。
(())	指定できる値の範囲を示します。
...	この記号の直前の項目を繰り返し，複数個指定できることを示します。
	空白を一つ挿入することを示します。

図中で使用している記号

このマニュアルの図中で使用している記号を，次のように定義します。



目次

1	概要	1
1.1	PDE - Form Designer とは	2
1.2	PDE - Form Designer の特長	3
1.3	システム構成と処理の流れ	4
1.4	PDE - Form Designer の機能概要	6
1.5	入出力ファイル一覧	17
1.6	PDE - Form Designer の適用範囲	20
1.7	作成手順	22
1.7.1	書式オーバーレイモジュールを作成する手順	22
1.7.2	FCB イメージ, デフォルト機能キャラクタイメージを作成する手順	22
1.7.3	書式記述文を作成する手順	23
2	インストール/アンインストール	25
2.1	インストール方法	26
2.1.1	PDE - Form Designer のインストール方法	26
2.1.2	提供フォルダおよびプログラム	28
2.2	アンインストール方法	31
2.2.1	PDE - Form Designer のアンインストール方法	31
2.2.2	PDE - Form Designer 記述文オプションのアンインストール方法	31
2.3	インストールおよびアンインストール時の注意事項	32
2.4	運用時の注意事項	33
3	環境設定機能	35
3.1	環境設定機能一覧	36
3.2	環境設定の開始と終了	38
3.2.1	環境設定の開始	38
3.2.2	環境設定の終了	38
3.2.3	環境設定ファイルの初期化	39
3.3	全体設定	40
3.3.1	共通項目の設定	40
3.3.2	フォルダの設定	40
3.4	書式设计に関する設定	45
3.4.1	初期値の設定	45
3.4.2	禁止項目の設定	48
3.4.3	外字領域の設定	49
3.5	その他	53
3.5.1	制御イメージ設定の設定	53

3.5.2 書式生成設定の設定	54
-----------------	----

4

書式定義機能	55
4.1 書式定義機能とは	56
4.2 書式设计の入出力ファイル	57
4.3 [書式设计]画面とメニュー項目一覧	58
4.4 書式设计の開始と終了	64
4.4.1 書式设计の開始	64
4.4.2 書式设计の終了	64
4.5 書式设计情報の設定	65
4.5.1 書式情報の設定	65
4.5.2 作画属性の設定	68
4.5.3 作画・編集方法の設定	78
4.5.4 表示・印刷方法の設定	79
4.5.5 書式设计の状態表示	81
4.6 書式の作成	83
4.6.1 作画・編集操作の取り消し	83
4.6.2 取り消した作画・編集操作のやり直し	83
4.6.3 作画機能	84
4.6.4 編集機能	100
4.6.5 操作の中止	123
4.6.6 書式表示倍率の変更	123
4.6.7 書式の保存	123
4.7 書式部品の保存	125
4.8 色番号の設定	126
4.9 書式パターンの作成	128

5

書式オーバーレイモジュール生成機能	131
5.1 書式オーバーレイモジュール生成機能とは	132
5.2 書式オーバーレイモジュール生成機能の入出力ファイル	133
5.2.1 書式オーバーレイモジュールファイル名	133
5.3 [書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成]画面と項目一覧	135
5.4 書式オーバーレイモジュールの生成	137
5.5 コマンドプロンプトを使用した書式オーバーレイモジュール生成	139

6

FCB イメージ作成機能	141
6.1 FCB イメージ作成機能とは	142
6.2 FCB イメージ作成の手順	143
6.3 FCB イメージ作成機能の入出力ファイル	145
6.3.1 FCB イメージファイル名	145

6.4	[FCB イメージ作成機能] 画面とメニュー項目一覧	147
6.5	FCB イメージ作成の開始と終了	149
6.5.1	新規 FCB イメージの作成の開始	149
6.5.2	作成済み FCB イメージの変更の開始	150
6.5.3	FCB イメージ作成の終了	151
6.6	FCB イメージの編集の設定	152
6.6.1	数値の単位の選択	152
6.6.2	用紙選択と印刷領域の設定	152
6.6.3	印刷形態の設定	159
6.6.4	行情報の編集	159
6.7	FCB イメージの保存	165

7

	ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能	167
7.1	ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能とは	168
7.2	ラインプリンタ用 FCB イメージ作成の手順	169
7.3	ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能の入出力ファイル	170
7.3.1	ラインプリンタ用 FCB イメージファイル名	170
7.4	[ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能] 画面とメニュー項目一覧	171
7.5	ラインプリンタ用 FCB イメージ作成の開始と終了	173
7.5.1	新規ラインプリンタ用 FCB イメージの作成の開始	173
7.5.2	作成済みラインプリンタ用 FCB イメージの変更の開始	173
7.5.3	ラインプリンタ用 FCB イメージ作成の終了	173
7.6	ラインプリンタ用 FCB イメージの編集の設定	174
7.6.1	数値の単位の選択	174
7.6.2	行間値の選択 (センタラインプリンタの場合だけ選択)	174
7.6.3	行情報の編集	174
7.6.4	桁ずらし文字数の設定 (センタラインプリンタの場合)	176
7.7	ラインプリンタ用 FCB イメージの保存	177

8

	デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能	179
8.1	デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能とは	180
8.2	デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能の入出力ファイル	182
8.2.1	デフォルト機能キャラクタイメージファイル名	182
8.3	[デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面とメニュー項目一覧	183
8.4	デフォルト機能キャラクタイメージ作成の開始と終了	185
8.4.1	デフォルト機能キャラクタイメージの作成の開始	185
8.4.2	作成済みデフォルト機能キャラクタイメージの変更の開始	185
8.4.3	デフォルト機能キャラクタイメージ作成の終了	186
8.5	デフォルト機能キャラクタイメージの編集の設定	187
8.5.1	使用欄の編集	187

8.5.2	値の編集	187
8.5.3	各機能キャラクタの設定画面	187
8.6	デフォルト機能キャラクタイメージの保存	192

9

	ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能	193
9.1	ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能とは	194
9.2	ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能の入出力ファイル	195
9.2.1	ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージファイル名	195
9.3	[ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能]画面とメニュー項目一覧	196
9.4	ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成の開始と終了	198
9.4.1	ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージの作成の開始	198
9.4.2	作成済みラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージの変更の開始	198
9.4.3	ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成の終了	198
9.5	ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージの編集	200
9.5.1	使用 / 不使用の編集	200
9.5.2	値の編集	200
9.5.3	各機能キャラクタの設定画面	200
9.6	ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージの保存	203

10

	書式記述文生成機能	205
10.1	書式記述文生成機能とは	206
10.2	書式記述文生成機能の入出力ファイル	207
10.2.1	書式記述文ファイル名	207
10.3	書式記述文の生成	208
10.4	コマンドプロンプトを使用した書式記述文生成	210

11

	書式イメージ生成機能	211
11.1	書式イメージ生成機能とは	212
11.2	書式イメージ生成機能の入出力ファイル	213
11.2.1	書式イメージファイル名	213
11.3	書式イメージの生成	214
11.4	コマンドプロンプトを使用した書式イメージ生成	216

12

	制御イメージ一覧機能	217
12.1	制御イメージ一覧機能とは	218
12.2	制御イメージ一覧機能の入出力ファイル	219
12.3	[制御イメージ一覧機能]画面とメニュー項目一覧	220
12.4	制御イメージ一覧機能の開始と終了	227
12.4.1	制御イメージ一覧機能の開始	227

12.4.2	制御イメージ一覧機能の終了	227
12.5	制御イメージ一覧機能での制御イメージ一覧の表示	228
12.5.1	表示するフォルダの選択	228
12.5.2	制御イメージの並べ替え	228
12.5.3	表示する制御イメージの種類の変更	229
12.5.4	表示する数値の単位の変更	229
12.5.5	表示するファイルの選択	229
12.5.6	警告ダイアログの非表示設定	229
12.5.7	制御イメージの新規作成	230
12.5.8	書式オーバーレイの生成	230
12.5.9	書式記述文の生成	230
12.5.10	制御イメージの削除	231
12.5.11	制御イメージ一覧の最新情報への更新	231
12.5.12	制御イメージ一覧の保存	231
12.5.13	最近使用したフォルダの表示	232

13 トラブルシューティング 233

13.1	障害発生状況別のトラブル	234
13.1.1	インストールおよびアンインストールのトラブル	234
13.1.2	環境設定時のトラブル	234
13.1.3	コードマップジェネレータ使用時のトラブル	234
13.1.4	書式オーバーレイモジュール生成時のトラブル	235
13.1.5	PDE 実行時のトラブル	235
13.1.6	連続紙用 FCB イメージ作成時のトラブル	236
13.1.7	書式記述文生成時のトラブル	238
13.1.8	書式イメージ生成時のトラブル	238
13.1.9	生成した書式記述文を使用するシステムでのトラブル	238
13.2	障害発生に対する備え	240
13.3	IT Report Utility を利用した保守情報の採取	241

14 エラーメッセージ 243

14.1	エラーメッセージの出力形式	244
14.2	エラーメッセージ一覧	246
14.2.1	書式オーバーレイモジュール生成時に出力するエラーメッセージ一覧 (FDSNC)	246
14.2.2	書式記述文生成時に出力するエラーメッセージ一覧 (FDSNSO)	247
14.2.3	書式イメージ生成時に出力するエラーメッセージ一覧 (FDSNIMG)	248

15 書式設計の操作例 251

15.1	書式設計から書式オーバーレイモジュール生成までの操作手順	252
15.2	書式設計の操作手順	253

15.2.1 新規に書式を作成する場合の操作手順	253
15.2.2 既存の書式を変更する場合の操作手順	261
15.3 書式オーバーレイモジュール生成の操作方法	262

付録 263

付録 A VOS3 KAPS E3 (KLIB) 制御文に対するサポート範囲	264
付録 A.1 FCB イメージ作成 (VOS3 KAPS E3 (KLIB))	264
付録 A.2 デフォルト機能キャラクタ作成 (VOS3 KAPS E3 (KLIB))	265
付録 B VOS1 KAPS (KLIB) 制御文に対するサポート範囲	267
付録 B.1 FCB イメージ作成 (VOS1 KAPS (KLIB))	267
付録 B.2 デフォルト機能キャラクタ作成 (VOS1 KAPS (KLIB))	268
付録 C VOSK EDIT DCI コマンドに対するサポート範囲	271
付録 C.1 FCB イメージ作成 (VOSK EDIT DCI コマンド)	271
付録 C.2 デフォルト機能キャラクタ作成 (VOSK EDIT DCI コマンド)	272
付録 C.3 ラインプリンタ用 FCB イメージ作成 (VOSK EDIT DCI コマンド)	273
付録 C.4 ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成 (VOSK EDIT DCI コマンド)	273
付録 D VOS1 FCB マクロに対するサポート範囲	275
付録 E PDE - Form Designer での文字コードの扱い (分散タイプ PDE だけ適用)	276
付録 F STAMPSII からの移行	280
付録 G オプション設定ファイル	281
付録 H 書式記述文の生成規則	287
付録 I 書式イメージの生成規則	289
付録 J このマニュアルの参考情報	293
付録 J.1 関連マニュアル	293
付録 J.2 このマニュアルでの表記	293
付録 J.3 英略語	294
付録 J.4 KB (キロバイト) などの単位表記について	294
付録 K 用語解説	295

索引 297

1

概要

この章では、PDE - Form Designer の機能と特長について説明します。

-
- 1.1 PDE - Form Designer とは
 - 1.2 PDE - Form Designer の特長
 - 1.3 システム構成と処理の流れ
 - 1.4 PDE - Form Designer の機能概要
 - 1.5 入出力ファイル一覧
 - 1.6 PDE - Form Designer の適用範囲
 - 1.7 作成手順
-

1.1 PDE - Form Designer とは

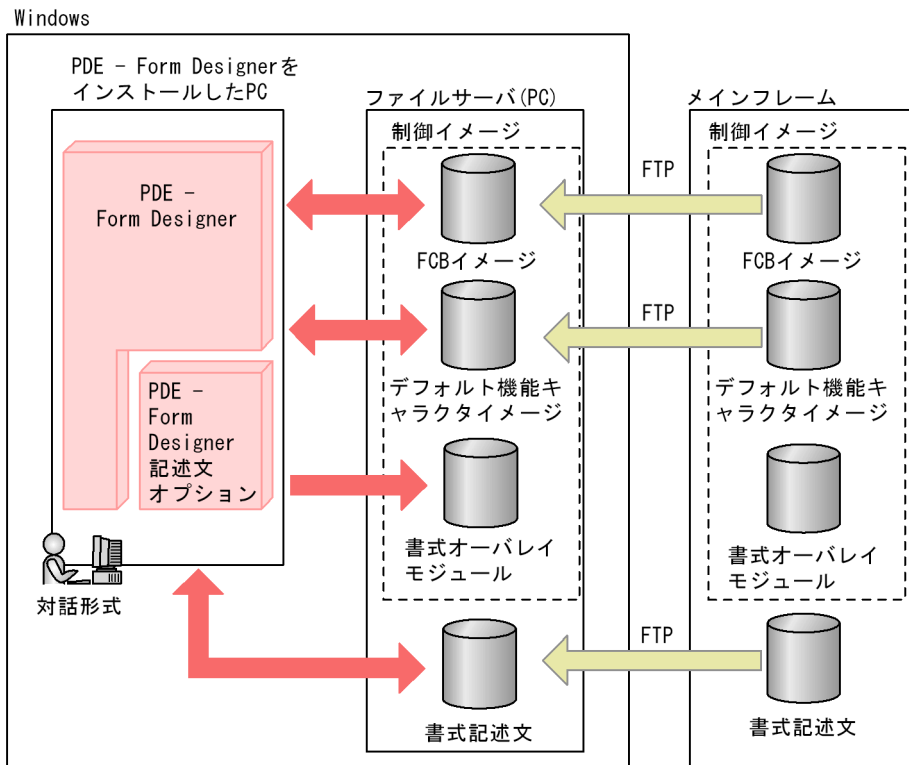
PDE - Form Designer とは、PDE で使用する制御イメージ（書式オーバーレイモジュール、FCBイメージ、およびデフォルト機能キャラクタイメージ）および書式記述文を Windows 環境だけで対話的操作によって作成するためのプログラムです。PDE - Form Designer を使用することによって、従来メインフレームで作成し、オープン環境に転送していた制御イメージを、メインフレームを使用することなく、オープン環境だけで作成できます。

また、メインフレームで作成した制御イメージ（FCBイメージおよびデフォルト機能キャラクタイメージ）をオープン環境に転送して編集することや、書式記述文から書式オーバーレイモジュールを作成することもできます。



注 PDE - Form Designer では、PDE で使用する書式オーバーレイモジュール、すなわちタイプ C 書式オーバーレイモジュールに限り作成できます。このマニュアルでは、タイプ C 書式オーバーレイモジュールを、省略して書式オーバーレイモジュールと記載します。

PDE - Form Designer の概要を次の図に示します。

図 1-1 PDE - Form Designer の概要



(凡例)

-  : PDE - Form Designer が行う処理
-  : システム開発者が行う処理

1.2 PDE - Form Designer の特長

PDE - Form Designer の特長を次に示します。

(1) メインフレームを使用しないで、Windows 上で制御イメージの作成が可能

PDE で使用する制御イメージ（書式オーバーレイモジュール、FCB イメージ、およびデフォルト機能キャラクタイメージ）、および書式記述文を Windows 環境で作成できます。

また、従来は、制御イメージの作成・変更のたびにメインフレームを使用し、PC に転送する必要がありましたが、Windows 上で作成・変更ができるため、手間が省けます。

(2) 従来メインフレームで作成した制御イメージの編集が可能

メインフレームで作成した制御イメージ（FCB イメージおよびデフォルト機能キャラクタイメージ）を Windows 環境に転送して編集できます。

なお、VOS1 または VOSK で作成した制御イメージの場合は、PDE イメージ転送で変換された FCB イメージおよびデフォルト機能キャラクタイメージが編集対象となります。

(3) 対話的編集による優れた操作性

従来はテキストイメージの書式記述文を作成・編集する必要がありましたが、GUI による簡単な対話的操作で書式イメージの編集や制御イメージの生成ができます。

(4) 作成した書式イメージの他システムとの連携

対話定義で作成した書式イメージから、PDE - Form Designer 記述文オプションを使用して生成した書式記述文を、メインフレームの書式記述文として使用できます。そのため、電子帳票システムなど、書式記述文を入力するシステムを利用する場合の書式定義にも利用できます。

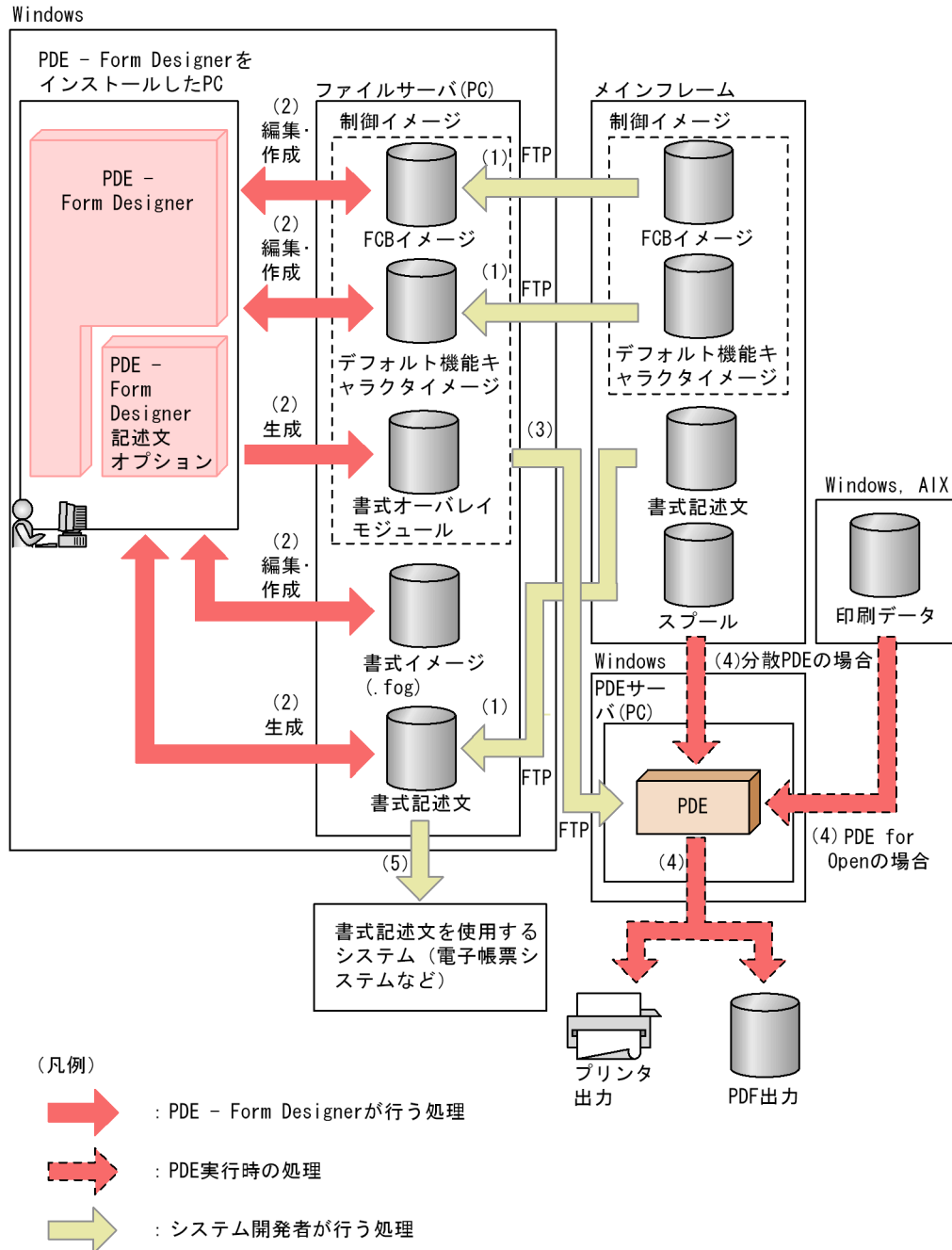
(5) 書式記述文から書式イメージの生成が可能

メインフレームで作成した書式記述文から、PDE - Form Designer を使用して書式イメージの生成ができます。

1.3 システム構成と処理の流れ

PDE - Form Designer を利用する場合のシステム構成と処理の流れを次の図に示します（図中の番号は、次に示す説明の番号と対応しています）。PDE - Form Designer が処理する内容は (2) が該当します。

図 1-2 PDE - Form Designer を利用する場合のシステム構成と処理の流れ



注 PDE - Form Designer をインストールしたPC、PDEサーバ、ファイルサーバは同一のPCでも可能です。

(1) メインフレームで作成した制御イメージを編集する場合、または、書式記述文から書式イメージを生成する場合、Windows 環境に転送します。

(2)PDE・Form Designer を使用して制御イメージ（FCB イメージ，デフォルト機能キャラクタイメージ），および書式イメージを編集・作成します。また，書式記述文からの書式イメージ生成や，書式イメージから書式オーバーレイモジュールを生成できます。PDE・Form Designer 記述文オプションと連携することにより，書式イメージから書式記述文を生成できます。

(3)PDE を使用する場合，(2) で編集・作成した制御イメージ，および生成した書式オーバーレイモジュールを PDE サーバに転送します。

(4)PDE を使用する場合，メインフレームで作成したスプールデータ（分散タイプ PDE の場合），またはオープン環境で作成した印刷データ（PDE for Open の場合）を PDE サーバに転送します。PDE は，これらと (3) で転送した制御イメージを使用して，オープンプリンタ出力または PDF ファイル出力をします。

(5)(2) で生成した書式記述文を電子帳票システムなどで使用する場合，書式記述文を転送します。

1.4 PDE - Form Designer の機能概要

PDE - Form Designer の機能概要を次に示します。

(1) 環境設定機能

PDE - Form Designer の動作環境をカスタマイズする機能です。PDE - Form Designer の各機能は、環境設定機能によって設定された情報を利用して動作します。

なお、環境設定はあらかじめ作業開始前に行っておく必要があります。

環境設定機能で設定した情報は、すべて PDE - Form Designer の環境設定ファイル (FDEnv.ini) に保存されます。

環境設定機能には、複数の機能にわたって有効になるもの (全体設定) と、一つの機能にだけ設定が有効になるものがあります。

環境設定機能で設定または操作できる内容を次の表に示します。

表 1-1 環境設定機能で設定または操作できる内容

機能	設定または操作できる内容	設定項目が有効になる機能
全体	共通項目の設定 (設定必須) ¹	<ul style="list-style-type: none"> 書式オーバーレイモジュール生成 FCB イメージ作成 デフォルト機能キャラクタイメージ作成 ラインプリンタ用 FCB イメージ作成 ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成
フォルダのデフォルト設定 (機能実行時に変更可能)	書式イメージファイル格納フォルダ	<ul style="list-style-type: none"> 書式设计 書式オーバーレイモジュール生成 書式記述文生成 ² 書式イメージ生成
	部品ファイル格納フォルダ	書式设计
	パターンファイル格納フォルダ	<ul style="list-style-type: none"> 書式设计 書式パターン変換
	メタファイル格納フォルダ	書式设计
	ビットマップファイル格納フォルダ	書式パターン変換
	FCB イメージ格納フォルダ	FCB イメージ作成
	デフォルト機能キャラクタイメージ格納フォルダ	デフォルト機能キャラクタイメージ作成
	書式オーバーレイモジュール格納フォルダ	書式オーバーレイモジュール生成
	書式記述文格納フォルダ	<ul style="list-style-type: none"> 書式記述文生成 ² 書式イメージ生成
	書式記述文部品格納フォルダ	書式イメージ生成
	コードマップ定義格納フォルダ ³	漢字コードマップ機能
	記述文オプション設定格納フォルダ ³	<ul style="list-style-type: none"> 書式記述文生成 ² 書式イメージ生成
	ラインプリンタ用 FCB イメージ格納フォルダ	ラインプリンタ用 FCB イメージ作成
	ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ格納フォルダ	ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成

機能	設定または操作できる内容	設定項目が有効になる機能	
書式设计	初期値の設定 (機能実行時に変更可能)	<ul style="list-style-type: none"> 書式情報 作画属性 作画・編集オプション 表示・印刷オプション 	<ul style="list-style-type: none"> 書式设计 書式イメージ生成
	禁止項目の設定(設定必須) ⁴	<ul style="list-style-type: none"> 書式定義の制限・使用できる属性線種, 文字サイズなど 作画できる図形 円・円弧など 	書式设计(書式記述文生成の目的で使用する場合)
	外字マッピングの設定(設定必須) ⁵	<ul style="list-style-type: none"> マッピング方法の選択 シーケンシャル・マッピング ランダム・マッピング 	<ul style="list-style-type: none"> 書式设计 書式イメージ生成
その他	制御イメージ設定	<ul style="list-style-type: none"> イメージ形式の選択 ホスト用互換形式 用紙サイズ・行間値拡張形式 	FCB イメージ作成
		<ul style="list-style-type: none"> ラインプリンタ種別の選択 センタ漢字ライン 端末漢字ライン センタライン 	ラインプリンタ用 FCB イメージ作成, ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成
		<ul style="list-style-type: none"> センタラインプリンタ FCB 行間値の選択 6LPI/8LPI 6LPI/10LPI 	ラインプリンタ用 FCB イメージ作成
		<ul style="list-style-type: none"> 優先度の選択 カット紙/連続紙プリンタ用 ラインプリンタ用 	制御イメージ一覧
	書式生成設定	線の描画の最適化の設定	書式オーバーレイモジュール生成

注 1 書式オーバーレイモジュール生成は未設定の場合, VOS3 を仮定して動作するため, オープン / VOS1/VOSK の場合は, 設定必須となります。

注 2 PDE・Form Designer 記述文オプションをインストールしている場合だけ設定できます。

注 3 Windows Vista 以降の場合だけ設定できます。

注 4 書式设计後に書式記述文生成をする場合で, 禁止項目がある場合は書式设计する前に必ず設定しておいてください。

注 5 外字を使用する場合は設定します。

(2) 書式定義機能

書式パターン変換機能, 漢字コードマップ機能および書式设计機能は, 書式オーバーレイモジュール生成機能または書式記述文生成機能が入力する書式イメージを作成します。

(a) 書式设计機能(書式イメージファイルの作成/編集)

GUI 画面による対話形式で書式を設計し, 書式オーバーレイモジュール生成機能, および書式記述文生成機能の入力となる書式イメージファイルを作成します。既存の書式イメージファイルの編集もできます。

(b) 書式パターン変換機能(書式パターンファイルの作成/編集)

モノクロビットマップを入力して, 書式设计機能で使用可能な書式パターンファイルを作成します。

(c) 漢字コードマップ機能(漢字コード変換テーブルの作成)

ユーザがカスタマイズした漢字コードマップ定義ファイルを入力して, 書式设计機能で使用される漢字

1. 概要

コード変換テーブルを作成します。

書式定義機能で設定または操作できる内容を次の表に示します。

表 1-2 書式定義機能で設定または操作できる内容

機能		設定または操作できる内容
書式情報の設定		<ul style="list-style-type: none"> 書式名の指定 作成者の指定 概要の指定 書式サイズの指定 FCBの原点からの相対距離 ます目の大きさの指定
作画	図形描画	<ul style="list-style-type: none"> 直線（水平線，垂直線，斜線，垂線） 矩形 網掛け 文字列（縦並び，横並び） 円 円弧 パターン 部品
	図形属性	<ul style="list-style-type: none"> 線種（9種類） 線幅（9種類） 矩形のコーナー形式（コーナーごとに2種類） 矩形のラウンドコーナーの直径（4種類） 網掛け種別（3種類） 網掛のコーナー形式（コーナーごとに2種類） 網掛のラウンドコーナーの直径（4種類） 文字配置法（3種類） 文字サイズ（6種類） 文字拡大（2種類） フォント縦横種別（3種類） 書体番号（15種類） 色番号（8種類）
編集		<ul style="list-style-type: none"> 切り取り 複写 貼り付け 消去 反復複写 移動 拡大・縮小 反復 属性変更 文字列変更 センタリング 図形微調整 図形の順序
印刷		印刷属性の指定に従って，書式全体を用紙に収まるように印刷します。
表示倍率		書式全体を指定した表示倍率に表示し，作画・編集します。
オプション指定		次に示すオプションを選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> 作画・編集オプション 表示・印刷オプション
保存		次に示す形式でファイルの保存方法を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> 書式イメージファイル メタファイル 部品ファイル
カスタマイズ		書式定義機能の初期値を環境設定プログラムを使用して変更します。

機能	設定または操作できる内容
その他	直前の操作の取り消し, 取り消された操作に対する順次復元などの操作をします。

(3) 書式オーバーレイモジュール生成機能

書式设计機能で作成した書式イメージファイルから書式オーバーレイモジュールを生成します。

書式オーバーレイモジュール生成機能で設定または操作できる内容を次の表に示します。

表 1-3 書式オーバーレイモジュール生成機能で設定または操作できる内容

機能	設定または操作できる内容
[書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面からの生成	<ul style="list-style-type: none"> • 生成対象ファイルの指定 次に示す方法で生成対象ファイルを指定します。 • ファイルの選択指定 (1 ファイルずつ生成対象リストに追加) • 選択フォルダ下の全ファイル指定 (生成対象リストに追加) • ドラッグ&ドロップによる生成対象リストへの複数ファイル追加 • 生成対象リストからの削除 (複数選択可) • 指定した生成対象ファイルからの一括生成 • 生成ファイルの出力フォルダの指定 • 生成ログ¹のファイル保存の指定 <p>< 環境設定機能の設定内容に従い生成 ></p> <ul style="list-style-type: none"> • イメージ種別 (VOS3, VOS1, VOSK, またはオープン)² • 生成対象ファイル・フォルダ選択時のデフォルトフォルダ • デフォルトの出力フォルダ • イメージ種別で「オープン」を選択した場合, 外字マッピング • 線の最適化
コマンドラインからの生成	<p>書式オーバーレイモジュールの生成</p> <ul style="list-style-type: none"> • 入力ファイル指定 <ul style="list-style-type: none"> • 絶対パス • 相対パス • 出力フォルダ指定 <ul style="list-style-type: none"> • 絶対パス • 相対パス • イメージ種別² <ul style="list-style-type: none"> • VOS3 • VOS1 • VOSK • オープン <p>< 環境設定機能の設定内容に従い生成 ></p> <ul style="list-style-type: none"> • イメージ種別で「オープン」を選択した場合, 外字マッピング • 線の最適化

注 1 生成ログは [書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面に生成ログとしても表示されず。

注 2 設定する OS によって, 出力されるファイル名が異なります。PDE で入力する場合のファイル名と一致させるため, PDE 環境設定ユーティリティで設定する「制御イメージ設定」のイメージ種別と同じ設定にする必要があります。

(4) FCB イメージ作成機能

GUI 画面による対話形式で, PDE で使用する FCB イメージ (漢字プリンタの用紙の大きさ, 行間隔, および行に対するチャンネル番号など) を作成します。既存の FCB イメージを入力して編集もできます。

なお, メインフレームから転送した FCB イメージも編集できます。

1. 概要

FCB イメージ作成機能で設定または操作できる内容を次の表に示します。

表 1-4 FCB イメージ作成機能で設定または操作できる内容

機能	設定または操作できる内容
基本設定	<ul style="list-style-type: none"> • イメージ形式の選択 <ul style="list-style-type: none"> • ホスト用互換形式 • 用紙サイズ・行間値拡張形式 • プリンタの選択（ホスト用互換形式の場合） <ul style="list-style-type: none"> • カット紙（両面印刷） • 連続紙 • プリンタモード（イメージ種別が VOSK の場合は K モード固定）の選択 <ul style="list-style-type: none"> • K モード • AN モード • プリフィクス（イメージ種別が VOSK の場合は FCBA 固定）の選択 <ul style="list-style-type: none"> • FCBA • FCBC • FCB1 • FCB3 • FCB4 • 行間隔入力方式（AN モードの場合は標準行間隔入力，用紙サイズ・行間値拡張形式の場合は詳細行間隔入力固定）の選択 <ul style="list-style-type: none"> • 標準行間隔入力 • 詳細行間隔入力 <p><環境設定機能の設定内容に従い生成></p> <ul style="list-style-type: none"> • イメージ種別（VOS3，VOS1，VOSK，またはオープン）¹ • デフォルトのファイル保存フォルダ
行情報の編集	<ul style="list-style-type: none"> • 行の挿入 <ul style="list-style-type: none"> <挿入行数の選択> • 手動（1～256行²） • 自動（挿入可能な最大行数分の挿入） <標準行間隔（標準行間隔入力方式の場合）の選択> • K モードの標準行間隔（LPI 単位で 11 種類） • AN モードの標準行間隔（LPI 単位で 6 種類） <詳細行間隔（詳細行間隔入力方式の場合）の設定> • ホスト用互換形式の場合は 1～63（ドット） • 用紙サイズ・行間値拡張形式の場合は 1～320（ドット） • 行の変更 <ul style="list-style-type: none"> • チャネルコード • 行間隔 • 行の削除

機能	設定または操作できる内容
カット紙（両面印刷）または用紙サイズ・行間値拡張形式のパラメタ	<ul style="list-style-type: none"> • マージンの変更（上・下・左・右） • 用紙サイズの設定 <ul style="list-style-type: none"> • A3 • A4 • A5 • B4 • B5 • レター <ul style="list-style-type: none"> • A3 B4（90%） • A3 B4（80%） • A3 A4（75%） • A3 A4（70%） • A4 B5（80%） • A4 B5（70%） • B4 A4（90%） • B4 A4（80%） • B4 A4（70%） • B4 B5（70%） • B5 A5（80%） • 任意 • 用紙向き <ul style="list-style-type: none"> • 縦 • 横 • 片面 / 両面 • 両面印刷時のとじ代の位置 <ul style="list-style-type: none"> 上・下・左・右 • AN モード時の桁ずらし文字数 <ul style="list-style-type: none"> 0 ~ 31 けた • 回転 <ul style="list-style-type: none"> • 0° • 180°
連続紙のパラメタ	<ul style="list-style-type: none"> • 用紙長の設定 <ul style="list-style-type: none"> 3.500 ~ 333.000 インチ • 印字禁止領域幅 <ul style="list-style-type: none"> • 1/2 インチ × 2 • 1/3 インチ × 2 • 1/4 インチ × 2 • 1/6 インチ × 2 • AN モード時の桁ずらし文字数 <ul style="list-style-type: none"> 0 ~ 31 けた
表示	<ul style="list-style-type: none"> • 数値の単位選択 <ul style="list-style-type: none"> • ドット（240dpi） • ミリメートル • インチ • 行情報の表示 <ul style="list-style-type: none"> • 行番号 • 行ピッチ • 行間隔 • チャンネル • 行間隔合計の表示 • マージンの表示 <ul style="list-style-type: none"> 上・下・左・右

注 1 設定する OS によって、出力されるファイル名が異なります。PDE で入力する場合のファイル名と一致させるため、PDE 環境設定ユーティリティで設定する「制御イメージ設定」のイメージ種別と同じ設定にする必要があります。

注 2 連続紙で印字禁止領域幅が 1/2 インチの場合は 250 行、その他の印字禁止領域幅の場合は 252 行

です。

(5) デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能

GUI 画面による対話形式で、PDE で使用するデフォルト機能キャラクタイメージ（印刷する行の先頭に仮定する機能キャラクタの内容）を作成します。既存のデフォルト機能キャラクタイメージを入力して編集もできます。

この機能は、VOS3 KAPS E3 の帳票保守（KLIB）、VOS1 KAPS の漢字ライブラリ保守（KLIB）、および VOSK 漢字処理（EDIT DCI コマンド使用）のデフォルト機能キャラクタイメージ作成機能に相当します。

なお、メインフレームから転送したデフォルト機能キャラクタイメージも編集できます。

デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能で設定または操作できる内容を次の表に示します。

表 1-5 デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能で設定または操作できる内容

機能	設定または操作できる内容
編集	<ul style="list-style-type: none"> • コード種別の選択 <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 バイトコード ・ 2 バイトコード • 書体番号 <ul style="list-style-type: none"> 0 ~ 15 • 文字サイズ <ul style="list-style-type: none"> ・ 7 ポイント ・ 9 ポイント ・ 12 ポイント ・ 14 ポイント ・ 19 ポイント ・ 38 ポイント ・ 77 ポイント • 字間値 <ul style="list-style-type: none"> ・ 標準ドット（240dpi）指定 ・ 拡張ドット（240dpi）指定（ドット単位の字間値指定を EBCDIK コードと漢字コードで別々に行う） ・ ポイント指定（ポイント単位の字間値指定） • 文字の向き <ul style="list-style-type: none"> ・ 縦 ・ 横 • 横倍 <ul style="list-style-type: none"> ・ 横倍開始 ・ 横倍終了 • 抹消表示 <ul style="list-style-type: none"> ・ 抹消（取り消し線）開始 ・ 抹消（取り消し線）終了 • 強調表示 <ul style="list-style-type: none"> ・ 強調（アンダーライン）開始 ・ 強調（アンダーライン）終了 • 行データ右移動サイズ <ul style="list-style-type: none"> 0 ~ 255 ドット <p>< 環境設定機能の設定内容に従い生成 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イメージ種別（VOS3、VOS1、VOSK、またはオープン） ・ デフォルトのファイル保存フォルダ

注 設定する OS によって、出力されるファイル名が異なります。PDE で入力する場合のファイル名と一致させるため、PDE 環境設定ユーティリティで設定する「制御イメージ設定」のイメージ種別と同じ設定にする必要があります。

(6) 書式記述文生成機能

書式设计機能で作成した書式イメージファイルから書式記述文を生成します。

書式記述文生成機能で設定または操作できる内容を次の表に示します。

表 1-6 書式記述文生成機能で設定または操作できる内容

機能	設定または操作できる内容
[書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面からの生成	<ul style="list-style-type: none"> • 生成対象ファイルの指定方法 <ul style="list-style-type: none"> • ファイルの選択指定 (1 ファイルずつ生成対象リストに追加) • 選択フォルダ下の全ファイル指定 (生成対象リストに追加) • ドラッグ&ドロップによる生成対象リストへの複数ファイル追加 • 生成対象リストからの削除 (複数選択可) • 指定した生成対象ファイルからの一括生成 • 生成ファイルの出力フォルダの指定 • 生成ログ のファイル保存の指定 <p>< 環境設定機能の設定内容に従い生成 ></p> <ul style="list-style-type: none"> • イメージ種別 (VOS3, VOS1, VOSK, またはオープン) • 生成対象ファイル・フォルダ選択時のデフォルトフォルダ • デフォルトの出力フォルダ
コマンドプロンプトからの生成	<p>書式記述文の生成</p> <ul style="list-style-type: none"> • 入力ファイル指定 <ul style="list-style-type: none"> • 絶対パス • 相対パス • 出力フォルダ指定 <ul style="list-style-type: none"> • 絶対パス • 相対パス • イメージ種別 <ul style="list-style-type: none"> • VOS3 • VOS1 • VOSK • オープン

注 生成ログは [書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面に生成ログとしても表示されません。

(7) 書式イメージ生成機能

書式記述文から書式イメージファイルを生成します。

書式イメージ生成機能で設定または操作できる内容を次の表に示します。

表 1-7 書式イメージ生成機能で設定または操作できる内容

機能	設定または操作できる内容
[書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面からの生成	<ul style="list-style-type: none"> 生成対象ファイルの指定方法 <ul style="list-style-type: none"> ファイルの選択指定 (1 ファイルずつ生成対象リストに追加) 選択フォルダ下の全ファイル指定 (生成対象リストに追加) ドラッグ&ドロップによる生成対象リストへの複数ファイル追加 生成対象リストからの削除 (複数選択可) 指定した生成対象ファイルからの一括生成 書式記述文部品フォルダの指定 生成ファイルの出力フォルダの指定 生成ログ ¹ のファイル保存の指定 <p><環境設定機能の設定内容に従い生成></p> <ul style="list-style-type: none"> 生成対象ファイル・フォルダ選択時のデフォルトフォルダ デフォルトの書式記述文部品フォルダ デフォルトの出力フォルダ 書式設計設定の初期値 (書式情報 ², 作画属性, およびオプション設定 ³) および外字マッピング
コマンドプロンプトからの生成	<p>書式イメージファイルの生成</p> <ul style="list-style-type: none"> 入力ファイル指定 <ul style="list-style-type: none"> 絶対パス 相対パス 書式記述文部品フォルダ指定 <ul style="list-style-type: none"> 絶対パス 相対パス 出力フォルダ指定 <ul style="list-style-type: none"> 絶対パス 相対パス <p><環境設定機能の設定内容に従い生成></p> <ul style="list-style-type: none"> 書式設計設定の初期値 (書式情報 ², 作画属性, およびオプション設定 ³) および外字マッピング

注 1 生成ログは [書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面に生成ログとしても表示されません。

注 2 次の情報は書式記述文の内容に従い生成します。

- 書式名
- 書式サイズ (単位は環境設定機能の設定内容に従い生成します)
- まず目横サイズ (単位は環境設定機能の設定内容に従い生成します)
- まず目縦サイズ (単位は環境設定機能の設定内容に従い生成します)

注 3 次の情報は除きます。

- 表示オプション (目盛表示)
- 印刷オプション
- 反復図形の明示
- 表示倍率
- 下敷き
- 異なるパターン, 文字, ラウンドコーナの合計

(8) 制御イメージ一覧機能

PDE - Form Designer で作成またはメインフレームから転送した制御イメージ (書式オーバーレイモジュール, 書式イメージ, FCB イメージ, およびデフォルト機能キャラクタイメージ) の概要を一覧表示します。

制御イメージ一覧機能で操作できる内容を次の表に示します。

表 1-8 制御イメージ一覧機能で操作できる内容

機能	操作できる内容
一覧表示	<ul style="list-style-type: none"> • 書式オーバーレイモジュール <ul style="list-style-type: none"> • 名前 • 用紙 • 幅 • 高さ • FCB 右相対距離 • FCB 下相対距離 • 水平 / 垂直線 • 斜線 • 円 • 円弧 • パターン • 網掛け • 文字 • 更新日時 • 書式イメージ <ul style="list-style-type: none"> • 名前 • 書式名 • 用紙 • 幅 • 高さ • FCB 右相対距離 • FCB 下相対距離 • 直線 • 矩形 • 円 • 円弧 • パターン • 網掛け • 文字列 • 更新日時 • FCB イメージ <ul style="list-style-type: none"> • 名前 • 形式 • プリンタ • 行数 • 用紙 • 幅 • 高さ • 上マージン • 下マージン • 左マージン • 右マージン • 片面 / 両面 • 桁ずらし • とじ代 • 回転 • 更新日時 • デフォルト機能キャラクタイメージ <ul style="list-style-type: none"> • 名前 • プリンタ • コード種別 • 書体 • 文字サイズ • 字間値 • 文字の向き • 横倍 • 抹消表示 • 強調表示 • 行データ右移動 • 更新日時

1. 概要

機能	操作できる内容
その他の機能との連携	<ul style="list-style-type: none"> • 書式オーバーレイモジュールの生成・編集 • 書式記述文の生成 • 書式イメージの新規作成・編集 • FCB イメージの新規作成・編集 • デフォルト機能キャラクタイメージの新規作成・編集 <p><環境設定機能の設定内容に従い生成> イメージ種別</p> <p><環境設定機能の設定内容に従い新規作成・編集></p> <ul style="list-style-type: none"> • 制御イメージの優先度 • ラインプリンタ種別 • センタラインプリンタ FCB 行間値 <p>< PDE のインストール時の設定内容に従い表示 > デフォルトの表示フォルダ</p>
一覧の保存	制御イメージ一覧をファイルに保存します。
その他	制御イメージ一覧から制御イメージ（ファイル）を削除します。

1.5 入出力ファイル一覧

入出力ファイルの一覧を次の表に示します。

表 1-9 入出力ファイルの一覧

ファイル	ファイルの概要	入出力する機能	入力	出力
環境設定ファイル (FDEnv.ini)	環境設定機能によって PDE・Form Designer の動作環境をカスタマイズした設定値が保存されているファイルです。各機能は、この設定値を利用して動作します。	環境設定機能		
		書式定義 - 書式设计機能		-
		書式定義 - 書式パターン変換機能		-
		書式定義 - 漢字コードマップ機能		-
		FCB イメージ作成機能		-
		デフォルト機能キャラクタ イメージ作成機能		-
		書式オーバレイモジュール 生成機能		-
		書式記述文生成機能		-
		書式イメージ生成機能		-
		制御イメージ閲覧機能		-
漢字コードマップ定義 ファイル (Codemap.def)	シフト JIS コードと KEIS コードの対応関係が定義されたテキストファイルです。インストール時にはデフォルトの対応関係が定義されているため、カスタマイズする場合はメモ帳などのエディタで編集します。	書式定義 - 漢字コードマップ機能		-
漢字コード変換テーブル (codemap.tbl)	漢字コードマップ機能が生成するシフト JIS コードと KEIS コードの対応関係が定義された実行形式ファイルです。環境設定で [ランダム・マッピング] を選択した場合に、書式设计機能または書式記述文で書式中に定義された文字のコード変換に使用されます。	書式定義 - 漢字コードマップ機能	-	
		書式定義 - 書式设计機能	1	-
		書式オーバレイモジュール 生成機能	2	-
		書式イメージ生成機能	1	-
ビットマップ (*.bmp)	ペイントなどで作成したモノクロビットマップファイルです。会社のマークやロゴなどの図柄を書式中に配置する場合には、書式パターンファイルに変換して利用します。	書式定義 - 書式パターン変換機能		-
	既存の帳票やプレプリント用紙をスキャナで読み込んで、ペイントなどで作成したモノクロ、16色、または256色パレットカラービットマップファイルを下敷きとして、書式设计できます。	書式定義 - 書式设计機能		-

1. 概要

ファイル	ファイルの概要	入出力する機能	入力	出力
書式パターンファイル (* .bpn)	会社のマークやロゴなどの図柄を定義するテキストファイルです。メモ帳などのエディタで直接編集する方法と、モノクロビットマップ (* .bmp) を書式パターン変換機能でパターンに変換する方法があります。定義されているパターンは、書式设计機能で書式中に配置ができます。	書式定義 - 書式パターン変換機能	-	
		書式定義 - 書式设计機能		-
書式部品ファイル (* .prt)	書式设计機能で部品として保存したファイルです。登録されている図形群は、書式设计機能で書式中に配置ができます。	書式定義 - 書式设计機能		
書式イメージファイル (* .fog)	書式定義機能で作成する書式の定義体が保存されているファイルです。	書式定義 - 書式设计機能		
		書式オーバーレイモジュール生成機能		-
		書式記述文生成機能		-
		書式イメージ生成機能	-	-
FCB イメージファイル (FCBAxxxx / FCBCxxxx / FCB3xxxx / FCB4xxxx / FCBAxxxx.OBJECT / FCB1xxxx.OBJECT / FCBAxxxx.DATA)	FCB イメージを保存しているファイルです。作成するには、FCB イメージ作成機能で作成する方法、VOS3 システムから転送する方法、および VOS1/VOSK システムで PDE イメージ転送で変換して転送する方法があります。PDE で利用するには、ユーザイメージライブラリフォルダにコピーします。	FCB イメージ作成機能		
		制御イメージ一覧機能		-
デフォルト機能キャラクタイメージファイル (DFIAdddd / DFIBddd / DFIAdddd.OBJECT / DFIAdddd.DATA)	デフォルト機能キャラクタイメージを保存しているファイルです。作成するには、デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能で作成する方法、VOS3 システムから転送する方法、VOS1/VOSK PDE イメージ転送で変換して転送する方法があります。PDE で利用するには、ユーザイメージライブラリにコピーします。	デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能		
		制御イメージ一覧機能		-
書式オーバーレイモジュールファイル (FOROcccc / FOROcccc.OBJECT / FOROcccc.DATA / FOROcccc.FOROP)	書式オーバーレイモジュールが保存されているファイルです。書式オーバーレイモジュール生成機能を使用して作成します。PDE で利用するには、ユーザイメージライブラリフォルダにコピーします。	書式オーバーレイモジュール生成機能	-	
		制御イメージ一覧機能		-
オプション設定ファイル (option.dat)	書式記述文生成機能および書式イメージ生成機能用のオプションが記述されたテキストファイルです。インストール時には、デフォルト値が定義されていますので、必要に応じてメモ帳などのテキストエディタで編集します。	書式記述文生成機能		-
		書式イメージ生成機能		-
書式記述文 (cccc)	書式の定義が記述されたテキストファイルです。	書式記述文生成機能	-	
書式記述文 (* / *.txt)	書式の定義が記述されたテキストファイルです。	書式イメージ生成機能		-

ファイル	ファイルの概要	入出力する機能	入力	出力
書式記述文部品 (pppppppp.txt)	書式記述文から参照されるセグメントやユーザ定義マクロが記述されたテキストファイルです。	書式イメージ生成機能		-
制御イメージ一覧ファイル (*.txt)	制御イメージの一覧が保存されているファイルです。	制御イメージ一覧機能	-	

(凡例)

: 入力または出力できます。

- : 入力または出力できません。

xxxx : FCB イメージ名を示します。

dddd : デフォルト機能キャラクタイメージ名を示します。

cccc : 書式名を示します。書式设计機能の [書式情報] 画面の [書式名] の項目で設定した 4 文字以内の英数字です。ただし、書式名が「¥」を含んでいた場合、「¥」は「_」に置き換わります。

pppppppp : セグメント名またはユーザ定義マクロ名を示します。ただし、セグメント名またはユーザ定義マクロ名が「¥」を含んでいた場合、「¥」は「_」に置き換わります。

注 1 環境設定で [外字マッピング] に [ランダム・マッピング] が設定されている場合に使用します。

注 2 環境設定で [イメージ種別] に [オープン], および [外字マッピング] に [ランダム・マッピング] が設定されている場合に使用します。

なお、PDE - Form Designer では定義資産を管理する機能を提供しないため、定義資産の管理はユーザが行う必要があります。

1.6 PDE - Form Designer の適用範囲

PDE - Form Designer の適用範囲を次に示します。

- メインフレームから転送された印刷データを，Windows 上で分散タイプ PDE によって出力しているシステムで，次に示す作業に適用できます。
 - 分散タイプ PDE で使用する書式・制御イメージの新規作成
 - 分散タイプ PDE で使用する書式・制御イメージの変更
- オープン環境で作成された印刷データを，Windows 上で PDE for Open によって出力しているシステムで，次に示す作業に適用できます。
 - PDE for Open で使用する書式・制御イメージの新規作成
 - PDE for Open で使用する書式・制御イメージの変更
- PDE - Form Designer 記述文オプションは，書式オーバレイゼネレータ (FOG) の書式記述文を使用するシステムで次に示す作業に適用できます。
 - 新規作成した書式イメージからの書式記述文生成
 - 修正した書式イメージからの書式記述文生成
 - 書式記述文からの書式イメージの生成
- メインフレームから転送された印刷データを，Windows 上で分散タイプ PDE によって出力しているシステムで，次に示す作業に適用できます。
 - 分散タイプ PDE で使用する書式・制御イメージの一覧表示
- オープン環境で作成された印刷データを，Windows 上で PDE for Open によって出力しているシステムで，次に示す作業に適用できます。
 - PDE for Open で使用する書式・制御イメージの一覧表示

PDE が入力できる書式オーバレイモジュールを次の表に示します。

表 1-10 PDE が入力できる書式オーバレイモジュール

プログラム	VOS3 用	VOS1 用	VOSK 用	オープン用
PDE - Print Edition				×
PDE - PDF Edition				×
PDE for Open				

(凡例)

：入力できます。

×：入力できません。

注 分散タイプ PDE で使用していた書式オーバレイモジュールは，そのまま PDE for Open で使用できます。ただし，拡張文字セット 3 の文字およびユーザ定義文字を使用していた場合や，PDE - Form Designer または STAMPS Windows95 版 書式プロトタイピング機能でランダム・マッピングを指定して定義した書式は，オープン用書式に作り直す必要があります。また，PDE for Open では KEIS90 として書式を処理するため，KEIS78 で作成された書式オーバレイモジュールで，KEIS83 でコードの入れ替えがあった文字を使用している場合は，該当する文字の入れ替わりが発生します。このため，該当する文字を使用しているときは，書式を作り直すことになります。

PDE - Form Designer で作成できる制御イメージのサポート範囲を次の表に示します。

表 1-11 PDE - Form Designer で作成できる制御イメージのサポート範囲

入出力ファイルの種類	PDE - Form Designer でのサポート範囲
書式オーバーレイモジュール	<ul style="list-style-type: none"> 書式イメージファイルから書式オーバーレイモジュールを生成できます。書式オーバーレイモジュール内の KEIS コードは、KEIS90 です¹。 書式オーバーレイモジュールを入力して、編集はできません。
FCB イメージ	<ul style="list-style-type: none"> FCB イメージを生成します。 生成した FCB イメージおよびメインフレームから転送した（VOS1/VOSK の場合、PDE イメージ転送での変換が前提）FCB イメージも編集できます。 単機能カット紙用 FCB の読み込み、両面印刷カット紙用 FCB、および連続紙用 FCB² についてサポートします³。 用紙サイズを任意に設定したり、ホスト用 FCB イメージでは設定できない行間値を設定したりできます。³
デフォルト機能キャラクタイメージ	<ul style="list-style-type: none"> デフォルト機能キャラクタイメージを生成します。 生成したデフォルト機能キャラクタイメージおよびメインフレームから転送した（VOS1/VOSK の場合、PDE イメージ転送での変換が前提）デフォルト機能キャラクタイメージも編集できます。
外字イメージ	サポートしていません。
書式記述文	<ul style="list-style-type: none"> 書式イメージファイルから書式記述文を生成できます。書式記述文に展開される KEIS コードは、KEIS90 です⁴。 書式記述文から書式イメージファイルを生成できます。

注 1 分散タイプ PDE では KEIS78 および KEIS90、PDE for Open では KEIS90 に対応しています。分散タイプ PDE で KEIS78 のコード変換を使用する場合の注意事項については、「付録 E PDE - Form Designer での文字コードの扱い（分散タイプ PDE だけ適用）」を参照してください。

注 2 単機能カット紙用 FCB の読み込み、両面印刷カット紙用 FCB、および連続紙用 FCB の詳細については、「付録 A.1 FCB イメージ作成（VOS3 KAPS E3（KLIB）」、「付録 B.1 FCB イメージ作成（VOS1 KAPS（KLIB）」、または「付録 C.1 FCB イメージ作成（VOSK EDIT DCI コマンド）」を参照してください。

注 3 PDE でのプリンタ出力制御、および PDF 出力の制御に使用できます。PDE - LP Edition および PDE - LP Option でのプリンタ出力制御には使用できません。

注 4 書式设计機能で画面入力した全角文字は、シフト JIS コードから KEIS90 コードに変換され、書式イメージに保存されます。そして書式記述文ではそのコードが 16 進数形式で展開されます。書式記述文を使用するシステム的前提が KEIS78 の場合は「付録 E PDE - Form Designer での文字コードの扱い（分散タイプ PDE だけ適用）」を参照してください。

なお、PDE - Form Designer では出力するプリンタの解像度に関係なく 1/240 インチを基本単位として制御イメージを作成します（解像度 240dpi）。出力するプリンタとの解像度の違いは、PDE およびプリンタによって補正され、解像度誤差を除き、定義で設定した値と同等な大きさで出力されます。このマニュアルでは、1/240 インチ四方の矩形を 1 ドットと表現します。

1.7 作成手順

書式オーバーレイモジュール，FCB イメージ，デフォルト機能キャラクタイメージ，および書式記述文の作成手順を次に示します。

1.7.1 書式オーバーレイモジュールを作成する手順

(1) 新規に書式を作成する場合

1. 書式设计機能を使用して，画面上で対話的に書式を設計します。
2. 作成した書式を書式イメージファイルに保存します。
3. 書式オーバーレイモジュール生成機能を使用して，書式イメージファイルから書式オーバーレイモジュールを自動生成します。
4. 書式イメージファイルと書式オーバーレイモジュールを対応づけて管理します。

(2) 既存の書式を変更する場合

1. 書式设计機能を使用して，変更する書式イメージファイルを開き，画面上で出力イメージを確認しながら対話的に書式を修正します。
2. 新規に書式を作成する場合と同様に，書式イメージファイルに保存後，書式オーバーレイモジュールを生成します。
3. 書式イメージファイルと書式オーバーレイモジュールを対応づけて管理します。

(3) 書式記述文から作成する場合

1. 書式イメージ生成機能を使用して，書式記述文から書式イメージファイルを自動生成します。
2. 必要に応じて，書式设计機能を使用して書式イメージファイルを開き，画面上で出力イメージを確認しながら対話的に書式を修正し，書式イメージファイルに保存します。
3. 書式オーバーレイモジュール生成機能を使用して，書式イメージファイルから書式オーバーレイモジュールを自動生成します。
4. 書式記述文，書式イメージファイルおよび書式オーバーレイモジュールを対応づけて管理します。

1.7.2 FCB イメージ，デフォルト機能キャラクタイメージを作成する手順

(1) 新規に FCB イメージ，デフォルト機能キャラクタイメージを作成する場合

1. FCB イメージ作成機能，デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能を使用して，画面上で対話的に FCB イメージ，デフォルト機能キャラクタイメージを設計します。
2. 作成した FCB イメージ，デフォルト機能キャラクタイメージをファイルに保存します。

(2) 既存の FCB イメージ，デフォルト機能キャラクタイメージを変更する場合

(a) PDE - Form Designer で作成した FCB イメージ，デフォルト機能キャラクタイメージ

1. FCB イメージ作成機能，デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能を使用して，変更する FCB イメージ，デフォルト機能キャラクタイメージを画面上で対話的に変更します。
2. 変更した FCB イメージ，デフォルト機能キャラクタイメージをファイルに保存します。

(b) VOS3 で作成された FCB イメージ，デフォルト機能キャラクタイメージ

1. VOS3 環境にある FCB イメージ，デフォルト機能キャラクタイメージを Windows 環境にバイナリ転送します。
2. 転送した FCB イメージ，デフォルト機能キャラクタイメージを PDE - Form Designer で変更します。変更する手順は PDE - Form Designer で作成した FCB イメージ，デフォルト機能キャラクタイメージの場合と同様です。

(c) VOS1/VOSK で作成された FCB イメージ，デフォルト機能キャラクタイメージ

1. VOS1/VOSK 環境にある FCB イメージ / デフォルト機能キャラクタイメージを PDE イメージ転送を利用して Windows 環境下で利用可能な形式に変換します。
2. 変換した FCB イメージ / デフォルト機能キャラクタイメージを Windows 環境にバイナリ転送します。
3. 転送した FCB イメージ / デフォルト機能キャラクタイメージを PDE - Form Designer で変更します。変更する手順は PDE - Form Designer で作成した FCB イメージ / デフォルト機能キャラクタイメージの場合と同様です。

1.7.3 書式記述文を作成する手順

(1) 新規に書式を作成する場合

1. 書式设计機能を使用して，画面上で対話的に書式を設計します。
2. 作成した書式を書式イメージファイルに保存します。
3. 書式記述文生成機能を使用して，書式イメージファイルから書式記述文を自動生成します。
4. 書式イメージファイルと書式記述文を対応づけて管理します。

(2) 既存の書式を変更する場合

1. 書式设计機能を使用して，変更する書式イメージファイルを開き，画面上で出力イメージを確認しながら対話的に書式を修正します。
2. 新規に書式を作成する場合と同様に，書式イメージファイルに保存後，書式記述文を生成します。
3. 書式イメージファイルと書式記述文を対応づけて管理します。

2

インストール / アンインストール

この章では、PDE - Form Designer のインストール / アンインストールについて説明します。

2.1 インストール方法

2.2 アンインストール方法

2.3 インストールおよびアンインストール時の注意事項

2.4 運用時の注意事項

2.1 インストール方法

PDE - Form Designer , または PDE - Form Designer 記述文オプションのインストール方法について説明します。なお、PDE - Form Designer 記述文オプションのインストール方法は PDE - Form Designer と同じです。対応するバージョンの PDE - Form Designer 記述文オプションを、同じ PC にインストールできます。

ここでは、PDE - Form Designer のインストール方法を例に説明します。

！ 注意事項

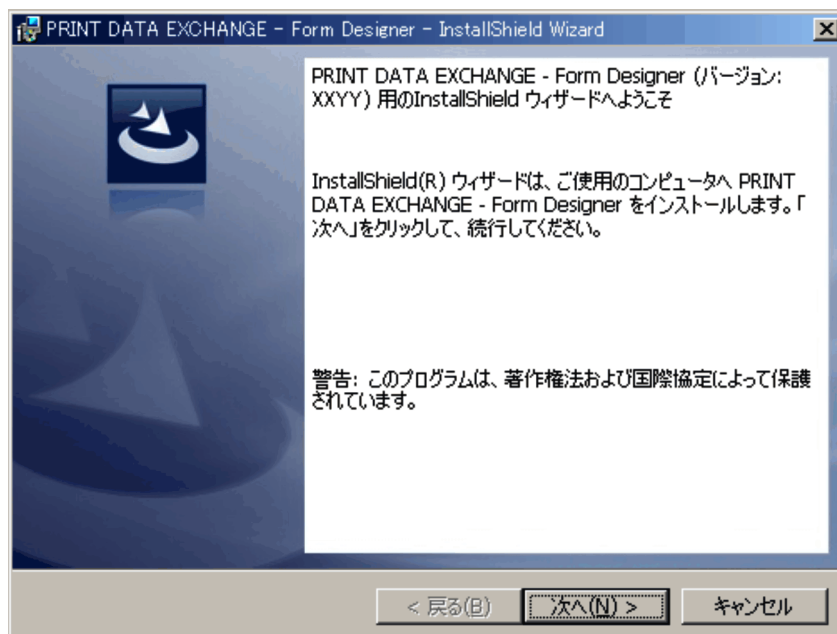
PDE - Form Designer 記述文オプションをインストールする場合は、先に PDE - Form Designer をインストールしてください。PDE - Form Designer がインストールされていない場合は、PDE - Form Designer 記述文オプションはインストールできません。

2.1.1 PDE - Form Designer のインストール方法

PDE - Form Designer のインストール方法を説明します。

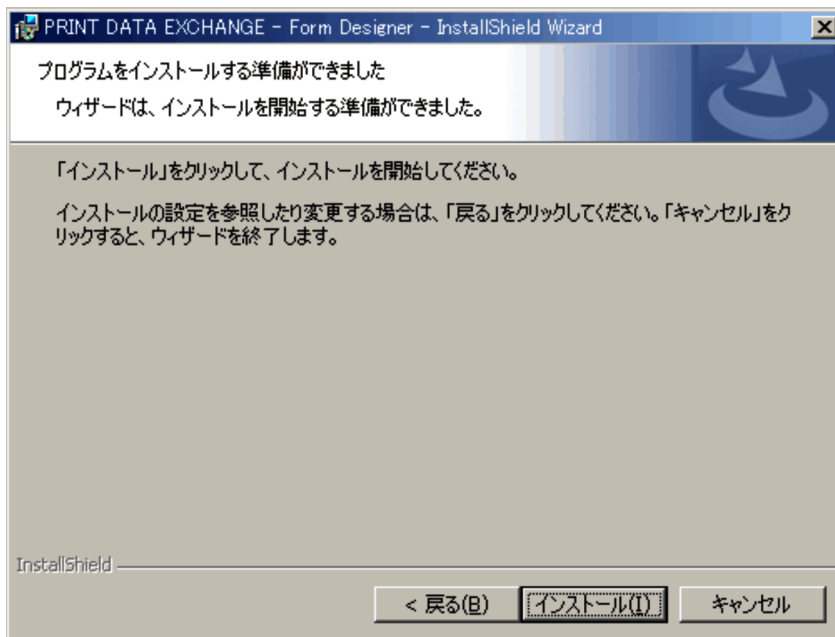
PDE - Form Designer は、アドミニストレータ権限を持っているユーザがインストールしてください。また、すべてのプログラムを終了してからインストールを開始してください。

1. PDE - Form Designer のインストール CD-ROM をセットします。
2. 「CD-ROM ドライブ:¥Disk1¥setup.exe」を実行します。
インストーラが起動されます。

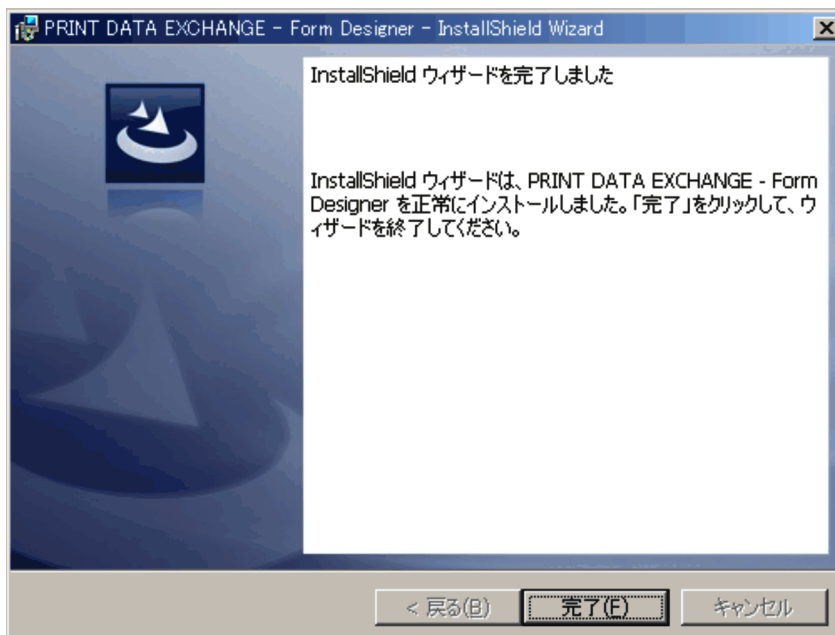


3. [次へ] ボタンをクリックします。
ユーザ情報を入力する画面が表示されます。

2. インストール/アンインストール



7. [インストール] ボタンをクリックします。
ファイルのコピーが開始されます。
ファイルのコピーが終了すると、インストールが終了したことを通知する画面が表示されます。



8. [完了] ボタンをクリックします。
インストールプログラムが終了します。

2.1.2 提供フォルダおよびプログラム

PDE - Form Designer および PDE - Form Designer 記述文オプションをインストールした場合に PC に登録される提供フォルダおよびプログラムを次に示します。

```

<インストールPC>
├─<システム格納ドライブ>:¥Program Files¥HITACHI¥PDE Form Designer (1)
│
│   └─ ¥BIN (2)
├─<スタートメニュー¥All Usersプログラムフォルダ>
│   └─ ¥ PDE Form Designer (3)
│       └─ ユティリティ
│           ├── FCBイメージ作成機能 (4)
│           └─ デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能 (5)
│       └─ ラインプリンタ用ユティリティ
│           ├── ラインプリンタ用FCBイメージ作成機能 (6)
│           └─ ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能 (7)
│       └─ Read Me (Form Designer) (8)
│       └─ Read Me (Form Overlay Source Option) (9)
│       └─ コードマップ定義 (10)
│       └─ パターン・コンバータ (11)
│       └─ 漢字コードマップジェネレータ (12)
│       └─ 環境設定 (13)
│       └─ 書式記述文／書式イメージ生成オプション設定 (14)
│       └─ 書式设计 (15)
│       └─ 書式オーバーレイ／書式記述文／書式イメージ生成 (16)
│       └─ 書式定義機能利用手引き (17)
│       └─ 制御イメージ一覧機能 (18)

```

なお、項番は次に示す表の項目を説明する番号と対応しています。

PDE - Form Designer および PDE - Form Designer 記述文オプションをインストールした場合に PC に登録される提供フォルダおよびプログラムを次の表に示します。

表 2-1 PDE - Form Designer および PDE - Form Designer 記述文オプションをインストールした場合に PC に登録される提供フォルダおよびプログラム

提供フォルダおよびプログラム	PDE - Form Designer	PDE - Form Designer 記述文オプション
(1)PDE - Form Designer インストールフォルダ		×
(2) 実行ファイル格納フォルダ		×
(3) プログラムショートカット格納フォルダ		×
(4)FCB イメージ作成機能		×
(5) デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能		×
(6) ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能		×
(7) ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能		×
(8)PDE - Form Designer の Read Me		×
(9)PDE - Form Designer 記述文オプションの Read Me	×	
(10) 漢字コード変換テーブルを定義するテキストファイル		×
(11) ビットマップ変換ユティリティプログラム		×
(12) 漢字コード変換テーブルの生成ユティリティ		×
(13) 環境設定機能		×
(14) オプション設定ファイル (option.dat) のショートカット		×
(15) 書式设计機能		×

2. インストール/アンインストール

提供フォルダおよびプログラム	PDE - Form Designer	PDE - Form Designer 記述文オプション
(16) 書式オーバーレイモジュール生成 / 書式記述文生成 / 書式イメージ生成機能共通ダイアログ		×
(17) ヘルプファイル		×
(18) 制御イメージ一覧機能		×

(凡例)

：製品が提供します。

×：製品が提供しません。

注 インストール時に変更可能です。

2.2 アンインストール方法

2.2.1 PDE - Form Designer のアンインストール方法

PDE - Form Designer のアンインストール方法を説明します。

! 注意事項

PDE - Form Designer をアンインストールする場合は、必ず PDE - Form Designer 記述文オプションを先にアンインストールしてください。

1. Windows の [コントロールパネル] の [プログラムの追加と削除] を選択します。
アンインストールするプログラムを選択する画面が表示されます。
2. [PRINT DATA EXCHANGE - Form Designer] を選択します。
表示される画面の指示に従ってアンインストールを進めてください。

2.2.2 PDE - Form Designer 記述文オプションのアンインストール方法

PDE - Form Designer 記述文オプションのアンインストール方法を説明します。なお、PDE - Form Designer 記述文オプションをアンインストールしたあとも、PDE - Form Designer は使用できます。

1. Windows の [コントロールパネル] の [プログラムの追加と削除] を選択します。
アンインストールするプログラムを選択する画面が表示されます。
2. [PRINT DATA EXCHANGE - Form Overlay Source Option] を選択します。
表示される画面の指示に従ってアンインストールを進めてください。

2.3 インストールおよびアンインストール時の注意事項

- PDE - Form Designer のインストールおよびアンインストールを始める前に、すべての Windows プログラムを必ず終了させてください。なお、ウイルスチェックプログラムなどの一部のプログラムでは、タスクバーに実行プログラムが表示されないことがあります。
- PDE - Form Designer のインストール先として、すでに別製品がインストールされているフォルダを任意に指定した場合、既存の Readme ファイルが上書きされるおそれがあります。
- PDE - Form Designer のインストールまたはアンインストールの前に、PDE - Form Designer および PDE - Form Designer 記述文オプションのすべてのプログラム（環境設定、書式设计、漢字コードマップジェネレータ、コードマップ定義、パターンコンバータ、書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成、FCB イメージ作成機能、デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能、ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能、ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能、および制御イメージ一覧機能）を終了させてください。
- PDE - Form Designer と PDE - Form Designer 記述文オプションの両方がインストールされている場合に上書きインストールするときは、どちらのバージョンも 02-00 以降にバージョンアップしてください。
- PDE - Form Designer のアンインストール時に PDE - Form Designer 記述文オプションがインストールされている場合は、必ず PDE - Form Designer 記述文オプションを先にアンインストールしてください。
- すでに PDE - Form Designer をインストールして運用している場合、次に示すことに注意してください。
 - (1) 運用中の実行環境を引き継ぐ場合
インストールする前に、環境設定ファイル (FDEnv.ini)、漢字コードマップ定義ファイル (Codemap.def)、漢字コード変換テーブル (codemap.tbl: 漢字コード変換テーブルを生成した場合) およびオプション設定ファイル (option.dat) のバックアップを採取してから、上書きインストールすることを推奨します。
 - (2) 運用中の実行環境を初期化する場合
インストール前に、必ずアンインストールを行ってください。
また、PDE - Form Designer を使用して変更・作成したファイルなどによって、フォルダやファイルがアンインストールで削除されない場合がありますので、PDE - Form Designer のインストール先フォルダを削除後に PDE - Form Designer をインストールしてください。
PDE - Form Designer 記述文オプションがインストールされている場合は、次に示す点に注意してください。
 - ・アンインストールは PDE - Form Designer 記述文オプション、PDE - Form Designer の順に行ってください。
 - ・インストールは PDE - Form Designer、PDE - Form Designer 記述文オプションの順に行ってください。
- PDE - Form Designer を新規にインストールした場合は、必ず環境設定機能を使用して環境設定ファイルを保存してからほかの機能を使用するようにしてください。

2.4 運用時の注意事項

環境設定ファイル (FDEnv.ini), 漢字コードマップ定義ファイル (Codemap.def), 漢字コード変換テーブル (codemap.tbl: 漢字コード変換テーブルを生成した場合) およびオプション設定ファイル (option.dat) は予期しない事故による紛失や破壊からの回復のため, バックアップを定期的に採ることを推奨します。

3

環境設定機能

この章では、PDE - Form Designer の環境設定機能について説明します。

-
- 3.1 環境設定機能一覧
 - 3.2 環境設定の開始と終了
 - 3.3 全体設定
 - 3.4 書式设计に関する設定
 - 3.5 その他
-

3.1 環境設定機能一覧

環境設定機能の一覧を次の表に示します。なお、分類および設定項目は、[環境設定] 画面のメニューバーに合わせて記載していますので、メニューコマンドからの操作の参考にしてください。

表 3-1 環境設定機能の一覧

分類	設定項目		概要	
ファイル	保存		現在の内容を環境設定ファイルに書き込みます。	
	初期化		環境設定ファイルを初期化します ¹ 。	
	終了		環境設定プログラムを終了します。	
全体設定	共通項目	イメージ種別	出力する制御イメージのファイル名を次に示す OS の形式からどれにするかを指定します (VOS3/VOS1/VOSK/ オープン)。	
	フォルダ設定	書式格納フォルダ		書式イメージを保存するフォルダを指定します。
		部品格納フォルダ		部品を保存するフォルダを指定します。
		パターン格納フォルダ		パターンを保存するフォルダを指定します。
		メタファイル格納フォルダ		メタファイルを保存するフォルダを指定します。
		ビットマップファイル格納フォルダ		ビットマップファイルを保存するフォルダを指定します。
		FCB イメージ格納フォルダ		FCB イメージを保存するフォルダを指定します。
		デフォルト機能キャラクタイメージ格納フォルダ		デフォルト機能キャラクタイメージを保存するフォルダを指定します。
		書式オーバーレイモジュール格納フォルダ		書式オーバーレイモジュールを保存するフォルダを指定します。
		書式記述文格納フォルダ		書式記述文を保存するフォルダを指定します。
		書式記述文部品格納フォルダ		書式記述文部品を保存するフォルダを指定します。
		コードマップ定義格納フォルダ		コードマップ定義を保存するフォルダを指定します ² 。
		記述文オプション設定格納フォルダ		記述文オプション設定を保存するフォルダを指定します ² 。
		ラインプリンタ用 FCB イメージ格納フォルダ		ラインプリンタ用 FCB イメージを保存するフォルダを指定します。
ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ格納フォルダ		ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージを保存するフォルダを指定します。		
書式設計設定	初期値	書式情報	書式名	新規書式を開いたときに表示される書式名を指定します。
			作成者	新規書式を開いたときに表示される作成者を指定します。
			概要	新規書式を開いたときに表示される概要を指定します。
			書式サイズ	新規書式を開いたときに表示される書式サイズを指定します。
			ます目サイズ	新規書式を開いたときに表示されるます目サイズを指定します。

分類	設定項目		概要
		作画属性	作画属性の初期値を指定します。
		オプション設定	作画編集オプションの初期値を指定します。
	禁止項目		図形および作画属性の禁止項目を指定します。
	外字マッピング	シーケンシャル・マッピング	PC 側のシフト JIS コード上の外字領域とホスト側の KEIS コード上の外字領域を対応づける外字領域先頭コードを指定します。
		ランダム・マッピング	PC 側のシフト JIS コード上の外字領域とホスト側の KEIS コード上の外字領域を 1 対 1 で対応づけることを指定します。
その他	制御イメージ設定	FCB 形式	FCB イメージの形式を次に示すどれかから選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ホスト用互換形式で扱う ・ ダイアログを表示して選択する ・ 用紙サイズ・行間値拡張形式で扱う
		ラインプリンタ種別	ラインプリンタの種別を指定します。
		センタラインプリンタ FCB 行間値	センタラインプリンタ FCB の行間値を指定します。
		優先度	制御イメージを開くときの優先度を指定します。
	書式生成設定	書式オーバーレイモジュール生成機能	書式オーバーレイモジュール生成時の設定をします。
ヘルプ	目次		ヘルプの目次を表示します。
	バージョン情報		環境設定プログラムのバージョンを表示します。

注 1 画面からの操作方法はなく、メニューコマンドからの操作だけとなります。

注 2 Windows Vista 以降の場合だけ設定できます。

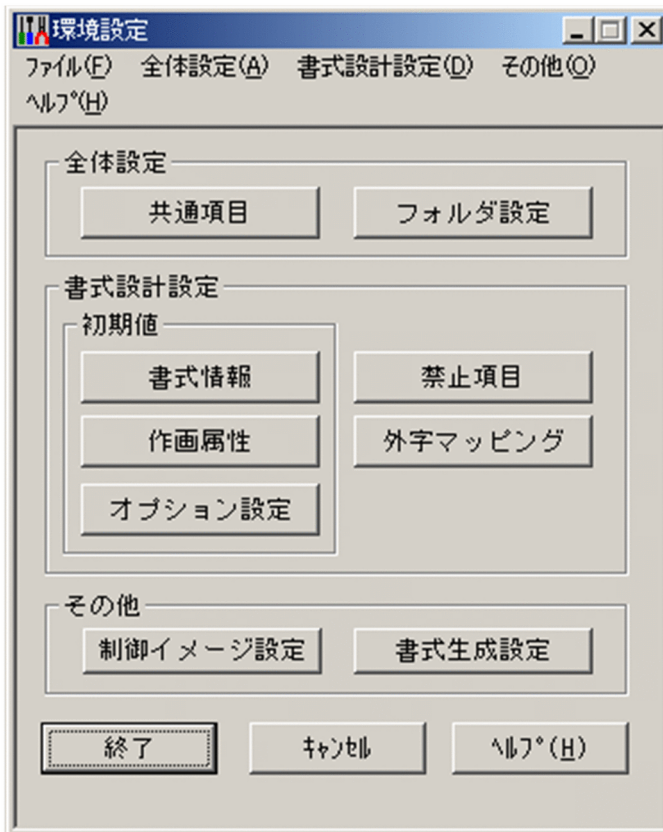
3.2 環境設定の開始と終了

3.2.1 環境設定の開始

環境設定は、システム管理者が行ってください。

環境設定を開始する手順を次に示します。

1. プログラムメニューから、PDE Form Designer の環境設定のアイコンを選択します。
[環境設定] 画面が表示されます。



環境設定の起動時に、環境設定ファイルが存在しない、または破壊されている場合はその内容を示す画面が表示されます。

[OK] ボタンをクリックすると、環境設定ファイルを新規作成します。

[キャンセル] ボタンをクリックした場合、そのまま環境設定プログラムを終了します。

3.2.2 環境設定の終了

環境設定の終了には、次に示す四つの方法があります。

- [環境設定] 画面の [終了] ボタンをクリックします。
環境設定の内容に変更があった場合は、その内容を環境設定ファイルへ保存してよいかの画面を表示しますので応答してください。
- [環境設定] 画面の [キャンセル] ボタンをクリックします。
設定した内容は、環境設定ファイルに出力しないで終了します。
- [環境設定] 画面のメニューバーの [ファイル] から [終了] を選択します。

環境設定の内容に変更があった場合は、その内容を環境設定ファイルへ保存してよいかの画面を表示しますので応答してください。

- タイトルバーの左端のコントロールボックスからコントロールメニューの [閉じる] を選択するか、またはタイトルバーの右端の [閉じる] ボタンをクリックします。
環境設定の内容に変更があった場合は、その内容を環境設定ファイルへ保存してよいかの画面を表示しますので応答してください。

3.2.3 環境設定ファイルの初期化

環境設定ファイルをインストール直後の内容に戻すには、次に示す操作を行います。

1. [環境設定] 画面のメニューバーの [ファイル] から [初期化] を選択します。
環境設定ファイルの内容を初期化してよいかの画面が表示されます。
2. [OK] ボタンをクリックします。
環境設定ファイルがインストール直後の内容に初期化されます。

3.3 全体設定

全体設定では、複数の機能に対して有効になる設定項目を設定します。

3.3.1 共通項目の設定

共通項目では、イメージ種別を設定します。

共通項目を設定する手順を次に示します。

1. [環境設定]画面の[全体設定]の[共通項目]ボタンをクリックします。
[共通項目]画面が表示されます。



2. イメージ種別で PDE - Form Designer で生成する制御イメージのファイル名称形式を選択します。
3. [OK] ボタンをクリックします。
選択したイメージ種別が登録され、次に変更されるまで有効になります。
[キャンセル] ボタンをクリックした場合、イメージ種別は登録されないで、画面を閉じます。

解説

イメージ種別は、FCB イメージ作成機能、デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能、および書式オーバレイモジュール生成機能で有効となる設定項目です。

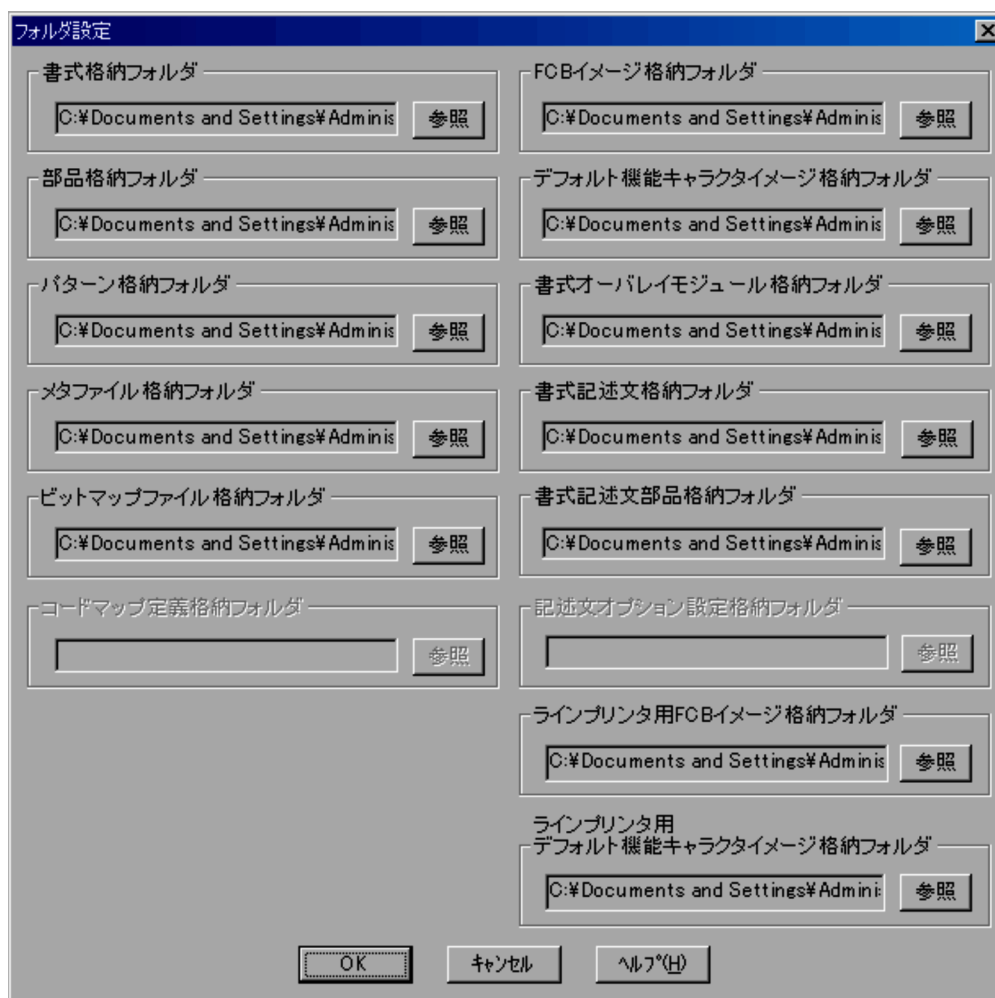
VOS3, VOS1, VOSK, またはオープンで作成した制御イメージのファイル名はそれぞれ異なります。そのため、PDE - Form Designer で FCB イメージ、デフォルト機能キャラクタイメージの生成および書式オーバレイモジュールを [書式オーバレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面で生成する場合には、どのファイル名称形式で生成するかを指定します。なお、生成した制御イメージを PDE で利用する場合には、PDE の環境設定で設定するイメージ種別と合わせておく必要があります。

3.3.2 フォルダの設定

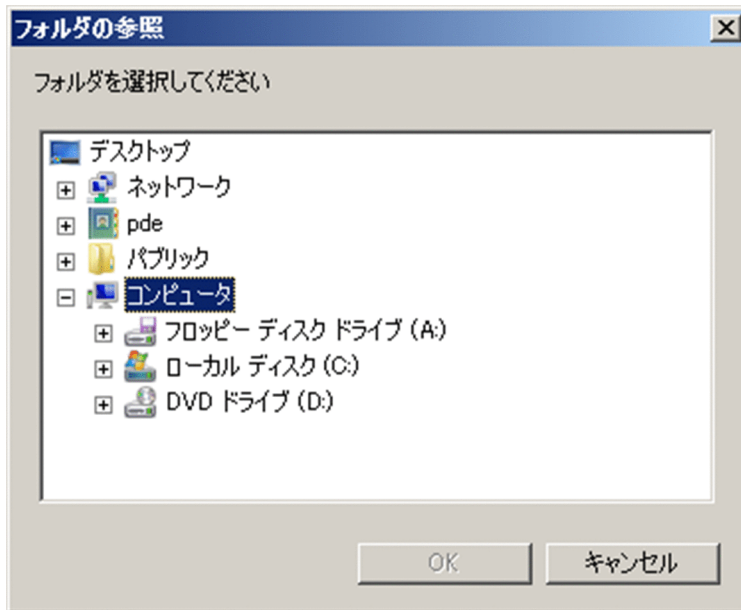
フォルダ設定では、各機能で入出力ファイルを指定する場合に表示される画面中のフォルダ / ドライブの初期値を指定できます。

フォルダ設定の手順を次に示します。

1. [環境設定]画面の[全体設定]から[フォルダ設定]ボタンをクリックします。
[フォルダ設定]画面が表示されます。



2. 書式格納フォルダに書式イメージを保存するフォルダまたはドライブを指定します。
書式格納フォルダの [参照] ボタンをクリックすると, [フォルダの参照] 画面が表示されますのでフォルダを選択して, [OK] ボタンをクリックします。



3. 設定が必要なほかの格納フォルダについてもファイルを保存するフォルダまたはドライブを指定します。

次に示す内容についても、それぞれの [参照] ボタンをクリックすると、[フォルダの参照] 画面が表示されますのでフォルダを選択して、[OK] ボタンをクリックします。

- 部品格納フォルダ
- パターン格納フォルダ
- メタファイル格納フォルダ
- ビットマップファイル格納フォルダ
- コードマップ定義格納フォルダ (Windows Vista 以降の場合だけ)
- FCB イメージ格納フォルダ
- デフォルト機能キャラクタイメージ格納フォルダ
- 書式オーバーレイモジュール格納フォルダ
- 書式記述文格納フォルダ (PDE - Form Designer 記述文オプションをインストールしている場合だけ)
- 書式記述文部品格納フォルダ (PDE - Form Designer 記述文オプションをインストールしている場合だけ)
- 記述文オプション設定格納フォルダ (Windows Vista 以降に PDE - Form Designer 記述文オプションをインストールしている場合だけ)
- ラインプリンタ用 FCB イメージ格納フォルダ
- ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ格納フォルダ

4. [OK] ボタンをクリックします。

指定したフォルダ / ドライブが登録され、次に変更されるまで有効になります。

[キャンセル] ボタンをクリックした場合、フォルダ / ドライブは登録されないで、画面を閉じます。

注意事項

ファイル名が重複するリスクを軽減するため、ラインプリンタ用とそれ以外の制御イメージを併用して運用する場合は、格納フォルダを別々のフォルダに設定することを推奨します。

解説

各機能で、入出力ファイルを指定する場合に表示される画面中のフォルダ / ドライブの初期値を指定します。

この画面が初期値として表示しているフォルダ/ドライブはコードマップ定義格納フォルダ (Windows Vista 以降の場合だけ), および記述文オプション設定格納フォルダ (Windows Vista 以降の場合だけ) はインストール先フォルダ ¥BIN, それ以外はマイドキュメントフォルダです。次に示す内容の設定ができます。

・書式格納フォルダ

次の画面中のフォルダ/ドライブの初期値を指定します。

- ・書式设计での [開く] ボタンを選択した場合に表示される画面
- ・[書式设计] 画面のメニューバーの [ファイル] から [開く] または [名前を付けて保存] を選択した場合に表示される画面
- ・[書式オーバーレイ/書式記述文/書式イメージ生成] 画面の [出力先] (書式イメージ)

また, この指定は, [書式オーバーレイ/書式記述文/書式イメージ生成] 画面で, [生成種別] が [書式オーバーレイ] または [書式記述文] の場合, 次の画面のカレントフォルダとなります。

- ・生成対象ファイルの選択で [フォルダ] ボタンを選択した場合に表示される [フォルダの参照] 画面
- ・生成対象ファイルの選択で [ファイル] ボタンを選択した場合に表示される [ファイルを開く] 画面

・部品格納フォルダ

次の画面中のフォルダ/ドライブの初期値を指定します。

- ・書式设计の [部品] ボタンで配置する部品を選択する場合に表示される [部品ファイルの選択] 画面
- ・[書式设计] 画面のメニューバーの [ファイル] から [部品として保存] を選択した場合に表示される [部品として保存] 画面

・パターン格納フォルダ

次の画面中のフォルダ/ドライブの初期値を指定します。

- ・書式设计の作画ツールバーのパターンボタンで配置するパターンを選択する場合に表示される [パターンファイルの選択] 画面
- ・パターンコンバータの [パターンとして保存] ボタンを選択した場合に表示される [パターンとして保存] 画面
- ・[書式设计] 画面のメニューバーの [ファイル] から [パターンとして保存] を選択した場合に表示される [パターンとして保存] 画面

・メタファイル格納フォルダ

次の画面中のフォルダ/ドライブの初期値を指定します。

- ・書式设计の標準ツールバーのメタファイル保存ボタンを選択した場合に表示される画面
- ・[書式设计] 画面のメニューバーの [ファイル] から [メタファイルとして保存] を選択した場合に表示される画面

・ビットマップファイル格納フォルダ

パターンコンバータの [ビットマップを開く] ボタンまたはメニューバーの [ファイル] から [ビットマップを開く] を選択した場合に表示される [ビットマップの選択] 画面中のフォルダ/ドライブの初期値を指定します。

・FCB イメージ格納フォルダ

[FCB イメージ作成機能] 画面のメニューバーの [ファイル] から [開く] または [名前を付けて保存] を選択した場合に表示される画面中のフォルダ/ドライブの初期値を指定します。

・デフォルト機能キャラクタイメージ格納フォルダ

[デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面のメニューバーの [ファイル] から [開く] または [名前を付けて保存] を選択した場合に表示される画面中のフォルダ/ドライブの初期値を指定します。

- ・書式オーバーレイモジュール格納フォルダ
[書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面で,[出力先](書式オーバーレイ)に表示されるフォルダ / ドライブの初期値を指定します。
- ・書式記述文格納フォルダ
[書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面で,[出力先](書式記述文)に表示されるフォルダ / ドライブの初期値を指定します。
また,この指定は,[書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面で,[生成種別]が[書式イメージ]の場合,次の画面のカレントフォルダとなります。
 - ・生成対象ファイルの選択で[フォルダ]ボタンを選択した場合に表示される[フォルダの参照]画面
 - ・生成対象ファイルの選択で[ファイル]ボタンを選択した場合に表示される[ファイルを開く]画面
- ・書式記述文部品格納フォルダ
[書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面で,[参照先](書式記述文部品)に表示されるフォルダ / ドライブの初期値を指定します。
- ・コードマップ定義格納フォルダ
漢字コードマップ機能が使用する漢字コードマップ定義ファイルの保存先を指定します。
- ・記述文オプション設定格納フォルダ
書式記述文生成機能および書式イメージ生成機能が使用する記述文オプション設定ファイルの保存先を指定します。
- ・ラインプリンタ用 FCB イメージ格納フォルダ
[ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能] 画面のメニューバーの[ファイル]から[開く]または[名前を付けて保存]を選択した場合に表示される画面中のフォルダ / ドライブの初期値を指定します。
- ・ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ格納フォルダ
[ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面のメニューバーの[ファイル]から[開く]または[名前を付けて保存]を選択した場合に表示される画面中のフォルダ / ドライブの初期値を指定します。

3.4 書式设计に関する設定

書式设计では、書式设计機能の動作に関する設定をします。

3.4.1 初期値の設定

書式设计で書式情報、作画属性、およびオプション設定の画面を表示する場合の初期値を設定します。

(1) 書式情報の設定

書式情報を設定する手順を次に示します。

1. [環境設定]画面の[書式设计設定] - [初期値]の[書式情報]ボタンをクリックします。
[書式情報]画面が表示されます。

2. 情報を設定します。
書式サイズやまず目の大きさなどの必要な情報を設定します。
[書式设计]画面のメニューバーの[設定]から[書式情報]を選択した場合に表示される画面中の初期値を指定します。
3. 設定した情報を確認して[OK]ボタンをクリックします。
指定した書式情報が登録され、次に更新されるまで有効になります。
[キャンセル]ボタンをクリックした場合、書式情報は登録されないで、画面を閉じます。

設定する情報の詳細については、「4.5.1 書式情報の設定」を参照してください。

(2) 作画属性の設定

作画属性を設定する手順を次に示します。

1. [環境設定] 画面の [書式设计設定] - [初期値] の [作画属性] ボタンをクリックします。
[作画属性] 画面が表示されます。



ここで設定した値は、書式を新規作成する場合の初期値となります。

また、禁止項目で指定されている項目は、不活性となっているため指定できません。

2. 作画属性を指定します。
[書式设计] 画面のメニューバーの [設定] から [作画属性] を選択した場合に表示される [作画属性] 画面中の初期値を指定します。
3. 書式内に配置された文字列表示用のフォントを指定します。
書式设计で書式内に配置された文字列を表示する場合に使用するフォントを指定します。
書体設定では、書体番号 1 ~ 15 のそれぞれに対応するフォント名を指定できます。書体番号とフォントの対応は書式设计の [作画属性] 画面では設定できません。
[書式设计] 画面上に配置された文字列は、その文字列の属性として設定されている書体番号に対応して指定されたフォントの書体で表示されます。なお、作成した書式を PDE で使用した場合は、PDE 環境設定の [書体設定] で指定したフォントが使用されます。このため、[作画属性] 画面の [書体設定] で設定するフォントは、PDE 環境設定の [書体設定] の設定と同じ書体のフォントを指定することを推奨します。
4. 書式内に配置された図形表示用の色、編集対象図形の色、および反復図形の色を指定します。
書式设计で書式内に配置された図形を表示する場合に使用する色を指定します。
色設定では、色番号 1 ~ 8 のそれぞれに対応する色を指定できます。色番号と色の対応は書式设计の [作画属性] 画面では設定できません。
[書式设计] 画面上に配置された図形は、その図形の属性として設定されている色番号に対応して指定された色で表示されます。なお、作成した書式を PDE で使用した場合は、PDE 環境設定の [色設定] で指定した色が使用されます。このため、[作画属性] 画面の [色設定] で設定する色は、PDE 環境設定の [色設定] の設定と同じ色を指定することを推奨します。

また、書式设计で編集対象図形を表示する色および反復図形を表示する色を指定します。この項目は、書式设计の [作画属性] 画面では設定できません。

ただし、書式设计のオプション設定で編集対象図形または反復図形を色で明示しない設定になっている場合は、ここで設定した表示色は有効になりません。

5. 色番号の初期値を指定します。

新規に書式设计する場合に、初期値として選択される色番号を指定します。

また、読み込んだ書式イメージファイルの中に設定されている初期値の色番号が環境設定で禁止されていた場合に、代わりに選択される色番号を指定します。

6. [OK] ボタンをクリックします。

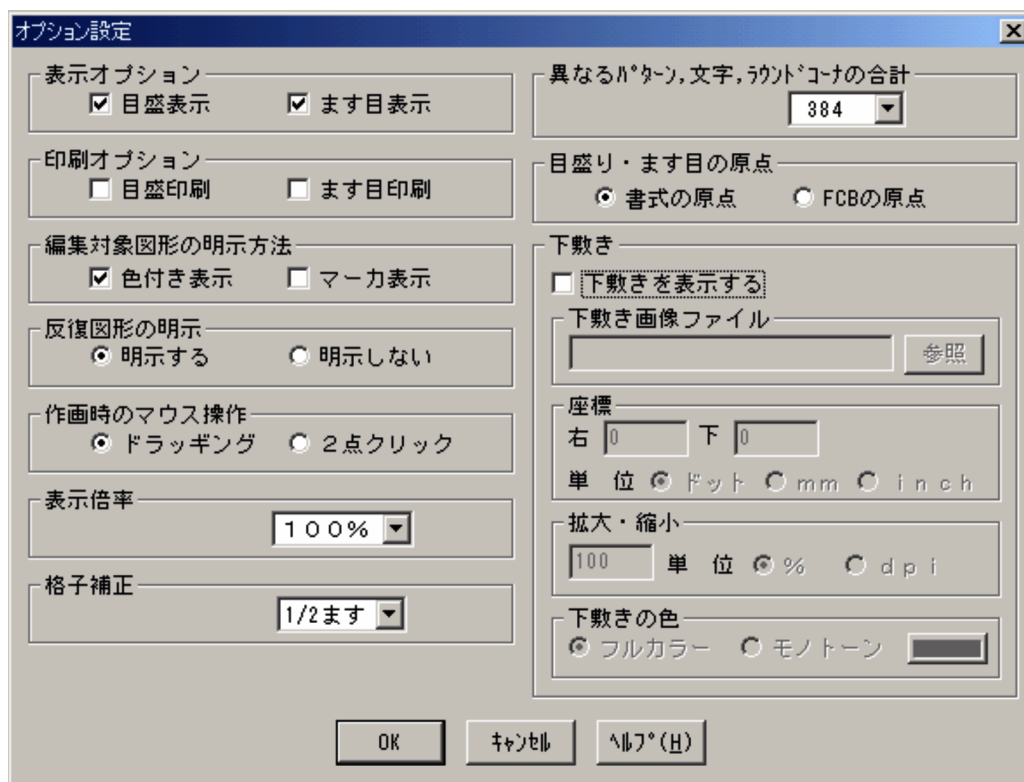
指定した作画属性情報が登録され、次に更新されるまで有効になります。

[キャンセル] ボタンをクリックした場合、作画属性情報は登録されないで、画面を閉じます。

(3) オプションの設定

オプションを設定する手順を次に示します。

1. [環境設定] 画面の [書式设计設定] - [初期値] の [オプション設定] ボタンをクリックします。
[オプション設定] 画面が表示されます。



ここで設定した値は、書式を新規作成する場合の初期値となります。

2. オプション情報を指定します。

[書式设计] 画面のメニューバーの [オプション] から [作画・編集] または [表示・印刷] を選択した場合に表示される画面中の初期値を指定します。

また、PDE・Form Designer 記述文オプションで書式記述文を生成する場合に、書式设计で一つの書式上に配置できるパターン、文字、およびラウンドコーナの合計数の上限を変更できます。

3. [OK] ボタンをクリックします。

指定したオプション情報が登録され、次に更新されるまで有効になります。

3. 環境設定機能

[キャンセル] ボタンをクリックした場合、指定したオプション情報は登録されないで、画面を閉じます。

解説

異なるパターン、文字、およびラウンドコーナーの合計については、PDE - Form Designer 記述文オプションで生成する書式記述文を入力とするプログラムの仕様（制限）に応じて指定してください。

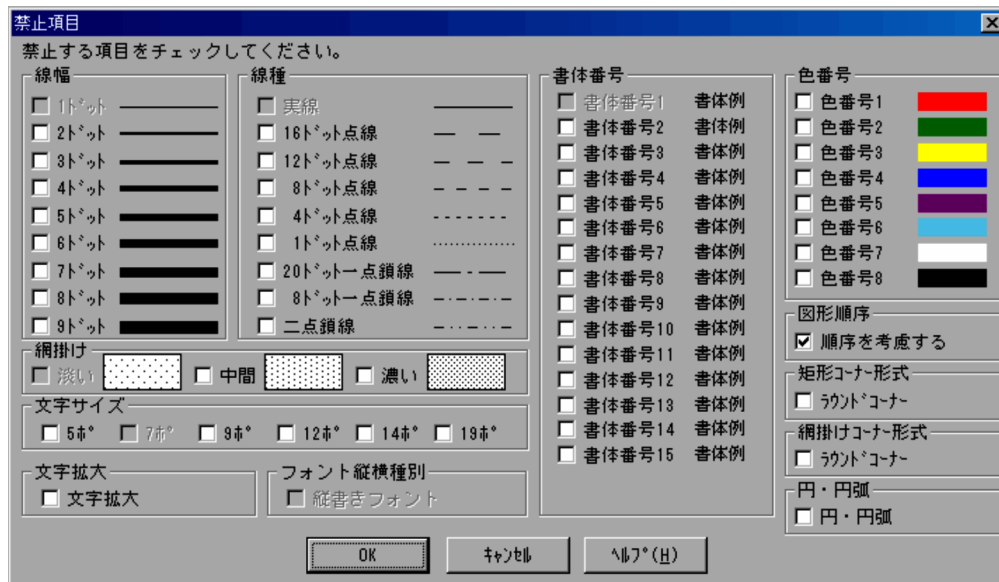
3.4.2 禁止項目の設定

禁止項目として作画できない図形および作画属性の制限をあらかじめ設定することによって、電子帳票などの他システムで取り込む場合の制限によるエラーを未然に防ぐことができます。

また、禁止項目を設定することによって、書式設計作業の標準化 / 共通化が可能となります。

禁止項目を設定する手順を次に示します。

1. [環境設定] 画面の [書式設計設定] から [禁止項目] ボタンをクリックします。
[禁止項目] 画面が表示されます。



2. 図形および作画属性の禁止項目を指定します。
[書式設計] 画面のメニューバーの [設定] から [作画属性] を選択した場合に表示される画面中の初期値を指定します。
3. [OK] ボタンをクリックします。
指定した禁止項目情報が登録され、次に変更されるまで有効になります。
[キャンセル] ボタンをクリックした場合、禁止項目情報は登録されないで、画面を閉じます。

解説

[禁止項目] 画面が表示されたときに不活性となっている項目は、すでに作画属性情報で初期値として設定されている項目です。

禁止項目は、この項目単位（線幅や線種など）内ですべての要素を禁止することはできません。ただし、文字拡大、フォント縦横種別、矩形コーナー形式、網掛けコーナー形式、円・円弧、色番号、および図形順序は除きます。また、初期値のコーナー形式がラウンドコーナーであったときは、矩形 / 網掛けラウンドコーナーのどちらか一方だけしか禁止できません。

なお、禁止項目として設定した属性は、[書式設計] 画面のメニューバーの [設定] から [作画属性] を選択した場合に表示される [作画属性] 画面で不活性表示になり、使用できなくなります。

3.4.3 外字領域の設定

書式中に配置された全角文字は、書式イメージファイルでは KEIS コードで保存されています。書式设计機能で書式イメージを入出力する場合、および書式イメージ生成機能では、KEIS コードとシフト JIS コード間のコード変換を行っています。このコード変換で、Windows 側のシフト JIS コード上の外字領域とホスト側の KEIS コード上の外字領域を対応させるために、PDE・Form Designer では、次に示す二つのマッピング方法をサポートしています。

外字先頭コード指定によるシーケンシャル・マッピング

シフト JIS コードの外字第一セットの先頭コード (F040)₁₆ と対応する KEIS コード外字第一領域の先頭コードを指定します。

同様にシフト JIS コードの外字第二セットの先頭コード (F640)₁₆ と対応する KEIS コード外字第二領域の先頭コードを指定します。

漢字コード変換テーブルによるランダム・マッピング

漢字コード変換テーブルを作成し、シフト JIS コードと KEIS コードの対応関係を 1 対 1 で指定する方法です。

一部の内字についても対応関係を変更できます。

書式イメージの移行は行わないで、新規に PDE for Open と連携して使用する場合は、シーケンシャル・マッピングを選択し、外字第一領域の先頭コードを 81A1、外字第二領域の先頭コードを 8DA1 に設定されることを推奨します。

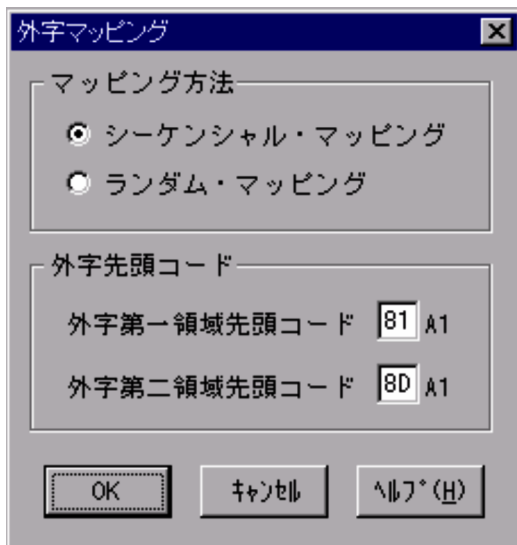
注意事項

- ランダム・マッピングを使用した書式オーバーレイモジュールを分散タイプ PDE で使用する場合は、漢字コードマップ定義の内容を分散タイプ PDE のコード変換テーブルへ反映する必要があります。分散タイプ PDE のコード変換テーブルの変更方法は、マニュアル「PRINT DATA EXCHANGE」を参照してください。
- 外字を使用した書式オーバーレイモジュールを PDE for Open で使用する場合は、Windows のシフト JIS 外字定義を PDE・Form Designer を使用する PC と PDE for Open を使用する PC で一致させておく必要があります。

(1) 外字先頭コード指定によるシーケンシャル・マッピング

外字コードのマッピング方法を設定する手順を次に示します。

- [環境設定] 画面の [書式设计設定] から [外字マッピング] ボタンをクリックします。
[外字マッピング] 画面が表示されます。



2. マッピング方法のシーケンシャル・マッピングを選択します。
3. 外字第一領域の先頭コードを指定します。
4. 外字第二領域の先頭コードを指定します。
5. [OK] ボタンをクリックします。
 指定したマッピング方法と外字第一 / 第二領域の先頭コード情報が登録され、次に更新されるまで有効になります。
 [キャンセル] ボタンをクリックした場合、マッピング方法と外字第一 / 第二領域の先頭コード情報は登録されないので、画面を閉じます。

解説

外字領域先頭コード設定の規則を次に示します。

- 外字第一 / 第二領域の各先頭コードは 4 けたのうち、前 2 けたを指定します。
 後ろ 2 けたは " A1 " 固定となります。
- 外字第一 / 第二領域の先頭コードの指定可能な範囲は、" 41 " ~ " 93 " です。
- 外字第一領域と第二領域が重なるような指定はできません。
- 外字を指定しない場合は、" FF " を指定してください。
 設定されていない領域のコードが入力された場合、未定義コード「・」に変換します。

(2) 漢字コード変換テーブルによるランダム・マッピング

漢字コード変換テーブルは、漢字コードマップ定義ファイルでシフト JIS コードと KEIS コードの対応関係を定義したあと、漢字コードマップジェネレータで作成します。

(a) ランダムなマッピングの指定

ランダム・マッピングを設定する手順を次に示します。

1. [環境設定] 画面の [書式设计設定] から [外字マッピング] ボタンをクリックします。
 [外字マッピング] 画面が表示されます。
2. マッピング方法のランダム・マッピングを選択します。
3. [OK] ボタンをクリックします。
 ランダム・マッピングが登録され、次に変更されるまで有効になります。
 [キャンセル] ボタンをクリックした場合、ランダム・マッピング指定は登録されないので、画面を閉じ

ます。

(b) 漢字コードマップ定義ファイルの作成

ファイルの編集

PDE・Form Designer をインストールすると、漢字コードマップ定義ファイル (Codemap.def) のサンプルが作られ、[コードマップ定義] のアイコンが登録されます。

このアイコンを選択するとメモ帳が起動し、漢字コードマップ定義ファイルが開きます。次に示す記述規則に従い漢字コードマップ定義ファイルに、シフト JIS コードと KEIS コードの対応関係を定義してください。

- ファイルはテキスト形式のため、任意のテキストエディタで編集できます。この場合、インストール先フォルダ ¥BIN の下の "Codemap.def" ファイルを編集してください。
- Windows Vista 以降の場合は、作成した漢字コードマップ定義ファイルを、環境設定で設定したコードマップ定義格納フォルダへ保存してください。

漢字コードマップ定義の例

漢字コードマップ定義の例を次に示します。

```
#
# シフトJIS    KEISコードマップ
#
# SJIS = KEIS
#
F040 = 81A1
F041 = 81A2 # コメント
F042 = 81A3, F043 = 81A4, F044 = 81A5
F0A5=81A6, F0A6=81A7, F0A7=81A8
```

マッピングレコード

" F040=81A1 " のように、シフト JIS コードと KEIS コードを対応づけているレコードをマッピングレコードと呼びます。

マッピングレコードは 1 行 1 レコードで記述します。

1 行で一つの対応関係を記述する場合は、<SJIS> = <KEIS> と記述し、1 行で複数の対応関係を記述する場合は、<SJIS> = <KEIS>, <SJIS> = <KEIS>, ..., <SJIS> = <KEIS> と記述します。

<SJIS> には、シフト JIS コードを 16 進数で指定します。

マッピング可能なシフト JIS コードの範囲を、次の表に示します。

表 3-2 マッピング可能なシフト JIS コードの範囲

領域名	内容
Windows 特殊文字	8740 ~ 889D
NEC 選定 IBM 拡張文字	ED40 ~ EEFC
外字	F040 ~ F9FC
IBM 拡張文字	FA40 ~ FCFC

対応させることができる KEIS コードは $(41A1)_{16}$ ~ $(A0FE)_{16}$ の範囲に限ります。<KEIS> には、KEIS コードを 16 進数で指定します。

$(41A1)_{16}$ ~ $(A0FE)_{16}$ の範囲内で指定してください。

コメント行

から行末までをコメントの記述に利用できます。

注意事項

3. 環境設定機能

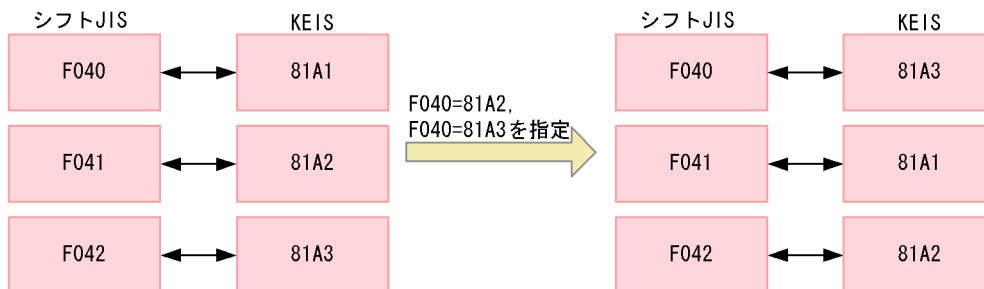
- コードは 1 対 1 で対応する必要があります。

(例) F040=81A2 と指定した場合、次に示すように対応関係が入れ替わります。



- 同一コードに対する記述を複数回行うことができます。

(例) F040=81A2, F040=81A3 と指定した場合、次に示すように対応関係が入れ替わります。



プログラムを再インストールした場合、漢字コードマップ定義ファイルのサンプルが無条件に書き込まれます。定義済みの漢字コードマップ定義ファイルがある場合は、再インストール前に漢字コード定義ファイル (Codemap.def) のバックアップを行ってください。

(3) 漢字コード変換テーブルの生成

漢字コード変換テーブルは、漢字コードマップジェネレータで生成します。

漢字コードマップジェネレータは、漢字コードマップ定義ファイルの内容を解析し、漢字コード変換テーブルを生成します。

PDE・Form Designer をインストールすると、漢字コードマップジェネレータがインストールされ、[漢字コードマップジェネレータ]のアイコンが登録されます。

このアイコンを選択すると、[漢字コードマップジェネレータ]画面が表示されます。

[生成] ボタンをクリックすると、漢字コードマップ定義ファイルの解析を開始し漢字コード変換テーブルを生成します。

[終了] ボタンをクリックすると、プログラムを終了します。

解析途中のガイダンス/エラーメッセージはメッセージ領域に表示します。

注意事項

漢字コードマップジェネレータは、システム管理者が使用してください。

3.5 その他

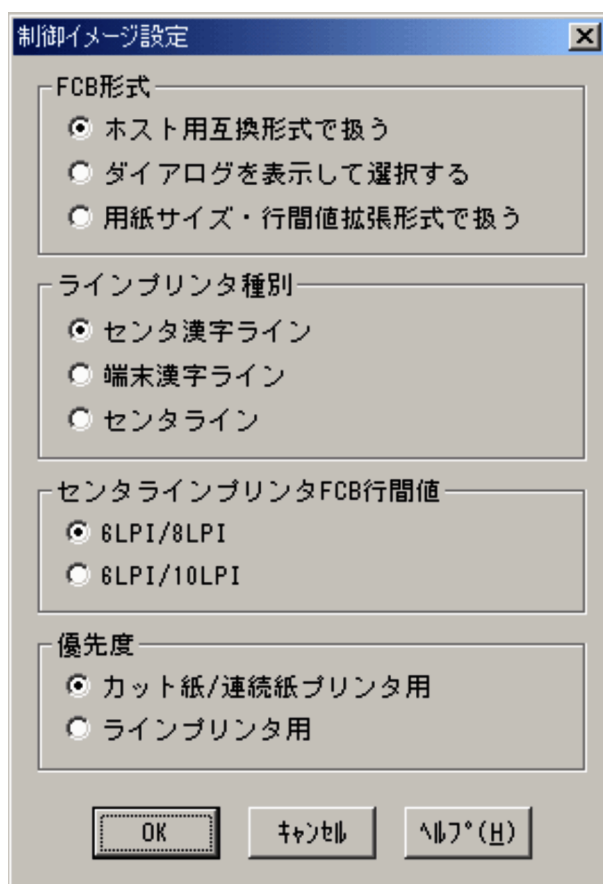
その他では、書式设计以外の機能に対して有効になる設定項目を設定します。

3.5.1 制御イメージ設定の設定

制御イメージ設定では、FCB イメージの形式を設定します。

制御イメージ設定を設定する手順を次に示します。

1. [環境設定] 画面の [その他] の [制御イメージ設定] ボタンをクリックします。
[制御イメージ設定] 画面が表示されます。



2. 次に示す項目を設定します。
 - FCB 形式
FCB 形式で PDE - Form Designer で生成する FCB イメージの形式を選択します。
 - ラインプリンタ種別
ラインプリンタ種別を選択します。
 - センタラインプリンタ FCB 行間値
センタラインプリンタ FCB 行間値を選択します。
 - 優先度
制御イメージの優先度を選択します。
3. [OK] ボタンをクリックします。
選択した制御イメージ設定が登録され、次に変更されるまで有効になります。

[キャンセル] ボタンをクリックした場合、制御イメージ設定は登録されないで、画面を閉じます。

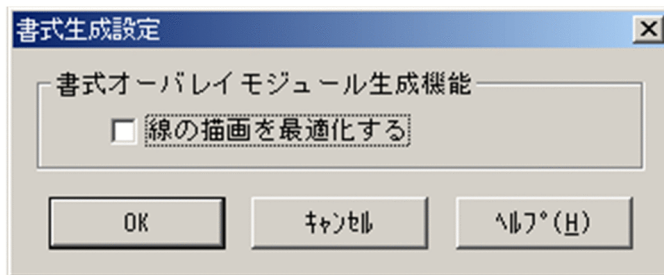
解説

- ホスト用互換形式で扱うを選択した場合は、FCB イメージをホスト用 FCB イメージと互換性のあるフォーマットで読み書きします。
ダイアログを表示して選択するを選択した場合は、FCB イメージの編集時に逐次画面を表示して FCB イメージの形式を選択します。
用紙サイズ・行間値拡張形式で扱うを選択した場合は、FCB イメージを用紙サイズと行間値の入力範囲が拡張されたフォーマットで読み書きします。従来のホスト用互換形式を読み込み、用紙サイズ・行間値拡張形式として扱うこともできます。なお、用紙サイズ・行間値拡張形式をホスト用互換形式には変換できません。
- ラインプリンタ用制御イメージの作成では、常に FCB 形式をホスト用互換形式として扱います。優先度は制御イメージ一覧機能でだけ有効になります。

3.5.2 書式生成設定の設定

書式生成設定では、書式オーバーレイモジュール生成機能を使用するときの動作を設定します。

1. [環境設定] 画面の [その他] の [書式生成設定] ボタンをクリックします。
[書式生成設定] 画面が表示されます。



2. 次に示す項目を設定します。

書式オーバーレイモジュール生成機能

書式オーバーレイモジュール生成機能を使用した場合の動作を設定します。

項目の設定値次に説明します。

線の描画を最適化する：PDE で出力した PDF ファイルや HOPSS3/AS REV/OSE に登録した電子帳票を閲覧している場合に、書式の線が分割して表示されるときに、この項目をチェックして書式オーバーレイモジュールを生成し直してください。

なお、チェックしないで書式オーバーレイモジュールを生成した場合、PDE - Form Designer 01-07 以前と同様の結果になります。

3. [OK] ボタンをクリックします。
書式オーバーレイモジュール生成機能の設定が登録され、次に変更されるまで有効になります。
[キャンセル] ボタンをクリックした場合、書式オーバーレイモジュール生成機能の設定は登録されないで、画面を閉じます。

注意事項

線の描画を最適化するをチェックして生成した書式オーバーレイモジュールは、分散タイプ PDE 01-15 以前、PDE for Open 01-08 以前で使用すると、図形のレイアウトが崩れるため、分散タイプ PDE 01-16 以降、PDE for Open 01-09 以降で使用してください。

4

書式定義機能

この章では、PDE - Form Designer の書式定義機能について説明します。

-
- 4.1 書式定義機能とは
 - 4.2 書式設計の入出力ファイル
 - 4.3 [書式設計]画面とメニュー項目一覧
 - 4.4 書式設計の開始と終了
 - 4.5 書式設計情報の設定
 - 4.6 書式の作成
 - 4.7 書式部品の保存
 - 4.8 色番号の設定
 - 4.9 書式パターンの作成
-

4.1 書式定義機能とは

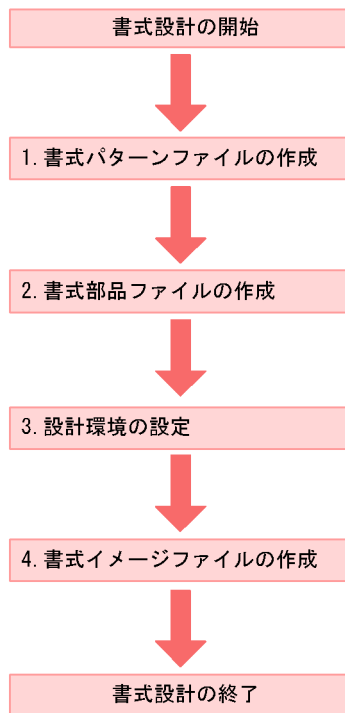
書式定義機能は、書式オーバーレイモジュール生成機能または書式記述文生成機能を使用して書式オーバーレイモジュールまたは書式記述文を生成するために、書式を設計して書式イメージファイルを作成するものです。また、書式イメージ生成機能を使用して書式記述文から生成した書式イメージファイルを変更することもできます。

書式定義機能には次の三つがあります。

- 書式设计機能
- 書式パターン変換機能
- 漢字コードマップ機能

書式设计の開始から終了まで流れを次の図に示します。なお、必要な情報は環境設定で設定済みであることが前提となります。

図 4-1 書式设计の開始から終了までの流れ



1. よく使用するマークやロゴは、パターンとして書式パターンファイルに登録できます。登録した書式パターンを書式部品ファイルおよび書式イメージファイルの作成に利用することで、作業の省力化を図れます。書式パターンを利用しない場合、書式パターンファイルを作成する必要はありません。
2. 書式设计時に繰り返し使用する図形群は、部品として書式部品ファイルに登録できます。1.と同様に、登録した部品を利用して作業の省力化を図れます。部品を利用しない場合、書式部品ファイルを作成する必要はありません。
3. 書式イメージファイルを開き、書式のサイズ、作画する図形の情報や作画、編集方法などの設計環境を設定します。
4. 設定した作画環境の下で、図形の作画と編集をします。

4.2 書式设计の入出力ファイル

書式を設計するための入出力対象となるファイルと役割を次の表に示します。

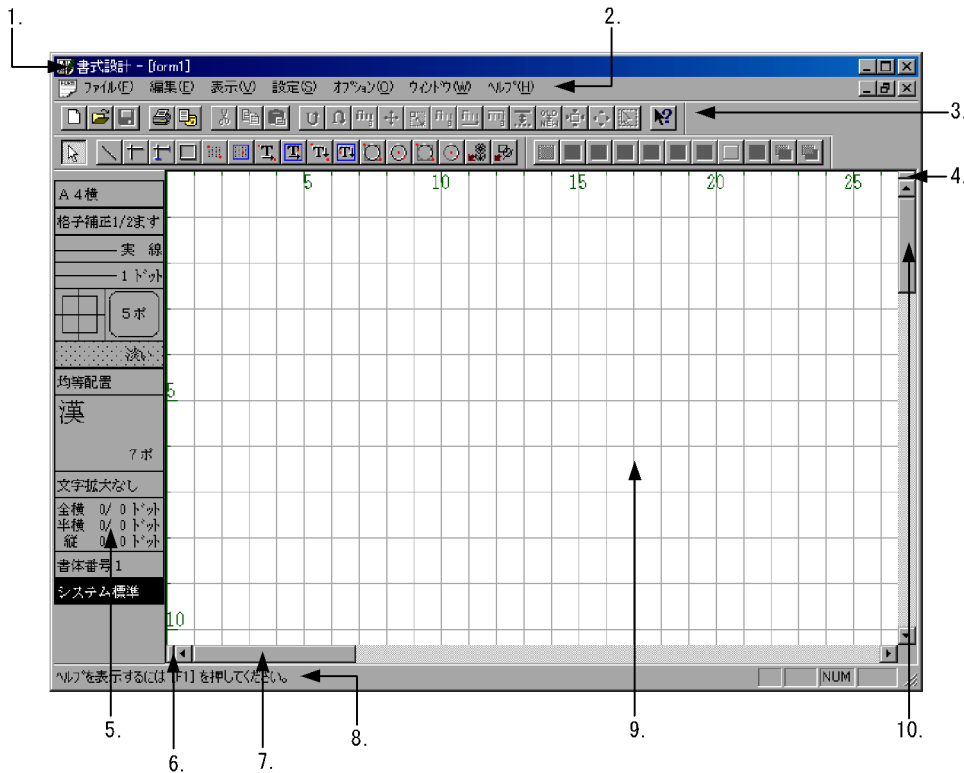
表 4-1 書式设计で入出力対象となるファイルと役割

必要なファイル	入出力	ファイルの役割
書式イメージファイル	入出力	図形の作画，編集をして書式设计した内容を保存します。
書式部品ファイル	入出力	書式设计時に繰り返し使用する図形を部品として登録します。
書式パターンファイル	入力	よく使用する会社のマークや，ロゴを書式中にパターンとして配置する場合に，あらかじめ使用するパターンを保管しておきます。
漢字コード変換テーブル	入力	環境設定で [外字マッピング] に [ランダム・マッピング] が設定されている場合，書式中に定義された文字のコード変換に使用します。
環境設定ファイル	入力	使用するファイルのフォルダの指定や作画属性および書式情報の初期設定情報を登録しておきます。詳細については，「3. 環境設定機能」を参照してください。

4.3 [書式设计] 画面とメニュー項目一覧

(1) [書式设计] 画面構成

[書式设计] 画面構成を次に示します (項番は項目の説明の番号と対応しています)。



1. タイトルバー
タイトルには、「書式设计」を表示し，その右側に現在編集中の書式名が表示されます。
2. メニューバー
コマンドメニューが表示されます。
3. ツールバー
作画ボタン，標準ボタン，およびカラーボタンが表示されます。
4. 垂直スプリッタウィンドウ
書式を垂直方向に分割する場合に操作します。
5. 状態表示
編集中の書式サイズや，作画する線の属性，および文字の大きさなどが表示されます。初期値は環境設定プログラムで設定した値が表示されますが，作画・編集作業中に値を変えて使用もできます。
6. 水平スプリッタウィンドウ
書式を水平方向に分割する場合に操作します。
7. 水平スクロールバー
書式を水平方向にスクロールする場合に操作します。
8. ステータスバー (メッセージ領域)
メニューの各操作や作画ボタンのガイダンスを表示します。
9. 編集領域
書式イメージが表示される領域であり，作画・編集作業を行います。
10. 垂直スクロールバー
書式を垂直方向にスクロールする場合に操作します。

(2) メニュー項目一覧

[書式设计] 画面のメニュー項目一覧を次の表に示します。

表 4-2 [書式设计] 画面のメニュー項目一覧

メニューバー	プルダウンメニュー	機能	
ファイル (F)	新規作成 (N)	書式を新規に作成します。	
	開く (O) ...	作成済みの書式を開きます。	
	閉じる (C)	作業中の書式を閉じます。	
	上書き保存 (S)	作業中の書式を上書き保存します。	
	名前を付けて保存 (A) ...	作業中の書式を別のファイル名で保存します。	
	部品として保存 (B) ...	作業中の書式を部品として保存します。	
	メタファイルとして保存 (M) ...	作業中の書式を Windows 形式メタファイル (.wmf), または拡張形式メタファイル (.emf) の形式で保存します。	
	印刷 (P) ...	現在作成中の書式をプリンタに出力します。	
	印刷プレビュー (V)	書式全体を印刷イメージで画面に表示します。	
	プリンタの設定 (R) ...	組み込まれているプリンタの一覧を表示し、出力先プリンタまたは印刷のオプションを指定します。	
	MRU リスト (E)	直前に開かれたファイルを四つまで表示します。このファイルを指定すると、ファイル名を省略して直接開くことができます。	
	アプリケーションの終了 (X)	書式设计を終了します。	
編集 (E)	取り消し (U)	直前に完了した「作画 / 編集操作」を取り消します。	
	やり直し (R)	「取り消し」によって取り消された操作を順に復元します。	
	切り取り (T)	編集対象図形を画面から消去し、クリップボードへ転送します。	
	複写 (C)	編集対象図形を画面から消去しないで、クリップボードへ転送します。	
	貼り付け (P)	クリップボードの内容を画面に貼り付けます。	
	消去 (E)	編集対象図形を画面から消去します。クリップボードへは転送しません。	
	反復複写 (D)	編集対象図形を指定された項目に従って複写します。	
	移動 (M)	編集対象図形を指定された方向へ移動します。	
	拡大・縮小 (L)	編集対象図形を任意の大きさに拡大・縮小します。	
	反復 (R)	間隔回数指定 (S)	間隔と回数を指定して図形を反復します。
		間隔範囲指定 (R)	間隔と最後の位置を指定して図形を反復します。
		範囲回数指定 (T)	最後の位置と回数を指定して図形を反復します。
	属性変更 (A) ...	編集対象図形の図形属性を変更します。	
	文字列変更 (S) ...	編集対象図形の文字列の内容を変更します。	
	センタリング (N)	編集対象図形を指定された矩形領域の中央に配置します。	
図形微調整 (F) ...	編集対象図形の座標情報などを変更します。		
全選択 (Q)	すべての図形を編集対象とします。		

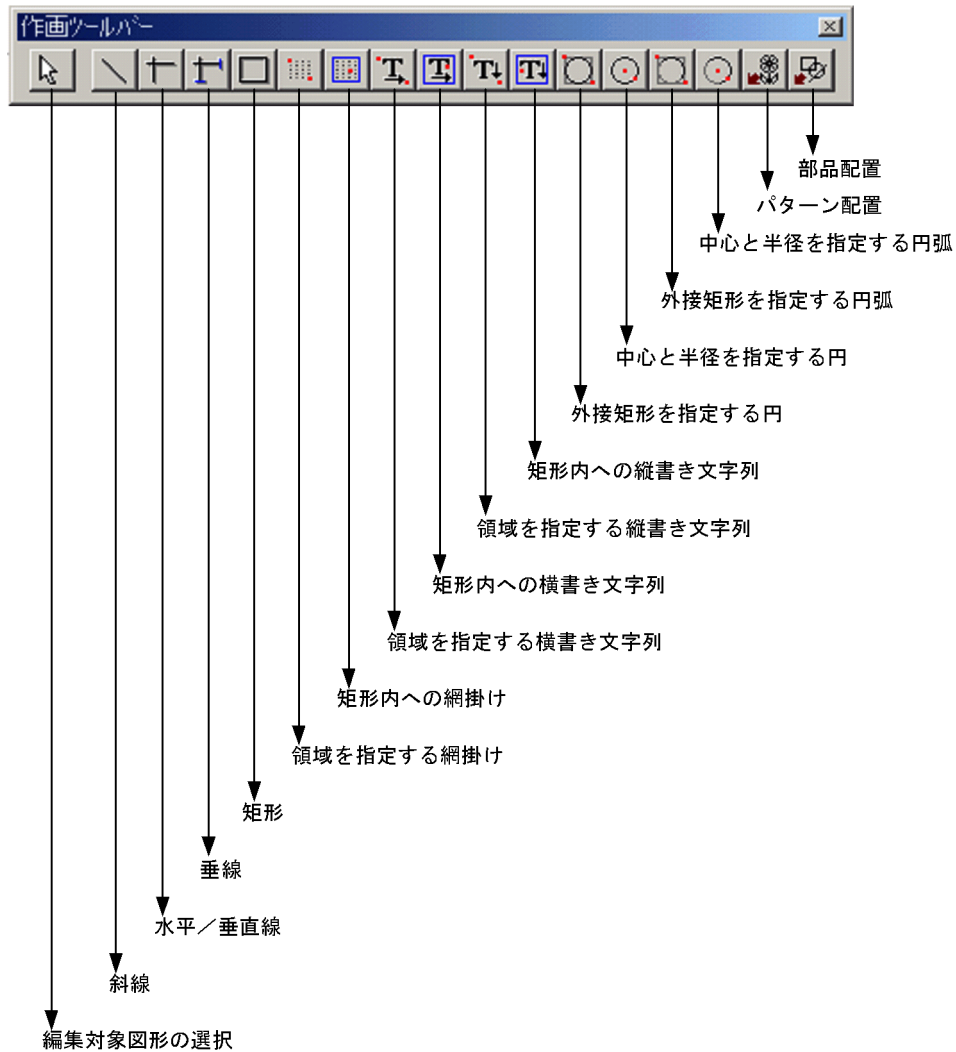
4. 書式定義機能

メニューバー	プルダウンメニュー	機能
表示 (V)	標準ツールバー (T)	ツールバーの表示の有無を設定します。
	作画ツールバー (D)	
	状態表示バー (J)	
	カラーツールバー (I)	
	ステータスバー (S)	ステータスバーの表示の有無を設定します。
	ます目 (M)	ます目の表示の有無を設定します。
	目盛り (C)	目盛りの表示の有無を設定します。
	下敷き (U)	下敷きの表示の有無を設定します。
	25% (2)	書式全体を 25% に縮小して表示します。
	50% (5)	書式全体を 50% に縮小して表示します。
	75% (7)	書式全体を 75% に縮小して表示します。
	100% (1)	書式全体を 100% で表示します。
	設定 (S)	書式情報 (F) ...
作画属性 (A) ...		図形属性に関する定義を設定します。
オプション (O)	作画・編集 (D) ...	作画・編集に関する定義を行います。
	表示・印刷 (P) ...	表示・印刷に関する定義を行います。
ウィンドウ (W)	新しいウィンドウを開く (N)	作業中の画面と同じ書式を別の画面で開きます。
	重ねて表示 (C)	画面を少しずつずらして、重ね合わせるようにして表示します。
	並べて表示 (T)	画面を左右上下に並べます。
	アイコンの整列 (A)	画面のアイコンを整列します。
	ウィンドウの切り替え	現在作画・編集中の画面をアクティブな画面に切り替えます。
ヘルプ (H)	トピックの検索 (H)	ヘルプの目次を表示します。
	バージョン情報 (A) ...	このプログラムのバージョンなどを表示します。

(3) 作画ツールバーと作画ボタン

[書式设计] 画面の作画ツールバーと作画ボタンを次の図に示します。

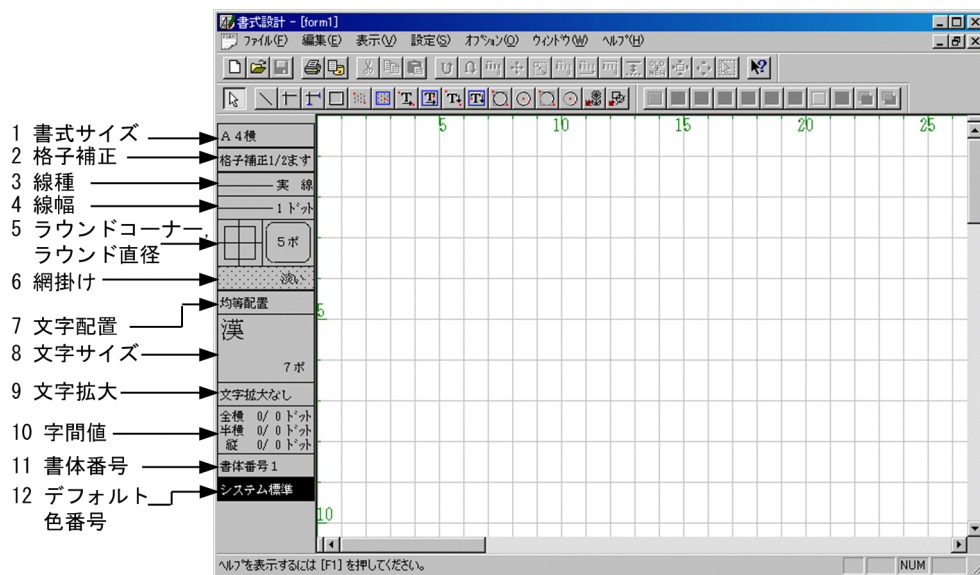
図 4-2 [書式设计] 画面の作画ツールバーと作画ボタン



(4) 標準ツールバーと標準ボタン

[書式设计] 画面の標準ツールバーと標準ボタンを次の図に示します。

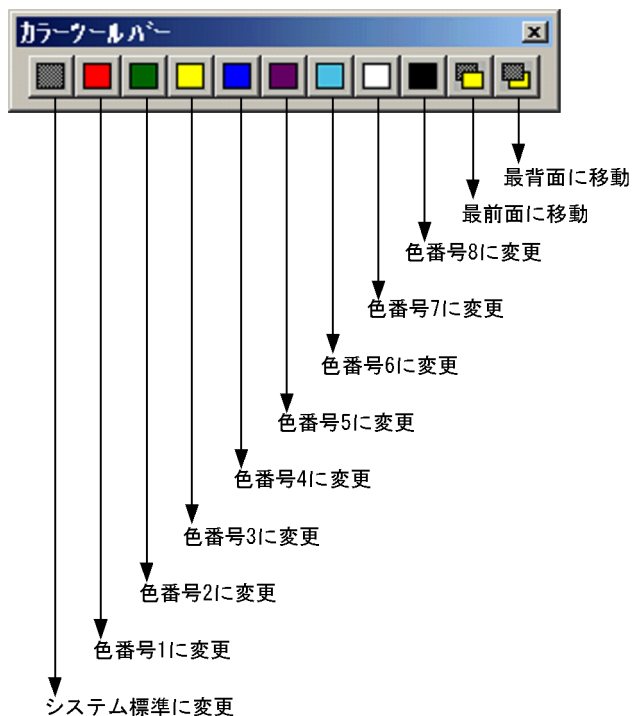
図 4-3 [書式设计] 画面の標準ツールバーと標準ボタン



(5) カラーツールバーとカラーボタン

[書式设计] 画面のカラーツールバーとカラーボタンを次の図に示します。

図 4-4 [書式设计] 画面のカラーツールバーとカラーボタン

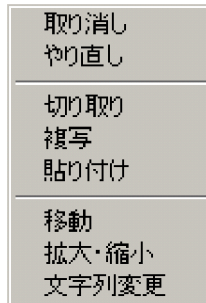


(6) 不活性化

メニューの選択が無意味、作画ボタンが使用不可、および環境設定プログラムで禁止項目を指定した場合に不活性化表示（無効状態であり、薄く表示されている）になります。

(7) ポップアップメニュー

ポップアップメニューは、編集領域上で右クリックすることで表示されます。機能は編集メニューの各コマンドと同じです。また、右クリックした時点で有効でない操作は不活性表示となります。



4.4 書式设计の開始と終了


4.4.1 書式设计の開始

書式设计を開始する手順を次に示します。

1. プログラムメニューから、PDE Form Designer の書式设计のアイコンを選択します。
このアイコンを選択すると、[書式设计] 画面が表示されますので、状態表示などを確認してから書式设计を行ってください。

4.4.2 書式设计の終了

書式设计を終了する手順を次に示します。

1. [書式设计] 画面のメニューバーの [ファイル] から [アプリケーションの終了] を選択します。
書式设计が終了します。
書式设计を終了するには、このほかにタイトルバーの左端のコントロールボックスからコントロールメニューの [閉じる] を選択するか、またはタイトルバーの右端の [閉じる] ボタン  をクリックする方法があります。

4.5 書式设计情報の設定

4.5.1 書式情報の設定

書式を設計する場合には、書式の大きさなどを決める必要があります。これらの情報の設定は [書式情報] 画面で行います。

書式情報を設定する手順を次に示します。

1. [書式设计] 画面のメニューバーの [設定] から [書式情報] を選択します。
[書式情報] 画面が表示されます。

2. 情報を設定します。

書式サイズやまず目の大きさなど必要な情報を設定します。

ここでは、次に示す情報を設定します。

書式名

書式オーバーレイ生成時または書式記述文生成時に書式名となる名前を半角 4 けた以内の英数字 (0 ~ 9, A ~ Z, ¥, #, または @) で指定します。

書式オーバーレイモジュールの生成または PDE - Form Designer 記述文オプションで書式記述文を生成した場合には、出力ファイル名に書式名が使われますが、書式名の設定に「¥」を使用すると、書式名の「¥」が「_」に置き換わります。

作成者

4. 書式定義機能

書式を作成した人の名前を 20 けた（全角 10 文字または半角 20 文字）以内で指定します。この項目は省略できます。

概要

書式の内容などの情報を 40 けた（全角 20 文字または半角 40 文字）以内で指定します。この項目は省略できます。

書式サイズ

プルダウンリストに表示されている項目の中から、作成する書式のサイズと用紙の方向を選択します。選択したサイズは [書式设计] 画面の状態表示に表示されます。

拡張書式サイズを使用するをチェックすると、書式サイズがプリンタマージン分（14mm）拡大されます。

単位として、ドット、mm、または inch のどれかを選択すると、その単位で書式の大きさが表示されます。

書式サイズと各単位での大きさを次の表に示します。

表 4-3 書式サイズと各単位での大きさ

種類	用紙方向	標準書式サイズ (拡張書式サイズ)		
		ドット (横 × 縦)	mm (横 × 縦)	inch (横 × 縦)
A3	縦	2,674 × 3,836 (2,806 × 3,968)	283.0 × 406.0 (297.0 × 419.9)	11.14 × 15.98 (11.69 × 16.53)
	横	3,836 × 2,674 (3,968 × 2,806)	406.0 × 283.0 (419.9 × 297.0)	15.98 × 11.14 (16.53 × 11.69)
A4	縦	1,851 × 2,674 (1,984 × 2,806)	195.9 × 283.0 (210.0 × 297.0)	7.71 × 11.14 (8.27 × 11.69)
	横	2,674 × 1,851 (2,806 × 1,984)	283.0 × 195.9 (297.0 × 210.0)	11.14 × 7.71 (11.69 × 8.27)
A5	縦	1,266 × 1,851 (1,398 × 1,984)	134.0 × 195.9 (148.0 × 210.0)	5.28 × 7.71 (5.83 × 8.27)
	横	1,851 × 1,266 (1,984 × 1,398)	195.9 × 134.0 (210.0 × 148.0)	7.71 × 5.28 (8.27 × 5.83)
B4	縦	2,296 × 3,307 (2,428 × 3,439)	243.0 × 350.0 (257.0 × 364.0)	9.57 × 13.78 (10.12 × 14.33)
	横	3,307 × 2,296 (3,439 × 2,428)	350.0 × 243.0 (364.0 × 257.0)	13.78 × 9.57 (14.33 × 10.12)
B5	縦	1,587 × 2,296 (1,719 × 2,428)	168.0 × 243.0 (181.9 × 257.0)	6.61 × 9.57 (7.16 × 10.12)
	横	2,296 × 1,587 (2,428 × 1,719)	243.0 × 168.0 (257.0 × 181.9)	9.57 × 6.61 (10.12 × 7.16)
レター	縦	1,908 × 2,507 (2,040 × 2,636)	201.9 × 265.3 (215.9 × 279.0)	7.95 × 10.45 (8.50 × 10.98)
	横	2,507 × 1,908 (2,636 × 2,040)	265.3 × 201.9 (279.0 × 215.9)	10.45 × 7.95 (10.98 × 8.50)
普通紙	-	3,360 × 2,400 (3,360 × 2,400)	355.6 × 254.0 (355.6 × 254.0)	14.00 × 10.00 (14.00 × 10.00)
任意 (min) ¹	-	1,064 × 600 (1,064 × 600)	112.6 × 63.5 (112.6 × 63.5)	4.43 × 2.50 (4.43 × 2.50)

種類	用紙方向	標準書式サイズ (拡張書式サイズ)		
		ドット (横×縦)	mm (横×縦)	inch (横×縦)
任意 (max) 2 4	-	8,191 × 8,191 (8,191 × 8,191)	866.9 × 866.9 ³ (866.9 × 866.9)	34.13 × 34.13 ³ (34.13 × 34.13)

(凡例)

- : 該当しません。

注 1 任意の場合, (min) ~ (max) の範囲で指定できます。

注 2 実際に使用するプリンタで印刷可能な範囲の値に設定してください。

注 3 任意の場合の mm, inch での値は, 次に示す算出式で求めます。

$$\text{mm} = 25.4 \times \text{ドット} \div \text{DPI}$$

$$\text{inch} = \text{ドット} \div \text{DPI}$$

ドット: 小数点以下は四捨五入

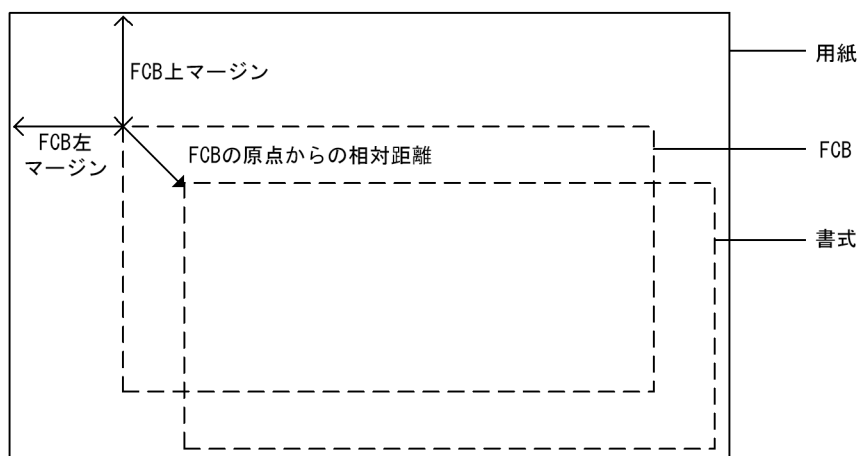
mm: 小数点第2位以下は四捨五入

inch: 小数点第3位以下は四捨五入

注 4 PDE - Form Designer で生成した書式記述文を外部のシステムに入力する場合, 書式サイズの横および縦が 5,461 ドット以下になるように書式设计してください。

FCB の原点からの相対距離

FCB の原点からの相対距離を指定します。用紙左上端から FCB の上マージンと左マージン分移動した点が原点です。上または左にずれる場合は負の値を入力します。



ます目の大きさ

作画する図形の大きさや文字のサイズに合わせて作画しやすいます目の大きさを指定します。横, 縦それぞれプルダウンリストから選択します。書式サイズと同様に選択した単位で大きさが表示されます。

書式サイズと各単位でのます目の大きさを次の表に示します。

表 4-4 書式サイズと各単位でのます目の大きさ

ます目の種類	ます目サイズ		
	ドット	mm	CPI
縦	12LPI	2.1	-

4. 書式定義機能

ます目の種類	ます目サイズ			
	ドット	mm	CPI	
	10LPI	24	2.5	-
	8LPI	30	3.2	-
	6LPI	40	4.2	-
	4LPI	60	6.4	-
	3LPI	80	8.5	-
	任意 (min) ¹	10	1.1 ²	-
	任意 (max) ¹	100	10.6 ²	-
横	5 ボ	16	1.7	15.0
	7 ボ	24	2.5	10.0
	9 ボ	32	3.4	7.5
	12 ボ	40	4.2	6.0
	任意 (min) ¹	10	1.1 ²	24 ²
	任意 (max) ¹	100	10.6 ²	2.4 ²

(凡例)

- : 該当しません。

注 1 任意の場合, (min) ~ (max) の範囲で指定できます。

注 2 任意の場合の mm, CPI の値は, 次に示す算出式で求めます。

$$\text{mm} = 25.4 \times \text{ドット} \div \text{DPI}$$

$$\text{CPI} = \text{DPI} \div \text{ドット}$$

ドット: 小数点以下は四捨五入

mm: 小数点第 2 位以下は四捨五入

CPI: 小数点第 3 位以下は四捨五入

3. 設定した情報を確認して [OK] ボタンをクリックします。

書式情報の内容が更新されます。

解説

書式情報の設定は, 各ファイル固有の情報です。次にファイルを開いた場合, ファイルを保管したときの内容になります。

注意事項

書式作成の途中や再利用時に [書式情報] 画面の内容を変更する場合, 書式上の図形が収まらない変更はできません。図形が収まる範囲で変更してください。書式サイズは書式の左上頂点を基準に変更されます。

4.5.2 作画属性の設定

図形を作画する場合には, 線の種類, 線の太さ, および文字の大きさなどを決める必要があります。

作画属性の設定は [作画属性] 画面で行います。

作画属性を設定する手順を次に示します。

1. [書式设计]画面のメニューバーの[設定]から[作画属性]を選択します。
[作画属性]画面が表示されます。



2. 情報を設定します。
線の種類および線の太さなど必要な情報を指定します。
ここでは、次に示す情報を設定します。

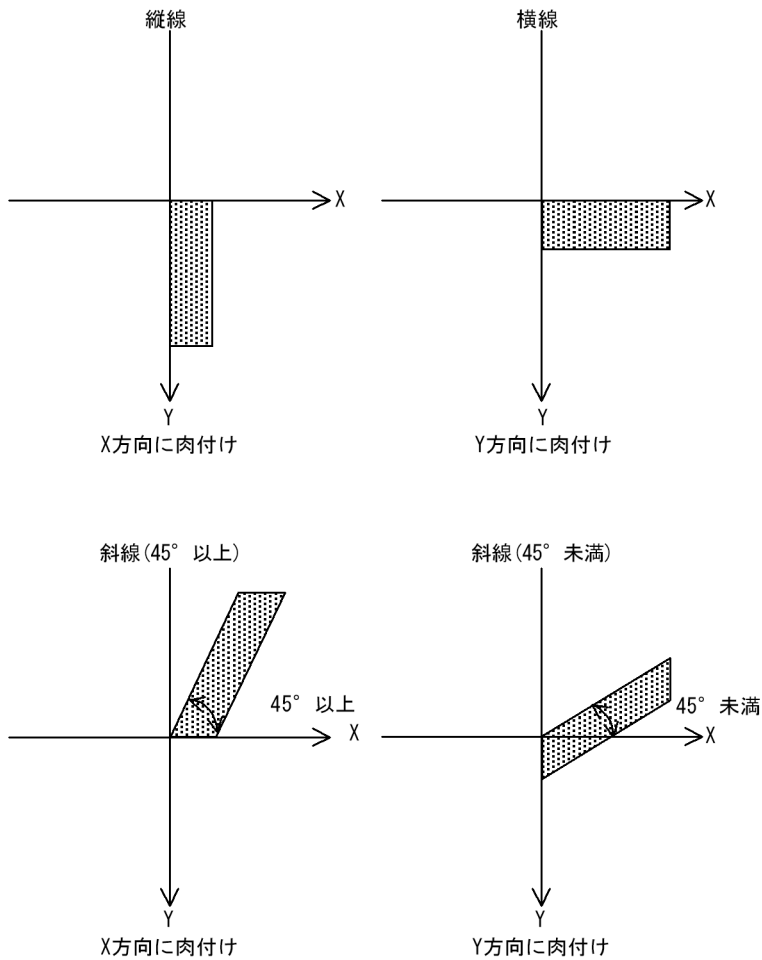
線幅

作画する図形の線の太さを選択します。線が太い場合の肉付け方向を次に示します。

- ・直線の肉付け

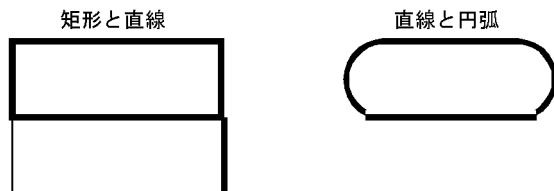
肉付け方向を次の図に示します。

図 4-5 肉付け方向



- ・矩形，円，円弧の肉付け
図形の内側に向かって肉付けされます。
次に示すような図形では，肉付け方向がずれるので注意してください。このような図形は，移動などで調整してください。
肉付け方向がずれる図形を次の図に示します。

図 4-6 肉付け方向がずれる図形



線種

作画する図形の線の種類を選択します。
線種の描画パターンを次の表に示します。

表 4-5 線種の描画パターン

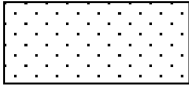
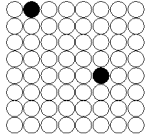
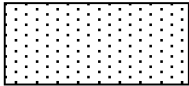
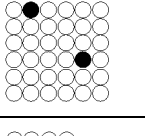
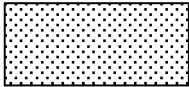
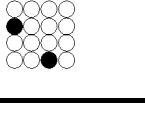
線種	内容
実線	

線種	内容
16 ドット点線	
12 ドット点線	
8 ドット点線	
4 ドット点線	
1 ドット点線	
20 ドット一点鎖線	
8 ドット一点鎖線	
二点鎖線	

網掛け

網掛けの濃さを次の表に示す三つから選択します。

表 4-6 網掛けの濃さ

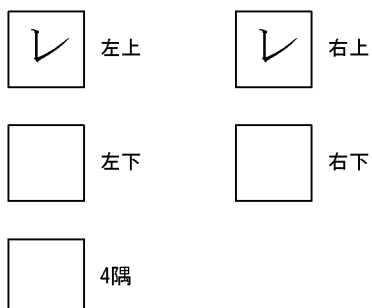
網掛け	画面の表示	内容
薄い		
中間		
濃い		

ラウンドコーナー

矩形の四つの角はそれぞれ独立にコーナー形式が選択できます。コーナー形式は、ラウンドコーナーおよび直角コーナーの二つがあります。

ラウンドコーナーの選択例（左上と右上を選択）を次の図に示します。

図 4-7 ラウンドコーナーの選択例（左上と右上を選択）



ラウンド直径

コーナー形式にラウンドコーナーを選択した場合は、ラウンド直径を次の表に示す四つから選択します。

表 4-7 ラウンド直径

コーナー直径	ドット数
5 ポイント	16 ドット
7 ポイント	24 ドット
9 ポイント	32 ドット
12 ポイント	40 ドット

ラウンド直径は、一つだけ選択できます。角ごとに直径を変えることはできません。

デフォルト色番号

作画する図形および配置する文字列の初期値として使用される色番号を、システム標準または色番号 1 ~ 8 の中から選択します。

デフォルト書体

配置する文字列に初期値として使用される書体番号を、書体番号 1 ~ 15 から選択します。

あらかじめ環境設定で書体番号 1 ~ 15 のそれぞれに対してフォント名を指定しておくこと、画面上に配置した文字列はその文字列に使用される書体番号に応じて、環境設定で指定されたフォント名の書体で表示されます。

ただし、作成した書式を PDE で使用した場合に PDE から出力される文字列の書体は PDE 環境設定の [書体設定] での書体番号の設定に従います。このため、環境設定で指定するフォント名は PDE 環境設定の [書体設定] の設定と同じ書体のフォントを指定することを推奨します。


文字サイズ

使用する文字サイズを次の表に示す六つから選択します。

文字サイズと文字の大きさを次の表に示します。

表 4-8 文字サイズと文字の大きさ

文字サイズ		ボディサイズ (ドット)	漢字プリンタの印刷
5 ポイント	全角	16 × 18	漢
	半角	8 × 18	畷
7 ポイント	全角	24 × 24	漢
	半角	12 × 24	畷
9 ポイント	全角	32 × 32	漢
	半角	16 × 32	畷
12 ポイント	全角	40 × 40	漢
	半角	20 × 40	畷
14 ポイント	全角	48 × 48	漢
	半角	24 × 48	畷
19 ポイント	全角	64 × 64	漢

文字サイズ		ボディサイズ(ドット)	漢字プリンタの印刷
	半角	32 × 64	

文字拡大

文字を拡大する方法を [横倍角], [縦倍角] および [倍率指定] から選択します。文字サイズと [横倍角], [縦倍角], [倍率指定] 選択時の文字の大きさを次の表に示します。なお, [倍率指定] を選択時は, それぞれ横倍率, 縦倍率を 20% ~ 255% の範囲で指定します。このとき, ドット換算時に小数点以下となる値は切り捨てられます (例: 全角 7 ポイント 24 × 24 ドットの 20% 縮小時は 4 × 4 ドット)。

表 4-9 文字サイズと文字拡大時の文字の大きさ

文字サイズ		ボディサイズ(ドット)	
5 ポイント	全角	標準	16 × 18
		横倍角	32 × 18
		縦倍角	16 × 36
		倍率指定 (20% ~ 255%)	3 ~ 40 × 3 ~ 45
	半角	標準	8 × 18
		横倍角	16 × 18
		縦倍角	8 × 36
		倍率指定 (20% ~ 255%)	1 ~ 20 × 3 ~ 45
7 ポイント	全角	標準	24 × 24
		横倍角	48 × 24
		縦倍角	24 × 48
		倍率指定 (20% ~ 255%)	4 ~ 61 × 4 ~ 61
	半角	標準	12 × 24
		横倍角	24 × 24
		縦倍角	12 × 48
		倍率指定 (20% ~ 255%)	2 ~ 30 × 4 ~ 61
9 ポイント	全角	標準	32 × 32
		横倍角	64 × 32
		縦倍角	32 × 64
		倍率指定 (20% ~ 255%)	6 ~ 81 × 6 ~ 81
	半角	標準	16 × 32
		横倍角	32 × 32
		縦倍角	16 × 64

4. 書式定義機能



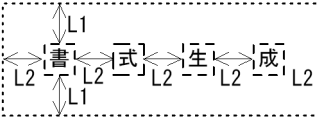
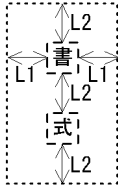
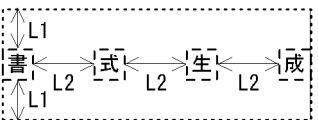
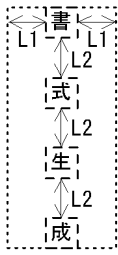
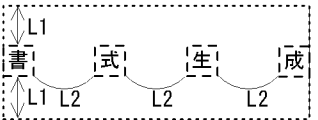
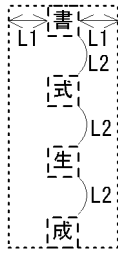


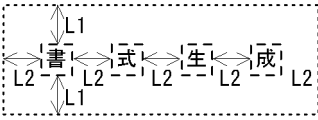
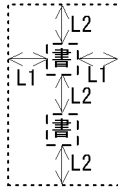
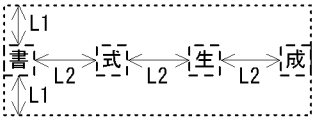
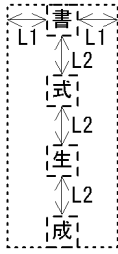
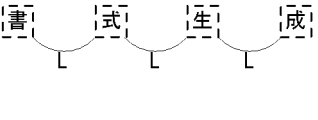
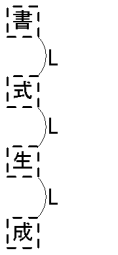
文字サイズ		ボディサイズ(ドット)	
		倍率指定(20% ~ 255%)	3 ~ 40 × 6 ~ 81
12ポイント	全角	標準	40 × 40
		横倍角	80 × 40
		縦倍角	40 × 80
		倍率指定(20% ~ 255%)	8 ~ 102 × 8 ~ 102
	半角	標準	20 × 40
		横倍角	40 × 40
		縦倍角	20 × 80
		倍率指定(20% ~ 255%)	4 ~ 51 × 8 ~ 102
14ポイント	全角	標準	48 × 48
		横倍角	96 × 48
		縦倍角	48 × 96
		倍率指定(20% ~ 255%)	9 ~ 122 × 9 ~ 122
	半角	標準	24 × 48
		横倍角	48 × 48
		縦倍角	24 × 96
		倍率指定(20% ~ 255%)	4 ~ 61 × 9 ~ 122
19ポイント	全角	標準	64 × 64
		横倍角	128 × 64
		縦倍角	64 × 128
		倍率指定(20% ~ 255%)	12 ~ 163 × 12 ~ 163
	半角	標準	32 × 64
		横倍角	64 × 64
		縦倍角	32 × 128
		倍率指定(20% ~ 255%)	6 ~ 81 × 12 ~ 163

文字配置法

指定した文字列を配置する方法を次の表に示す三つから選択します。

[字間指定] を選択した場合、字間値を入力する状態になります。ます / ドットまたは mm のどちらかの単位で字間値を指定します。

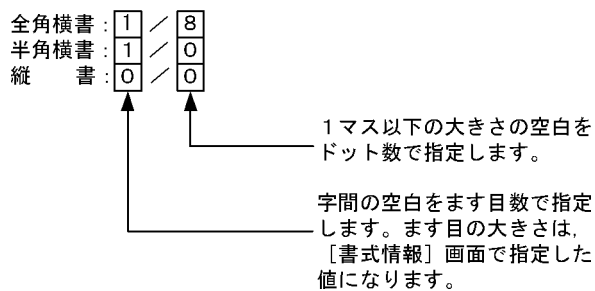
表 4-10 各配置法を選択した場合の文字の配置

作画方法	文字配置法	横書き	縦書き	規則
矩形内への配置  	均等			矩形内に等間隔で配置します。
	両端そろえ			矩形内に両端をそろえて等間隔で配置します。
	字間指定			矩形内に左端または上端をそろえて指定した文字間隔で配置します。
領域を指定して配置  	均等			矩形で指定した領域内に等間隔で配置します。
	両端そろえ			矩形で指定した領域内に両端をそろえて等間隔で配置します。
	字間指定			先頭位置から指定した文字間隔で配置します。

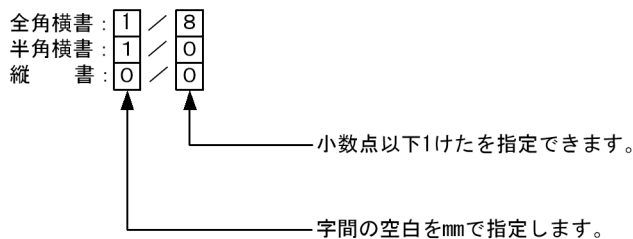
字間値

・ます / ドットの場合

4. 書式定義機能



・ mm の場合



値を指定したあとで単位を変更した場合、字間値は変更後の単位に換算されます。

フォント縦横種別

全角文字の配置時に使用するフォントを [横書きフォント] と [縦書きフォント] から選択します。

選択したフォントによっては、横書き用フォントと縦書き用フォントで表示にずれが生じる場合があります。

分散タイプ PDE を使用する場合、文字列に含まれる外字は、フォント縦横種別の設定に関係なく、常に外字イメージ内の横書き属性の文字パターンで印刷されます。横書きまたは縦書きの場合の例を次の表に示します。

表 4-11 横書き   の場合

全 / 半角 種別	横書きフォント使用時	縦書きフォント使用時
全角	印刷データ	印刷データ
半角	PRINT-DATA	-

(凡例)

- : 該当しません。

表 4-12 縦書き   の場合

横書きフォント使用時		縦書きフォント使用時	
全角	半角	全角	半角
印刷 デ ー タ	P R I N T - D A T A	印刷 デ ー タ	-

(凡例)

- : 該当しません。

- [OK] ボタンをクリックします。
作画属性の内容が更新されます。

解説

- 作画する図形と図形属性
作画する図形と図形属性の関係を次の表に示します。


表 4-13 作画する図形と図形属性の関係

作画する図形	図形属性
直線	<ul style="list-style-type: none"> 線種 線幅 色番号
矩形	<ul style="list-style-type: none"> 線種 線幅 ラウンドコーナー 色番号
円	<ul style="list-style-type: none"> 線種 線幅 色番号

作画する図形	図形属性
円弧	<ul style="list-style-type: none"> 線種 線幅 色番号
網掛け	<ul style="list-style-type: none"> ラウンドコーナー 網掛け 色番号
文字列	<ul style="list-style-type: none"> 文字サイズ 文字拡大 文字配置法 字間値 書体番号 色番号 フォント縦横種別

• 図形属性の変更

作画属性で設定する情報は、これから作画する図形の属性です。

作画した図形の属性を変更するには、標準ツールバーのプッシュボタン  , または [書式设计] 画面のメニューバーの [編集] から [属性変更] を選択します。

補足

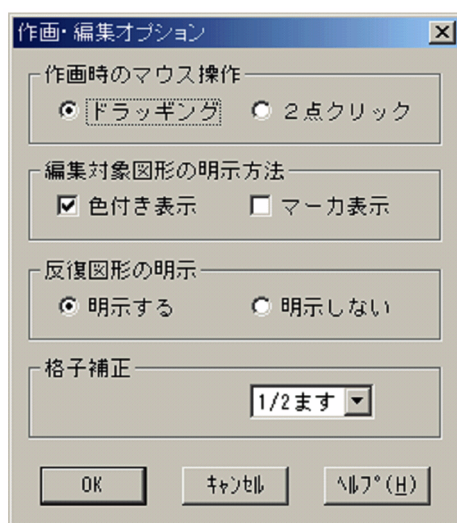
[作画属性] の内容は、各ファイル固有の情報で、次にファイルを開いた場合は、ファイルを保管したときの内容になります。作画する図形に応じて随時、属性を変更します。また、[作画属性] の内容は、状態表示に表示されます。

4.5.3 作画・編集方法の設定

マウス操作の方法および格子補正の程度など、使いやすい作画・編集操作を選択できます。

作画・編集方法を設定する手順を次に示します。

1. [書式设计] 画面のメニューバーの [オプション] から [作画・編集] を選択します。
[作画・編集オプション] 画面が表示されます。



2. 作画・編集方法を選択します。
操作時のマウス操作など作画・編集に関する方法を選択します。
ここでは、次に示す情報を設定します。

作画時のマウス操作

直線の始点と終点，および矩形の頂点と対角点など 2 点が対になっている座標の指定方法を選択します。

ドラッグ：左マウスボタンを押した位置が，1 番目の座標になります。ボタンを押したままマウスを移動し，目的の位置で離します。

ボタンを離れた位置が 2 番目の座標になります。

2 点クリック：1 番目の座標を左マウスボタンでクリックします。

ボタンを離れた状態でマウスを移動し，2 番目の座標を左マウスボタンでクリックします。

それぞれの座標を指定する場合，ボタンを押したままマウスを移動すると位置を調整できます。

編集対象図形の明示方法

色付き表示：編集対象図形に対して色付き表示されます。

マーカ表示：編集対象図形に対してマーカ（点線）表示されます。

反復図形の明示

明示する：反復図形が環境設定で設定された色で明示されます。

明示しない：反復図形は明示されません。

格子補正

座標を指定する場合に，ポイントの位置を補正するかどうか，またどの程度補正するかを選択します。まず目の大きさは [書式情報] 画面で指定した値です。選択した値が [書式设计] 画面の状態表示に表示されます。

なし：ポイントの位置が補正されないで，そのまま座標になります。ドット単位で座標を指定する場合に選択します。

1 ます：ポイントの位置が，まず目単位に補正されて座標になります。まず目単位で間隔を空けて線を引く場合などに選択します。

1/2 ます：ポイントの位置が 1/2 ます単位に補正されて座標になります。

1/4 ます：ポイントの位置が 1/4 ます単位に補正されて座標になります。

3. [OK] ボタンをクリックします。

作画・編集オプションの内容が更新されます。

解説

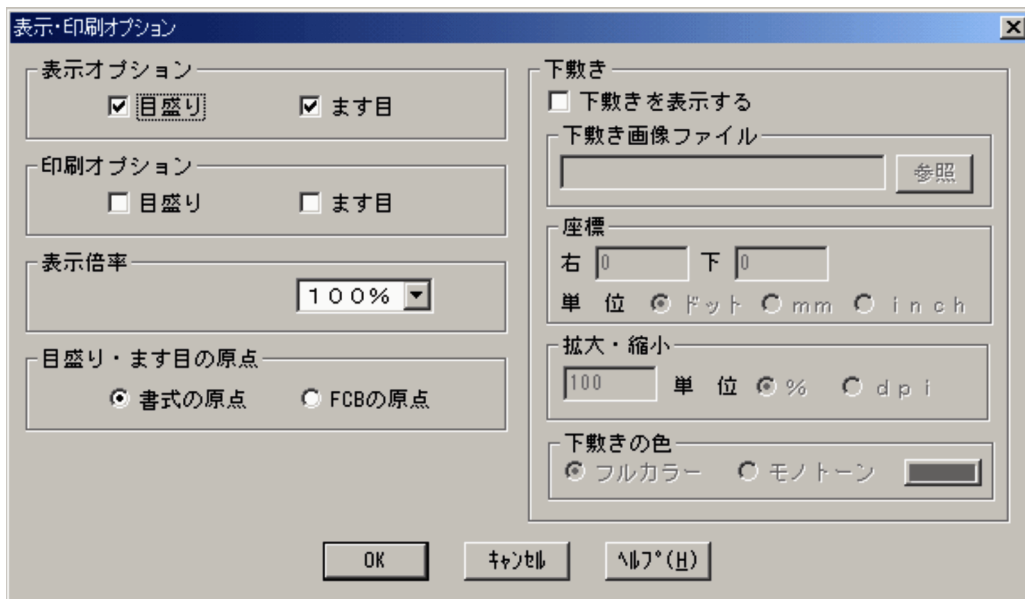
作画・編集方法の設定は書式イメージファイル固有の情報です。次にファイルを開いた場合，ファイルを保存した時点の内容になります。利用形態や使い勝手に応じて使いやすい方法に変更します。ただし，反復図形の明示の設定は保管されません。

4.5.4 表示・印刷方法の設定

画面表示時・印刷時のまず目・目盛りの表示，表示倍率を選択できます。

表示・印刷方法を設定する手順を次に示します。

1. [書式设计] 画面のメニューバーの [オプション] から [表示・印刷] を選択します。
[表示・印刷オプション] 画面が表示されます。



2. 表示・印刷方法を選択（または設定）します。

画面表示時・印刷時のます目・目盛りの表示，表示倍率，および目盛り・ます目の原点を選択します。また，画面表示時に下敷きを表示する場合の内容を設定します。

注意事項

下敷きの色にモノトーンが選択されている場合は，下敷き画像ファイルを2色モノクロビットマップに変換して読み込み，設定された色で表示します。この場合，形式を変換することによって色が薄い部分が白として読み込まれ，画質が粗くなります。画質の粗さを調整する場合は，下敷き画像ファイルをアプリケーションで補正して，2色モノクロビットマップとして保存します。また，下敷き画像を拡大・縮小した場合も，アプリケーションで画像を拡大・縮小したときと同様に画質が粗くなったり，乱れたりします。この場合も，下敷き画像ファイルをアプリケーションで補正し，拡大・縮小して保存します。

3. [OK] ボタンをクリックします。

表示・印刷方法が更新されます。

また，表示方法は[書式设计]画面のメニューバーからも設定できます。

[書式设计]画面のメニューバーから，表示方法を設定する手順を次に示します。

1. [書式设计]画面のメニューバーの[表示]を選択します。

表示メニューのプルダウンメニューが表示されます。

2. 表示方法を選択します。

画面表示時のます目・目盛りの表示，表示倍率を選択します。

選択されているメニュー情報には，プルダウンメニューでチェックマーク が表示されます。各メニュー情報をクリックするごとに指定 解除，解除 指定に変更されます。

解説

表示・印刷方法の設定は，各ファイル固有の情報です。次にファイルを開いた場合，ファイルを保管したときの内容になります。利用形態に応じて使いやすい方法に変更します。ただし，保管される情報は，表示オプション（ます目だけ），および目盛り・ます目の原点だけです。

補足事項

下敷き画像データ

PDE - Form Designer では、作成された下敷き画像データの表示だけを行います。このため、下敷き画像データの微調整を行いたい場合は、スキャナ、ペイント、イメージングなどのアプリケーションを使用してください。

扱える下敷き画像データの形式を次の表に示します。

表 4-14 扱える下敷き画像データの形式

画像データの形式	詳細形式
Windows BITMAP	2色モノクロ
	16色パレットカラー
	256色パレットカラー

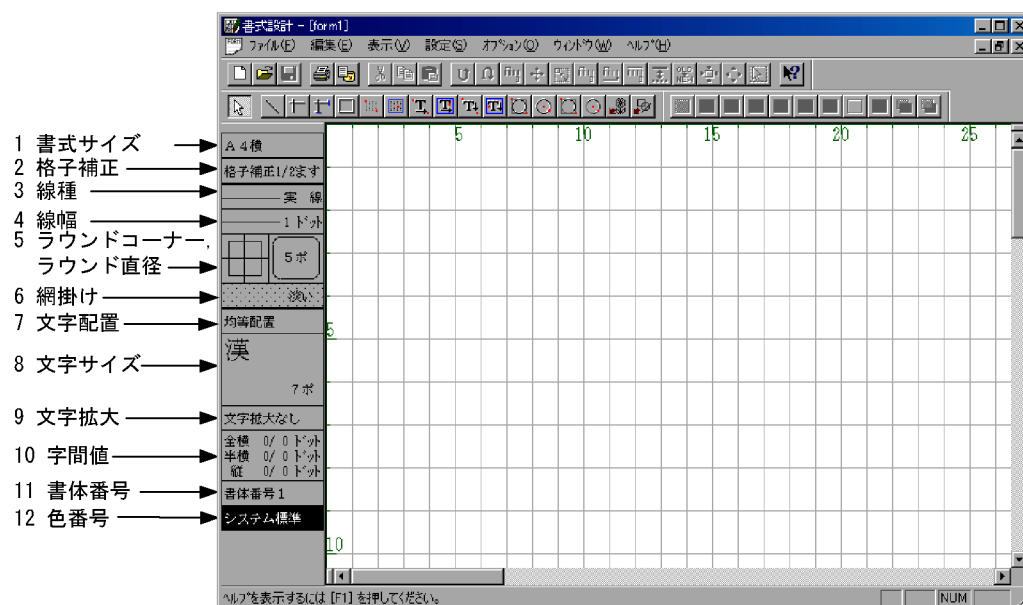
注 扱える画像データのファイルサイズの上限值は、17MBです。

また、表示時に拡大・縮小すると、表示に時間が掛かるため、画像データは240dpi(100%)に拡大・縮小して保存することを推奨します(例:600dpiのスキャナで読み込んだ画像データの場合、40%縮小して保存します(600dpi × 40%=240dpi))。

4.5.5 書式設計の状態表示

メニューバーの[設定]と[オプション]で設定された情報の一部は、次に示す図の画面左に表示されます(項番は項目の説明の番号と対応しています)。表示するかどうかは、[表示]メニューで指定します。

図 4-8 状態表示バー



[書式設計]画面のメニュー項目については、「4.3 [書式設計]画面とメニュー項目一覧」を参照してください。

書式の状態表示に表示される定義項目を次に示します。

1. 書式サイズ

[書式情報]画面で指定した書式サイズが表示されます。

2. 格子補正

4. 書式定義機能

[作画・編集オプション] 画面で指定した格子補正が表示されます。

なし：格子補正をしません。

1：1 ます単位で補正します。

1/2：1/2 ます単位で補正します。

1/4：1/4 ます単位で補正します。

3. 線種

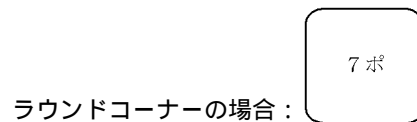
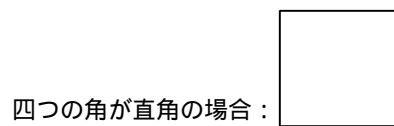
[作画属性] 画面で指定した線種が表示されます。

4. 線幅

[作画属性] 画面で指定した線幅が表示されます。

5. ラウンドコーナー，ラウンド直径

[作画属性] 画面で指定したラウンドコーナー，ラウンド直径が表示されます。



ラウンドコーナーにする角とラウンド直径が表示されます。

6. 網掛け

[作画属性] 画面で指定した網掛けが表示されます。

7. 文字配置

[作画属性] 画面で指定した文字配置が表示されます。

8. 文字サイズ

[作画属性] 画面で指定した文字サイズが表示されます。

9. 文字拡大

[作画属性] 画面で指定した文字拡大が表示されます。

10. 字間値

[作画属性] 画面で指定した全角横書き用，半角横書き用，および縦書き用の字間値が表示されます。

11. 書体番号

[作画属性] 画面で指定した初期値の書体が表示されます。

12. 色番号

[作画属性] 画面で指定した初期値の色番号（システム標準または色番号 1 ~ 8）が表示されます。


格子補正，線種，線幅，ラウンドコーナー，ラウンド直径，網掛け，文字配置，文字サイズ，および書体番号は状態表示中の該当部分をクリックすることによって状態を変更できます。変更した状態は，その変更以降に行う作画の操作で適用されます。

4.6 書式の作成

4.6.1 作画・編集操作の取り消し

以前に完了した作画・編集操作をさかのぼって取り消すことができます。

作画・編集操作の取り消し手順を次に示します。

1. [書式设计]画面の標準ツールバーからプッシュボタン  ,またはメニューバーの[編集]から[取り消し]を選択します。
この操作を繰り返した回数分,完了した操作がさかのぼって取り消されます。

解説

取り消しの対象は,以前に完了した作画・編集操作です。


取り消しの対象による違いを次に示します。

- 作画の取り消し
作画した図形が消え,編集対象図形も作画の前の状態に戻ります。
- 編集の取り消し
編集操作をする前の状態に戻ります。
- [取り消し]の取り消し
取り消した操作が再実行されます。
- [切り取り]の取り消し
画面上だけ元に戻り,一時的に記憶されている内容は変わりません。
- [取り消し]ができない場合
次に示す場合,[取り消し]はできません。
 - [複写]の取り消し
 - 編集対象図形を選択する操作の取り消し
この場合,編集対象図形を選択する操作の直前の作画・編集操作が取り消されます。
 - 作画・編集操作の直前に書式サイズを[書式情報]画面で変更した場合

4.6.2 取り消した作画・編集操作のやり直し

[取り消し]によって取り消された操作を順に復元できます。

取り消した作画・編集操作のやり直し手順を次に示します。

1. [書式设计]画面の標準ツールバーからプッシュボタン  ,または[書式设计]画面のメニューバーの[編集]から[やり直し]を選択します。
この操作を繰り返した回数分,取り消した操作が順に復元されます。

解説

やり直しの対象は,以前に取り消した作画・編集操作です。

やり直しの対象による違いを次に示します。

- 作画のやり直し
取り消し操作で消えた図形が再度表示されます。
- 編集のやり直し
取り消した編集を再度実行し,取り消す前の状態に戻ります。

4.6.3 作画機能

書式設計で作画できる図形の種類を次の表に示します。

表 4-15 書式設計で作画できる図形の種類

図形	作画ボタンの図柄	内容
直線		斜線 傾きを自由に指定できる直線を引きます。
		水平線 / 垂直線 ポイントの位置によって、水平または垂直に補正された直線を引きます。
		垂線 すでに引かれている水平線、垂直線、または矩形の辺によって補正される直線を引きます。
矩形		矩形 矩形を描きます。
網掛け		領域を指定する網掛け 矩形を指定して網掛けします。
		矩形内への網掛け すでに作画されている図形の矩形部分に網掛けします。
文字列		領域を指定する横書き文字列 矩形を指定して文字列を横向きに配置します。
		矩形内への横書き文字列 すでに作画されている図形の矩形部分に文字列を横向きに配置します。
		領域を指定する縦書き文字列 矩形を指定して文字列を縦向きに配置します。
		矩形内への縦書き文字列 すでに作画されている図形の矩形部分に文字列を縦向きに配置します。
円		外接矩形を指定する円 円に外接する矩形を指定します。
		中心と半径を指定する円 円の中心と円周上の点を指定します。
円弧		外接矩形を指定する円弧 円弧に外接する矩形を指定します。
		中心と半径を指定する円弧 円弧の中心と円周上の点を指定します。
パターン		パターン配置 書式パターンファイルに登録されているロゴやマークなどの図柄を書式中に配置します。
部品		部品配置 書式部品ファイルに部品として登録されている図形群を書式中に配置します。

座標の指定について説明します。

図形を作画する場合、直線の始点と終点、および矩形の頂点と対角点など画面上に2点を指定する場合のマウスの操作には、ドラッグによる方法と2点クリックによる方法の二つがあります。

ドラッグによる方法と2点クリックによる方法を次に示します。

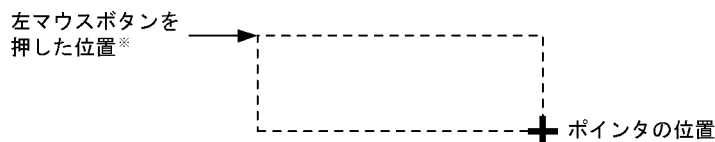
- ドラッグによる方法

左マウスボタンを押したまま、マウスを移動する方法です。

左マウスボタンを押した位置が1番目の座標に、離れた位置が2番目の座標になります。

ドラッグによる座標の指定を次の図に示します。

図 4-9 ドラッグによる座標の指定



注※ 左マウスボタンを押したままマウスを移動します。

- 2点クリックによる方法

2点をそれぞれクリックする方法です。

左マウスボタンを押したまま動かすと、ポインタの位置を調整できます。1番目および2番目のボタンを離れた位置が座標になります。


2点クリックによる座標の指定を次の図に示します。

図 4-10 2点クリックによる座標の指定



マウスの操作方法はメニューバーの [オプション] から [作画・編集] を選択し, " 作画時のマウス操作 " で指定します。

図形の属性

これから作画する図形の属性は [書式设计] 画面のメニューバーの [設定] から [作画属性] を選択します。すでに作画されている図形の属性を変更するには, 標準ツールバーのプッシュボタン  または [書式设计] 画面のメニューバーの [編集] から [属性変更] を選択して変更します。

作画後の状態

作画の終わった図形が新しく編集対象になり, それまでの編集対象図形は編集対象ではなくなります。作画機能を選択するプッシュボタンは, 別のプッシュボタンを選択するまで変わりません。ただし, パターンの配置, 部品の配置のあとは作画機能を選択する前の状態になります。


以降の説明はドラッグによる作画方法で説明します。

(1) 直線

(a) 斜線の作画

始点と終点座標を指定して, 斜線を引く場合に使用します。

斜線を作画する手順を次に示します。

1. [書式设计] 画面の作画ツールバーから斜線のプッシュボタン  を選択します。
2. 始点を指定します。

3. 終点を決めます。

左マウスボタンを押したままマウスを移動すると、始点とポインタの位置を結ぶ直線が点線で表示されます。

4. 終点を指定します。

左マウスボタンを離れた時点のポインタの位置が終点になり、[作画属性] 画面で指定した属性の直線が表示されます。

解説

直線の属性には、線種および線幅があります。

属性は [書式设计] 画面のメニューバーの [設定] から [作画属性] を選択します。

(b) 水平線・垂直線の作画

縦または横の線を引く場合に使用します。始点と終点の位置で、水平線か垂直線かが決まります。

水平線・垂直線を作画する手順を次に示します。

1. [書式设计] 画面の作画ツールバーから水平線・垂直線のプッシュボタン  を選択します。

2. 始点を指定します。

3. 方向と長さを決めます。

始点とポインタの位置で水平線か垂直線かが決まり、点線で表示されます。

ボタンを押したままマウスを移動して、直線の方向と長さを決めます。

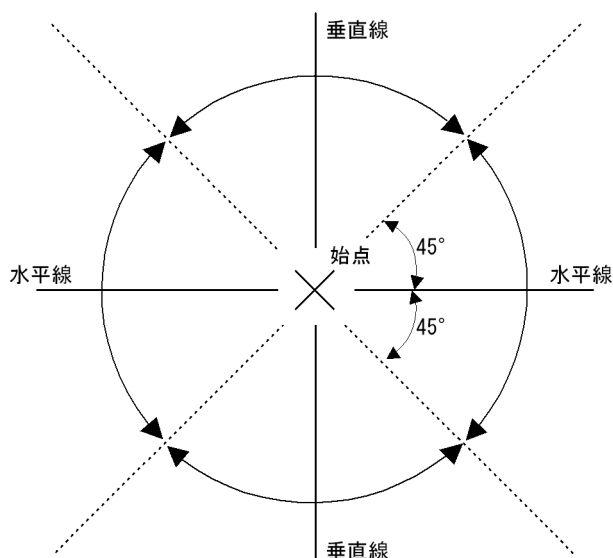
4. 終点を指定します。

左マウスボタンを離れた時点の、ポインタの位置で直線の方向と長さが決まり、[作画属性] 画面で指定した属性の水平線または垂直線が表示されます。


解説

水平線・垂直線の境界を次の図に示します。

図 4-11 水平線・垂直線の境界



(凡例)


 : ポインタの位置の範囲

..... : 作画中の直線

(c) 垂線の作画

すでに作画されている水平線，垂直線，および矩形の辺に対して垂線を引く場合に使用します。

垂線を作画する手順を次に示します。

1. [書式设计] 画面の作画ツールバーから垂線のプッシュボタン  を選択します。
2. 始点を指定します。
3. 方向を決めます。
始点とポイントの位置で水平線か垂直線かが決まり，最初に出会う直線，または矩形の辺まで延長して点線が表示されます。
4. 終点方向を指定します。
左マウスボタンを離した時点の，ポイントの位置で方向と長さが決まり，[作画属性] 画面で指定した属性の垂線が表示されます。

解説

垂線の方向は，水平線・垂直線と同様に始点とポイントの位置で決まります。

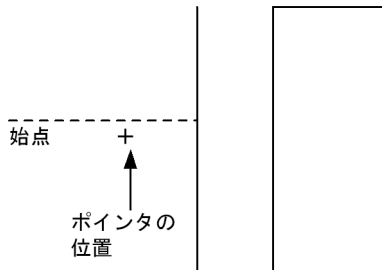
垂線の終点とポイントの位置の関係を次の図に示します。

4. 書式定義機能

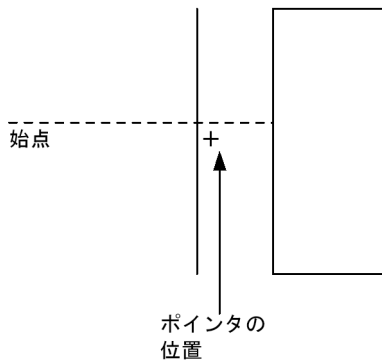
図 4-12 垂線の終点とポインタの位置の関係（垂線の延長線上で最初に出会う直線，または矩形の一边の場合）

垂線の方法は，水平線・垂直線と同様に始点とポインタの位置で決まります。

- ・垂線の延長線上で最初に出会う直線の一边



- ・垂線の延長線上で最初に出会う矩形の一边



(凡例)

- : 作画済み図形を示します。
- : 作画中の図形を示します。

図 4-13 垂線の終点とポインタの位置の関係（矩形のラウンドコーナーの場合）

矩形のラウンドコーナーでは，直角コーナーと同じ位置になります。

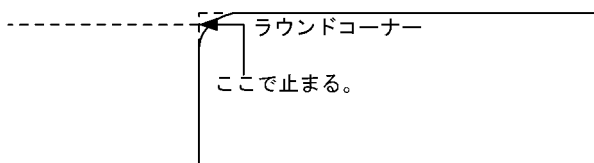
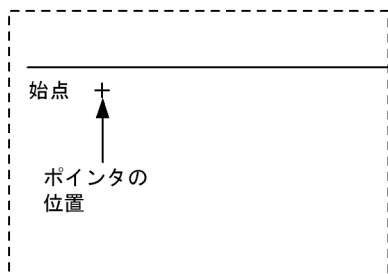


図 4-14 垂線の終点とポイントの位置の関係（垂線の延長線上で最初に出会う直線，および矩形の辺がない場合）


延長線上に直線，および矩形の辺がない場合は，書式の端まで延長されます。



(2) 矩形

表の外枠などに使う矩形を描く場合に使用します。

矩形を作画する手順を次に示します。

1. [書式设计] 画面の作画ツールバーから矩形のプッシュボタン  を選択します。
2. 頂点を指定します。
3. 大きさを決めます。
左マウスボタンを押したままマウスを移動すると，ポイントの位置を対角点とする矩形が点線で表示されます。
4. 対角点を指定します。
左マウスボタンを離れた時点の，ポイントの位置が対角点になり，[作画属性] 画面で指定した属性で矩形が表示されます。

解説


矩形の属性には，線種，線幅，ラウンドコーナー，およびラウンド直径があります。
属性はメニューバーの [設定] から [作画属性] を選択します。

(3) 網掛け

(a) 領域を指定する網掛け

矩形を描いて指定した領域に網掛けする場合に使用します。

領域を指定する網掛け手順を次に示します。

1. [書式设计] 画面の作画ツールバーから領域を指定する網掛けのプッシュボタン  を選択します。
2. 網掛けする領域の頂点を指定します。
3. 網掛けする領域の対角点を指定します。
矩形の作画と同じ操作で領域を指定すると，[作画属性] 画面で指定した網掛け種別で網掛けされます。


解説

網掛けの属性には，網掛け種別があります。
網掛けの種別はメニューバーの [設定] から [作画属性] を選択します。

(b) 矩形内への網掛け

すでに作画されている図形の矩形部分に網掛けする場合に使用します。

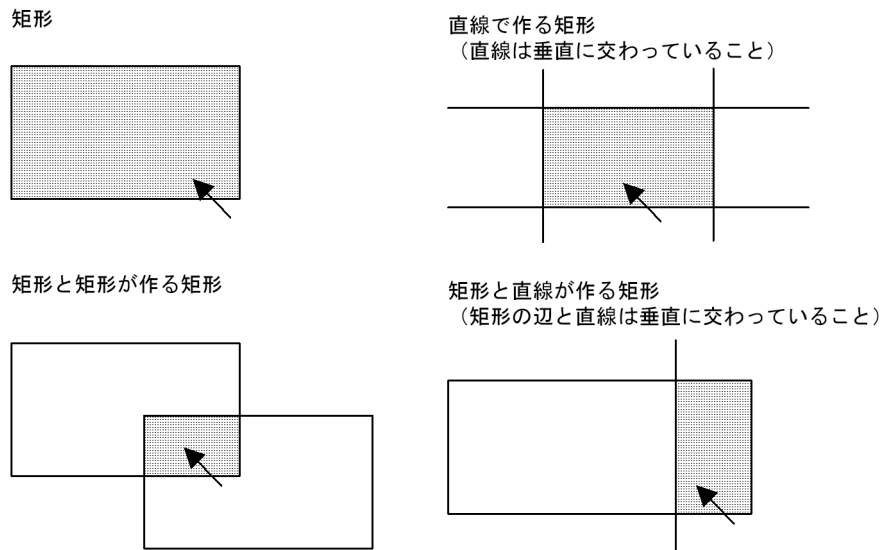
矩形内への網掛け手順を次に示します。

1. [書式设计]画面の作画ツールバーから矩形内への網掛けのプッシュボタン  を選択します。
2. 網掛けする領域を選択します。
網掛けする矩形内にポインタを移動して、左マウスボタンを押すと、ポインタの位置を含む矩形が点線で表示されます。
3. ボタンを離します。
指定した領域に [作画属性] 画面で指定した網掛け種別で網掛けされます。

解説

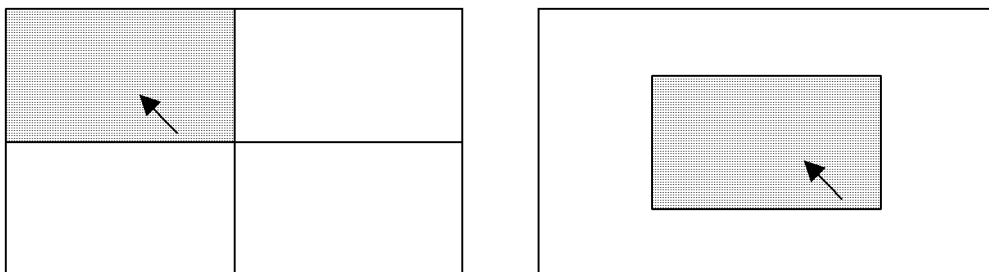
網掛け対象となる矩形部分は4種類あります。
網掛けできる図形の矩形部分を次の図に示します。

図 4-15 網掛けできる図形の矩形部分



ポインタの位置を含む矩形が複数ある場合は、最小の矩形が選択されます。
ポインタの位置を含む矩形が複数ある場合の網掛け対象となる矩形部分を次の図に示します。

図 4-16 ポインタの位置を含む矩形が複数ある場合の網掛け対象となる矩形部分



(4) 文字列

書式内に横書きまたは縦書きの文字列を指定します。

文字列を配置する領域の作画方法には 2 種類，文字の配置には 3 種類の方法があります。

領域の作画方法は押しボタンで選択します。

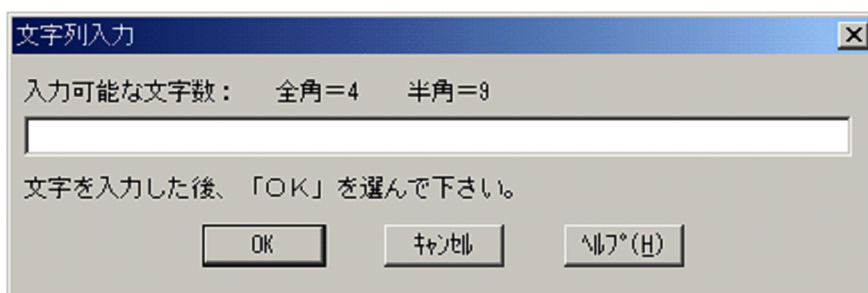
文字の配置方法，文字サイズ，および字間値は [書式设计] 画面のメニューバーの [設定] から [作画属性] を選択します。

領域の指定方法と文字の配置法については，表 4-10 を参照してください。

(a) [文字列入力] 画面と項目一覧

[文字列入力] 画面

[文字列入力] 画面を次に示します。



項目一覧

[文字列入力] 画面の項目を次に示します。

入力可能な文字数表示

指定した領域に入力できる文字数が，全角，半角それぞれについて表示されます。

入力可能な文字数設定ボックス

入力可能な文字数を設定します。

注意事項

- 一つの文字列の中で全角の文字と半角の文字は混在できません。
- 文字列のあとの空白は有効ですが，空白だけの文字列は何も入力されなかったものとみなします。
- 文字入力領域の残りが半角 1 文字分しかない場合，全角文字は入力できません。
- 両端そろえ配置には，2 文字以上必要です。1 文字を入力した場合は，均等配置で表示します。



(b) 領域を指定する文字列の指定

文字配置法が均等または両端そろえの場合

矩形を描いて指定した領域に入力した文字列を配置します。

矩形を描いて指定した領域に入力した文字列を配置する手順を次に示します。

1. [書式设计] 画面の作画ツールバーから領域を指定する横書き，または縦書き文字列の押しボタン

 /  を選択します。

2. 文字列を配置する領域の頂点を指定します。

3. 文字列を配置する領域の対角点を指定します。

ポインタの位置を対角点とする文字領域の大きさが点線で表示されます。左マウスボタンを離すと [文字列入力] 画面が表示されます。

4. 文字列を入力します。

5. 入力した文字列を確認して [OK] ボタンをクリックします。

入力した文字列が、指定した領域に指定した属性で配置されます。文字列の属性には、書体番号、文字サイズ、文字配置法、および字間値があります。



属性は [書式设计] 画面のメニューバーの [設定] から [作画属性] を選択します。

文字配置法が字間指定の場合

指定した位置から入力した文字列を配置します。

指定した位置から入力した文字列を配置する手順を次に示します。

1. [書式设计] 画面の作画ツールバーから領域を指定する横書き、または縦書き文字列のプッシュボタン

 /  を選択します。

2. 文字列の先頭位置を指定します。

ポインタを頂点とし、[作画属性] で指定した文字サイズを幅とする矩形が書式の右端、または下端まで点線で表示されます。左マウスボタンを離すと [文字列入力] 画面が表示されます。

3. 文字列を入力します。



4. 入力した文字列を確認して [OK] ボタンをクリックします。

入力した文字列が、[作画属性] 画面で指定した字間値で配置されます。

(c) 矩形内への文字列の指定

すでに作画されている図形の矩形部分に入力した文字列を配置します。

すでに作画されている図形の矩形部分に入力した文字列を配置する手順を次に示します。

1. [書式设计] 画面の作画ツールバーから矩形内への横書き、または縦書き文字列のプッシュボタン  /  を選択します。

2. 文字列を配置する領域を選択します。

文字列を配置する矩形内にポインタを移動して、左マウスボタンを押すと、ポインタの位置を含む矩形が点線で表示されます。

左マウスボタンを離すと、[文字列入力] 画面が表示されます。

3. 文字列を入力します。

4. 入力した文字列を確認して [OK] ボタンをクリックします。

入力した文字列が、指定した領域に指定した属性で配置されます。

解説

- 文字列の属性

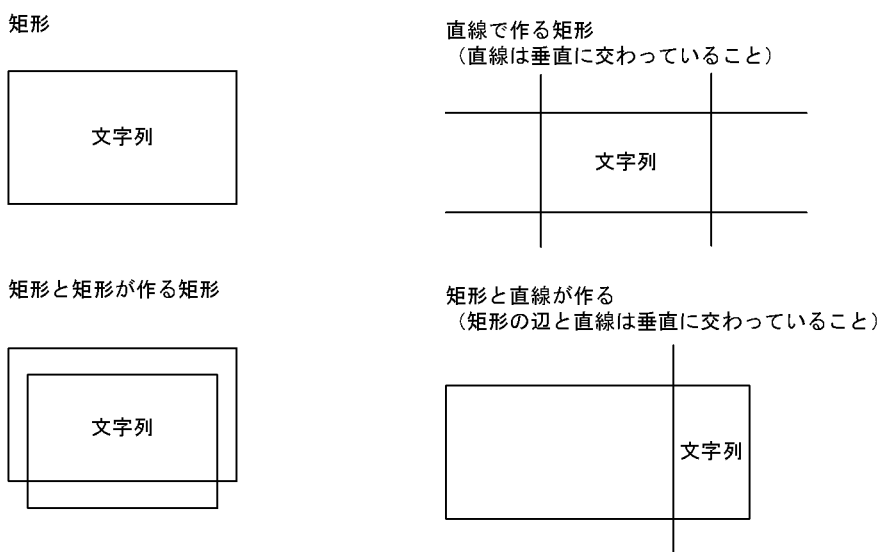
文字列の属性には、書体番号、文字サイズ、文字配置法、および字間値があります。属性はメニューバーの [設定] から [作画属性] を選択します。

- 文字列を配置する矩形

文字列を配置できる図形の矩形部分は 4 種類があります。

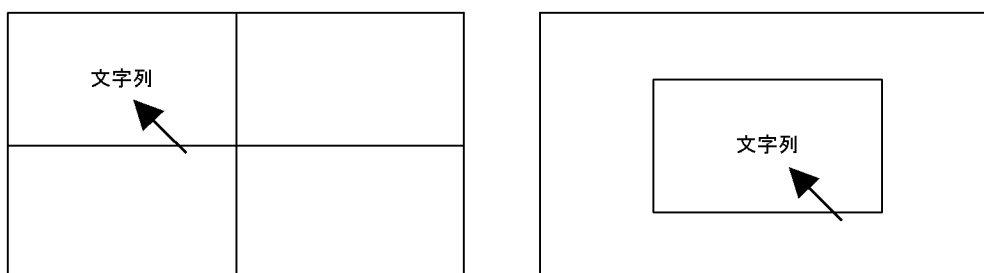
文字列を配置できる図形の矩形部分を次の図に示します。

図 4-17 文字列を配置できる図形の矩形部分



ポインタの位置を含む矩形が複数ある場合は、最小の矩形が選択されます。
 ポインタの位置を含む矩形が複数ある場合の文字列を配置できる矩形部分を次の図に示します。

図 4-18 ポインタの位置を含む矩形が複数ある場合の文字列を配置できる矩形部分




(5) 円

(a) 外接矩形を指定する円

指定した矩形に内接する円を描きます。中心を指定しにくい場合に使用します。


外接矩形を指定する円を描く手順を次に示します。

1. [書式设计] 画面の作画ツールバーから外接矩形を指定する円のプッシュボタン  を選択します。
2. 頂点を指定します。
3. 大きさを決めます。
左マウスボタンを押したままマウスを移動すると、ポインタの位置を対角点とする矩形と内接する円が点線で表示されます。
4. 対角点を指定します。
左マウスボタンを離れた時点のポインタの位置が対角点になり、指定した属性で矩形に内接する円が表示されます。

(b) 中心と半径を指定する円の作画

中心と円周上の点を指定して円を描きます。

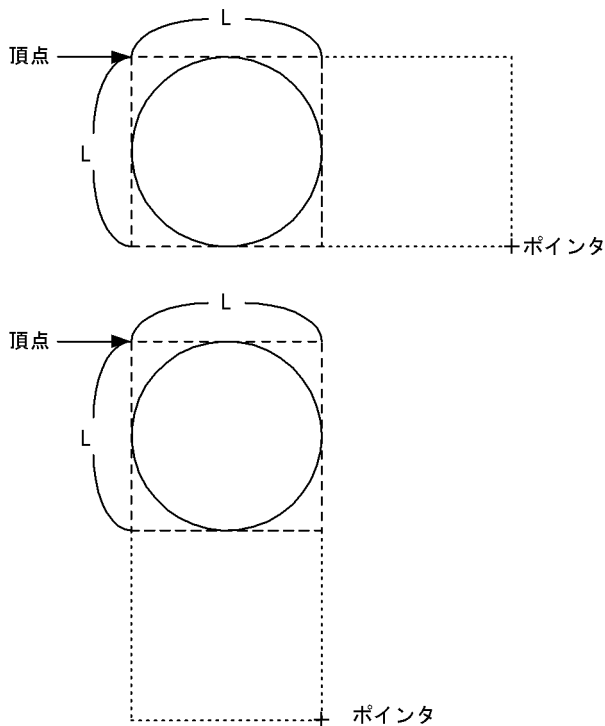
中心と半径を指定する円を作画する手順を次に示します。

1. [書式设计]画面の作画ツールバーから中心と半径を指定する円のプッシュボタン  を選択します。
2. 中心点を指定します。
3. 大きさを決めます。
左マウスボタンを押したままマウスを移動すると、ポインタの位置を円周上の点とする円が点線で表示されます。
4. 円周上の点を指定します。
左マウスボタンを離した時点の、ポインタの位置が円周上の点になり、中心との距離を半径とする円が指定した属性で表示されます。
属性はメニューバーの[設定]から[作画属性]を選択します。

解説

- 円の属性
円の属性には、線種および線幅があります。
属性は[書式设计]画面のメニューバーの[設定]から[作画属性]を選択します。
- 外接する矩形と円の大きさ
外接する矩形を指定して円を描く場合、指定した矩形が正方形でなくても、正方形に内接する円が表示されます。
外接する矩形と円の大きさを次の図に示します。

図 4-19 外接する矩形と円の大きさ




対角点の位置が正方形の対角点になっていない場合は、短い方の辺に合わせた正方形になります。

(6) 円弧

(a) 外接矩形を指定する円弧

指定した矩形に内接する円から円弧を描きます。


外接矩形を指定する円弧を描く手順を次に示します。

1. [書式设计] 画面の作画ツールバーから外接矩形を指定する円弧のプッシュボタン  を選択します。
2. 頂点を指定します。
3. 円の大きさを決めます。
左マウスボタンを押したままマウスを移動すると、ポインタの位置を対角点とする矩形と内接する円が点線で表示されます。
4. 対角点を指定します。
左マウスボタンを離れた時点の、ポインタの位置を対角点とする矩形に内接する円が点線で表示されます。
5. 始点を指定します。
6. 円弧の長さを決めます。
左マウスボタンを押したままマウスを移動すると、ポインタの位置を始点とする円弧が点線で表示されます。
7. 終点を指定します。
左マウスボタンを離れた時点の、ポインタの位置を終点とする円弧が指定した属性で表示されます。

(b) 中心と半径を指定する円弧

円の中心と円周上の点を指定して描いた円から円弧を描きます。

中心と半径を指定する円弧を描く手順を次に示します。

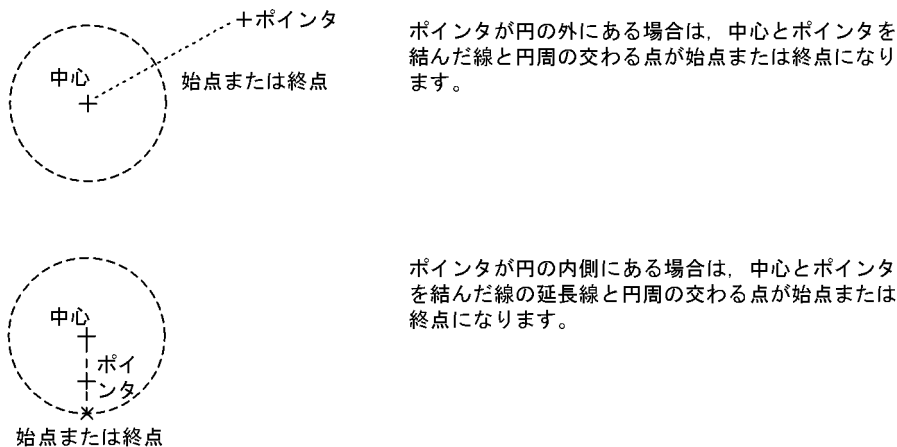
1. [書式设计] 画面の作画ツールバーから中心と半径を指定する円弧のプッシュボタン  を選択します。
2. 中心点を指定します。
3. 円の大きさを決めます。
左マウスボタンを押したままマウスを移動すると、ポインタの位置を円周上の点とする円が点線で表示されます。
4. 円周上の点を指定します。
左マウスボタンを離れた時点の、ポインタの位置と中心の距離を半径とする円が点線で表示されます。
5. 始点を指定します。
6. 円弧の長さを決めます。
左マウスボタンを押したままマウスを移動すると、ポインタの位置を始点とする円弧が点線で表示されます。
7. 終点を指定します。
左マウスボタンを離れた時点の、ポインタの位置を終点とする円弧が指定した属性で表示されます。

解説

- 円弧の属性
円弧の属性には、線種および線幅があります。
属性は [書式设计] 画面のメニューバーの [設定] から [作画属性] を選択します。

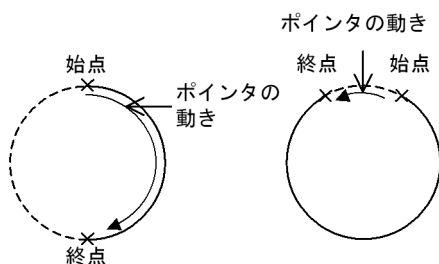
- 円弧の始点または終点とポイントの位置
 ポインタが円周上にない場合、次に示すように始点および終点が決まります。
 円弧の始点または終点とポイントの位置を次の図に示します。

図 4-20 円弧の始点または終点とポイントの位置



- 円弧の始点と終点の関係
 円弧は、次に示すように始点から終点に向かって右回り（時計回り）に描かれます。終点を左回りに指定しても円弧は右回りになります。
 円弧の始点と終点の関係を次の図に示します。

図 4-21 円弧の始点と終点の関係




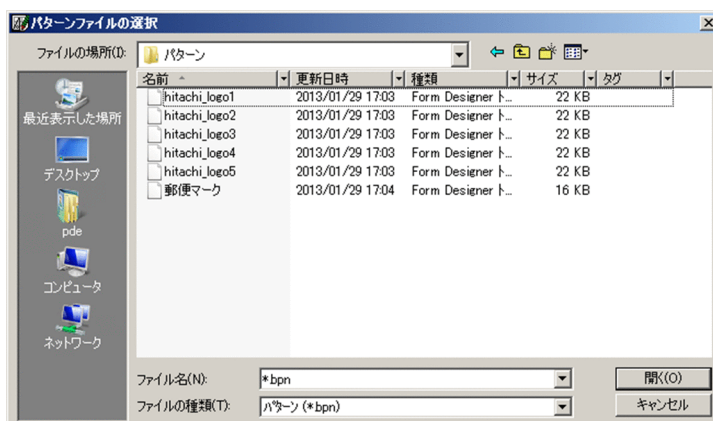
(7) パターン

書式パターンファイルに登録されている会社のマークやロゴなどの図柄を書式中に配置します。

書式パターンファイルの作り方については、「4.9 書式パターンの作成」を参照してください。

書式パターンファイルに登録されている会社のマークやロゴなどの図柄を書式中に配置する手順を次に示します。

1. [書式设计] 画面の作画ツールバーからパターンのプッシュボタン  を選択します。
 [パターンファイルの選択] 画面が表示されます。



2. 配置するパターンを選択します。

ドライブ、フォルダから配置したいパターンファイルを検索して選択します。ドライブ、フォルダの初期値は、環境設定プログラムで指定したものです。ファイル名の拡張子として「.bpn」の付いたものだけがパターンファイルとなります。

配置するパターンファイル名を選択すると [パターン・イメージ] 画面が表示されます。



ここでは、次に示す情報が表示されます。

概要

指定したパターンファイルの概要が表示されます。

パターンのサイズ

書式パターンファイルを作成する場合に指定した横、縦のドット数が表示されます。

パターンの内容

選択したパターンの内容が実寸大で表示されます。

3. 内容を確認して [開く] ボタンをクリックします。

4. 配置する位置を指定します。

[書式设计] 画面で、マウスカーソルをパターン図形の左上に位置づくようにずらし、左マウスボタンを押すと、パターンが配置されます。

解説

- パターンの属性
パターンには、図形属性はありません。
- パターンの種類
一つの書式内に配置できるパターンは 99 種類 以内です。

注

[オプション設定] 画面の [異なるパターン, 文字, ラウンドコーナーの合計] の値に「4096」を指定した場合は, 4,096 種類以内となります。

補足事項

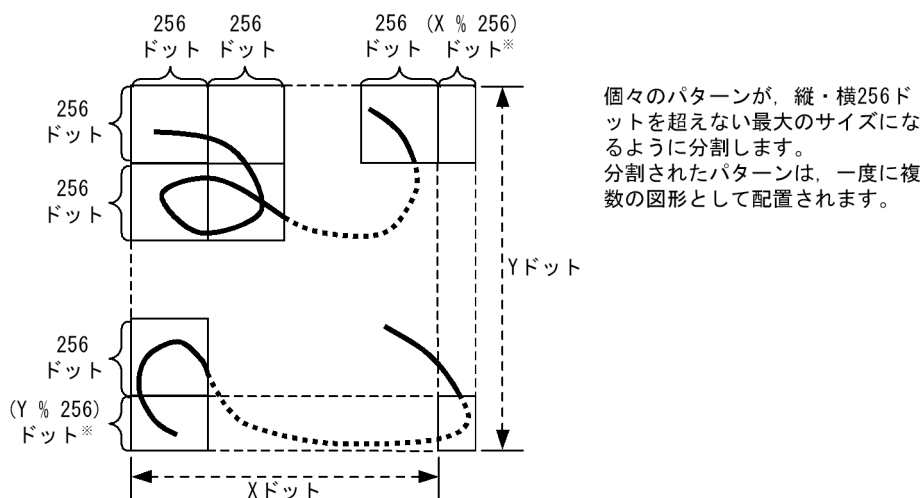
配置可能なパターンのサイズ

パターンは, 縦・横のサイズともに環境設定で指定した書式サイズの範囲内にあるパターンが配置できます。

一辺のサイズが 256 ドットを超えるパターンを配置する場合, パターンは配置時に自動的に幾つかに分割され, 一度に複数のパターンとして配置されます。

配置可能なパターンのサイズを次の図に示します。

図 4-22 配置可能なパターンのサイズ



注※ $M \% N$: M を N で除算したときの余りを示します。

注意事項

大きいサイズのパターンを配置する場合には, 図形の個数の制限¹や図形のデータ量の制限²などから, 環境設定で指定した書式サイズに収まるサイズのパターンでも配置できない場合があります。

注 1 配置可能な異なる種類の図形は, 99 個までとなります。[オプション設定] 画面の [異なるパターン, 文字, ラウンドコーナーの合計] の値に「4096」を指定した場合は, 4,096 個までとなります。


注 2 配置可能なパターンの総バイト数は 63,520 バイトまでとなります。[オプション設定] 画面の [異なるパターン, 文字, ラウンドコーナーの合計] の値に「4096」を指定した場合は, 5,242,880 バイトまでとなります。

(8) 部品

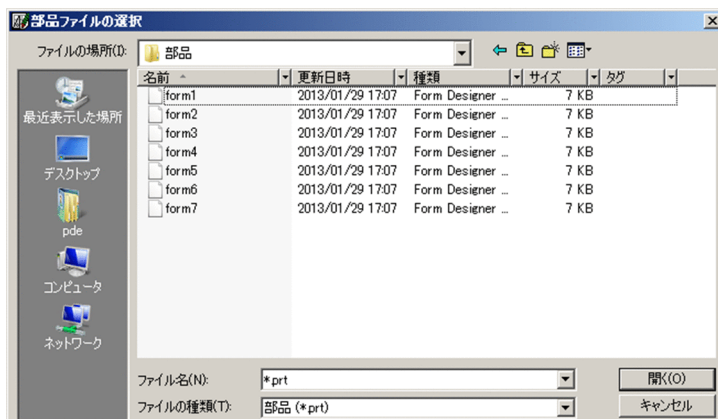
書式部品ファイルに登録されている図形群を書式中に配置します。

書式部品ファイルの作り方については, 「4.7 書式部品の保存」を参照してください。

書式部品ファイルに登録されている図形群を書式中に配置する手順を次に示します。

1. [書式设计] 画面の作画ツールバーから部品配置のプッシュボタン  を選択します。

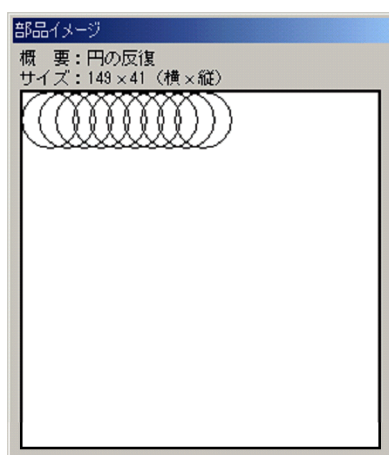
[部品ファイルの選択] 画面が表示されます。



2. 配置する部品を選択します。

ドライブ、フォルダから配置したい部品ファイルを検索して選択します。ドライブ、フォルダの初期値は、環境設定プログラムで指定したものです。ファイル名の拡張子として「.prt」の付いたものだけが部品ファイルとなります。

配置する部品のファイル名を選択すると [部品イメージ] 画面が表示されます。



ここでは、次に示す情報が表示されます。

概要

指定した部品ファイルの概要を表示します。

部品のサイズ

部品を構成する図形群を囲む最小の矩形の横、縦のドット数が表示されます。

部品の内容

選択した部品の内容が表示されます。

3. 内容を確認して [開く] ボタンをクリックします。

4. 配置する位置を指定します。

[書式设计] 画面で、マウスカーソルを部品図形の左上に位置づくようにずらし、左マウスボタンを押すと、部品が配置されます。

4.6.4 編集機能

(1) 編集操作手順

編集操作は、編集対象になっている図形に対して編集機能を実行します。

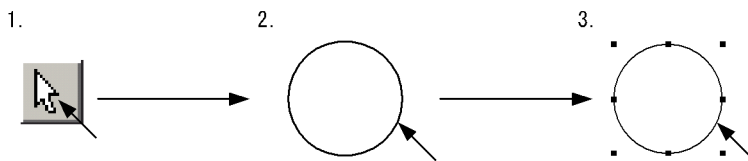
編集操作手順を次に示します。


(a) 編集対象図形の選択方法

() 図形の直接指定

図形を直接指定する流れを次の図に示します（編集対象図形の明示はマーカ表示）。

図 4-23 図形を直接指定する流れ



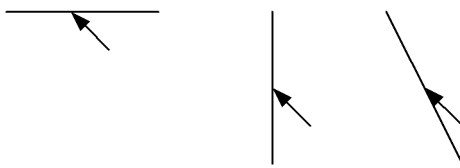
1. [書式设计]画面の作画ツールバーから編集対象選択のプッシュボタン  を選択すると、編集対象図形を選択する状態になります。
2. 編集対象にする図形を選択します。
ポインタを図形に位置づけて、左マウスボタンをクリックします。
3. 選択した図形が、編集対象となって表示されます。

編集対象図形の明示方法には、図形の周りにマーカを表示する方法と図形の色を変える二つの方法があり、[書式设计]画面のメニューバーの[オプション]の[作画・編集]を選択します。なお、上記の図の編集対象図形の明示は、マーカ表示となっています。

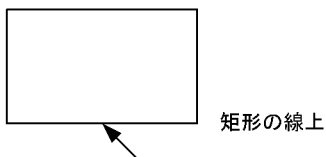
解説

編集対象図形を選択する場合、各図形とポインタの位置の関係は次に示すようになります。

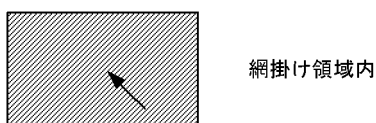
• 直線



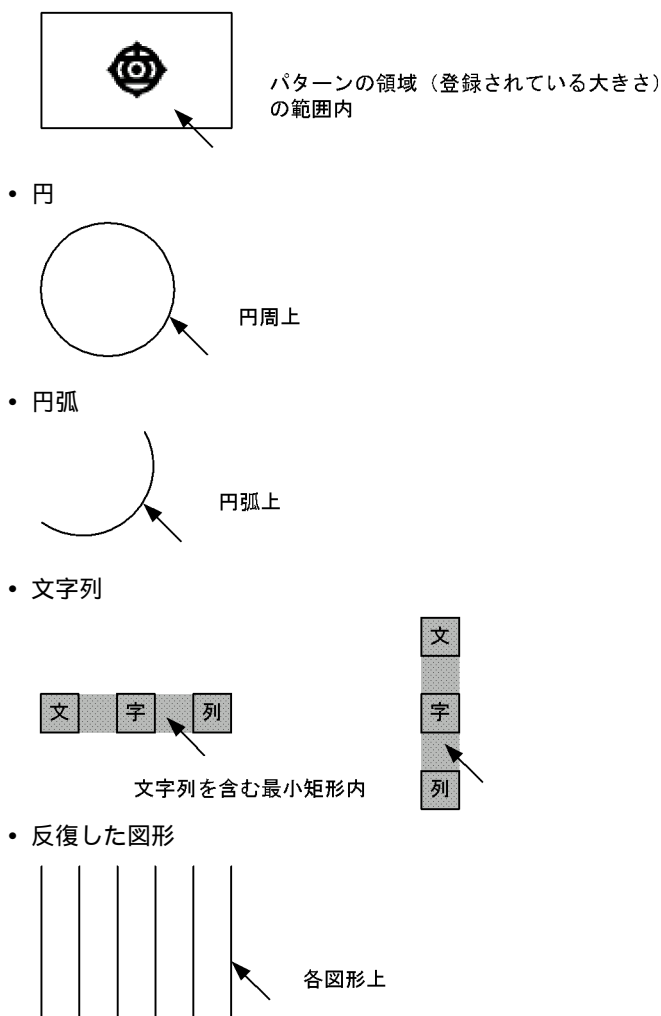
• 矩形



• 網掛け




• パターン



() 範囲の指定

範囲を指定する手順を次に示します。

1. [書式设计]画面の作画ツールバーから編集対象図形の選択のプッシュボタン  を選択します。
2. 頂点を指定します。
編集対象にする図形を囲む領域の頂点を指定します。
3. 対角点を指定します。

左マウスボタンを押したままマウスを移動すると、ポインタの位置を対角点とする領域の中の図形が編集対象になって、表示されます。

() 編集対象への追加と除外

• 編集対象の変更

別の図形を選択すると、それまでの編集対象図形は通常の表示に戻り、編集対象ではなくなります。指定した範囲の中にある編集対象図形は通常の表示に戻り、編集対象ではなくなります。

• 編集対象の追加

編集対象を選択したあと、さらに別の図形を編集対象に追加する場合は、次に示すように操作します。

• 図形を直接指定する


ポインタを図形に位置づけて、[Ctrl]キーを押しながら左マウスボタンをクリックします。選

4. 書式定義機能


択した図形が編集対象に追加されます。

- 範囲を指定する
ポインタを編集範囲の頂点に位置づけて、[Ctrl] キーを押しながら左マウスボタンを押し、そのままマウスを移動して対角点で離します。
- 編集対象からの除外
広い範囲を指定したあと、特定の図形を編集対象から除くには、編集対象を追加する場合と同様の方法で選択し直すと、その図形は通常の見返しに戻り編集対象ではなくなります。

() 書式中の全図形の編集対象としての選択

[書式设计] 画面の標準ツールバーからプッシュボタン  , またはメニューバーの [編集] から [全選択] を選択すると、書式中の全図形が編集対象になり、表示されます。

(b) 編集機能の選択


[書式设计] 画面の標準ツールバーから編集機能のプッシュボタン  , またはメニューバーの [編集] から編集機能を選択します。

(2) 編集機能

(a) 切り取り



編集対象図形を一時的に記憶し、その編集対象図形は消去されます。

切り取り手順を次に示します。

1. [書式设计] 画面の標準ツールバーからプッシュボタン  , またはメニューバーの [編集] から [切り取り] を選択します。
この時点で編集対象図形が一時的に記憶され、図形は消去されます。

補足事項


[切り取り] と [貼り付け] を使った手順

1. [書式设计] 画面の標準ツールバーからプッシュボタン  , またはメニューバーの [編集] から [切り取り] を選択します。
編集対象図形が一時的に記憶され、図形は消去されます。
2. [書式设计] 画面の標準ツールバーからプッシュボタン  , またはメニューバーの [編集] から [貼り付け] を選択します。
3. マウスカーソルを貼り付けたい位置へずらし、左マウスボタンを押します。
一時的に記憶されていた図形が貼り付けられます。

(b) 複写



編集対象図形を一時的に記憶し、そのまま編集対象図形は残ります。

複写する手順を次に示します。

1. [書式设计] 画面の標準ツールバーからプッシュボタン  , またはメニューバーの [編集] から [複写] を選択します。
この時点で編集対象図形が一時的に記憶され、図形は残ります。

補足事項


[複写] と [貼り付け] を使った手順

1. [書式设计]画面の標準ツールバーからプッシュボタン  ,またはメニューバーの [編集] から [複写] を選択します。
編集対象図形が一時的に記憶され、図形は残ります。
2. [書式设计]画面の標準ツールバーからプッシュボタン  ,またはメニューバーの [編集] から [貼り付け] を選択します。
3. マウスイカーソルを複写したい位置へずらし、左マウスボタンを押します。
一時的に記憶されていた図形が貼り付けられます。

(c) 貼り付け

一時的に記憶していた編集対象図形を、マウスで示す位置へ貼り付けます。

貼り付け手順を次に示します。

1. [書式设计]画面の標準ツールバーからプッシュボタン  ,またはメニューバーの [編集] から [貼り付け] を選択します。
2. マウスイカーソルを貼り付けたい位置へずらし、左マウスボタンを押します。
一時的に記憶されていた編集対象図形が貼り付けられます。

(d) 消去

編集対象図形を消去します。


消去する手順を次に示します。



1. [書式设计]画面のメニューバーの [編集] から [消去] を選択、または [Delete] キーを押します。
編集対象図形がすべて消去され、編集対象図形はなくなります。

(e) 移動

編集対象図形を書式中の別な場所に移動します。

移動する手順を次に示します。


1. [書式设计]画面の標準ツールバーからプッシュボタン  ,またはメニューバーの [編集] から [移動] を選択します。

移動元の図形内にマウスイカーソルがある場合は  が表示され、図形外の場合は  が表示されます。
2. 移動先を指定します。
マウスイカーソルを移動した位置へずらし、左マウスボタンを押すと、編集対象図形が移動して表示されます。移動後も引き続き編集対象になります。

(f) 拡大・縮小

編集対象図形を縦、横、および斜め方向に拡大・縮小します。

拡大・縮小する手順を次に示します。

1. [書式设计]画面の標準ツールバーからプッシュボタン  ,またはメニューバーの [編集] から [拡大・縮小] を選択します。
編集対象図形を囲む矩形とマーカが表示されます。
2. 拡大・縮小する方向のマーカを選択します。

3. 図形の大きさを指定します。

左マウスボタンを押さえたままマウスを移動して、大きさを決めます。

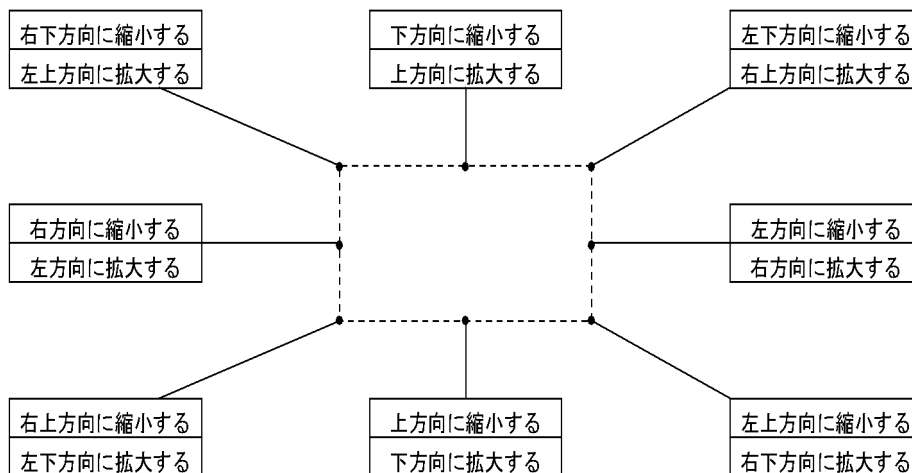
ボタンを離すと拡大・縮小された図形が表示されます。

拡大・縮小後も引き続き編集対象になります。

補足事項

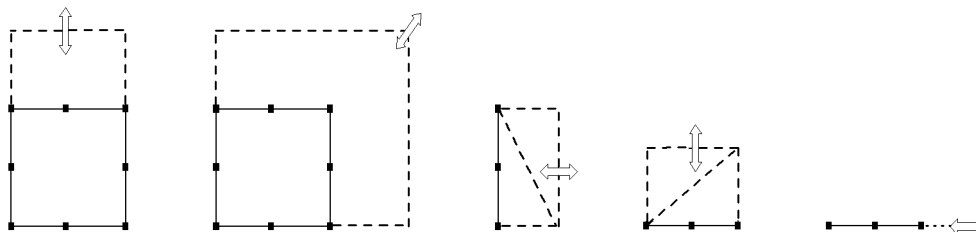
- マーカと拡大・縮小の方向
表示されるマーカと拡大・縮小の方向には次に示す関係があります。
マーカと拡大・縮小の方向を次の図に示します。

図 4-24 マーカと拡大・縮小の方向



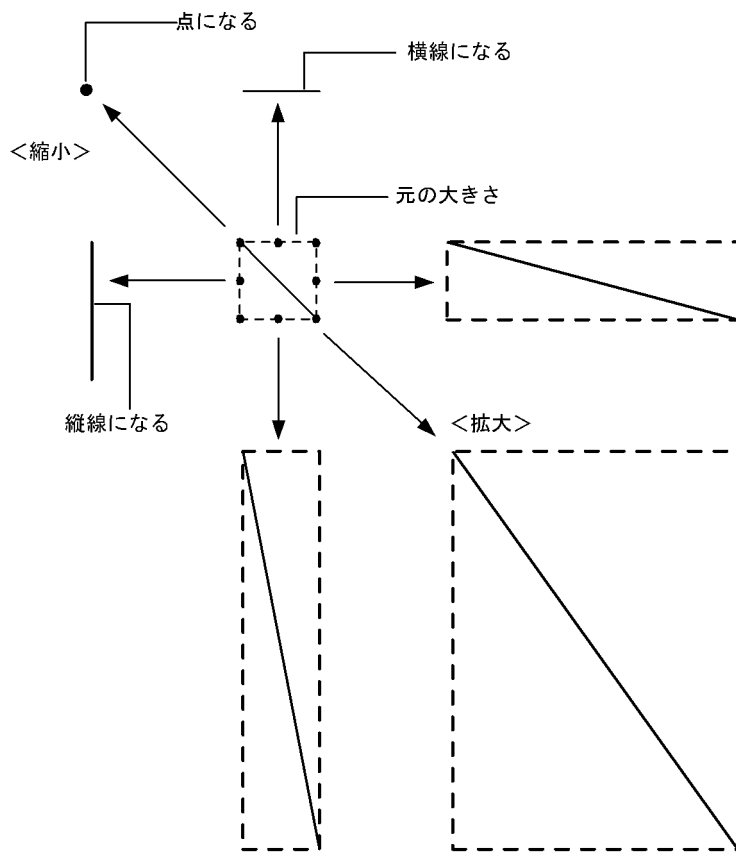
- ドラッグ中のポインタ
各マーカを選択してマウスをドラッグする場合、ポインタは次に示すように表示されます。
ドラッグ中のポインタを次の図に示します。

図 4-25 ドラッグ中のポインタ



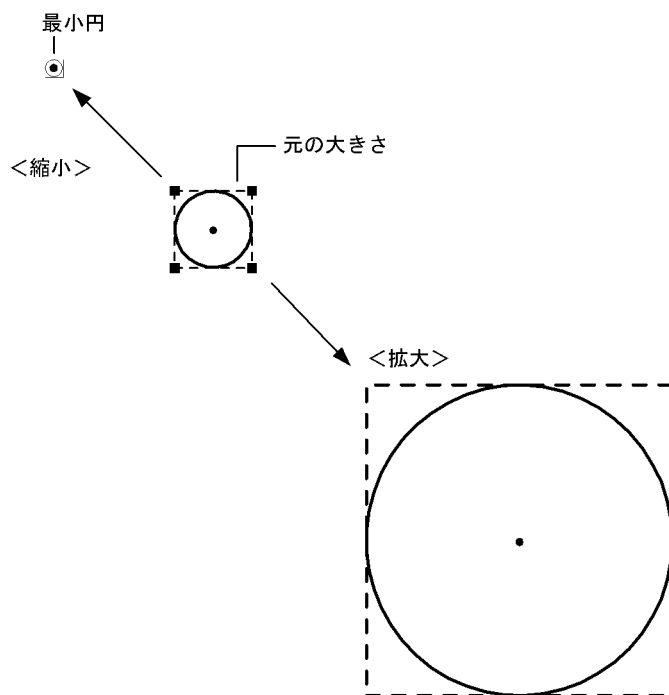
- 斜線の拡大・縮小
斜線は拡大・縮小すると、角度が変わります。
斜線の拡大・縮小を次の図に示します。

図 4-26 斜線の拡大・縮小



- 円の拡大・縮小
 拡大・縮小された矩形に内接する円が、矩形の中央に配置されます。
 円の拡大・縮小を次の図に示します。

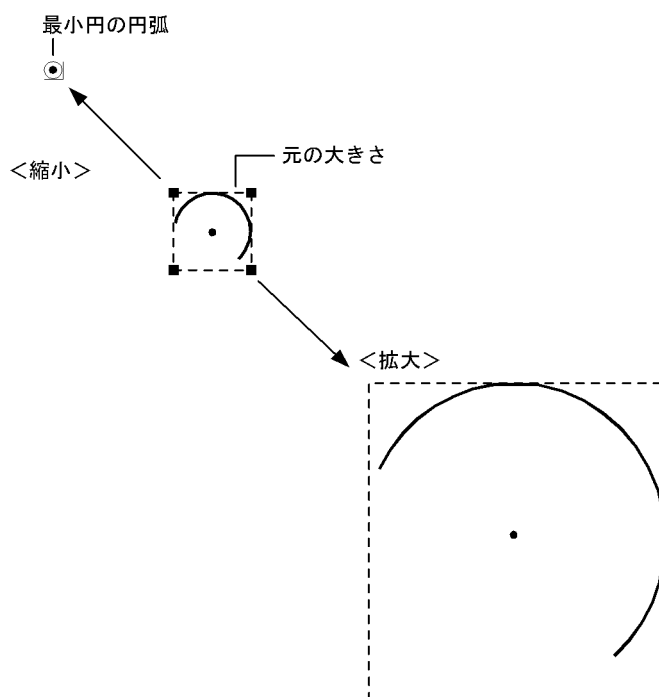
図 4-27 円の拡大・縮小



• 円弧の拡大・縮小

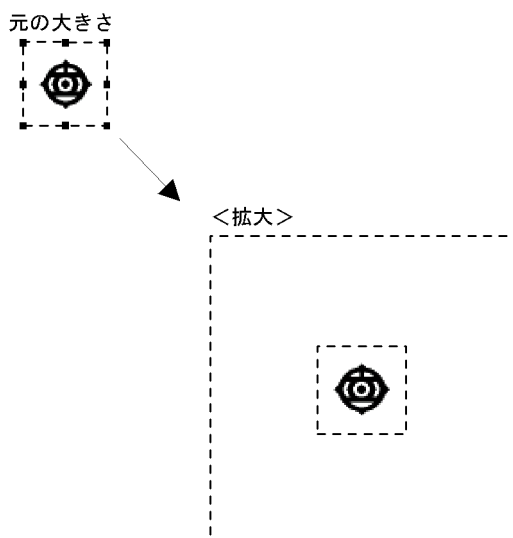
拡大・縮小の方法は円と同じです。円の半径を変えないで円弧を伸縮するには、[拡大・縮小] ではなく [図形微調整] で円弧の開始角または終了角を変更してください。円弧の拡大・縮小を次の図に示します。

図 4-28 円弧の拡大・縮小



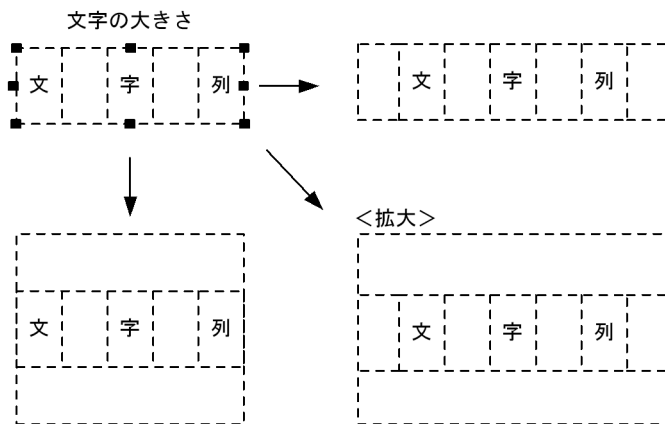
- パターンの拡大・縮小
縮小はできません。拡大した場合、拡大した矩形の中央にパターンが配置されます。
パターンの拡大・縮小を次の図に示します。

図 4-29 パターンの拡大・縮小



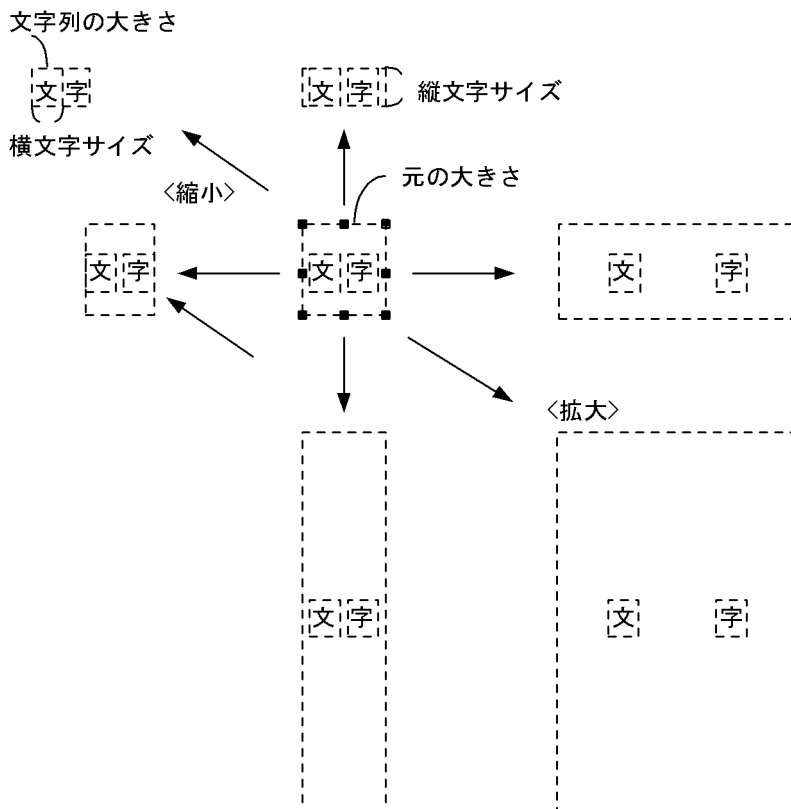
- 字間指定文字列の拡大・縮小
縮小はできません。拡大した場合、拡大した矩形の中央に文字列が配置されます。
字間指定文字列の拡大・縮小を次の図に示します。

図 4-30 字間指定文字列の拡大・縮小



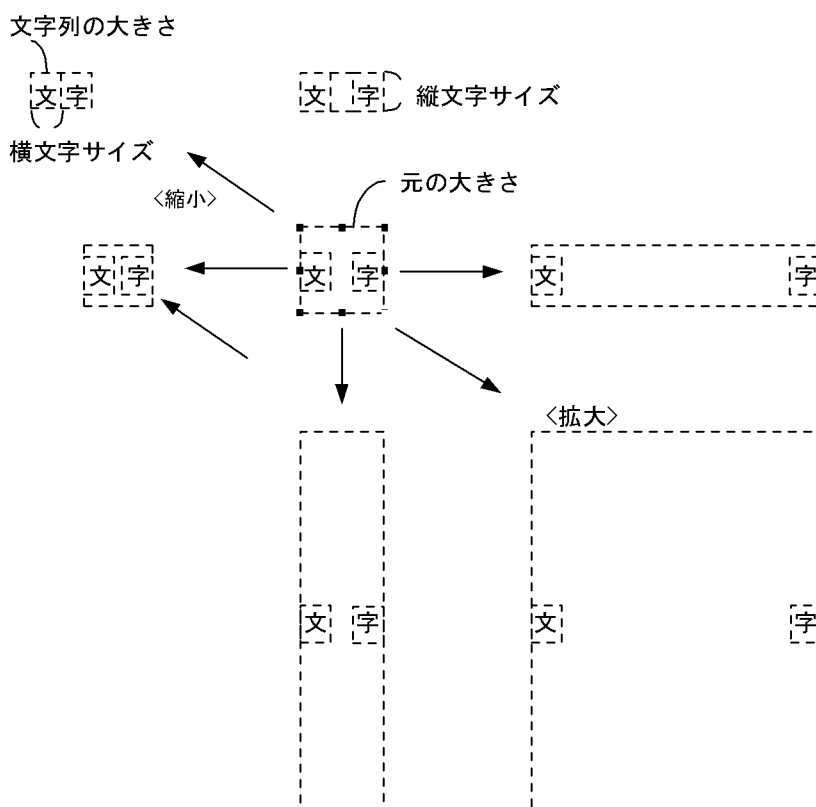
- 均等配置文字列の拡大・縮小
 拡大・縮小された矩形の中で均等配置されます。
 均等配置文字列の拡大・縮小を次の図に示します。

図 4-31 均等配置文字列の拡大・縮小



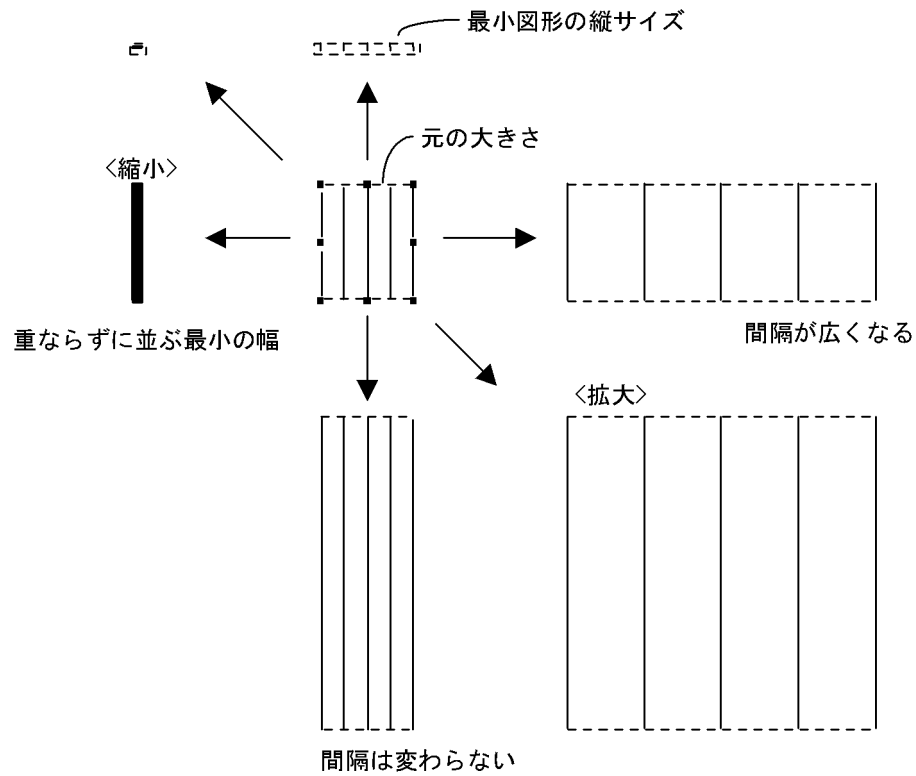
- 両端そろえ文字列の拡大・縮小
 拡大・縮小された矩形の中で両端そろえ配置されます。
 両端そろえ文字列の拡大・縮小を次の図に示します。

図 4-32 両端そろえ文字列の拡大・縮小



- 反復図形の拡大・縮小
反復図形の拡大・縮小では、図形、間隔とも拡大・縮小されます。
反復図形の拡大・縮小を次の図に示します。

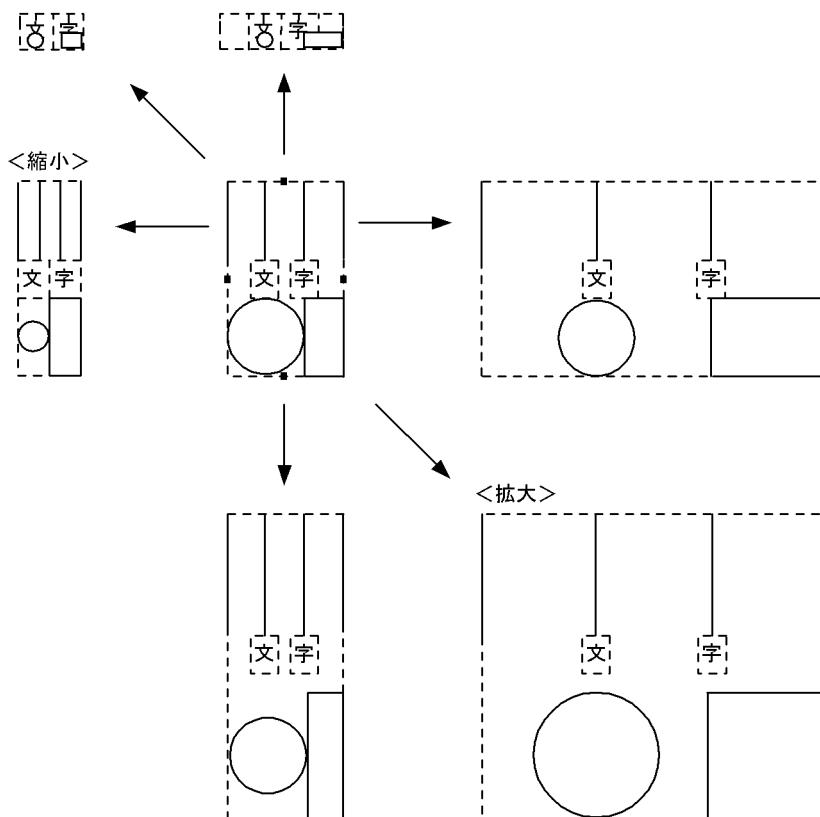
図 4-33 反復図形の拡大・縮小



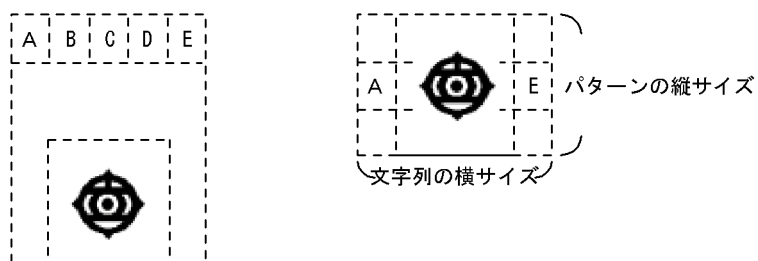
- 複数図形の拡大・縮小
 複数の編集対象図形を囲む矩形を拡大・縮小すると、個々の図形も拡大・縮小されます。矩形を縮小し続けて、各図形が入り切らなくなると、重なって配置されます。複数図形の拡大・縮小を次の図に示します。

図 4-34 複数図形の拡大・縮小

(例1)




(例2)





(g) 反復複写

編集対象図形を上下左右に指定した間隔で指定した回数複写します。

反復複写する手順を次に示します。

1. [書式设计]画面の標準ツールバーからプッシュボタン  , またはメニューバーの [編集] から [反復複写] を選択します。

複写元の図形内にマウスカースールがある場合は、 が表示され、図形外の場合は  が表示されます。

2. 複写先を指定します。

4. 書式定義機能

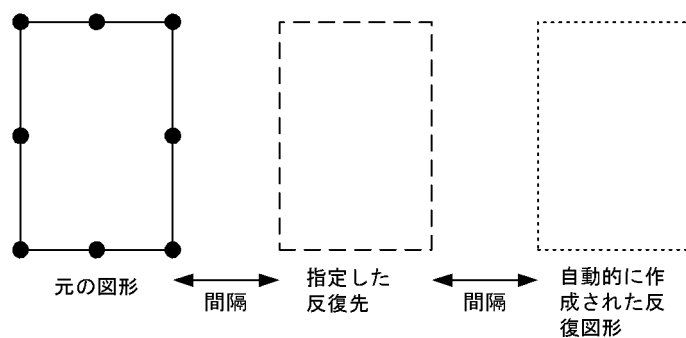
マウスマウスカーソルを複写先へ位置づけし、左マウスボタンを押すと、[複写回数入力]画面が表示されま
す。

3. 複写回数を入力します。
複写回数には1以上の数値を指定します。0を指定すると反復複写はされません。
4. 回数を確認して[OK]ボタンをクリックします。
複写された図形が表示されて、編集対象になります。
元の図形は編集対象ではなくなります。

補足事項

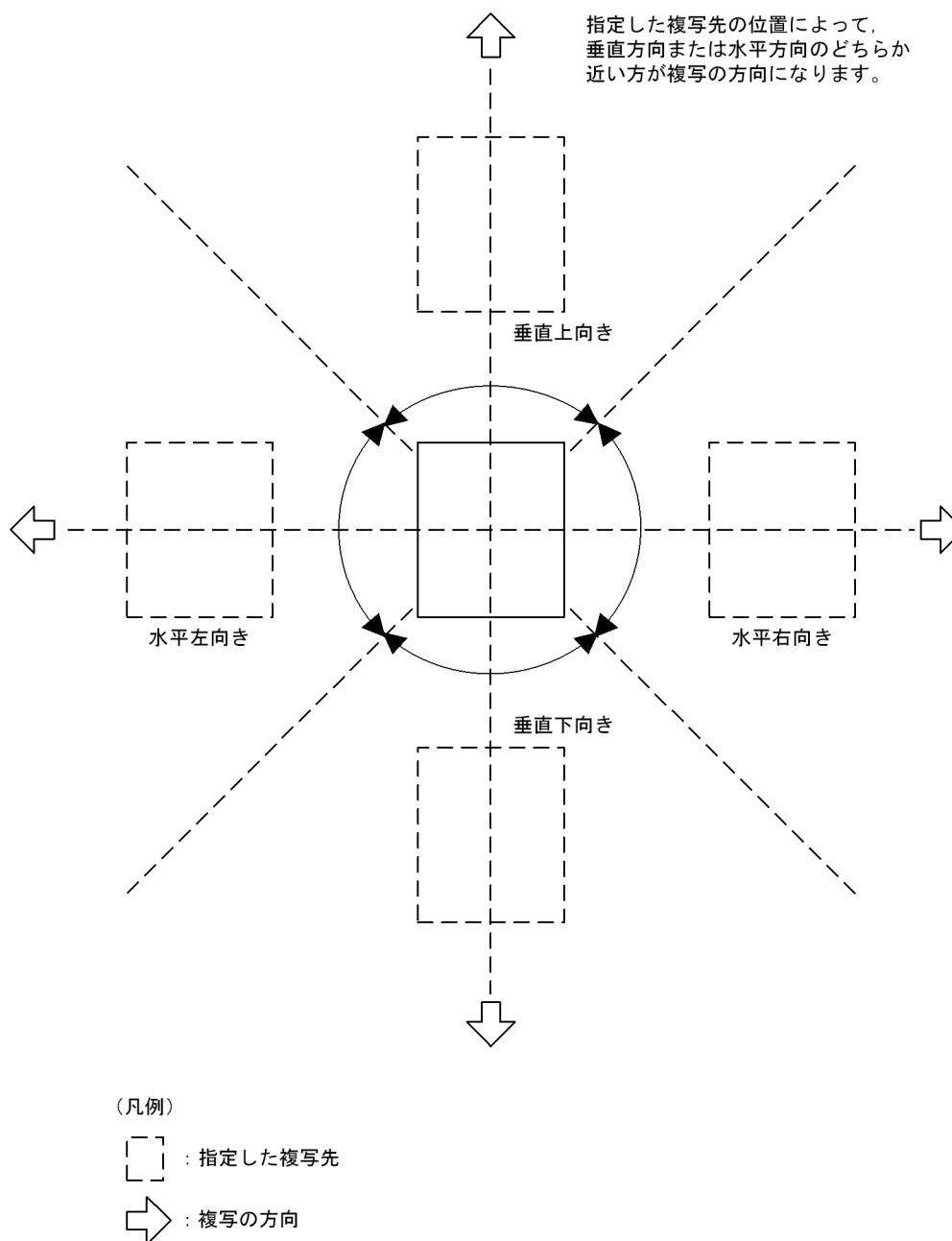
- 図形の間隔
図形の間隔（反復複写）を次の図に示します。

図 4-35 図形の間隔（反復複写）



- 複写の方向
複写の方向を次の図に示します。

図 4-36 複写の方向




(h) 反復

編集対象図形を上下または左右に反復します。図形の反復には、反復間隔、反復回数、および反復範囲から二つの項目を指定します。

間隔と回数を指定する反復

間隔と回数を指定する反復手順を次に示します。

1. [書式设计] 画面の標準ツールバーからプッシュボタン  , またはメニューバーの [編集] から [反復] - [間隔回数指定] を選択します。
2. 反復先を指定します。
マウスイカーソルを反復先へ位置づけし、左マウスボタンを押すと、編集対象図形の大きさが点線で表示され、[反復回数入力] 画面が表示されます。

3. 反復回数を入力します。

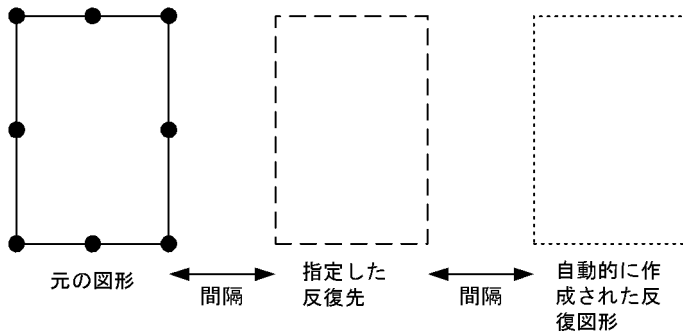
4. 回数を確認して [OK] ボタンをクリックします。

反復された図形が表示され、元の図形を含む図形群全体が一つの編集対象になります。

補足事項

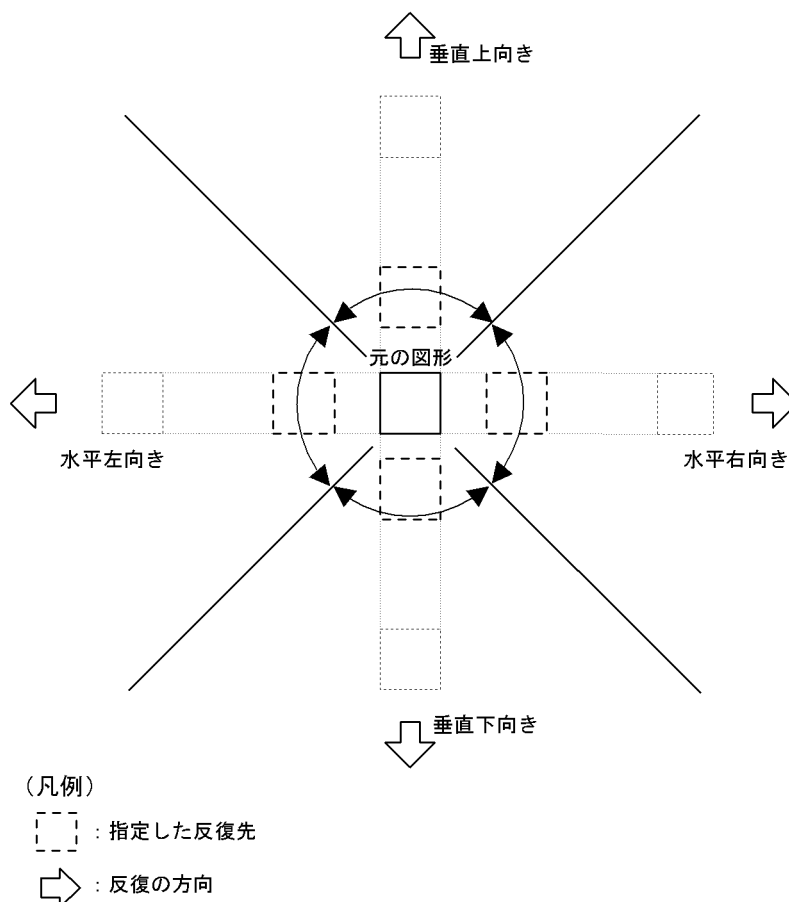
- 反復先の位置
反復先を元の図形に重ねることはできません。
- 図形の間隔
元の図形と指定した反復先との間隔が反復の間隔になります。
図形の間隔（間隔と回数を指定する反復）を次の図に示します。

図 4-37 図形の間隔（間隔と回数を指定する反復）



- 反復の方向
反復の方向を次の図に示します。


図 4-38 反復の方向



間隔と範囲を指定する反復

間隔と最後の位置を指定すると、回数は自動的に算出されます。

間隔と範囲を指定する反復手順を次に示します。

1. [書式设计]画面の標準ツールバーから押しボタン  , またはメニューバーの [編集] の [反復] から [間隔範囲指定] を選択します。
2. 反復先を指定します。
マウスカーソルを反復先へ位置づけし、左マウスボタンを押すと、編集対象図形の大きさが点線で表示され、反復範囲を指定する状態になります。
3. 反復範囲を指定します。
反復範囲の終わりの位置にポインタを位置づけて、左マウスボタンを押すと、反復範囲を示す矩形が点線で表示されます。ボタンを押したままマウスを移動して反復範囲を決めます。
ボタンを離すと、反復された図形が表示され、元の図形を含む図形群全体が一つの編集対象になります。

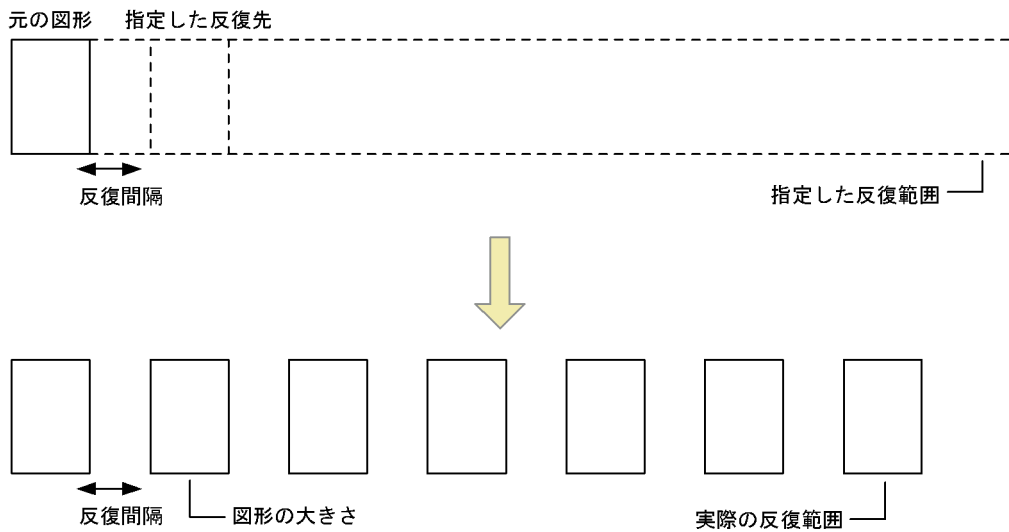
補足事項

間隔範囲指定の反復回数

指定した反復範囲が (反復間隔 + 図形の大きさ) の整数倍にならない場合は、整数倍に切り捨てた値が反復回数になるので、実際の反復範囲は指定した反復範囲より小さくなることがあります。

間隔範囲指定の反復回数を次の図に示します。


図 4-39 間隔範囲指定の反復回数



範囲と回数を指定する反復

最後の位置と回数を指定すると、間隔は自動的に算出されます。

範囲と回数を指定する反復手順を次に示します。

1. [書式设计]画面の標準ツールバーからプッシュボタン  , またはメニューバーの [編集] の [反復] から [範囲回数指定] を選択します。
2. 反復範囲を指定します。
反復範囲の終わりの位置にポインタを位置づけて、左マウスボタンを押すと、反復範囲を示す矩形が点線で表示され、[反復回数入力]画面が表示されます。
3. 反復回数を入力します。
4. 回数を確認して [OK] ボタンをクリックします。

反復された図形が表示され、元の図形を含む図形群が一つの編集対象になります。

解説

- 円、円弧の反復

単一の円、円弧を反復する場合は、中心点が重ならなければ図形の一部が重なってもかまいません。

円、円弧の反復（単一の円、円弧を反復する場合）を次の図に示します。

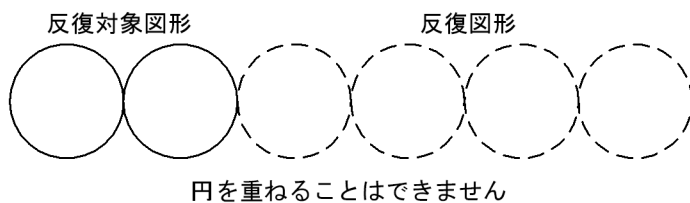
図 4-40 円、円弧の反復（単一の円、円弧を反復する場合）



複数の図形を反復する場合は、図形が重ならないようにしてください。

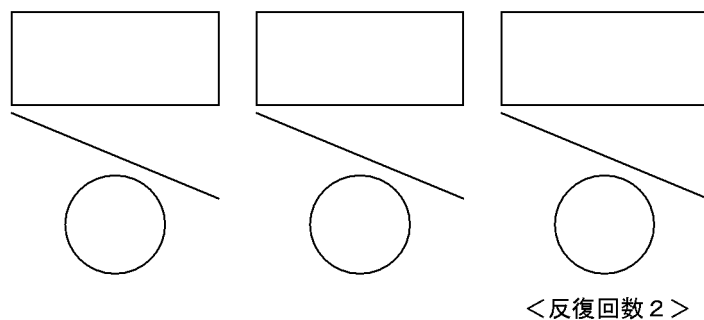
円、円弧の反復（複数の図形を反復する場合）を次の図に示します。

図 4-41 円，円弧の反復（複数の図形を反復する場合）



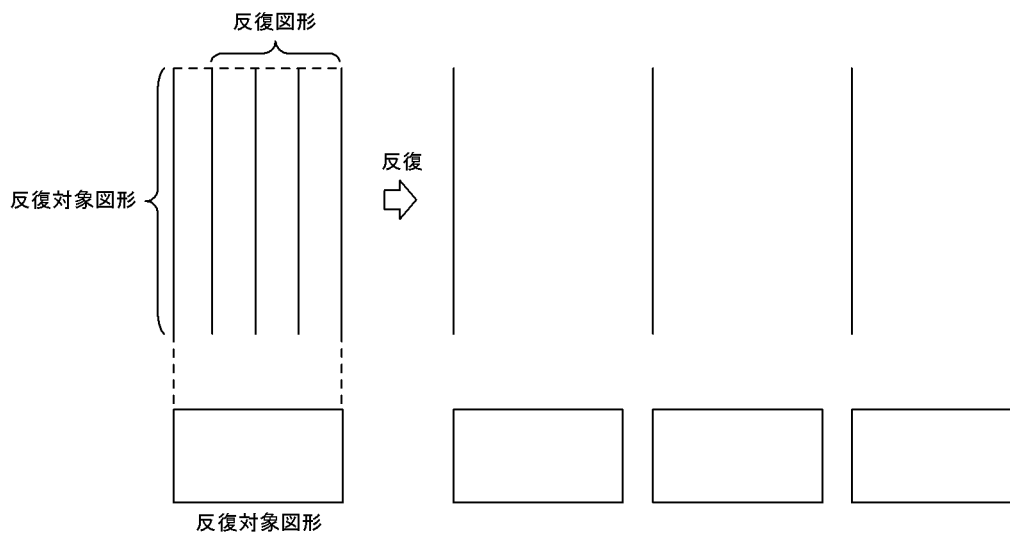
- 斜線を含む複数図形の反復
斜線を含む複数図形の反復を次の図に示します。

図 4-42 斜線を含む複数図形の反復



- 反復した図形の反復
反復の反復はできません。
反復図形を反復すると，元の編集対象図形が新しい反復間隔で反復されます。
反復した図形の反復を次の図に示します。

図 4-43 反復した図形の反復



反復図形を，反復回数に 0 を指定して反復し直すと，反復のない元の図形に戻ります。

- 反復複写と反復の違い
[反復複写]と[反復]には，次に示す違いがあります。
反復複写と反復の違いを次の表に示します。


表 4-16 反復複写と反復の違い

図形種別	特長
[反復複写] した図形	<ul style="list-style-type: none"> • 個別に編集できます。 • 書式上の図形の個数が複写した図形の個数だけ増えます。
[反復] した図形	<ul style="list-style-type: none"> • 1度の反復操作で作成された図形群全体が1個の図形として扱われるので、書式上の図形の個数が反復操作の回数しか増えません。 • 1度に反復した図形群全体の属性を変更できます。

(i) 属性変更

編集対象図形の属性を変更します。属性を変更できるのは、一つの図形に対してだけで、編集対象が複数の図形の場合、図形属性は変更できません。

属性変更する手順を次に示します。

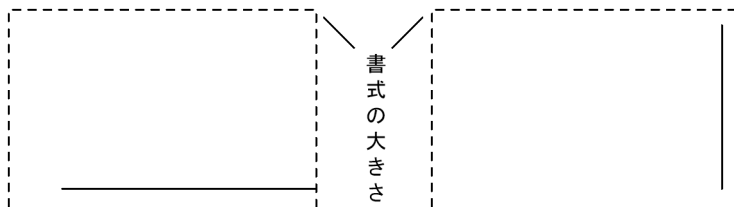
1. [書式设计] 画面の標準ツールバーからプッシュボタン  , またはメニューバーの [編集] から [属性変更] をクリックします。
[属性変更] 画面が表示されます。[属性変更] 画面は、編集対象図形の種類によって変わります。
2. 属性を指定します。
変更後の属性を指定します。
3. 属性を確認して [OK] ボタンをクリックします。
変更後の属性で、編集対象図形が表示されます。

補足事項

線属性を変更する場合の注意事項

- 線を太くして書式の端からはみ出すような変更はできません。
線を太くして書式の端からはみ出す変更例を次の図に示します。

図 4-44 線を太くして書式の端からはみ出す変更例



- 円、円弧が小さい場合は、線を太くできないことがあります。
- 反復された直線では、線を太くして直線が重なるような変更はできません。

矩形属性を変更する場合の注意事項

- 矩形が小さい場合は、線を太くできないことがあります。
- 矩形が小さい場合は、ラウンドコーナーにしたり、ラウンド直径を大きくできないことがあります。

文字属性を変更する場合の注意事項

- 文字サイズを大きくして文字領域または書式の端からはみ出すような変更はできません。
- 字間を大きくして文字領域または書式の端からはみ出すような変更はできません。
- 字間指定の文字列が反復されている場合、文字サイズや字間を大きくして反復図形が重なるような変更はできません。

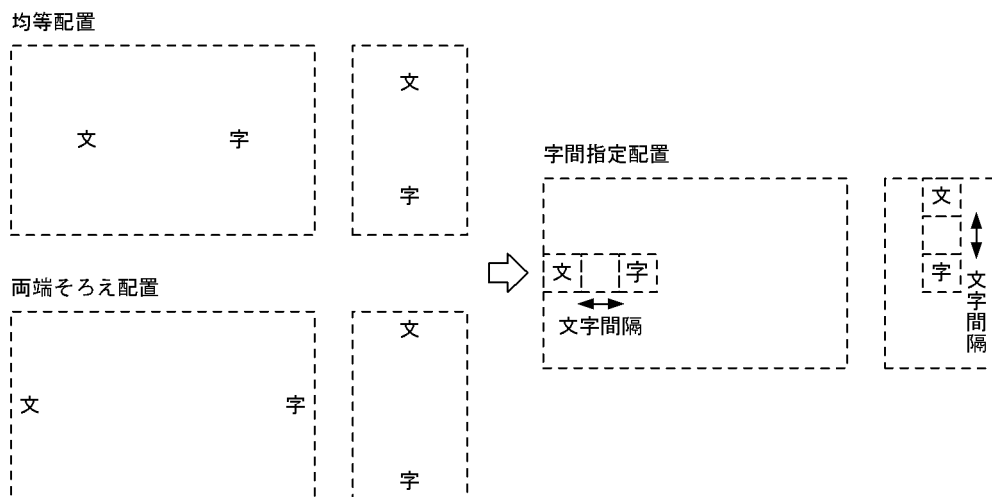
文字配置法の変更

文字の配置法を変更すると、次に示すようになります。

(1) 均等配置および両端そろえ配置から、字間指定配置への変更

均等配置および両端そろえ配置から、字間指定配置への変更を次の図に示します。

図 4-45 均等配置および両端そろえ配置から、字間指定配置への変更

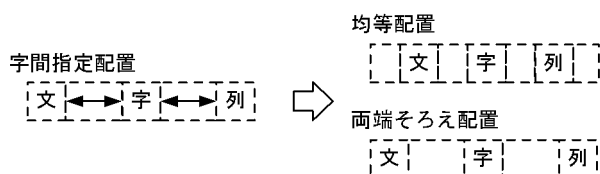


文字領域内に横書きでは左から、縦書きでは上から指定した文字間隔で配置されます。もう一度均等配置または両端そろえ配置に変更した場合も、「(2) 字間指定配置から、均等配置または両端そろえ配置への変更」の配置となるため、元には戻りません。

(2) 字間指定配置から、均等配置または両端そろえ配置への変更

字間指定配置から、均等配置または両端そろえ配置への変更を次の図に示します。

図 4-46 字間指定配置から、均等配置または両端そろえ配置への変更




文字領域の大きさは変えないで、均等配置または両端そろえで配置されます。

(j) 文字列変更

文字列中の文字を変更します。

複数の文字列が編集対象の場合は、文字列の内容を変更できません。

文字列変更する手順を次に示します。

1. [書式设计] 画面の標準ツールバーからプッシュボタン  , またはメニューバーの [編集] から [文字列変更] を選択します。
[文字列変更] 画面が表示されます。[文字列変更] 画面の入力方法は、[文字列入力] 画面と同様です。
2. 文字列を変更します。
変更する文字列を入力します。
3. 文字列を確認して [OK] ボタンをクリックします。
変更後の文字列が表示されます。

補足事項

文字数の変更


編集対象文字列の領域内に収まる範囲で、字間指定の文字列のときは書式内に収まる範囲で文字数を増やせます。

変更後の文字数が領域に収まらないときは、[拡大・縮小]して領域を広げてから、文字列を変更してください。

字間指定の横書き文字列は左に、縦書き文字列は上に [移動]すると、増やせます。

(k) センタリング

編集対象図形を指定した領域の中央に配置します。

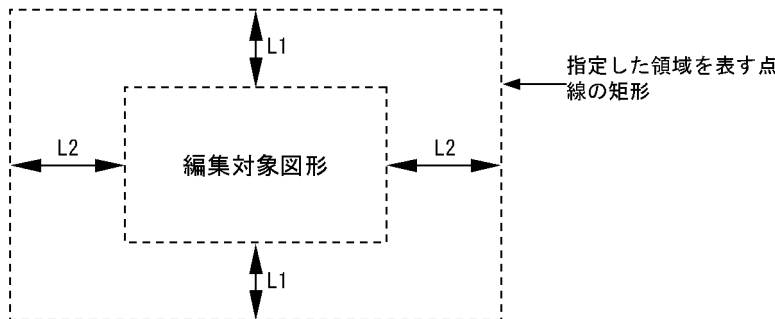
1. [書式设计]画面の標準ツールバーからプッシュボタン  ,メニューバーの [編集] から [センタリング] を選択します。
2. センタリングする領域の頂点を指定します。
3. センタリングする領域の対角点を指定します。
 ポインタの位置を対角点とする領域の大きさが点線で表示されます。左マウスボタンを押したままマウスを移動し、領域の大きさを決めます。
 ボタンを離すと、指定した領域の中央に、編集対象図形が表示されます。

補足事項

センタリングでは、編集対象図形が領域の中央に配置されます。編集対象図形が複数の図形でも、移動と同様に図形間の位置は変わりません。図形群がセンタリングされます。

センタリング後の図形の配置を次の図に示します。


図 4-47 センタリング後の図形の配置



(l) 図形微調整

マウス操作の誤差や格子補正による誤差をドット単位で調整し、図形の位置や大きさを微調整します。

図形を微調整する手順を次に示します。

1. [書式设计]画面の標準ツールバーからプッシュボタン  ,メニューバーの [編集] から [図形微調整] を選択します。
 編集対象図形に応じた [図形微調整] 画面が表示されます。
2. 変更する情報を選択します。
 変更する座標などの項目を選択します。
3. 情報を変更します。
 変更する方向のステップボタンをクリックします。
 クリックするごとに1ドットずつ変化します。

4. 確認して [OK] ボタンをクリックします。

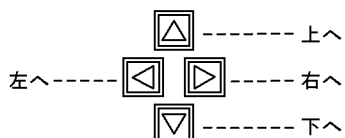
変更後の図形が表示されます。

解説

- ステップボタン

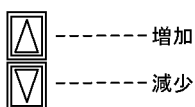
情報を変更するボタンで次に示すように操作します。

(1) 座標



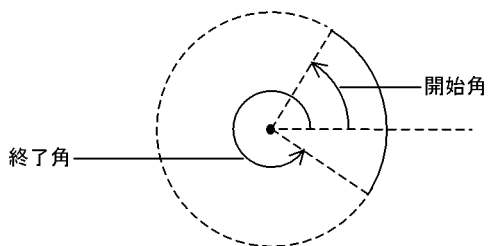
各ボタンをクリックすると座標が1ドットずつ変わります。

(2) 円，円弧の半径

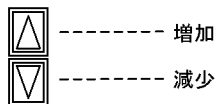


各ボタンをクリックすると半径が1ドットずつ変わります。

(3) 円弧の開始角，終了角



開始角，終了角とも，X軸から反時計回りに計った角度です。



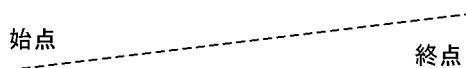
各ボタンをクリックすると角度が1度ずつ変わります。

- 各図形の微調整の方法

[図形微調整] 画面を使った微調整の方法を次に示します。

(1) 直線

- 微調整中の表示



始点と終点は，作画時に指定した直線の始点と終点です。

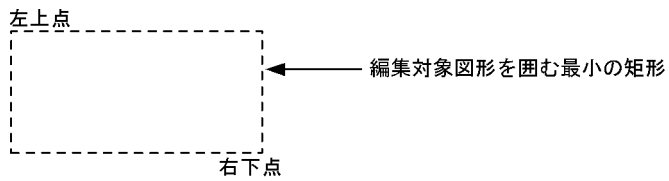
- 調整方法

始点と終点を同時に選択してから，ステップボタンをクリックすると，直線は移動します。
始点または終点のどちらか一方を選択すると拡大・縮小になります。

(2) 矩形，網掛け，均等配置文字列，両端そろえ文字列，反復した図形，および複数の図形

- 微調整中の表示

4. 書式定義機能



始点と終点は、作画時に指定した直線の始点と終点です。

- 調整方法

左上点と右下点を同時に選択してから、ステッパボタンをクリックすると図形は移動します。左上点または右下点のどちらか一方を選択すると拡大・縮小になります。

(3) パターン，字間指定文字列

- 微調整中の表示



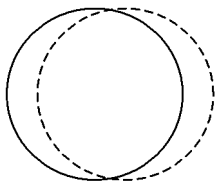
- 調整方法

拡大・縮小はできません。ステッパボタンをクリックすると，図形は移動します。

(4) 円

- 微調整中の表示

(右方向への微調整)



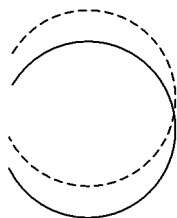
- 調整方法

座標を変更すると，円は移動します。拡大・縮小するには，半径を変更します。

(5) 円弧

- 微調整中の表示

(上方向への微調整)



- 調整方法


座標を変更すると，円弧は移動します。拡大・縮小するには，半径，開始角，または終了角を変更します。

開始角と終了角が重なるような変更はできません。

4.6.5 操作の中止

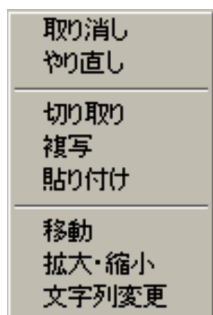
現在行っている操作を中止する場合、4 とおりの方法があります。

次に示すどれかを選択してください。

1. [Esc] キーを押します。
2. 画面表示中の場合、[キャンセル] ボタンをクリックします。
3. 画面表示中の場合、タイトルバーの右端の [閉じる] ボタン  をクリックします。
4. 編集機能の [貼り付け], [反復複写], [移動], [拡大・縮小], または [反復] などの入力待ちの場合、右マウスボタンをクリックすれば、次のポップアップメニューが表示されるので [中止] ボタンをクリックします。

補足事項

4 のポップアップメニューの [中止] ボタンは、画面表示中の場合では右マウスボタンを押しても無効ですので、1, 2, または 3 のどれかを選択してください。また、ポップアップメニューで次に示すメニューが表示された場合も [中止] できない状態ですので、1, 2, または 3 のどれかを選択してください。



4.6.6 書式表示倍率の変更

書式編集領域は、通常 100% を基準として表示していますが、この書式全体を縮小して作画・編集もできます。

書式表示倍率を変更する手順を次に示します。

1. [書式设计] 画面のメニューバーから [表示] を選択します。
2. 縮小したい倍率を選択します。
25% , 50% , 75% , または 100% のうちどれかを選択すると、その倍率で書式全体が変更されます。
選択された倍率の左側にチェックマークが付きます。

補足事項

縮小した状態は、書式情報には引き継がれません。したがって、一度ファイルを閉じて再度開いたときの表示状態は、環境設定ファイルで指定された値の倍率で表示されます。

4.6.7 書式の保存


設計した書式を書式イメージファイルへ保存する場合、次に示す 2 とおりの方法があります。

- 上書き保存
- 名前を付けて保存

(1) 上書き保存

[開く]の場合に指定したファイルと同一の書式に保存します。

上書き保存する手順を次に示します。

1. [書式设计]画面の標準ツールバーからプッシュボタン  ,またはメニューバーの[ファイル]から[上書き保存]を選択します。
ファイルを開いた状態の場合は、その書式は上書き保存されます。
そうでない場合は、[名前を付けて保存]画面を表示して、ファイル名を指定します。

(2) 名前を付けて保存

書式を別のファイル名で保存します。


名前を付けて保存する手順を次に示します。

1. [書式设计]画面のメニューバーの[ファイル]から[名前を付けて保存]を選択します。
[名前を付けて保存]画面を表示します。
2. 保存する場所を指定します。
3. ファイル名を入力して[OK]ボタンをクリックします。
保存する場所に同一ファイル名がなければ、その書式はそのファイル名で保存されます。
保存する場所に同一ファイル名があれば、上書き保存してよいかどうかの画面を表示して、ファイル名を指定します。

(3) メタファイルとして保存

書式を Windows 形式メタファイル(.wmf)または拡張形式メタファイル(.emf)の形式で保存します。

メタファイルとして保存する手順を次に示します。

1. [書式设计]画面の標準ツールバーからプッシュボタン  またはメニューバーの[ファイル]から[メタファイルとして保存]を選択します。
メタファイルとして[保存]画面を表示します。
2. 保存する場所を指定します。
3. ファイルの種類(メタファイル/拡張形式メタファイル)を選択します。
4. ファイル名を入力して[OK]ボタンをクリックします。
保存する場所に同一ファイル名がなければ、その書式はそのファイル名で保存されます。
保存する場所に同一ファイル名があれば、上書き保存してよいかどうかの画面を表示してファイル名を指定します。

4.7 書式部品の保存

作業中の書式を部品として保存する場合に使用します。

部品を登録するには、あらかじめ書式部品ファイルを作成する必要があります。

部品を保存する手順を次に示します。

1. [書式设计]画面のメニューバーの[ファイル]から[部品として保存]を選択します。
[部品の保存]画面が表示されます。
2. 部品のファイル名を入力し,[OK]ボタンをクリックします。
書式イメージファイル作成と同じ要領で部品を作成します。
ファイル名の拡張子は、「.prt」固定とします。省略時は「.prt」を仮定します。
部品の内容などに関するコメントは、概要欄に入力できます。

補足事項

書式イメージファイルからの図形の受け渡し

書式イメージファイル作成中に[複写]または[切り取り]で、部品として登録したい図形群を一時的に記憶して、書式部品として[貼り付け]すれば部品を作成できます。

4.8 色番号の設定



編集対象図形に色番号を設定します。

色番号を設定する手順を次に示します。

1. [書式设计] 画面のカラーツールバーから設定したい色番号のボタン



編集対象図形に色番号が設定され、環境設定で設定した色で図形が表示されます。

2. カラーツールバーの最前面に移動ボタン  または最背面に移動ボタン  を選択して、図形の順序を調節します。

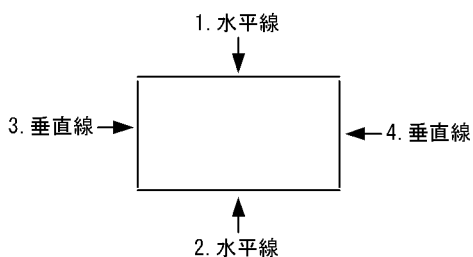
環境設定で図形の順序の考慮を禁止していない場合は、色番号を設定した図形またはその図形と重なった図形の順序を変更することで、図形の順序を調節できます。ただし、網掛けは網掛け、パターンはパターン同士でしか並べ替えられないため、最後尾から網掛け、パターン、それ以外の図形という順序も並べ替えることはできません。

注意事項

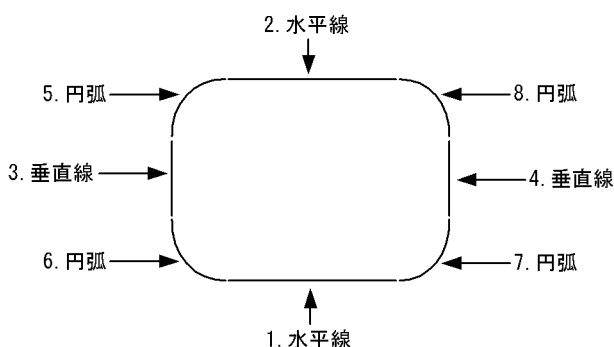
- 図形の順序の考慮を禁止した場合の図形の順序
環境設定で図形の順序の考慮を禁止した場合は、最前面から次に示す順で書式オーバーレイモジュールが生成され、同じ種類の図形内では入力順になります。
 1. 文字列、
 2. 円弧、円、またはパターン
 3. 水平線または垂直線
 4. 網掛けまたは斜線
- 書式オーバーレイモジュールの矩形
書式オーバーレイモジュールの矩形は次に示す図の番号の順序に分解されて出力されます。

図 4-48 書式オーバーレイモジュールの矩形

- ・ 矩形ラウンドコーナーなし



- ・ 矩形ラウンドコーナーあり



- ・ 図形の順序の考慮での設定（禁止しない設定から禁止する設定）
環境設定で図形の順序の考慮を禁止しない設定にして、書式设计で設計した書式イメージファイルから、環境設定で図形の順序の考慮を禁止する設定にして、書式オーバーレイモジュール生成で書式オーバーレイモジュールを生成した場合、書式设计時の書式イメージどおり出力されない場合があります。
- ・ 図形の順序の考慮を禁止する設定での矩形
環境設定で図形の順序の考慮を禁止する設定にして、書式オーバーレイモジュール生成で生成した書式オーバーレイモジュールの円弧、水平線または垂直線が矩形と重なった場合に、矩形の一部が円弧、水平線または垂直線に対して前後に表示される場合があります。
図形の順序の考慮を禁止する設定での矩形を次の図に示します。

図 4-49 図形の順序の考慮を禁止する設定での矩形



- ・ 図形の順序の考慮を禁止する場合の利点
図形の順序の考慮を禁止しない場合より、書式オーバーレイモジュールのサイズが小さくなります。

4.9 書式パターンの作成

パターンの作成には、あらかじめテキストエディタ（Windows のメモ帳など）で書式パターンファイルを作成しておく方法と、あらかじめ Windows のペイントなどで作成したモノクロのビットマップを PDE・Form Designer のパターン・コンバータを用いてパターンに変換する方法があります。

(1) テキストエディタを用いたパターンの作成

テキストエディタを用いたパターンを作成する手順を次に示します。

1. テキストエディタの操作に従ってパターンを作成します。
1 行目は、パターン ID レコードを指定します。2 行目以降に、ドット単位でパターンデータを作成していきます。
2. ファイル名の拡張子に「.bpn」（固定）を付加して保存します。
拡張子を省略した場合は、「.bpn」を仮定します。

解説

書式パターンの作成例を次の図に示します。

図 4-50 書式パターンの作成例

1	BPNX15, 30; 郵便マーク	←	パターンIDレコード
2	@@@@@@@@@@@@		
3	@@@@@@@@@@@@	←	パターンデータレコード
4			
5	@@@@@@@@@@@@@@@@		
6	@@@@@@@@@@@@@@@@		
7	@@		
8	@@		
9	@@		
10	@@		
11	@@		
12	@@		
13			
14			

パターン ID レコード

1 行目は次に示す項目を、続けて「BPNXxxxx,yyyy; コメント」の形で指定します。

BPNX : パターンシート ID

xxxx : パターン横ドットサイズ

yyyy : パターン縦ドットサイズ

コメント : コメント

パターン ID レコードの指定項目を次の表に示します。

表 4-17 パターン ID レコードの指定項目

指定項目	内容
パターンシート ID	「BPNX」と指定します。
パターン横ドットサイズ	パターンの横方向の大きさをドット数で指定します。
パターン縦ドットサイズ	パターンの縦方向の大きさをドット数で指定します。

指定項目	内容
コメント	書式パターンシートに対する任意のコメントを指定できます。コメントは省略できますが、コメントを省略する場合であってもパターン縦ドットサイズのあとのセミコロン (;) は省略できません。

パターンデータレコード

2 行目以降にパターンを作成します。各 1 文字がパターンの 1 ドットに対応し、空白 (20)₁₆ を指定した場合は対応するドットが OFF に、それ以外の文字を指定した場合は対応するドットが ON になります。

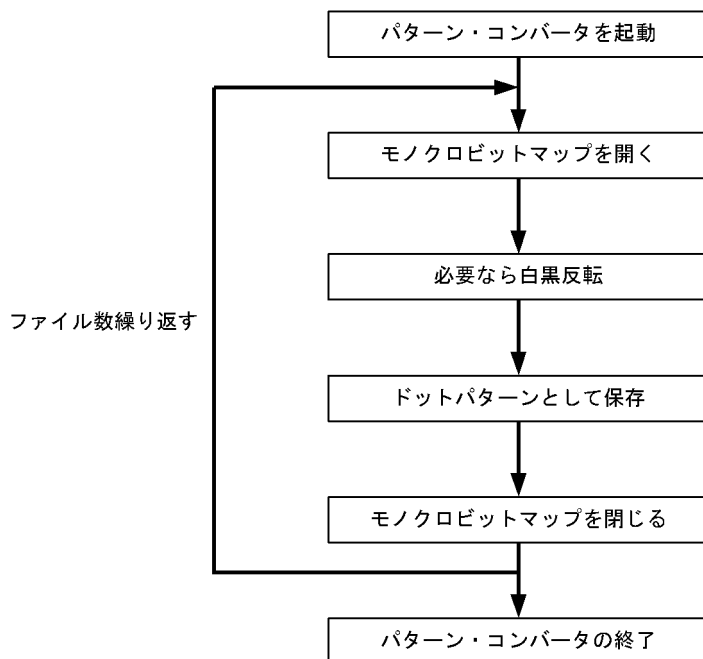
注意事項

- ・パターンデータレコード長がパターン横ドットサイズより長い場合、超過分は無視されます。短い場合は、不足分は空白になります。
- ・パターンデータレコード数がパターン縦ドットサイズより多い場合、超過分は無視されます。少ない場合は、不足分は空白になります。
- ・タブ (09)₁₆ は、空白 8 個になります。

(2) パターン・コンバータを用いたパターンの作成




パターン・コンバータは、モノクロ 2 階調の Windows ビットマップを PDE・Form Designer で扱える形式のドットパターンに変換するコンバータです。Windows のペイントで編集したモノクロビットマップやイメージスキャナで取り込んだモノクロビットマップをパターン・コンバータでドットパターンに変換することによって、PDE・Form Designer で取り込むことができます。ビットマップからドットパターンへの変換の流れを次の図に示します。

図 4-51 ビットマップからドットパターンへの変換の流れ



パターン・コンバータを用いたパターンを作成する手順を次に示します。

1. PDE・Form Designer の [パターン・コンバータ] アイコンを選択します。
[パターン・コンバータ] アイコンは PDE・Form Designer のインストール時に作成されています。このアイコンを選択すると、[パターン・コンバータ] 画面が表示されます。

2. ツールバーのプッシュボタン  , またはメニューバーの [ファイル] から [ビットマップを開く] を選択します。
[ビットマップファイルの選択] 画面が表示されます。
ビットマップファイルを選択すると、画面の下部にビットマップの情報が表示されます。開くことができるビットマップの場合は、その旨のメッセージが表示されますので、[開く] ボタンをクリックします。[ビットマップファイルの選択] 画面が閉じられ、[パターン・コンバータ] 画面にビットマップファイルのイメージが表示されます。
3. 白黒反転が必要なとき、ツールバーのプッシュボタン  またはメニューバーの [編集] から [白黒反転] を選択します。
白黒反転します。
4. ツールバーのプッシュボタン  , またはメニューバーの [ファイル] から [パターンとして保存] を選択します。
[パターンとして保存] 画面が表示されます。
ファイル名と概要を入力後、[保存] ボタンをクリックします。
概要は省略できます。[キャンセル] ボタンをクリックするとファイルは保存されません。

補足事項

環境設定のフォルダ設定

メニューバーの [全体設定] から [フォルダ設定] を選択すると、[フォルダ設定] 画面が表示されます。ビットマップファイルとパターンファイルの格納フォルダを指定できます。

[参照] ボタンをクリックすると [フォルダの参照] 画面が表示されますので、フォルダを選択し [OK] ボタンをクリックしてください。

この設定をすることで、「ビットマップを開く」および「パターンとして保存」操作時の、フォルダ移動を少なくできます。この設定は、パターン・コンバータを終了させて、再起動させた場合にも有効です。

変換の範囲

変換できるのは次に示す条件を満たすビットマップに限ります。

形式：WindowsDIB フォーマット

カラー：2 階調

カラーのビットマップは Windows のペイントなどで、上記の条件のビットマップに変換することで取り扱えます。

5

書式オーバーレイモジュール生成機能

この章では、PDE - Form Designer の書式オーバーレイモジュール生成機能について説明します。

-
- 5.1 書式オーバーレイモジュール生成機能とは
 - 5.2 書式オーバーレイモジュール生成機能の入出力ファイル
 - 5.3 [書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面と項目一覧
 - 5.4 書式オーバーレイモジュールの生成
 - 5.5 コマンドプロンプトを使用した書式オーバーレイモジュール生成
-

5.1 書式オーバーレイモジュール生成機能とは

書式オーバーレイモジュールは、PDE で書式オーバーレイ印刷をする場合に必要帳票の見出しまたはけい線などの固定部分を定義する制御イメージです。

書式オーバーレイモジュール生成機能は、書式オーバーレイゼネレータ FOG2 E2 に相当する機能で、書式定義機能で作成した書式イメージファイルからコマンドラインまたは GUI インタフェースで書式オーバーレイモジュールを生成します。

5.2 書式オーバーレイモジュール生成機能の入出力ファイル

書式オーバーレイモジュール生成機能の入出力対象となるファイルとその役割を次の表に示します。

表 5-1 書式オーバーレイモジュール生成機能の入出力対象となるファイルとその役割

ファイル	入出力	ファイルの役割
書式イメージファイル (*.fog)	入力	書式定義機能で書式设计した内容を保存するファイルです。
環境設定ファイル (FDEnv.ini)	入力	画面からの操作をする場合に参照するファイルです。このファイルがない場合は、初期値で動作します。生成する書式オーバーレイモジュールのイメージ種別、入力する書式イメージファイルのフォルダ、および書式オーバーレイモジュールの出力先フォルダの初期設定情報を登録しておきます。詳細については、「3. 環境設定機能」を参照してください。
漢字コード変換テーブル (codemap.tbl)	入力	漢字コードマップ機能が生成するシフト JIS コードと KEIS コードの対応関係が定義された実行形式ファイルです。環境設定で [イメージ種別] に [オープン]、および [外字マッピング] に [ランダム・マッピング] が設定されている場合、書式设计機能で書式中に定義された外字のコード変換に使用します。
書式オーバーレイモジュールファイル	出力	この機能が作成する書式オーバーレイモジュールを保存するファイルです。 PDE のユーザイメージライブラリにコピーして使用します。 ファイルの名称については、「5.2.1 書式オーバーレイモジュールファイル名」を参照してください。 なお、すでに同一名称のファイルが出力フォルダ内に存在する場合、上書きされます。

5.2.1 書式オーバーレイモジュールファイル名

出力する書式オーバーレイモジュールファイル名は、入力となる書式イメージの内容とイメージ種別の指定によって決まります。

イメージ種別とは、画面からの操作で書式オーバーレイモジュール生成する場合は、環境設定で指定されたイメージ種別で、コマンドプロンプトからの起動で書式オーバーレイモジュール生成する場合は、コマンドラインで指定されたイメージ種別のことで、VOS3、VOS1、VOSK、またはオープンのどのシステムと連携している PDE で使用するかという指定です。

書式オーバーレイモジュールファイル名を次の表に示します。

表 5-2 書式オーバーレイモジュールファイル名

イメージ種別	ファイル名
VOS3	FOROcccc
VOS1	FOROcccc.OBJECT
VOSK	FOROcccc.DATA
オープン	FOROcccc.FOROP

(凡例)

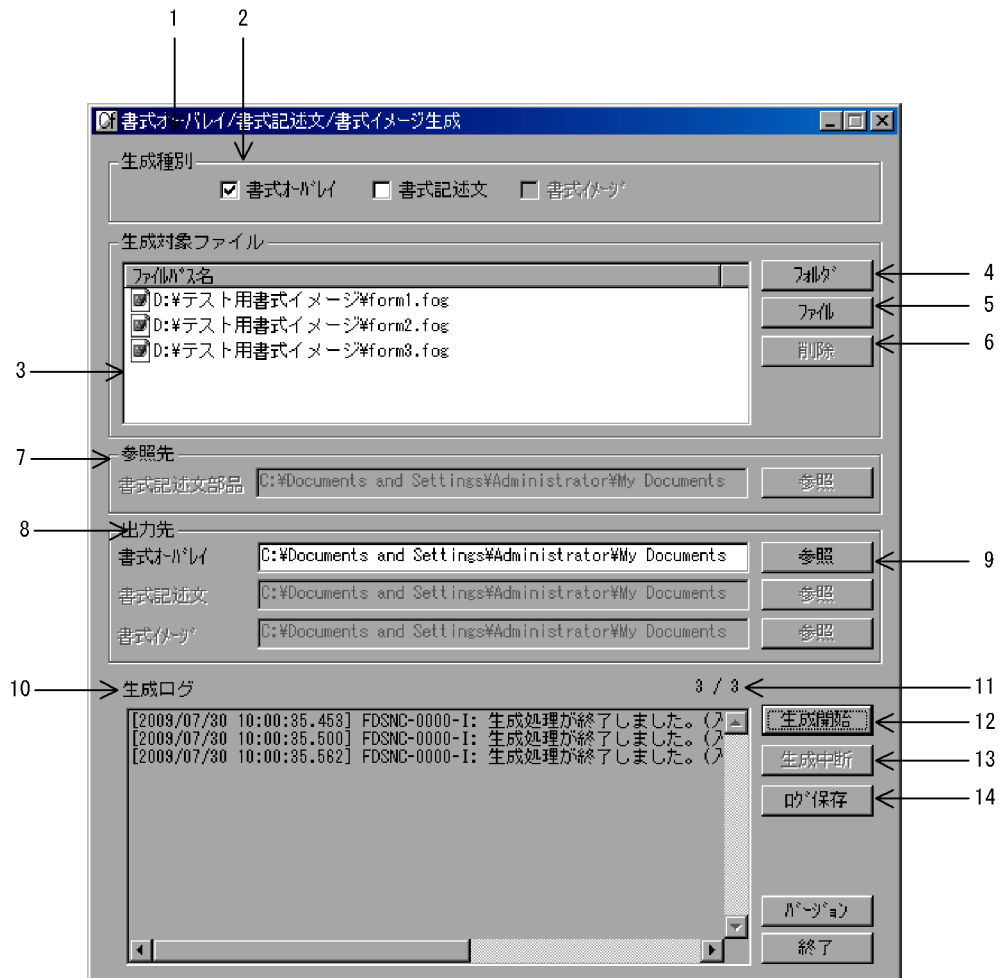
cccc：書式名を示します。書式设计機能での [書式情報] 画面の「書式名」の項目で設定した 4 文字以内の英数字です。ただし、書式名が「¥」を含んでいた場合、「¥」は「_」に置き換わります。

5. 書式オーバーレイモジュール生成機能

PDEに入力できる書式オーバーレイモジュールファイルについては、「1.6 PDE - Form Designer の適用範囲」を参照してください。

5.3 [書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面と項目一覧

[書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面構成を次に示します（項番は項目の説明の番号と対応しています）。



1. タイトルバー
タイトルには「書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成」が表示されます。
2. 生成種別ボックス
生成を行う形式を指定します。
3. 生成対象ファイルリスト
生成対象となっているファイルが表示されます。生成対象ファイルの追加方法の詳細については、「5.4 書式オーバーレイモジュールの生成」の操作手順を参照してください。
4. [フォルダ] ボタン
[フォルダの参照] 画面が表示されます。[フォルダの参照] 画面で指定したフォルダ内のすべてのファイルを生成対象ファイルリストに登録します。
5. [ファイル] ボタン
[ファイルを開く] 画面が表示されます。[ファイルを開く] 画面で指定したファイルを生成対象ファイルリストに登録します。

5. 書式オーバーレイモジュール生成機能

6. [削除] ボタン
生成対象ファイルリストから選択されたファイルを削除します。
7. 参照先ボックス
参照するファイルの保存場所が表示されます。編集もできます。
8. 出力先ボックス
生成ファイルの保存場所が表示されます。編集もできます。
9. [参照] ボタン
[フォルダの参照] 画面が表示されます。[フォルダの参照] 画面で指定したフォルダを上記「7. 参照先ボックス」、および「8. 出力先ボックス」に設定します。
10. 生成ログの表示
生成中のログが表示されます。
11. 生成作業の進行状況の表示
” 現在の生成数 / 生成対象ファイル数 ” が表示されます。
12. [生成開始] ボタン
選択時に生成が開始されます。
13. [生成中断] ボタン
生成中に選択すると生成を中断します。
14. [ログ保存] ボタン
[名前を付けて保存] 画面が表示されます。[名前を付けて保存] 画面でログを保存するファイルを指定すると、ファイルに保存されます。


5.4 書式オーバーレイモジュールの生成

書式オーバーレイモジュールを生成する手順を次に示します。

1. プログラムメニューから、PDE Form Designer の書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成のアイコンを選択します。
[書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面が表示されます。
2. [書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面の [生成種別] の [書式オーバーレイ] を選択します ([生成種別] に [書式イメージ] が選択されている場合は、[書式イメージ] の選択を解除してから [書式オーバーレイ] を選択します)。
[出力先] の [書式オーバーレイ] に、生成する書式オーバーレイモジュール保存先の初期値として環境設定で設定済みのフォルダが表示され、出力先変更のための [参照] ボタンが選択できるようになります。
3. 生成対象ファイルを指定します。
生成対象ファイルを指定するには、次に示す三つの方法があります。
 - [フォルダ] ボタンから生成対象ファイルを追加
[フォルダ] ボタンをクリックすると、[フォルダの参照] 画面が表示されますので、フォルダを選択し [OK] ボタンをクリックしてください。これによって、指定したフォルダ直下にあるすべての書式イメージファイルが、生成対象ファイルとして追加されます。
 - [ファイル] ボタンから生成対象ファイルを追加
[ファイル] ボタンをクリックすると、[ファイルを開く] 画面が表示されますので、書式イメージファイルを選択し [OK] ボタンをクリックしてください。これによって、指定した書式イメージファイルが生成対象ファイルとして追加されます。
 - エクスプローラなどからドラッグ&ドロップで生成対象ファイルを追加
エクスプローラなどに表示されている一つまたは複数の書式イメージファイルを、生成対象ファイルリストへドラッグ&ドロップして追加します。
フォルダのドラッグ&ドロップもできます。フォルダをドラッグ&ドロップした場合は、フォルダ直下にあるすべての書式イメージファイルが生成対象ファイルとして追加されます。

指定したファイルを生成対象から外したい場合は、対象外にするファイル (複数選択可) を選択し、[削除] ボタンをクリックします。
同一ファイルまたはフォルダを 2 回以上追加した場合、その回数分生成対象ファイルリストに追加されます。そのまま生成を実行しても問題ありませんが、重複がないよう一方を削除してから生成を開始することを推奨します。
4. [出力先] の [書式オーバーレイ] に表示されている出力先以外のフォルダに、書式オーバーレイモジュールを出力する場合は、直接入力するかまたは [参照] ボタンをクリックして、出力先を変更します。
[フォルダの参照] 画面が表示されますので、フォルダを選択し [OK] ボタンをクリックしてください。
出力先が設定されていない場合は、マイドキュメントフォルダに出力されます。
5. [生成開始] ボタンをクリックします。
生成対象ファイルから順に書式オーバーレイを生成します。
生成ログボックスに、生成時のメッセージが表示されます。メッセージの詳細については「14. エラーメッセージ」を参照してください。ログ一覧の右上に生成時の処理済みファイル数が表示されます。
6. 生成を中断したい場合は、[生成中断] ボタンをクリックします。
中断のタイミングは、1 ファイル単位となります。

5. 書式オーバーレイモジュール生成機能

7. 表示されている生成ログをファイルに保存しておきたい場合は、[ログ保存] ボタンをクリックします。
[名前を付けて保存] 画面が表示されますので、ログを保存するファイルを指定します。
生成結果が、生成ログとして [書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面に表示されます。
8. [書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面の [終了] ボタンをクリックするか、またはタイトルバーの右端の [閉じる] ボタン  をクリックします。
[書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面が終了します。
選択した生成種別は、次に [書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面を起動した場合に有効になります。

補足

PDE・Form Designer 記述文オプションがインストールされている場合、[書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面の [生成種別] の [書式記述文] が選択できます。[生成種別] の [書式オーバーレイ] および [書式記述文] を同時に選択して [生成開始] ボタンをクリックすれば、生成対象ファイルに対して書式オーバーレイモジュール生成および書式記述文生成を連続して実行できます。書式記述文生成の詳細については、「10. 書式記述文生成機能」を参照してください。書式イメージ生成の詳細については、「11. 書式イメージ生成機能」を参照してください。

5.5 コマンドプロンプトを使用した書式オーバーレイモジュール生成

Windows のコマンドプロンプトで FDSNC.exe を実行して、書式オーバーレイモジュール生成機能を起動します。書式オーバーレイモジュール生成機能の起動は、次に示すどれかの方法で行います。

- FDSNC
- FDSNC /h
- FDSNC 入力ファイル名
- FDSNC 入力ファイル名 /d 出力フォルダ名
- FDSNC 入力ファイル名 /t イメージ種別
- FDSNC 入力ファイル名 /d 出力フォルダ名 /t イメージ種別

注

- コマンドプロンプトからの実行では、環境設定機能で設定した内容は無効となります。
- 各パラメタの順番は、上記のとおりで変更できません。

FDSNC コマンドで指定するパラメタを次の表に示します。

表 5-3 FDSNC コマンドで指定するパラメタ

パラメタ	説明	省略時の仮定値
/h	/h を指定すると、コマンドの使用方法与バージョンが表示されます。	-
入力ファイル名	入力となる書式イメージファイル (*.fog) を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 絶対パスまたは相対パスで指定できます。 • ワイルドカード指定またはフォルダ指定はしないでください。 	-
/d 出力フォルダ名	生成した書式オーバーレイモジュールを保存する既存のフォルダを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 絶対パスまたは相対パスで指定できます。 • /d と出力フォルダ名は必ず組で指定してください。 	起動時のカレントフォルダ
/t イメージ種別	メインフレームのどの OS と連携して運用されている PDE で使用するために書式オーバーレイモジュールを生成するかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • VOS3, VOS1, VOSK, または OPEN (オープン) のどれかを指定します。 • /t とイメージ種別は必ず組で指定してください。 	VOS3

(凡例)

- : 該当しません。

注 出力先フォルダをパス指定する場合は、長さが 244 バイト以下となるように指定してください。

6

FCB イメージ作成機能

この章では、PDE - Form Designer の FCB イメージ作成機能について説明します。

-
- 6.1 FCB イメージ作成機能とは
 - 6.2 FCB イメージ作成の手順
 - 6.3 FCB イメージ作成機能の入出力ファイル
 - 6.4 [FCB イメージ作成機能] 画面とメニュー項目一覧
 - 6.5 FCB イメージ作成の開始と終了
 - 6.6 FCB イメージの編集の設定
 - 6.7 FCB イメージの保存
-

6.1 FCB イメージ作成機能とは

FCB (Forms Control Buffer) イメージは、漢字プリンタの用紙の大きさ、行間隔、および行に対するチャンネル番号などを指定する制御イメージです。

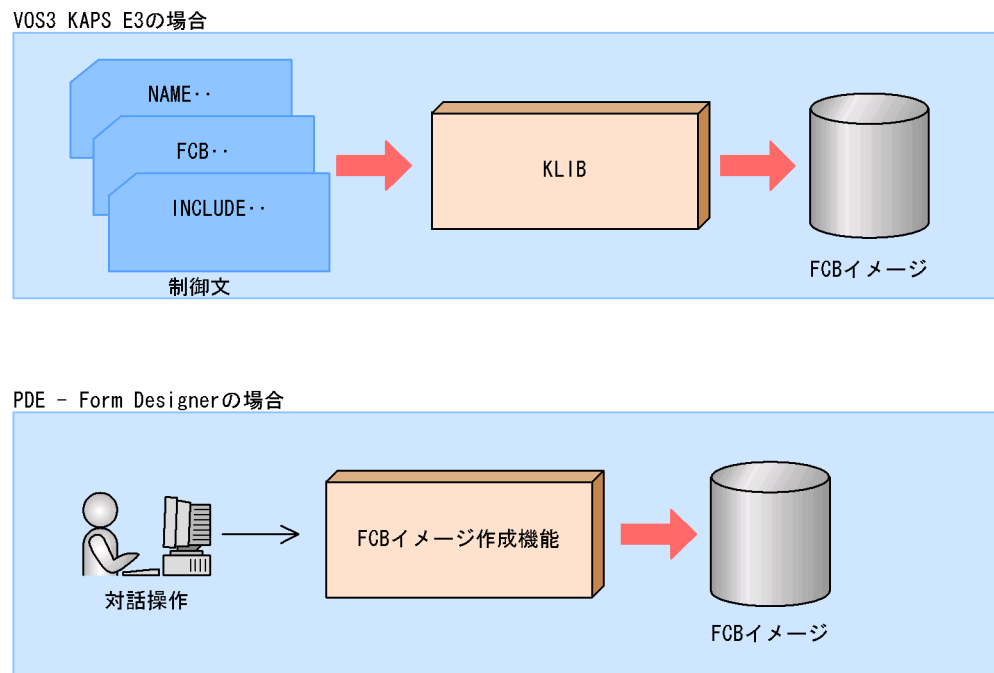
さらに、両面印刷プリンタの場合は、両面印刷、とじ代位置、印字禁止領域、回転印刷、および縮小印刷が指定できます。

FCB イメージでの 8 けた以内の名前のうち、上 4 けた (プリフィクス) は、プリンタ装置によって固有のプリフィクスを持っており、上 4 けた (プリフィクス) を除いた名前を FCB イメージ名と呼びます。

FCB イメージ作成機能は、VOS3 KAPS E3 の帳票保守 (KLIB)、VOS1 KAPS の漢字ライブラリ保守 (KLIB)、および VOSK 漢字処理 (EDIT DCI コマンド使用) の FCB イメージ作成機能に相当する機能で、PDE で使用する FCB イメージを GUI によって対話的に作成する機能です。直接 FCB イメージを作成したり、メインフレームから FCB イメージをバイナリ転送し、それを入力として FCB イメージの作成をしたりできます。

メインフレームと PDE - Form Designer での FCB イメージ作成の流れを、次の図に示します。

図 6-1 メインフレームと PDE - Form Designer での FCB イメージ作成の流れ



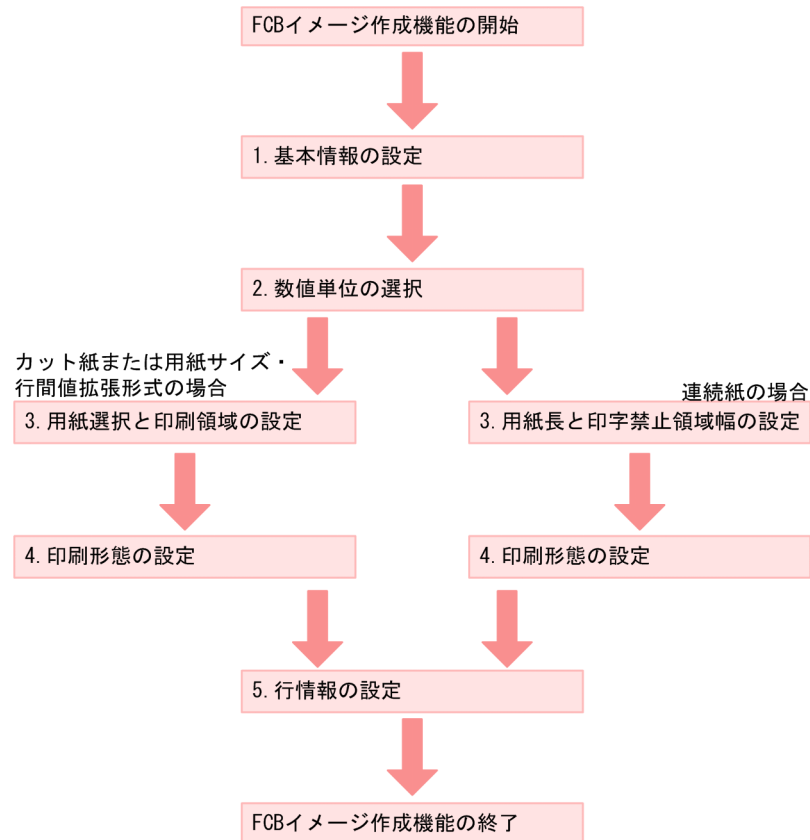
なお、VOS1 および VOSK で作成した FCB イメージを PDE - Form Designer の入力として、FCB イメージを作成する場合には、転送前にメインフレーム上で FCB イメージを PDE イメージ転送で変換しておく必要があります。PDE イメージ転送の使用法およびファイル転送の方法については、マニュアル「PRINT DATA EXCHANGE」を参照してください。

VOS3 KAPS E3 および VOS1 KAPS (KLIB) の FCB イメージ作成機能で使用する制御文・オペランド、ならびに VOSK EDIT DCI のパネル指定値と、PDE - Form Designer での FCB イメージ作成機能の関係については、「付録 A.1 FCB イメージ作成 (VOS3 KAPS E3 (KLIB))」、「付録 B.1 FCB イメージ作成 (VOS1 KAPS (KLIB))」、および「付録 C.1 FCB イメージ作成 (VOSK EDIT DCI コマンド)」を参照してください。

6.2 FCB イメージ作成の手順

FCB イメージ作成の開始から終了までの手順を次の図に示します。

図 6-2 FCB イメージ作成の開始から終了までの手順



1. 新規作成時には基本情報（形式，プリンタ，プリンタモード，プリフィクス，および行間隔入力方式）を設定します。

2.FCB イメージ作成時にどの単位を用いて設定するかを選択します。

カット紙または用紙サイズ・行間値拡張形式の場合

3. 用紙サイズと用紙向き，マージンを設定します。

4. 次に示す印刷形態を設定します。

- 両面印刷または片面印刷の選択
- 桁ずらし文字数（AN モードだけ）
- 両面印刷時のとじ代位置
- 180°回転指定の有無

連続紙の場合

3. 用紙長と印字禁止領域幅を設定します。

6. FCB イメージ作成機能

4. 次に示す印刷形態を設定します。
桁ずらし文字数 (AN モードだけ)

5. 印刷領域に収まるように行情報を設定します。

6.3 FCB イメージ作成機能の入出力ファイル

FCB イメージ作成機能の入出力対象となるファイルと役割を次の表に示します。

表 6-1 FCB イメージ作成機能の入出力対象となるファイルと役割

ファイル	入出力	ファイルの役割
FCB イメージファイル	入力	FCB イメージ作成機能, またはメインフレームで作成された FCB イメージファイルは, 内容を変更するために入力ができます。
	出力	FCB イメージ作成機能で FCB イメージを新規作成または変更した内容を保存します。 出力されたファイルは, PDE のユーザイメージライブラリにコピーして使用します。 ファイルの名称については, 「6.3.1 FCB イメージファイル名」を参照してください。
環境設定ファイル (FDEnv.ini)	入力	FCB イメージを新規作成時に参照します。 生成する FCB イメージのイメージ種別, および入力する FCB イメージファイルの格納フォルダの初期設定情報を登録しておきます。 詳細については, 「3. 環境設定機能」を参照してください。

6.3.1 FCB イメージファイル名

PDE - Form Designer で FCB イメージを新規作成する場合, ファイル名は環境設定で設定されたイメージ種別と, 作成時に指定するプリンタ, プリンタモード, およびプリフィクスによって決まります。

FCB イメージのファイル名を次の表に示します。

表 6-2 FCB イメージのファイル名

イメージ種別	形式	プリンタ	プリンタモード	プリフィクス	ファイル名
VOS3, オープン	ホスト用互換	カット紙 (両面印刷)	K モード	FCBA	FCBAxxxx
				FCBC	FCBCxxxx
			AN モード	FCB3	FCB3xxxx
				FCB4	FCB4xxxx
	連続紙	-	K モード	FCBA	FCBAxxxx
				FCB3	FCB3xxxx
			AN モード	FCBA	FCBAxxxx
				FCBC	FCBCxxxx
用紙サイズ・行間値拡張形式	-	K モード	FCBA	FCBAxxxx	
			FCBC	FCBCxxxx	
		AN モード	FCB3	FCB3xxxx	
			FCB4	FCB4xxxx	
VOS1	ホスト用互換	カット紙 (両面印刷), 連続紙	K モード	FCBA	FCBAxxxx.OBJECT
			AN モード	FCB1	FCB1xxxx.OBJECT
	用紙サイズ・行間値拡張形式	-	K モード	FCBA	FCBAxxxx.OBJECT
			AN モード	FCB1	FCB1xxxx.OBJECT

6. FCB イメージ作成機能

イメージ種別	形式	プリンタ	プリンタモード	プリフィクス	ファイル名
VOSK	ホスト用互換	カット紙 (両面印刷), 連続紙	K モードだけ	FCBA	FCBAxxxx.DATA
	用紙サイズ・行間値拡張形式	-	K モードだけ	FABA	FCBAxxxx.DATA

(凡例)

xxxx : [名前を付けて保存] 画面の「イメージ名」の項目で設定した 4 文字の英数字を示します。

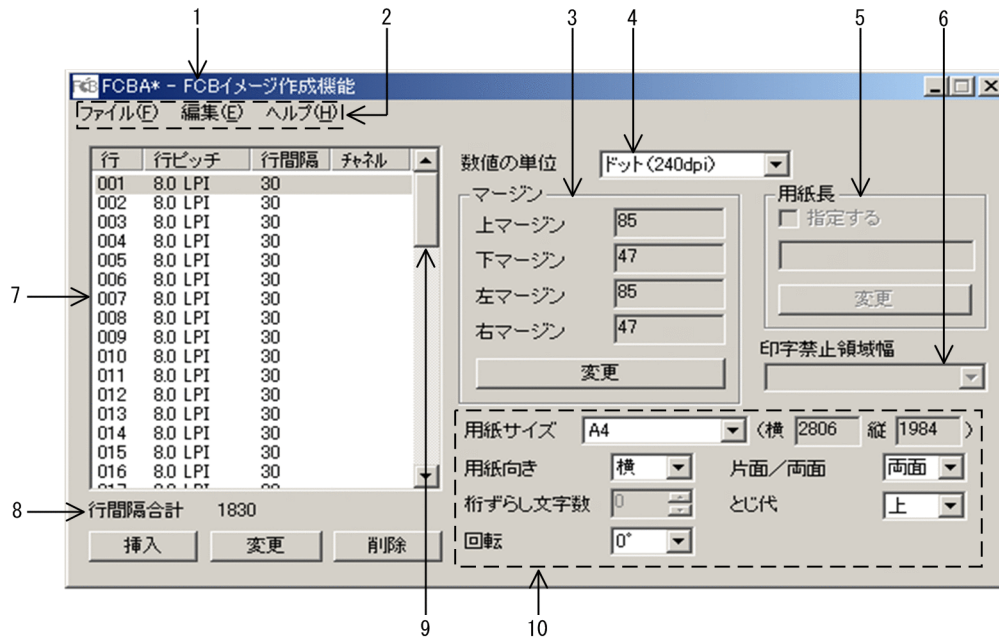
- : 該当しません。

注 メインフレーム上でイメージ名に「¥」を使用していた場合は、Windows 側に転送するとき、「¥」の代わりに「_」を使用してください。

6.4 [FCB イメージ作成機能] 画面とメニュー項目一覧

(1) [FCB イメージ作成機能] 画面構成

[FCB イメージ作成機能] 画面構成を次に示します (項番は項目の説明の番号と対応しています)。



1. タイトルバー
タイトルには、ファイル名と「FCB イメージ作成機能」が表示されます。
2. メニューバー
コマンドメニューが表示されます。
3. マージン設定ボックス (カット紙または用紙サイズ・行間値拡張形式の場合だけ活性)
用紙の端からの印刷できない領域 (マージン) を設定します。用紙サイズからマージンに設定した領域を除いた領域に、行の定義を行います。
4. 数値の単位ボックス
画面上的数値表示をドット (240dpi)、ミリメートル、またはインチのどの単位で表示するかを設定します。
5. 用紙長設定ボックス (連続紙の場合だけ活性)
用紙長を設定します。
6. 印字禁止領域幅ボックス (連続紙の場合だけ活性)
印字禁止領域幅を設定します。
7. 行情報表示リスト
定義された行情報 (各行の行ピッチ、行間隔、およびチャネル) が表示される領域であり、これらの定義に対して行の挿入、行情報の変更、または行の削除を行います。
8. 行間隔合計表示
定義された各行の高さの合計値が表示されます。
9. 垂直スクロールバー
行情報表示リストを垂直方向にスクロールさせる場合に操作します。
10. 用紙・印刷形態の設定ボックス (カット紙または用紙サイズ・行間値拡張形式の場合だけ活性)
用紙のサイズと向き、片面印刷または両面印刷などの印刷形態を設定します。

(2) メニュー項目一覧

[FCB イメージ作成機能] 画面のメニュー項目一覧を次の表に示します。

表 6-3 [FCB イメージ作成機能] 画面のメニュー項目一覧

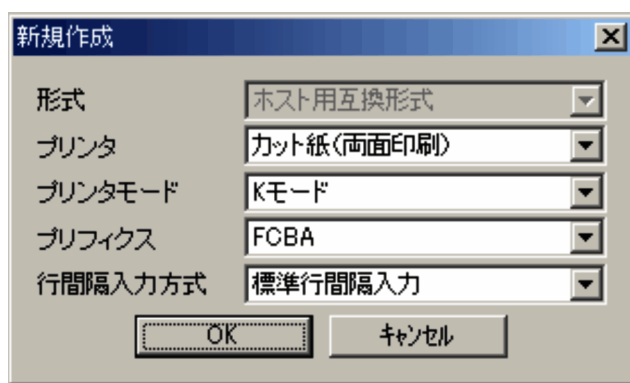
メニューバー	プルダウンメニュー	機能
ファイル (F)	新規作成 (N) ...	FCB イメージを新規に作成します。
	開く (O) ...	作成済みの FCB イメージを開きます。
	閉じる (C)	作業中の FCB イメージを保存します。
	上書き保存 (S)	FCB イメージを閉じることなく、「開く」のときに指定したファイルと同じ FCB イメージに保存します。
	名前を付けて保存 (A) ...	作業中の FCB イメージを別のファイル名で保存します。
	終了 (X)	FCB イメージ作成を終了します。
編集 (E)	コピー (C)	選択されている行情報のテキストをクリップボードに保存します (「... (ダブルクリックで行を追加するアイコン)」以外の行が選択されている場合だけ活性 (複数選択可))。
	行の挿入 (I) ...	新規に行を挿入します。
	行の変更 (R) ...	すでに定義されている行を変更します。
	行の削除 (D)	すでに定義されている行を削除します。
	マージンの変更 (M) ...	マージンを表示されている値から変更します (カット紙または用紙サイズ・行間値拡張形式の場合だけ活性)。
	用紙長の変更 (L) ...	用紙長を表示されている値から変更します (連続紙の場合だけ活性)。
ヘルプ (H)	バージョン情報 (A)	このプログラムのバージョンなどを表示します。

6.5 FCB イメージ作成の開始と終了

6.5.1 新規 FCB イメージの作成の開始

新規に FCB イメージを作成する場合の開始手順を次に示します。

1. PDE - Form Designer の [ユティリティ] の [FCB イメージ作成機能] アイコンを選択します。
[FCB イメージ作成機能] アイコンは PDE - Form Designer のインストール時に作成されています。
このアイコンを選択すると、[FCB イメージ作成機能] 画面が表示されます。
2. メニューバーの [ファイル] から [新規作成] を選択します。
[新規作成] 画面が表示されます。環境設定でイメージ種別に VOSK が選択されていて、FCB 形式に用紙サイズ・行間値拡張形式で扱うが選択されている場合は表示されません。



環境設定でイメージ種別が設定されていない場合は、[エラー] 画面が表示されるので、この機能を終了し、環境設定を行います。

3. 作成する FCB イメージの形式、プリンタ、プリンタモード、プリフィクス、および行間隔入力方式を設定します。
ここでは、次に示す情報を設定します。

形式

環境設定の [制御イメージ設定] 画面でホスト用互換形式で扱うを選択した場合は、FCB イメージをホスト用 FCB イメージと互換性のあるフォーマットで読み書きします。ダイアログを表示して選択するを選択した場合は、FCB イメージの形式を選択します。用紙サイズ・行間値拡張形式で扱うを選択した場合は、FCB イメージを用紙サイズと行間値の入力範囲が拡張されたフォーマットで読み書きします。なお、用紙サイズ・行間値拡張形式をホスト用互換形式に変換することはできません。

プリンタ (ホスト用互換形式の場合だけ)

カット紙 (両面印刷) または連続紙のどちらかを選択します。

プリンタモード

プリンタモードを選択します。

イメージ種別によって、選択できるプリンタモードが違います。選択するプリンタモードについては、「6.3.1 FCB イメージファイル名」を参照してください。

VOS3, VOS1, およびオープンの場合は、K モードまたは AN モードのどちらかを選択できます。

VOSK の場合は、常に K モードとなるためプリンタモードは選択できません。

プリフィクス

イメージ種別、プリンタ、およびプリンタモードによって、プリフィクスを選択します。

選択するプリフィクスの詳細については、「6.3.1 FCB イメージファイル名」を参照してください。

行間隔入力方式（ホスト用互換形式の場合だけ）

プリンタモードが K モードの場合、行間隔入力方式が選択できます。

標準行間隔入力：規定の行間隔から選択する方式

詳細行間隔入力：ドット（240dpi）単位で行間隔を入力する方式

プリンタモードが AN モードの場合は、常に標準行間隔入力となるため詳細行間隔入力方式は選択できません。メインフレームでの FCB 定義と PDE - Form Designer の対応については、「付録 A VOS3 KAPS E3 (KLIB) 制御文に対するサポート範囲」～「付録 C VOSK EDIT DCI コマンドに対するサポート範囲」を参照してください。

4. [OK] ボタンをクリックします。

[FCB イメージ作成機能] 画面に戻るので、FCB イメージを編集します。

6.5.2 作成済み FCB イメージの変更の開始

作成済み FCB イメージを変更する場合の開始手順を次に示します。

1. PDE - Form Designer の [ユティリティ] の [FCB イメージ作成機能] アイコンを選択します。

[FCB イメージ作成機能] アイコンは PDE - Form Designer のインストール時に作成されています。

このアイコンを選択すると、[FCB イメージ作成機能] 画面が表示されます。

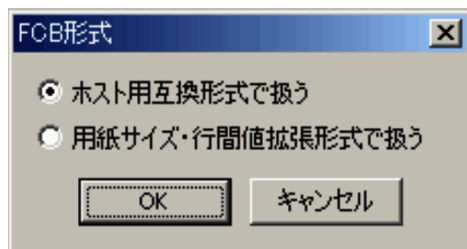
2. メニューバーの [ファイル] から [開く] を選択します。

[ファイルを開く] 画面が表示されます。

3. 編集する FCB イメージファイルを選択し、[開く] ボタンをクリックします。

[ファイルを開く] 画面で指定した FCB イメージが、PDE - Form Designer でサポートしていない形式で作成されている場合は、[エラーメッセージ] 画面が表示されます。

環境設定の [制御イメージ設定] 画面でダイアログを表示して選択するが設定されている場合は、ホスト用互換形式の FCB を開いたときに [FCB 形式] 画面が表示されるので、FCB イメージの形式を選択します。



4. [FCB イメージ作成機能] 画面に戻り、開いた FCB イメージに設定された内容が画面上に表示されるので、設定された内容を変更します。

注意事項

- 数値の単位、用紙長を設定するかどうかは FCB イメージファイルには保存されないため、既存の FCB イメージからは引き継がれません。
- 従来のホスト用互換形式を読み込んで、用紙サイズ・行間値拡張形式として扱うことができます。用紙サイズ・行間値拡張形式をホスト用互換形式に変換することはできません。
- 連続紙 FCB を用紙サイズ・行間値拡張形式で扱う場合、連続紙 FCB に仮定される値を次に示します。

表 6-4 用紙サイズ・行間値拡張形式で連続紙 FCB に仮定される値


項目	値
上マージン	印字禁止領域幅
下マージン	印字禁止領域幅
左マージン	0.5 インチ相当
右マージン	0.5 インチ相当
用紙サイズ	任意
用紙サイズ (縦)	連続紙の用紙長 (行間隔と印字禁止領域幅の合計)
用紙サイズ (横)	15 インチ (PDE のデフォルト値)
用紙向き	横
片面 / 両面	片面
桁ずらし文字数 (AN モードの場合)	0
とじ代	上
回転	0°

6.5.3 FCB イメージ作成の終了

FCB イメージ作成を終了する手順を次に示します。

1. [FCB イメージ作成機能] 画面のメニューバーの [ファイル] から [終了] を選択します。

FCB イメージ作成が終了します。

FCB イメージ作成を終了するには、このほかにタイトルバーの左端のコントロールボックスからコントロールメニューの [閉じる] を選択するか、またはタイトルバーの右端の [閉じる] ボタン  をクリックする方法があります。

6.6 FCB イメージの編集の設定

6.6.1 数値の単位の選択

FCB イメージ設計をどの数値の単位で行うかを選択します。単位としてドット (240dpi) , ミリメートル , またはインチのどれかを選択すると、マージン、行間隔、行間隔合計、用紙長、および印字禁止領域幅の数値は、選択された単位で表示されます。

6.6.2 用紙選択と印刷領域の設定

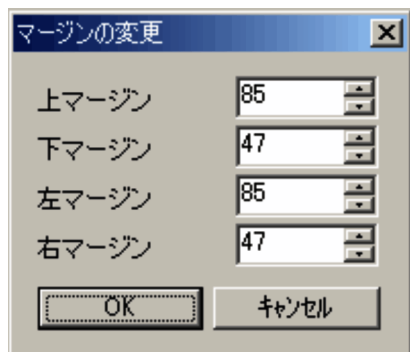
カット紙 (両面印刷) または用紙サイズ・行間値拡張形式の場合は用紙サイズと用紙向き、マージンを設定します。また、連続紙の場合は用紙長、印字禁止領域幅を設定します。新規作成時はデフォルト値、既存のイメージを開いた場合はその設定値が表示されますので、必要に応じて変更します。

(1) マージン (カット紙または用紙サイズ・行間値拡張形式の場合だけ設定)

物理的な用紙のサイズに対して、行や書式を配置する領域 (印刷領域) を設計します。その領域を用紙の端からの位置としてマージンを設定します。

マージンの変更を設定する手順を次に示します。

1. [FCB イメージ作成機能] 画面のメニューバーの [編集] から [マージンの変更] を選択するか、または [マージン] の [変更] ボタンをクリックします。
[マージンの変更] 画面が表示されます。



2. マージンを設定します。
ここでは、次に示す情報を設定します。

上マージン

用紙の端からの印刷できない領域 (上マージン) を指定します。

下マージン

用紙の端からの印刷できない領域 (下マージン) を指定します。

左マージン

用紙の端からの印刷できない領域 (左マージン) を指定します。

右マージン

用紙の端からの印刷できない領域 (右マージン) を指定します。

[マージンの変更] 画面の設定項目と設定できるマージン値を次の表に示します。

表 6-5 [マージンの変更] 画面の設定項目と設定できるマージン値

設定項目	数値の単位	設定できる範囲	初期表示値
上マージン	ドット (240dpi)	0 ~ 3,966	85
	ミリメートル	0 ~ 419.73	9.00
	インチ	0 ~ 16.525	0.354
下マージン	ドット (240dpi)	0 ~ 3,966	47
	ミリメートル	0 ~ 419.73	4.97
	インチ	0 ~ 16.525	0.196
左マージン	ドット (240dpi)	0 ~ 3,966	85
	ミリメートル	0 ~ 419.73	9.00
	インチ	0 ~ 16.525	0.354
右マージン	ドット (240dpi)	0 ~ 3,966	47
	ミリメートル	0 ~ 419.73	4.97
	インチ	0 ~ 16.525	0.196

注 1 ドット単位で設定できます。必ず出力するプリンタが持つマージンより大きい値を指定してください (推奨 5mm 以上)。小さい値を指定した場合、印刷データが欠ける場合があります。なお、用紙サイズに縮小印刷の設定をした場合は、縮小前のマージン値となります。したがって、縮小後の値が 5mm 以上となるように帳票設計をすることを推奨します。

3. [OK] または [キャンセル] ボタンをクリックします。

変更した値でマージンを変更する場合は、[OK] ボタンをクリックします。値の変更を取り消す場合は、[キャンセル] ボタンをクリックします。

[FCB イメージ作成機能] 画面に戻り、マージンの値が変更されます。

補足事項

カット紙および用紙サイズ・行間値拡張形式の用紙サイズチェック

設定内容を変更することによって、印刷領域が狭くなり、すでに定義されている行が収まらない場合があります。このような場合は、メッセージ画面で通知されますので、次に示す条件を満たすよう再設計してください。

- 上下マージン + 行間隔の合計 用紙の縦の長さ (用紙長)
- 左右マージン 用紙の横の長さ (用紙幅)

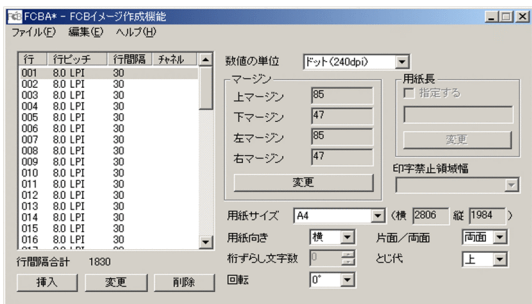
マージンの丸め

[マージンの変更] 画面に値を入出力する際に、次に示す丸めが発生する場合があります。マージンを変更した場合は、[FCB イメージ作成機能] 画面で正しい値が設定されているか確認してください。

【入力の場合】

[マージンの変更]画面からマージンを取得し、次の計算式で小数点を切り捨て、1/1,440インチ単位でマージンを保持します。

- ・ドットの場合
マージン×1,440÷240
- ・ミリメートルの場合
マージン×1,440÷25.4
- ・インチの場合
マージン×1,440

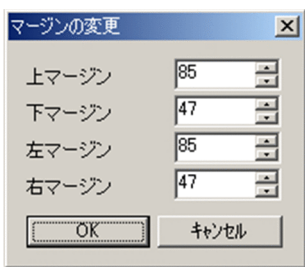


↑ ↓ [マージンの変更]画面からマージンを取得

【出力の場合】

保持している1/1,440インチ単位のマージンから、次の計算式で四捨五入し、マージンを表示します。

- ・ドットの場合
マージン×240÷1,440 (小数点を四捨五入)
- ・ミリメートルの場合
マージン×25.4÷1,440 (小数点3けたを四捨五入)
- ・インチの場合
マージン÷1,440 (小数点4けたを四捨五入)



(2) 用紙サイズと用紙向き (カット紙または用紙サイズ・行間値拡張形式の場合だけ設定)

プルダウンリストに表示されている項目の中から、用紙サイズと用紙の向きを選択します。

設定可能な用紙サイズを次の表に示します。

表 6-6 設定可能な用紙サイズ

用紙サイズ		短辺×長辺 (縮小前)		
		ドット	ミリメートル	インチ
等倍	A3	2,806 × 3,968	296.97 × 419.95	11.692 × 16.533
	A4	1,984 × 2,806	209.97 × 296.97	8.267 × 11.692
	A5	1,398 × 1,984	147.95 × 209.97	5.825 × 8.267
	B4	2,428 × 3,439	256.96 × 363.96	10.117 × 14.329
	B5	1,719 × 2,428	181.93 × 256.96	7.163 × 10.117
	レター	2,040 × 2,636	215.90 × 278.98	8.500 × 10.983
	任意 ³	480 × 600 ~ 8,191 × 8,191	50.8 × 63.5 ~ 866.9 × 866.9	2.00 × 2.50 ~ 34.13 × 34.13
縮小 ¹	A3 B4 (90%) ²	2,692 × 3,817	284.90 × 403.97	11.217 × 15.904
	A3 B4 (80%)	2,806 × 3,968	296.97 × 419.95	11.692 × 16.533
	A3 A4 (75%) ²	2,645 × 3,741	279.93 × 395.92	11.021 × 15.588
	A3 A4 (70%)	2,806 × 3,968	296.97 × 419.95	11.692 × 16.533
	A4 B5 (80%)	1,984 × 2,806	209.97 × 296.97	8.267 × 11.692
	A4 A5 (70%)	1,984 × 2,806	209.97 × 296.97	8.267 × 11.692
	B4 A4 (90%) ²	2,201 × 3,118	232.94 × 329.99	9.171 × 12.992

用紙サイズ		短辺×長辺（縮小前）		
		ドット	ミリメートル	インチ
B4	A4（80%）	2,428 × 3,439	256.96 × 363.96	10.117 × 14.329
B4	A4（70%）	2,428 × 3,439	256.96 × 363.96	10.117 × 14.329
B4	B5（70%）	2,428 × 3,439	256.96 × 363.96	10.117 × 14.329
B5	A5（80%）	1,719 × 2,428	181.93 × 256.96	7.163 × 10.117

注

- 用紙向きが縦の場合は、短辺が横の長さ（用紙幅）、長辺が縦の長さ（用紙長）となります。
- 用紙向きが横の場合は、短辺が縦の長さ（用紙長）、長辺が横の長さ（用紙幅）となります。
- 「任意」の場合は、用紙向きを選択できません。

注 1 「[縮小前の用紙サイズ] [縮小後の用紙サイズ]([縮小率]%)」の形式で表示します。

注 2

- 「A3 B4（90%）」の場合、縮小前の用紙サイズ（A3）を 2,692 × 3,817 ドットとして設計します。
- 「A3 A4（75%）」の場合、縮小前の用紙サイズ（A3）を 2,645 × 3,741 ドットとして設計します。
- 「B4 A4（90%）」の場合、縮小前の用紙サイズ（B4）を 2,201 × 3,118 ドットとして設計します。

注 3 「任意」は用紙サイズ・行間値拡張形式の場合だけ選択できます。

なお、用紙サイズおよび用紙向きを変更した場合、カット紙および用紙サイズ・行間値拡張形式の用紙サイズチェックが行われます。カット紙および用紙サイズ・行間値拡張形式の用紙サイズチェックについては、「(1) マージン（カット紙または用紙サイズ・行間値拡張形式の場合だけ設定）」の補足事項を参照してください。

補足事項

縮小後のマージン値

縮小する場合、マージンおよび行間隔は縮小前のサイズで定義する必要があります。マージンも縮小されるため、縮小後のマージンの値が 5mm 以上となるように帳票設計することを推奨します。

縮小後のマージン値の計算式を次の表に示します。

表 6-7 縮小後のマージン値の計算式（単位：ミリメートル）

用紙サイズ		縮小後マージン値			
		上	下	左	右
縮小	A3 B4（90%）	0.9a	0.9b	0.9c	0.9d
	A3 B4（80%）	9.7 + 0.8a	9.7 + 0.8b	14.0 + 0.8c	14.0 + 0.8d
	A3 A4（75%）	0.75a	0.75b	0.75c	0.75d
	A3 A4（70%）	1.1 + 0.7a	1.1 + 0.7b	1.6 + 0.7c	1.6 + 0.7d
	A4 B5（80%）	7.0 + 0.8a	7.0 + 0.8b	9.7 + 0.8c	9.7 + 0.8d
	A4 A5（70%）	0.6 + 0.7a	0.6 + 0.7b	1.1 + 0.7c	1.1 + 0.7d

用紙サイズ		縮小後マージン値			
		上	下	左	右
B4	A4 (90%)	0.9a	0.9b	0.9c	0.9d
B4	A4 (80%)	2.2 + 0.8a	2.2 + 0.8b	2.9 + 0.8c	2.9 + 0.8d
B4	A4 (70%)	15.1 + 0.7a	15.1 + 0.7b	21.2 + 0.7c	21.2 + 0.7d
B4	B5 (70%)	1.1 + 0.7a	1.1 + 0.7b	1.2 + 0.7c	1.2 + 0.7d
B5	A5 (80%)	1.2 + 0.8a	1.2 + 0.8b	2.2 + 0.8c	2.2 + 0.8d

(凡例)

- a：上マージンを示します。
- b：下マージンを示します。
- c：左マージンを示します。
- d：右マージンを示します。

FCBイメージには、用紙の大きさ、マージン、および行間隔などが定義されています。用紙左上からFCBイメージ作成機能で指定した上マージン、左マージンで示す座標位置を原点に行の配置が始まります。また、書式設計の編集領域左上（書式イメージの左上）も、この位置を原点に重ね合わせて出力されます。

注 両面指定のFCBで裏面印刷をした場合、裏面の行および書式イメージ配置の原点は、とじ代の位置によって異なります。裏面のマージンは、裏面と表面をとじ代のある辺を真中に見開き状に並べた場合、見開きの真中から線対称となるように配置されます。

FCBイメージと書式の位置関係を次の図に示します。

図 6-3 FCB イメージと書式の位置関係 (片面印刷)

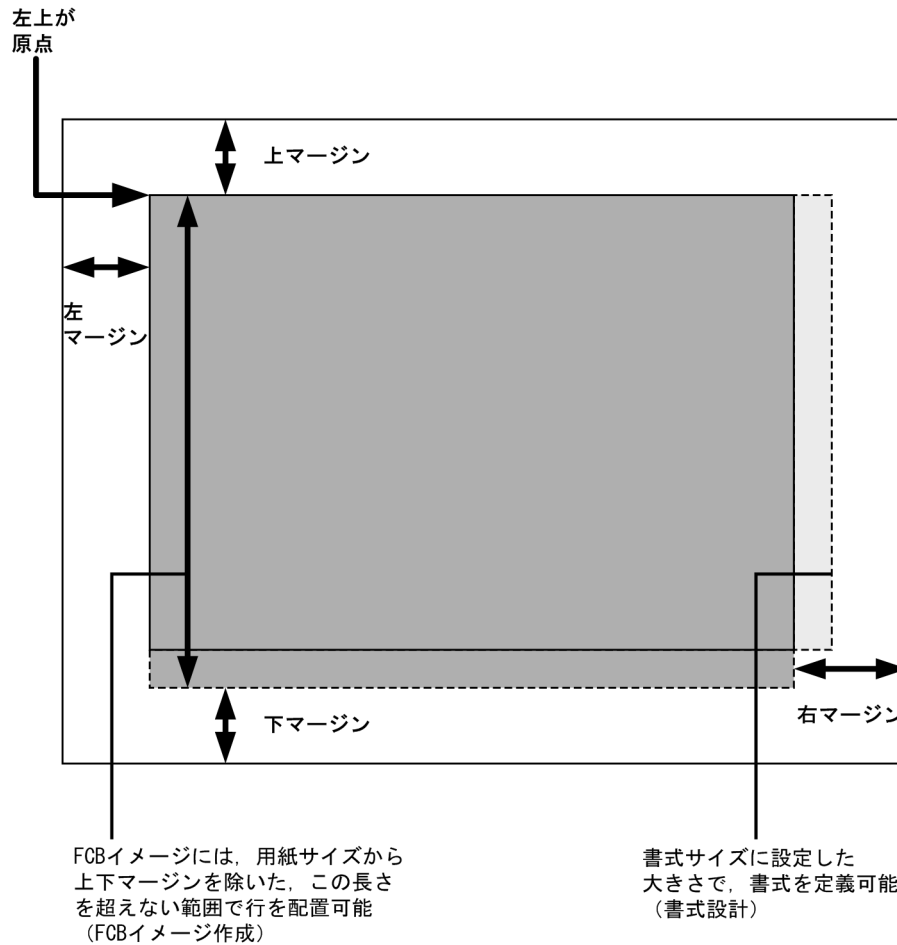
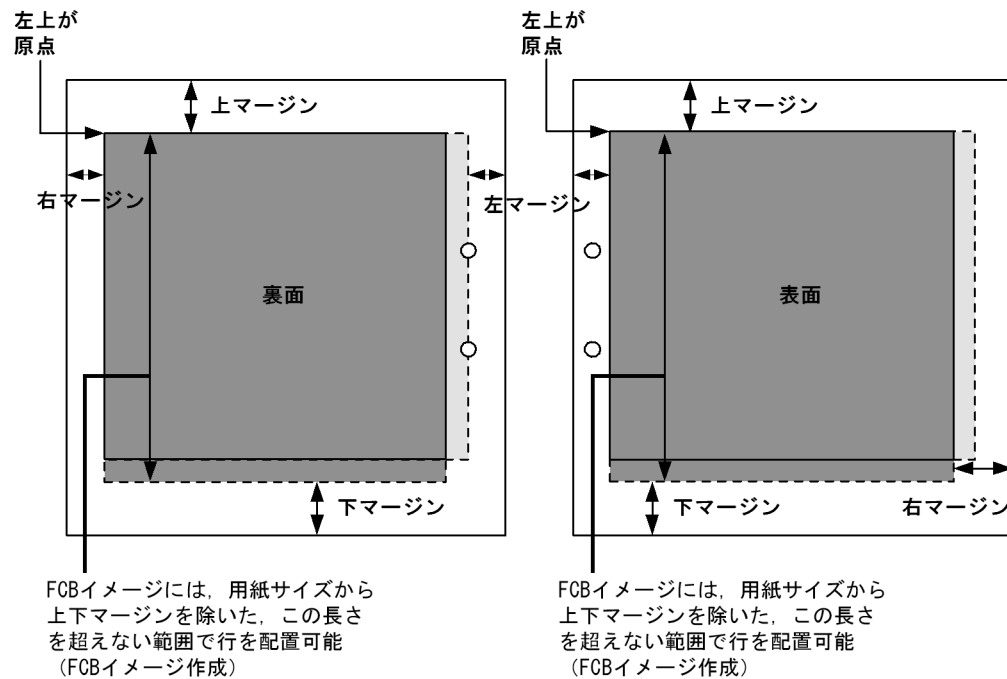


図 6-4 FCB イメージと書式の位置関係 (両面印刷・とじ代位置左)



(3) 用紙長（連続紙の場合だけ設定）

用紙長を設定します。

用紙長を設定する手順を次に示します。

1. [FCB イメージ作成機能] 画面のメニューバーの [編集] から [用紙長の変更] を選択するか、または [FCB イメージ作成機能] 画面の [用紙長] の [変更] ボタンをクリックします。
[用紙長の変更] 画面が表示されます。



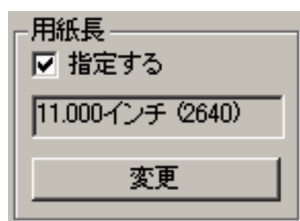
2. 用紙長を設定します。
ここでは、次に示す情報を設定します。

用紙長

用紙長の値（3.500 ~ 333.000 インチ）を 10 ドット単位相当で指定します。

用紙長設定ボックスに表示される値の括弧内には、数値の単位に換算した値が併記されています。

3. [OK] または [キャンセル] ボタンをクリックします。
変更した値で用紙長を変更する場合は [OK] ボタンをクリックします。値の変更を取り消す場合は [キャンセル] ボタンをクリックします。
[FCB イメージ作成機能] 画面に戻り、[OK] ボタンをクリックした場合は「指定する」のチェックボックスにチェックマーク が表示され、用紙長の値が変更されます。

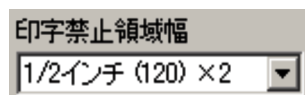


「指定する」のチェックボックスからチェックを外すと、行間隔と印字禁止領域幅の合計から用紙長を自動計算します。用紙長が決定している場合はチェックを外さないようにしてください。

(4) 印字禁止領域幅（連続紙の場合だけ設定）

物理的な用紙のサイズに対して、行や書式を配置する領域（印刷領域）を設計します。その領域を用紙の上下端からの位置として、プルダウンリストに表示されている項目の中から印字禁止領域幅を設定します。

括弧内には数値の単位に換算した値が併記されています。印字禁止領域幅は連続紙の上下端 2 か所に必要なため、「× 2」と表示されています。



なお、印字禁止領域幅を変更した場合、連続紙の用紙サイズチェックが行われます。

補足事項

- 印字禁止領域幅を変更することによって印刷領域が狭くなり、すでに定義されている行が収まらない

い場合があります。その場合は、[メッセージ]画面で通知されますので、次に示す条件を満たすように変更してください。

印字禁止領域幅 × 2 + 行間隔の合計 用紙長

- 次に示す設定をする場合は、出力するプリンタのハードウェアの仕様を確認し、使用してください。
 - ・用紙長が 10 ドットの倍数相当でない。
 - ・用紙長が 14 インチより大きい。
- 印字禁止領域に 1/3 インチ、1/4 インチ、または 1/6 インチを使用する場合は、出力するプリンタのハードウェアの仕様を確認し、使用してください。

6.6.3 印刷形態の設定

(1) 桁ずらし文字数

プリンタモードが AN モードの FCB イメージを編集する場合は、桁ずらし文字数 (0 ~ 31) を設定します。

これによって、印刷される書式の位置は変えないで、行データの位置だけを右にずらして印刷ができます。

(2) 片面印刷または両面印刷 (カット紙または用紙サイズ・行間値拡張形式の場合だけ設定)

片面印刷または両面印刷を選択します。

(3) とじ代 (カット紙または用紙サイズ・行間値拡張形式の場合だけ設定)

両面印刷をする場合、印刷結果を保管するときのファイリングのために、プルダウンリストに表示されている項目の中から上下左右どこか 1 か所にとじ代の位置 (表面から見た位置) を設定します。

(4) 回転 (カット紙または用紙サイズ・行間値拡張形式の場合だけ設定)

0° または 180° を選択します。180° を選択した場合、印刷データと書式が 180° 回転して印刷されます。

なお、180° 回転指定は、分散タイプ PDE 01-16 以降および PDE for Open 01-09 以降でサポートしています。また、印刷時に回転指定を有効にするためには、PDE 環境設定ユティリティでの設定が必要になります。PDE 環境設定ユティリティの設定方法については、マニュアル「PRINT DATA EXCHANGE」およびマニュアル「PRINT DATA EXCHANGE for Open」を参照してください。

6.6.4 行情報の編集

(1) 行の挿入

行情報表示リストに行を挿入します。

行を挿入する手順を次に示します。

1. [FCB イメージ作成機能]画面の行情報表示リストからその行の直前に行を挿入する行情報を選択し、[挿入]ボタンをクリックします。最終行として挿入したい場合は、行番号「...」を選択して[挿入]ボタンをクリックします。
[行の挿入]画面が表示されます。

標準行間隔指定

詳細行間隔指定

- 挿入行数と行間隔を指定します。
ここでは、次に示す情報を設定します。

挿入行数

行の挿入を手動または自動のどちらで行うかを選択します。

- ・手動

指定した行数（1～256行）が挿入されます。

- ・自動

印刷領域内に収まる行数分が挿入されます。

注 連続紙で印字禁止領域幅が 1/2 インチの場合は 250 行、その他の印字禁止領域幅の場合は 252 行となります。

行間指定

行間隔を標準行間隔または詳細行間隔のどちらかで設定します。

- ・標準行間隔

規定の行間隔から選択します。

- ・詳細行間隔

ホスト用互換形式の場合は 1～63 ドット、用紙サイズ・行間値拡張形式の場合は 1～320 ドットの範囲で行間隔を設定します。

注 設定可能な標準の行間隔を次の表に示します。

表 6-8 設定可能な標準の行間隔

行間隔				Kモード	ANモード
LPI	ドット	ミリメートル	インチ		
24.0	10	1.06	0.042		×
12.0	20	2.12	0.083		
10.0	24	2.54	0.100		
8.6	28	2.96	0.117		
8.0	30	3.17	0.125		
6.7	36	3.81	0.150		
6.0	40	4.23	0.167		
4.0	60	6.35	0.250		×
3.0	80	8.47	0.333		×
1.5	160	16.93	0.667		×
0.8	320	33.87	1.333		×

(凡例)

: 設定できます。

× : 設定できません。

注 ドットとLPIの対応を次の表に示します。

表 6-9 ドットとLPIの対応

ドット	LPI	ドット	LPI	ドット	LPI	ドット	LPI	ドット	LPI
1	240.0	65	3.692	129	1.86	193	1.244	257	0.934
2	120.0	66	3.636	130	1.846	194	1.237	258	0.93
3	80.0	67	3.582	131	1.832	195	1.231	259	0.927
4	60.0	68	3.529	132	1.818	196	1.224	260	0.923
5	48.0	69	3.478	133	1.805	197	1.218	261	0.92
6	40.0	70	3.429	134	1.791	198	1.212	262	0.916
7	34.286	71	3.38	135	1.778	199	1.206	263	0.913
8	30.0	72	3.333	136	1.765	200	1.2	264	0.909
9	26.667	73	3.288	137	1.752	201	1.194	265	0.906
10	24.0	74	3.243	138	1.739	202	1.188	266	0.902
11	21.818	75	3.2	139	1.727	203	1.182	267	0.899
12	20.0	76	3.158	140	1.714	204	1.176	268	0.896
13	18.462	77	3.117	141	1.702	205	1.171	269	0.892
14	17.143	78	3.077	142	1.69	206	1.165	270	0.889
15	16.0	79	3.038	143	1.678	207	1.159	271	0.886
16	15.0	80	3.0	144	1.667	208	1.154	272	0.882
17	14.118	81	2.963	145	1.655	209	1.148	273	0.879
18	13.333	82	2.927	146	1.644	210	1.143	274	0.876
19	12.632	83	2.892	147	1.633	211	1.137	275	0.873

6. FCB イメージ作成機能

ドット	LPI	ドット	LPI	ドット	LPI	ドット	LPI	ドット	LPI
20	12.0	84	2.857	148	1.622	212	1.132	276	0.87
21	11.429	85	2.824	149	1.611	213	1.127	277	0.866
22	10.909	86	2.791	150	1.6	214	1.121	278	0.863
23	10.435	87	2.759	151	1.589	215	1.116	279	0.86
24	10.0	88	2.727	152	1.579	216	1.111	280	0.857
25	9.6	89	2.697	153	1.569	217	1.106	281	0.854
26	9.231	90	2.667	154	1.558	218	1.101	282	0.851
27	8.889	91	2.637	155	1.548	219	1.096	283	0.848
28	8.571	92	2.609	156	1.538	220	1.091	284	0.845
29	8.276	93	2.581	157	1.529	221	1.086	285	0.842
30	8.0	94	2.553	158	1.519	222	1.081	286	0.839
31	7.742	95	2.526	159	1.509	223	1.076	287	0.836
32	7.5	96	2.5	160	1.5	224	1.071	288	0.833
33	7.273	97	2.474	161	1.491	225	1.067	289	0.83
34	7.059	98	2.449	162	1.481	226	1.062	290	0.828
35	6.857	99	2.424	163	1.472	227	1.057	291	0.825
36	6.667	100	2.4	164	1.463	228	1.053	292	0.822
37	6.486	101	2.376	165	1.455	229	1.048	293	0.819
38	6.316	102	2.353	166	1.446	230	1.043	294	0.816
39	6.154	103	2.33	167	1.437	231	1.039	295	0.814
40	6.0	104	2.308	168	1.429	232	1.034	296	0.811
41	5.854	105	2.286	169	1.42	233	1.03	297	0.808
42	5.714	106	2.264	170	1.412	234	1.026	298	0.805
43	5.581	107	2.243	171	1.404	235	1.021	299	0.803
44	5.455	108	2.222	172	1.395	236	1.017	300	0.8
45	5.333	109	2.202	173	1.387	237	1.013	301	0.797
46	5.217	110	2.182	174	1.379	238	1.008	302	0.795
47	5.106	111	2.162	175	1.371	239	1.004	303	0.792
48	5.0	112	2.143	176	1.364	240	1.0	304	0.789
49	4.898	113	2.124	177	1.356	241	0.996	305	0.787
50	4.8	114	2.105	178	1.348	242	0.992	306	0.784
51	4.706	115	2.087	179	1.341	243	0.988	307	0.782
52	4.615	116	2.069	180	1.333	244	0.984	308	0.779
53	4.528	117	2.051	181	1.326	245	0.98	309	0.777
54	4.444	118	2.034	182	1.319	246	0.976	310	0.774
55	4.364	119	2.017	183	1.311	247	0.972	311	0.772
56	4.286	120	2.0	184	1.304	248	0.968	312	0.769
57	4.211	121	1.983	185	1.297	249	0.964	313	0.767
58	4.138	122	1.967	186	1.29	250	0.96	314	0.764
59	4.068	123	1.951	187	1.283	251	0.956	315	0.762

ドット	LPI	ドット	LPI	ドット	LPI	ドット	LPI	ドット	LPI
60	4.0	124	1.935	188	1.277	252	0.952	316	0.759
61	3.934	125	1.92	189	1.27	253	0.949	317	0.757
62	3.871	126	1.905	190	1.263	254	0.945	318	0.755
63	3.81	127	1.89	191	1.257	255	0.941	319	0.752
64	3.75	128	1.875	192	1.25	256	0.938	320	0.75

3. [OK] ボタンをクリックします。

[FCB イメージ作成機能] 画面に戻ります。

行情報表示リストに挿入した行情報が追加され、行間隔合計表示が更新されます。

なお、行間隔を挿入した場合、用紙サイズチェックが行われます。カット紙および用紙サイズ・行間値拡張形式の用紙サイズチェックについては「6.6.2(1) マージン(カット紙または用紙サイズ・行間値拡張形式の場合だけ設定)」の補足事項、連続紙の用紙サイズチェックについては「6.6.2(4) 印字禁止領域幅(連続紙の場合だけ設定)」の補足事項を参照してください。

(2) 行情報の変更

すでに設定されている行情報に対して、チャンネルコードの設定または変更、および行間隔を変更する場合には、行情報の変更をします。

行情報を変更する手順を次に示します。

1. [FCB イメージ作成機能] 画面の行情報表示リストから変更する行情報を選択し、[変更] ボタンをクリックします。

[行の変更] 画面が表示されます。

標準行間隔指定

詳細行間隔指定

2. チャンネルコードの設定または変更，および行間隔を変更します。
ここでは，次に示す情報を設定します。

チャンネルコード

チャンネルコードを設定しない行には「なし」を，設定する行には 1 ~ 12 の中から選択します。

行間指定

行情報の変更を標準行間隔または詳細行間隔のどちらかで設定します。

設定する内容については，「(1) 行の挿入」を参照してください。

3. [OK] ボタンをクリックします。

[FCB イメージ作成機能] 画面に戻ります。

行情報表示リストに該当する行情報の表示および行間隔合計表示が更新されます。

なお，行間隔を変更した場合，用紙サイズチェックが行われます。カット紙および用紙サイズ・行間値拡張形式の用紙サイズチェックについては「6.6.2(1) マージン（カット紙または用紙サイズ・行間値拡張形式の場合だけ設定）」の補足事項，連続紙の用紙サイズチェックについては「6.6.2(4) 印字禁止領域幅（連続紙の場合だけ設定）」の補足事項を参照してください。

(3) 行情報表示リストのテキストのクリップボードへの保存

行情報表示リストのテキストをクリップボードに保存します。

クリップボードに保存する手順を次に示します。

1. 行情報表示リストにフォーカスのある状態で，[FCB イメージ作成機能] 画面のメニューバーの [編集] から [コピー] を選択します。

選択されている行情報のテキストがクリップボードに保存されます。また，ショートカットキー

[Ctrl] + [A] を押すと，行情報が全選択されます。

(4) 行の削除

行情報表示リストの行を削除します。

行を削除する手順を次に示します。

1. [FCB イメージ作成機能] 画面の行情報表示リストから削除する行番号を選択し，[削除] ボタンをクリックします。

行情報表示リストから選択した行情報が削除され，以降の行情報の行番号が繰り上がります。また，行間隔合計も更新表示されます。

削除する行情報は，複数選択できます。

6.7 FCB イメージの保存

[FCB イメージ作成機能] 画面のメニューバーの [ファイル] から [上書き保存] を選択すると、既存の FCB イメージを開いて編集した場合は、FCB イメージが上書き保存され、新規に FCB イメージを作成した場合は、[名前を付けて保存] 画面が表示されます。また、編集した FCB イメージの内容を保存しないで、[FCB イメージ作成機能] 画面のメニューバーの [ファイル] から [閉じる] または [終了] を選択すると、内容を保存するかどうかの [メッセージ] 画面が表示されます。

保存を指示すると、既存の FCB イメージを開いて編集した場合は、上書き保存され、新規に FCB イメージを作成した場合は、[名前を付けて保存] 画面が表示されます。

また、編集操作の有無に関係なく、[FCB イメージ作成機能] 画面のメニューバーの [ファイル] から [名前を付けて保存] を選択することによって、表示されている FCB イメージに名前を付けて保存できます。



ここでは、次に示す情報を設定します。

フォルダ

FCB イメージファイルの保存先フォルダを指定します。

FCB イメージを新規に作成した場合は、環境設定の [フォルダ設定] 画面で設定された FCB イメージ格納フォルダが表示されます。ファイルを開いている場合は、編集ファイルの保存フォルダが表示されますので、それぞれ必要に応じて保存先フォルダを変更します。

イメージ名

FCB のイメージ名を半角 4 けた以内の英数字 (0 ~ 9, A ~ Z, _, #, @) で指定します。

FCB イメージを新規に作成した場合は、イメージ名は表示されませんので必ず指定します。ファイルを開いている場合は、編集ファイルのイメージ名が表示されますので、必要に応じて FCB のイメージ名を変更します。

なお、次に示す情報は表示されるだけで内容の変更はできません。

プリフィクス

プリフィクスが表示されます。

拡張子

拡張子が表示されます。

補足事項

- FCB イメージファイル名は、イメージ名、プリフィクス、および拡張子を連結した名前となります。

6. FCB イメージ作成機能

す。FCB イメージのファイル名については、「6.3.1 FCB イメージファイル名」を参照してください。

- 用紙長が 3.5 ~ 333 インチの範囲でない場合は、[メッセージ] 画面で通知されますので、条件を満たすように再設計してください。
- 行間隔と印字禁止領域幅の合計が用紙長と同じでない場合は、[メッセージ] 画面で通知されますので、次に示す条件を満たすように再設計してください。

印字禁止領域幅 × 2 + 行間隔の合計 = 用紙長

7

ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能

この章では、PDE - Form Designer のラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能について説明します。

7.1 ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能とは

7.2 ラインプリンタ用 FCB イメージ作成の手順

7.3 ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能の入出力ファイル

7.4 [ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能] 画面とメニュー項目一覧

7.5 ラインプリンタ用 FCB イメージ作成の開始と終了

7.6 ラインプリンタ用 FCB イメージの編集の設定

7.7 ラインプリンタ用 FCB イメージの保存

7.1 ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能とは

ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能は、VOS1 FCB マクロ、VOS1 KAPS の漢字ライブラリ保守 (KLIB)、および VOSK 漢字処理のラインプリンタ用 FCB イメージの作成に相当する機能で、PDE - LP Edition および PDE - LP Option で使用するラインプリンタ用 FCB イメージを GUI によって対話的に作成する機能です。入力なしで直接ラインプリンタ用 FCB イメージを作成でき、またメインフレームからラインプリンタ用 FCB イメージをバイナリ転送し、それを入力としてラインプリンタ用 FCB イメージを作成できます。

なお、VOS1 および VOSK で作成したラインプリンタ用 FCB イメージを入力として、ラインプリンタ用 FCB イメージを作成する場合には、転送前にメインフレーム上でラインプリンタ用 FCB イメージを PDE イメージ転送で変換しておく必要があります。PDE イメージ転送の使用方法およびファイル転送の方法については、マニュアル「PRINT DATA EXCHANGE」を参照してください。

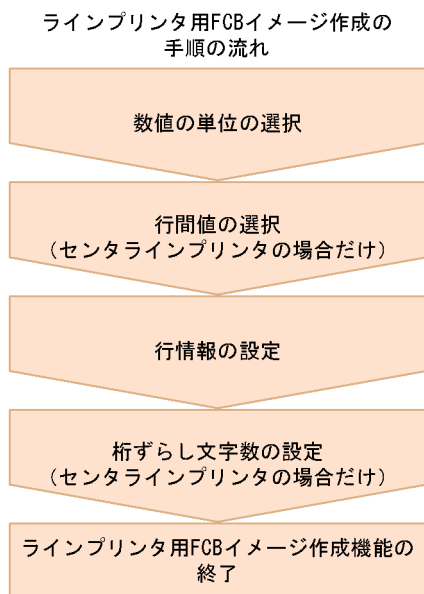
補足事項

- VOS1 FCB マクロで使用するオペランドと、ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能で設定できる機能範囲の対応については、「付録 D VOS1 FCB マクロに対するサポート範囲」を参照してください。
- VOS1 KAPS の漢字ライブラリ保守 (KLIB) で指定する項目と、ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能で設定できる機能範囲の対応については、「付録 B.1 FCB イメージ作成 (VOS1 KAPS (KLIB))」を参照してください。
- VOSK 漢字処理のラインプリンタ用 FCB イメージの作成で指定する項目と、ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能で設定できる機能範囲の対応については、「付録 C.3 ラインプリンタ用 FCB イメージ作成 (VOSK EDIT DCI コマンド)」を参照してください。

7.2 ラインプリンタ用 FCB イメージ作成の手順

ラインプリンタ用 FCB イメージ作成の開始から終了までの手順を次の図に示します。

図 7-1 ラインプリンタ用 FCB イメージ作成の開始から終了までの手順



1. 数値の単位の選択
設定する数値の単位を選択します。
2. 行間値の選択 (センタラインプリンタの場合だけ)
行間値を選択します。
3. 行情報の設定
行情報を設定します。
4. 桁ずらし文字数の設定 (センタラインプリンタの場合だけ)
桁ずらし文字数を設定します。

7.3 ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能の入出力ファイル

ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能の入出力対象となるファイルと、その役割を次の表に示します。

表 7-1 ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能の入出力対象となるファイルと役割

ファイル	入出力	ファイルの役割
ラインプリンタ用 FCB イメージファイル	入力	ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能、またはメインフレームで作成されたラインプリンタ用 FCB イメージファイルは、内容を変更するために入力できます。
	出力	ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能でラインプリンタ用 FCB イメージを新規作成および変更した内容が保存されます。出力されたファイルは、PDE・LP Edition または PDE・LP Option のユーザイメージライブラリにコピーして使用します。ファイルの名称については、「7.3.1 ラインプリンタ用 FCB イメージファイル名」を参照してください。
環境設定ファイル (FDEnv.ini)	入力	編集時に参照します。生成するラインプリンタ用 FCB イメージのイメージ種別、ラインプリンタ種別、センタラインプリンタ FCB 行間値、および入力するラインプリンタ用 FCB イメージファイルの格納フォルダの初期設定情報を登録しておきます。詳細については、「3. 環境設定機能」を参照してください。

7.3.1 ラインプリンタ用 FCB イメージファイル名

PDE・Form Designer でラインプリンタ用 FCB イメージを新規作成する場合、ファイル名は環境設定で設定されたイメージ種別とラインプリンタ種別によって決まります。ラインプリンタ用 FCB イメージファイル名の規則を次の表に示します。

表 7-2 ラインプリンタ用 FCB イメージファイル名の規則

イメージ種別	ラインプリンタ種別	プリフィクス	ファイル名
VOS3, オープン	センタ漢字ライン	FCBA	FCBAxxxx
	端末漢字ライン		
	センタライン	FCB2	FCB2xxxx
VOS1	センタ漢字ライン	FCBA	FCBAxxxx.OBJECT
	端末漢字ライン		
	センタライン	FCB2	FCB2xxxx.OBJECT
VOSK	センタ漢字ライン	FCBA	FCBAxxxx.DATA
	端末漢字ライン		
	センタライン	FCB2	FCB2xxxx.DATA

(凡例)

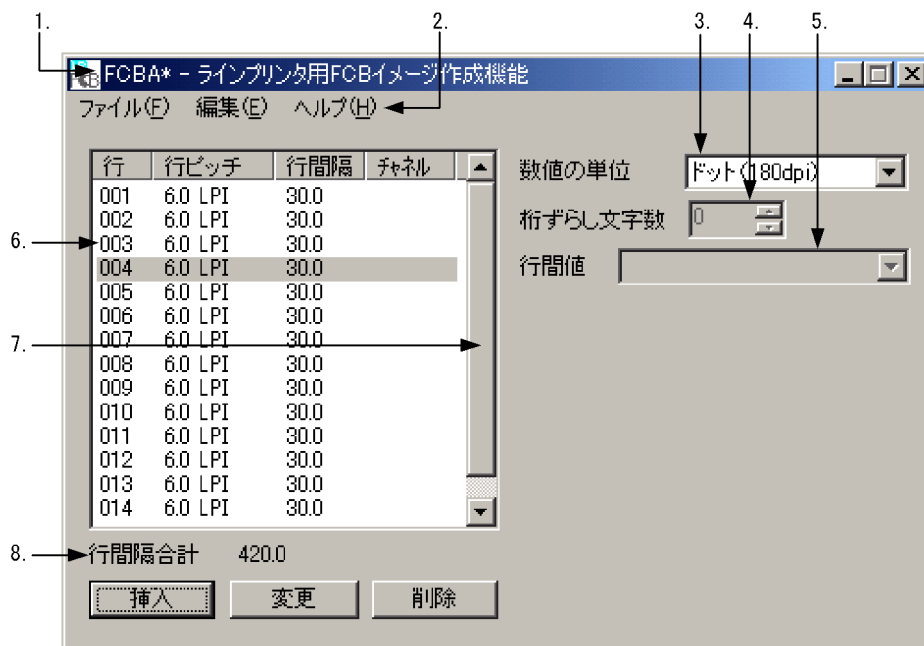
xxxx : [名前を付けて保存] 画面の [イメージ名] の項目で設定した 4 文字の英数字を示します。

7.4 [ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能] 画面とメニュー項目一覧

[ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能] 画面とメニュー項目一覧について説明します。

(1) [ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能] 画面構成

[ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能] 画面構成を次に示します (項番は項目の説明の番号と対応しています)。



1. タイトルバー
タイトルには、ファイル名と「ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能」が表示されます。
2. メニューバー
コマンドメニューが表示されます。
3. 数値の単位ボックス
画面上の数値表示を、ドット (180dpi)、ミリメートル、インチから選択して設定します。
4. 桁ずらし文字数 (センタラインプリンタの場合だけ活性)
桁ずらし文字数を設定します。
5. 行間値 (センタラインプリンタの場合だけ活性)
行間値を設定します。
6. 情報表示リスト
定義された行情報 (各行の行ピッチ、行間隔、およびチャンネル) が表示される領域であり、これらの定義に対して行の挿入、行情報の変更、または行の削除をします。
7. 垂直スクロールバー
情報表示リストを垂直方向にスクロールさせる場合に操作します。
8. 行間隔合計表示
定義された各行の高さの合計値が表示されます。

(2) メニュー項目一覧

[ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能] 画面のメニュー項目を次の表に示します。

表 7-3 [ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能] 画面のメニュー項目一覧

メニューバー	プルダウンメニュー	機能
ファイル (F)	新規作成 (N)	ラインプリンタ用 FCB イメージを新規に作成します。
	開く (O) ...	作成済みのラインプリンタ用 FCB イメージを開きます。
	閉じる (C)	作業中のラインプリンタ用 FCB イメージを閉じます。
	上書き保存 (S)	ラインプリンタ用 FCB イメージを閉じることなく、[開く] のときに指定したファイルと同じラインプリンタ用 FCB イメージに保存します。
	名前を付けて保存 (A) ...	作業中のラインプリンタ用 FCB イメージを別のファイル名で保存します。
	終了 (X)	ラインプリンタ用 FCB イメージ作成を終了します。
編集 (E)	コピー (C)	選択されている行情報のテキストをクリップボードに保存します。
	行の挿入 (I) ...	新しく行を挿入します。
	行の変更 (R) ...	すでに定義されている行を変更します。
	行の削除 (D)	すでに定義されている行を削除します。
ヘルプ (H)	バージョン情報 (A) ...	このプログラムのバージョンなどを表示します。

7.5 ラインプリンタ用 FCB イメージ作成の開始と終了

ラインプリンタ用 FCB イメージ作成の開始と終了について説明します。

7.5.1 新規ラインプリンタ用 FCB イメージの作成の開始

新規にラインプリンタ用 FCB イメージ作成する場合の開始手順を次に示します。

1. [PDE - Form Designer] - [ラインプリンタ用ユーティリティ] - [ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能] アイコンを選択します。
[ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能] 画面が表示されます。
2. メニューバーの [ファイル] から [新規作成] を選択します。

7.5.2 作成済みラインプリンタ用 FCB イメージの変更の開始

作成済みラインプリンタ用 FCB イメージを変更する場合の開始手順を次に示します。


1. [PDE - Form Designer] - [ラインプリンタ用ユーティリティ] - [ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能] アイコンを選択します。
[ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能] 画面が表示されます。
2. メニューバーの [ファイル] から [開く] を選択します。または [ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能] 画面、またはアイコンにラインプリンタ用 FCB イメージのアイコンをドラッグアンドドロップしてください。
[ファイルを開く] 画面が表示されます。
3. 編集するラインプリンタ用 FCB イメージファイルを選択し、[開く] ボタンをクリックします。
[ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能] 画面に制御が戻り、開いたラインプリンタ用 FCB イメージに設定された内容が画面上に表示されるので、設定された内容を変更してください。
[ファイルを開く] 画面で指定したラインプリンタ用 FCB イメージが、PDE - Form Designer のサポート外の形式で作成されている場合は、エラーメッセージ画面が表示されます。

注意事項

数値の単位、センタラインプリンタ FCB 行間値 (6LPI/8LPI, 6LPI/10LPI のどちらで解釈するか) はラインプリンタ用 FCB イメージファイルには保存されないため、既存のラインプリンタ用 FCB イメージからは引き継がれません。

7.5.3 ラインプリンタ用 FCB イメージ作成の終了

ラインプリンタ用 FCB イメージ作成を終了するには、次の 3 とおりの方法があります。

- メニューバーの [ファイル] から [終了] を選択します。
- タイトルバーの左端のコントロールボックスからコントロールメニューの [閉じる] を選択します。
- タイトルバーの右端の [閉じる] ボタン  をクリックします。

7.6 ラインプリンタ用 FCB イメージの編集の設定

ラインプリンタ用 FCB イメージを編集する方法について説明します。

7.6.1 数値の単位の選択

ラインプリンタ用 FCB イメージを設計する単位を選択します。選択できる単位は、[ドット (180dpi)]、[ミリメートル]、または [インチ] です。[行間隔]、[行間隔合計]、[行間値] の数値は、選択された単位で表示されます。

7.6.2 行間値の選択 (センタラインプリンタの場合だけ選択)

行間値を選択します。指定できる値 ([6LPI]、[8LPI]、[10LPI]) は、環境設定の [センタラインプリンタ FCB 行間値] の設定によって決まります。

7.6.3 行情報の編集

行情報を編集する方法について説明します。

(1) 行の挿入

行情報表示リストに行を挿入します。

行を挿入する手順を次に示します。

1. [ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能] 画面の行情報表示リストからその行の直前に行を挿入する行情報を選択し、[挿入] ボタンをクリックします。なお、最終行として挿入したい場合は、行「...」を選択して [挿入] ボタンをクリックします。
[行の挿入] 画面が表示されます。



2. 行数と行間値 (センタ漢字ラインプリンタの場合だけ) を設定します。
等しい行間値を持つ複数の行を一度に作成できます。
ここでは、次に示す情報を設定します。

挿入行数

行の挿入を手動または自動のどちらで行うかを選択します。デフォルト値は「手動で挿入行数は 1」です。

- ・手動
指定した行数分 (1 ~ 256 行) を挿入します。
- ・自動
行数の合計が 256 行 になるように挿入します。

注 センタラインプリンタの場合、桁ずらしありの場合は 254 行、桁ずらしなしの場合は 255 行になります。

行間値

行間値を設定します。デフォルト値は「6.0LPI (0.167 インチ)」です。
設定できる行間値を次の表に示します。

表 7-4 設定できる行間値

LPI	ドット (180dpi)	ミリメートル	インチ
24.0LPI	7.5	1.06	0.042
12.0LPI	15.0	2.12	0.083
10.0LPI	18.0	2.54	0.100
8.0LPI	22.5	3.17	0.125
7.5LPI	24.0	3.39	0.133
6.0LPI	30.0	4.23	0.167
4.0LPI	45.0	6.35	0.250
3.0LPI	60.0	8.47	0.333
1.5LPI	120.0	16.93	0.667
0.8LPI	240.0	33.87	1.333

3. [OK] ボタンをクリックします。

[ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能] 画面に制御が戻ります。また、行情報表示リストに挿入した行情報が追加され、行間隔合計表示が更新されます。

(2) 行情報の変更

すでに設定されている行情報に対して、チャンネルコードの設定または変更、および行間隔を変更する場合には、行情報の変更をします。

行情報を変更する手順を次に示します。

- [ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能] 画面の行情報表示リストから変更する行情報を選択し、[変更] ボタンをクリックします。
[行の変更] 画面が表示されます。



- チャンネルコードの設定、行間値の設定内容 (センタ漢字ラインプリンタの場合) を変更します。
ここでは、次に示す情報を設定します。

チャンネルコード

チャンネルコードを指定します。チャンネルコードを設定しない行には「なし」、設定する行には 1 ~ 12 の中から選択します。

行間値

行間値を指定します。設定できる行間値については、「表 7-4 設定できる行間値」を参照してください。

デフォルト値は「6.0LPI (0.167 インチ)」です。

3. [OK] ボタンをクリックします。

[ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能] 画面に制御が戻ります。また、行情報表示リストの当該行情報の表示と、行間隔合計表示が更新されます。

(3) 行情報表示リストのテキストのクリップボードへの保存

行情報表示リストのテキストをクリップボードに保存します。

クリップボードに保存する手順を次に示します。

1. 行情報表示リストにフォーカスのある状態で、[ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能] 画面のメニューバーの [編集] から [コピー] を選択します。
選択されている行情報のテキストがクリップボードに保存されます。また、ショートカットキー [Ctrl] + [A] を押すと、行情報が全選択されます。

(4) 行の削除

行情報表示リストの行を削除します。

行を削除する手順を次に示します。

1. [ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能] 画面の行情報表示リストから削除する行番号を選択し、[削除] ボタンをクリックします。
行情報表示リストから選択した行情報が削除され、以降の行情報の行番号が繰り上がります。また、行間隔合計表示も更新されます。
削除する行情報は、複数選択できます。

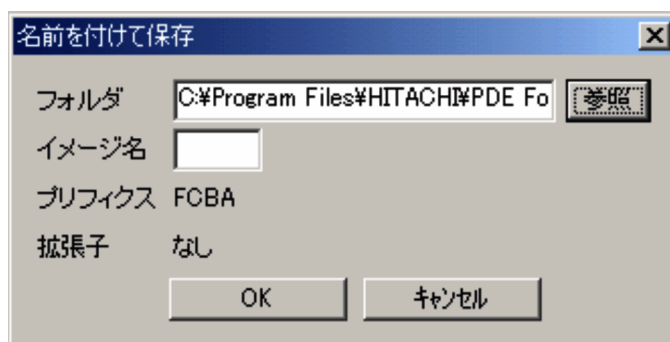
7.6.4 桁ずらし文字数の設定 (センタラインプリンタの場合)

桁ずらし文字数 (0 ~ 31) を設定します。これによって、行データの位置だけを右にずらして印刷できます。

7.7 ラインプリンタ用 FCB イメージの保存

[ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能] 画面のメニューバーの [ファイル] から [上書き保存] を選択した場合、既存のラインプリンタ用 FCB イメージを開いて編集したときは、ラインプリンタ用 FCB イメージが上書き保存され、新規にラインプリンタ用 FCB イメージを作成したときは、[名前を付けて保存] 画面が表示されます。また、編集したラインプリンタ用 FCB イメージの内容を保存しないで、[ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能] 画面のメニューバーの [ファイル] から [閉じる] または [終了] を選択した場合、内容を保存するかどうかの [メッセージ] 画面が表示されます。

保存を選択した場合、既存のラインプリンタ用 FCB イメージを開いて編集したときは、上書き保存され、新規にラインプリンタ用 FCB イメージを作成したときは、[名前を付けて保存] 画面が表示されます。



また、編集操作の有無に関係なく、[ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能] 画面のメニューバーの [ファイル] から [名前を付けて保存] を選択することで、表示されているラインプリンタ用 FCB イメージに名前を付けて保存できます。

ここでは、次に示す情報を設定します。

フォルダ

ラインプリンタ用 FCB イメージファイルの格納先フォルダを指定します。ラインプリンタ用 FCB イメージを新規に作成した場合は、環境設定のフォルダ設定で設定、または仮定されたラインプリンタ用 FCB イメージ格納フォルダが表示されます。ファイルを開いている場合は、編集ファイルの格納フォルダが表示されます。必要に応じて変更してください。

イメージ名

ラインプリンタ用 FCB イメージの名前を半角 4 けた以内の英数字 (0 ~ 9, A ~ Z, _, #, @) で指定します。ラインプリンタ用 FCB イメージを新規に作成した場合は、イメージ名は表示されないのので、指定してください。ファイルが開いている場合は、編集ファイルのイメージ名が表示されます。必要に応じて変更してください。

プリフィクス

プリフィクスが表示されます。変更できません。

拡張子

拡張子が表示されます。変更できません。

補足事項

- ラインプリンタ用 FCB イメージファイル名は、プリフィクスとイメージ名と拡張子を連結した名

7. ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能

前となります。ラインプリンタ用 FCB イメージのファイル名については、「7.3.1 ラインプリンタ用 FCB イメージファイル名」を参照してください。

- チャンネル 1 が設定されていない場合は、メッセージ画面で通知されますので、処理を続行するか、処理を中断して条件を満たすよう再設計してください。先頭行にはチャンネル 1 を設定することを推奨します。
- センタラインプリンタの場合で、行情報が 2 行以上でない場合は、メッセージ画面で通知されますので、条件を満たすよう再設定してください。

8

デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能

この章では、PDE - Form Designer のデフォルト機能キャラクタイメージ作成機能について説明します。

-
- 8.1 デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能とは
 - 8.2 デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能の入出力ファイル
 - 8.3 [デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面とメニュー項目一覧
 - 8.4 デフォルト機能キャラクタイメージ作成の開始と終了
 - 8.5 デフォルト機能キャラクタイメージの編集の設定
 - 8.6 デフォルト機能キャラクタイメージの保存
-

8.1 デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能とは

デフォルト機能キャラクタイメージは、印刷する行の先頭に仮定する機能キャラクタの内容を指定する制御イメージです。

デフォルト機能キャラクタイメージでの 8 けた以内の名前のうち、上 4 けたにはシステムが 'DFIA' (拡張プリフィクスの場合は 'DFIB') という固定の名前を付け、下 4 けたに付ける名前をデフォルト機能キャラクタイメージ名と呼びます。

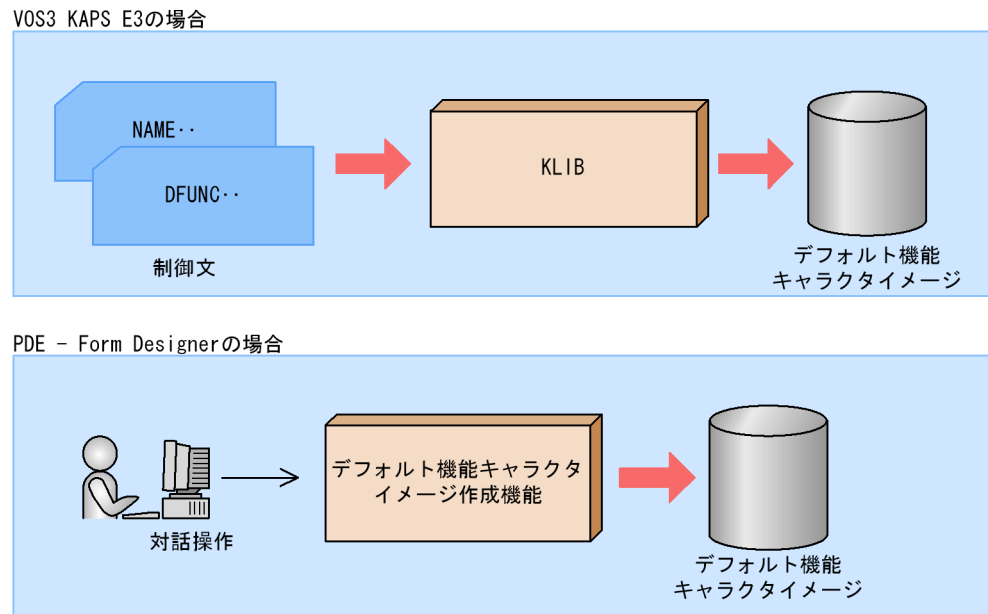
この機能は、VOS3 KAPS E3 の帳票保守 (KLIB)、VOS1 KAPS の漢字ライブラリ保守 (KLIB)、および VOSK 漢字処理 (EDIT DCI コマンド使用) のデフォルト機能キャラクタイメージ作成機能に相当する機能で、PDE で使用するデフォルト機能キャラクタイメージを GUI によって対話的に作成する機能です。直接デフォルト機能キャラクタイメージを作成したり、メインフレームからデフォルト機能キャラクタイメージをバイナリ転送し、それを入力としてデフォルト機能キャラクタイメージの作成をしたりできます。

KAPS E3 KLIB のデフォルト機能キャラクタイメージは、DFUNC 文と NAME 文によって作成します。デフォルト機能キャラクタイメージ名は NAME 文で定義します。

PDE - Form Designer では、KLIB などでは作成できない機能キャラクタも作成できます。

メインフレームと PDE - Form Designer でのデフォルト機能キャラクタイメージ作成の流れを次の図に示します。

図 8-1 メインフレームと PDE - Form Designer でのデフォルト機能キャラクタイメージ作成の流れ



なお、VOS1 および VOSK で作成したデフォルト機能キャラクタイメージをバイナリ転送し、PDE - Form Designer の入力としてデフォルト機能キャラクタイメージを作成する場合には、転送前にメインフレーム上でデフォルト機能キャラクタイメージを PDE イメージ転送で変換しておく必要があります。

PDE イメージ転送の使用方法およびファイル転送の方法については、マニュアル「PRINT DATA EXCHANGE」を参照してください。

VOS3 KAPS E3 および VOS1 KAPS (KLIB) のデフォルト機能キャラクタイメージ作成機能で使用する制御文・オペランド、ならびに VOSK EDIT DCI のパネル指定値と、このシステムのデフォルト機能キャラクタイメージ名は、マニュアル「PRINT DATA EXCHANGE」を参照してください。

ラクタイメージ作成機能の関係については、「付録 A.1 FCB イメージ作成 (VOS3 KAPS E3 (KLIB))」, 「付録 B.1 FCB イメージ作成 (VOS1 KAPS (KLIB))」, および「付録 C.1 FCB イメージ作成 (VOSK EDIT DCI コマンド)」を参照してください。

8.2 デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能の入出力ファイル

デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能の入出力対象となるファイルと役割を次の表に示します。

表 8-1 デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能の入出力対象となるファイルと役割

ファイル	入出力	ファイルの役割
デフォルト機能キャラクタイメージファイル	入力	デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能、またはメインフレームで作成されたデフォルト機能キャラクタイメージファイルは、内容を変更するために入力ができます。
	出力	デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能でデフォルト機能キャラクタイメージを新規作成または変更した内容を保存します。出力されたファイルは、PDE のユーザイメージライブラリにコピーして使用します。ファイルの名称については、「8.2.1 デフォルト機能キャラクタイメージファイル名」を参照してください。
環境設定ファイル (FDEnv.ini)	入力	デフォルト機能キャラクタイメージを新規作成時に参照します。ファイルがない場合は、初期値で動作します。生成するデフォルト機能キャラクタイメージのイメージ種別、および入力するデフォルト機能キャラクタイメージファイルの格納フォルダの初期設定情報を登録しておきます。設定方法については、「3. 環境設定機能」を参照してください。

8.2.1 デフォルト機能キャラクタイメージファイル名

PDE・Form Designer でデフォルト機能キャラクタイメージを新規作成する場合、ファイル名は、環境設定で設定されたイメージ種別によって決まります。

イメージ種別では、作成したデフォルト機能キャラクタイメージを VOS3, VOS1, VOSK, またはオープンの中のどのシステムと連携している PDE で使用するかを指定します。

デフォルト機能キャラクタイメージのファイル名を次の表に示します。

表 8-2 デフォルト機能キャラクタイメージのファイル名

イメージ種別	プリフィクス	ファイル名
VOS3, オープン	DFIA	DFIAxxxx
	DFIB	DFIBxxxx
VOS1	DFIA	DFIAxxxx.OBJECT
VOSK	DFIA	DFIAxxxx.DATA

(凡例)

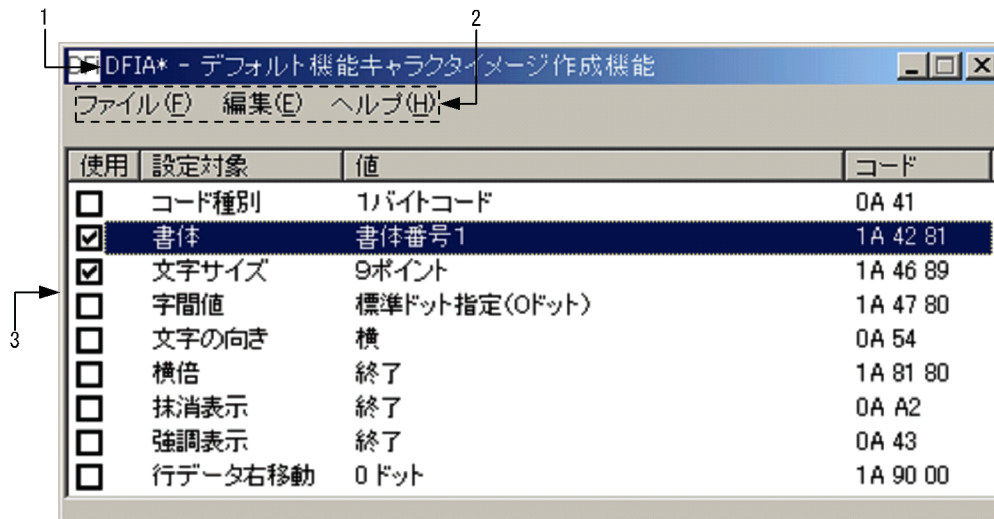
xxxx : [名前を付けて保存] 画面の「イメージ名」の項目で設定した 4 文字の英数字を示します。

注 メインフレーム上でイメージ名に「¥」を使用していた場合は、Windows 側に転送するとき、「¥」の代わりに「_」を使用してください。

8.3 [デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面とメニュー項目一覧

(1) [デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面構成

[デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面構成を次に示します (項番は項目の説明の番号と対応しています)。



1. タイトルバー
タイトルには、ファイル名と「デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能」が表示されます。
2. メニューバー
コマンドメニューが表示されます。
3. 機能キャラクタ表示リスト
デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能で設定できる機能キャラクタの情報が表示されます。
使用：対象となる機能キャラクタが設定されている場合にはチェックマーク が表示されます。
設定対象：設定する機能キャラクタの種類が表示されます。
値：設定対象の機能キャラクタの初期値または変更した値が表示されます。
コード：設定対象および値によって作成される機能キャラクタのコードが表示されます。

(2) メニュー項目一覧

[デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面のメニュー項目一覧を次の表に示します。

表 8-3 [デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面のメニュー項目一覧

メニューバー	プルダウンメニュー	機能
ファイル (F)	新規作成 (N) ...	デフォルト機能キャラクタイメージを新規に作成します。
	開く (O) ...	作成済みのデフォルト機能キャラクタイメージを開きます。
	閉じる (C)	作業中のデフォルト機能キャラクタイメージを閉じます。

8. デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能

メニューバー	プルダウンメニュー	機能
	上書き保存 (S)	デフォルト機能キャラクタイメージを閉じることなく、「開く」のときに指定したファイルと同じデフォルト機能キャラクタイメージに保存します。
	名前を付けて保存 (A) ...	作業中のデフォルト機能キャラクタイメージを別のファイル名で保存します。
	終了 (X)	デフォルト機能キャラクタイメージ作成を終了します。
編集 (E)	使用する (A)	選択しているすべての機能キャラクタの「使用」欄にチェックマーク <input checked="" type="checkbox"/> を付けます (機能キャラクタを設定します)。
	使用しない (D)	選択しているすべての機能キャラクタの「使用」欄のチェックマーク <input checked="" type="checkbox"/> を外します (機能キャラクタを設定しません)。
	パラメタの設定 (P) ...	選択している機能キャラクタのパラメタを設定する画面を表示します。
ヘルプ (H)	バージョン情報 (A) ...	このプログラムのバージョンなどを表示します。

8.4 デフォルト機能キャラクタイメージ作成の開始と終了

8.4.1 デフォルト機能キャラクタイメージの作成の開始

新規にデフォルト機能キャラクタイメージを作成する場合の開始手順を次に示します。

1. PDE - Form Designer の [ユティリティ] の [デフォルト機能キャラクタイメージ作成] アイコンを選択します。
[デフォルト機能キャラクタイメージ作成] アイコンは PDE - Form Designer のインストール時に作成されています。
このアイコンを選択すると、[デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面が表示されます。機能キャラクタ表示リストには、何も表示されません。
2. メニューバーの [ファイル] から [新規作成] を選択します。
環境設定でイメージ種別が設定されていない場合は、[エラー] 画面が表示されるので、この機能を終了し、環境設定を行います。
3. イメージ種別が VOS3 またはオープンの場合は、作成するデフォルト機能キャラクタイメージのプリフィクスを指定します。



4. [OK] ボタンをクリックします。
[デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面に戻るので、デフォルト機能キャラクタイメージを編集します。
なお、機能キャラクタ表示リストには、すべての機能キャラクタ情報（使用、設定対象、値、およびコード）の初期値が表示されます。使用欄にはチェックマーク は付いていません。

8.4.2 作成済みデフォルト機能キャラクタイメージの変更の開始

作成済みデフォルト機能キャラクタイメージを変更する場合の開始手順を次に示します。

1. PDE - Form Designer の [ユティリティ] の [デフォルト機能キャラクタイメージ作成] アイコンを選択します。
[デフォルト機能キャラクタイメージ作成] アイコンは PDE - Form Designer のインストール時に作成されています。
このアイコンを選択すると、[デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面が表示されます。機能キャラクタ表示リストには、何も表示されません。
2. メニューバーの [ファイル] から [開く] を選択します。
[ファイルを開く] 画面が表示されます。
3. 編集するデフォルト機能キャラクタイメージファイルを選択し、[開く] ボタンをクリックします。
機能キャラクタ表示リストに、すべて設定対象が表示されます。開いたデフォルト機能キャラクタイメージに設定されている項目については、使用欄にチェックマーク と設定されている値とコード

が、画面上に表示されます。未設定項目についてはデフォルト値が表示されます。

[ファイルを開く]画面で指定したデフォルト機能キャラクタイメージが、PDE・Form Designerでサポートされていない形式で作成されている場合は、[エラーメッセージ]画面が表示されます。


4. デフォルト機能キャラクタイメージを編集します。

8.4.3 デフォルト機能キャラクタイメージ作成の終了

デフォルト機能キャラクタイメージ作成を終了する手順を次に示します。

1. [デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能]のメニューバーの[ファイル]から[終了]を選択します。

デフォルト機能キャラクタイメージ作成が終了します。

デフォルト機能キャラクタイメージ作成を終了するには、このほかにタイトルバーの左端のコントロールボックスからコントロールメニューの[閉じる]を選択するか、またはタイトルバーの右端の[閉じる]ボタン  をクリックする方法があります。

8.5 デフォルト機能キャラクタイメージの編集の設定

8.5.1 使用欄の編集

機能キャラクタ表示リストに表示されている使用欄を編集する場合、次に示す三つの方法があります。

1. [デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面の機能キャラクタ表示リスト上の対象行にある使用欄のチェックボックスをクリックします。
2. [デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面の機能キャラクタ表示リスト上の対象行を選択して、メニューバーの [編集] から [使用する] または [使用しない] を選択します。
3. [デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面の機能キャラクタ表示リスト上の対象行を選択して、各項目の設定をする画面を表示します。

上記の3の操作手順を次に示します。

1. [デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面の機能キャラクタ表示リストから、対象行を選択します。
2. メニューバーの [編集] から [パラメタの設定] を選択するか、または機能キャラクタ表示リストの設定変更の対象行をダブルクリックします。
各種機能キャラクタの設定をする画面が表示されます。
3. 値を設定して、[OK] ボタンをクリックします。
[デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面に戻り、選択した行の使用欄にチェックマーク が表示されます。

8.5.2 値の編集

デフォルト機能キャラクタイメージの値を編集する手順を次に示します。

1. [デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面の機能キャラクタ表示リストから、対象行を選択します。
2. メニューバーの [編集] から [パラメタの設定] を選択するか、または機能キャラクタ表示リストの値変更の対象行をダブルクリックします。
各種機能キャラクタの設定をする画面が表示されます。
3. [OK] または [キャンセル] ボタンをクリックします。
[デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面に戻ります。[OK] ボタンをクリックした場合、選択した行の使用欄にチェックマーク が表示され、値の表示も更新されます。
[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、使用欄および値の表示もパラメタ設定画面の表示前のままとなります。

8.5.3 各機能キャラクタの設定画面

各機能キャラクタの設定画面を次に示します。

(1) [コード種別] 画面



この画面では、次に示す情報を設定します。

コード種別

コード種別を次に示す項目から選択します。

- 1バイトコード
- 2バイトコード

(2) [書体番号] 画面

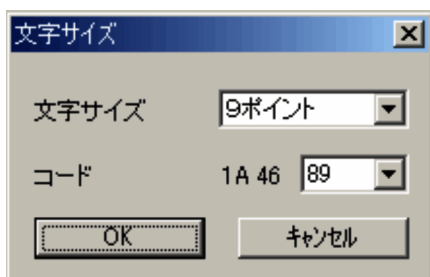


この画面では、次に示す情報を設定します。

書体番号

使用する書体番号 (0 ~ 15) を指定します。

(3) [文字サイズ] 画面



この画面では、次に示す情報を設定します。

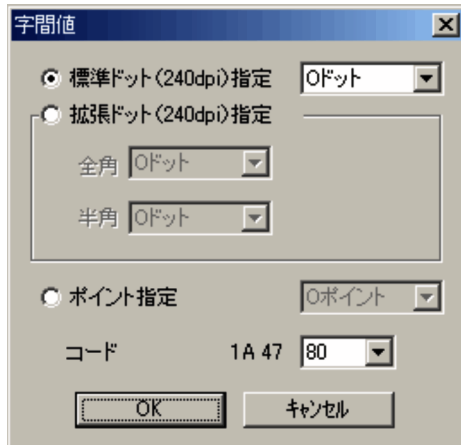
文字サイズ

文字サイズを指定します。

7, 9, 12, 14, 19, 38, または 77 (ポイント) から選択します。

機能キャラクタのコードから選択する場合は、1A 46 80 ~ 1A 46 FF の範囲で選択します。なお、実際の文字サイズは PDE での設定に従います。

(4) [字間値] 画面



この画面では、次に示す情報を設定します。

字間値

字間値を次に示すどれかの方法で指定します。

- 標準ドット (240dpi) 指定

0, 4, 8, または 12 (ドット) から選択します。

機能キャラクタのコードから選択する場合は、1A 47 80 ~ 1A 47 FF の範囲で選択します。なお、実際の字間値は PDE での設定に従います。

- 拡張ドット (240dpi) 指定

ドット単位の字間値指定を漢字コード (全角) と EBCDIK コード (半角) とで別々に指定できます。

0 ~ 15 (ドット) から選択します。

- ポイント指定

ポイント単位の字間値を指定できます。

0 ~ 15 (ポイント) から選択します。

機能キャラクタのコードから選択する場合は、1A A8 80 ~ 1A A8 FF の範囲で選択します。なお、実際の字間値は PDE での設定に従います。

(5) [文字の向き] 画面



この画面では、次に示す情報を設定します。

文字の向き

文字の向きを縦方向かまたは横方向か選択します。

(6) [横倍] 画面

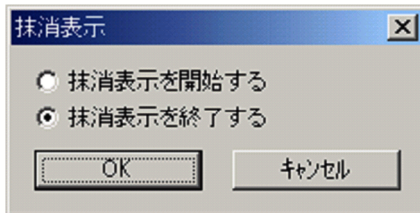


この画面では、次に示す情報を設定します。

横倍

横倍の開始または終了を選択します。

(7) [抹消表示] 画面



この画面では、次に示す情報を設定します。

抹消表示

抹消表示の開始または終了を選択します。

(8) [強調表示] 画面



この画面では、次に示す情報を設定します。

強調表示

強調表示の開始または終了を選択します。

(9) [行データ右移動] 画面



この画面では、次に示す情報を設定します。

行データ右移動

行データの右移動サイズを 0 ~ 255 (ドット) で指定します。

8.6 デフォルト機能キャラクタイメージの保存

[デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能]画面のメニューバーの[ファイル]から[上書き保存]を選択すると、既存のデフォルト機能キャラクタイメージを開いて編集した場合は、デフォルト機能キャラクタイメージが上書き保存されます。新規にデフォルト機能キャラクタイメージを作成した場合は、[名前を付けて保存]画面が表示されます。また、編集したデフォルト機能キャラクタイメージの内容を保存しないで、[デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能]画面のメニューバーの[ファイル]から[閉じる]または[終了]を選択すると、内容を保存するかどうかの[メッセージ]画面が表示されます。

保存を指示すると、既存のデフォルト機能キャラクタイメージを開いて編集した場合は、上書き保存され、新規にデフォルト機能キャラクタイメージを作成した場合は、[名前を付けて保存]画面が表示されます。

また、編集操作の有無に関係なくメニューバーの[ファイル]から[名前を付けて保存]を選択することで、表示されているデフォルト機能キャラクタイメージに名前を付けて保存できます。



この画面では、次に示す情報を設定します。

フォルダ

デフォルト機能キャラクタイメージの保存先フォルダを指定します。

デフォルト機能キャラクタイメージを新規に作成した場合は、環境設定の[フォルダ設定]画面で設定されたデフォルト機能キャラクタイメージ格納フォルダが表示されます。ファイルを開いている場合は、編集ファイルの保存フォルダが表示されますので、それぞれ必要に応じて保存先フォルダを変更します。

イメージ名

デフォルト機能キャラクタイメージ名を半角4けた以内の英数字(0~9, A~Z, _, #, @)で指定します。

デフォルト機能キャラクタイメージを新規に作成した場合は、イメージ名は表示されませんので必ず指定します。ファイルを開いている場合は、編集ファイルのイメージ名が表示されますので、必要に応じてデフォルト機能キャラクタイメージ名を変更します。

プリフィクス

プリフィクスが表示されます。変更はできません。

拡張子

拡張子が表示されます。変更はできません。

補足事項

デフォルト機能キャラクタイメージファイル名は、プリフィクス、イメージ名、および拡張子を連結した名前となります。デフォルト機能キャラクタイメージのファイル名については、「8.2.1 デフォルト機能キャラクタイメージファイル名」を参照してください。

9

ラインプリンタ用デフォルト機能 キャラクタイメージ作成機能

この章では、ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能について説明します。

-
- 9.1 ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能とは
 - 9.2 ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能の入出力ファイル
 - 9.3 [ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能]画面とメニュー項目一覧
 - 9.4 ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成の開始と終了
 - 9.5 ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージの編集
 - 9.6 ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージの保存
-

9.1 ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能とは

ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージでの 8 けた以内の名前のうち、上位 4 けたにはシステムが「DFIA」という固定の名前を持っています。

ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能は、VOS1 KAPS の漢字ライブラリ保守 (KLIB)、および VOSK 漢字処理のラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージの作成に相当する機能で、PDE・LP Edition および PDE・LP Option で使用するラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージを GUI によって対話的に作成する機能です。入力なしで直接ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージを作成でき、またメインフレームからラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージをバイナリ転送し、PDE・LP Edition および PDE・LP Option で使用するラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージを作成できます。

ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能では、VOSK 漢字処理では作成できない機能キャラクタも作成できます。

なお、VOS1 および VOSK で作成したラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージを入力として、ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージを作成する場合には、転送前にメインフレーム上でラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージを PDE イメージ転送で変換しておく必要があります。PDE イメージ転送の使用方法およびファイル転送の方法については、マニュアル「PRINT DATA EXCHANGE」を参照してください。

補足事項

- VOS1 KAPS の漢字ライブラリ保守 (KLIB) で指定する項目と、ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能で設定できる機能範囲の対応については、「付録 B.2 デフォルト機能キャラクタ作成 (VOS1 KAPS (KLIB))」を参照してください。
- VOSK 漢字処理のラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージの作成で指定する項目と、ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能で設定できる機能範囲の対応については、「付録 C.4 ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成 (VOSK EDIT DCI コマンド)」を参照してください。

9.2 ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能の入出力ファイル

ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能の入出力対象となるファイルと役割を次の表に示します。

表 9-1 ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能の入出力対象となるファイルと役割

ファイル	入出力	ファイルの役割
ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージファイル	入力	ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能、またはメインフレームで作成されたラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージファイルは、内容を変更するために入力できます。
	出力	ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能でラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージを新規作成・変更した内容が保存されます。 出力されたファイルは、PDE・LP Edition または PDE・LP Option のユーザイメージライブラリにコピーして使用します。 ファイルの名称については、「9.2.1 ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージファイル名」を参照してください。
環境設定ファイル (FDEnv.ini)	入力	編集時に参照します。生成するラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージのイメージ種別、ラインプリンタ種別、入力するラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージファイルの格納フォルダの初期設定情報を登録しておきます。詳細については、「3. 環境設定機能」を参照してください。

9.2.1 ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージファイル名

PDE・Form Designer でラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージを新規作成する場合、ファイル名は環境設定で設定されたイメージ種別によって決まります。

ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージのファイル名の規則を次の表に示します。

表 9-2 ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージファイル名

イメージ種別	プリフィクス	ファイル名
VOS3, オープン	DFIA	DFIAxxxx
VOS1	DFIA	DFIAxxxx.OBJECT
VOSK	DFIA	DFIAxxxx.DATA

(凡例)

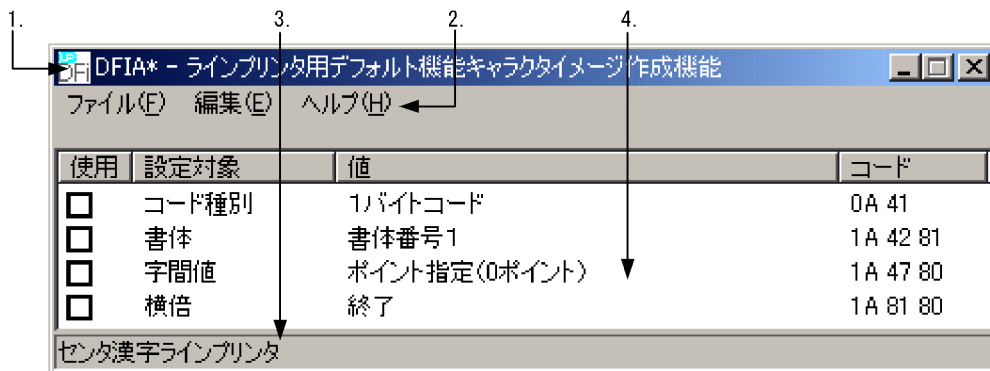
xxxx : [名前を付けて保存] 画面の [イメージ名] の項目で設定した 4 文字の英数字を示します。

9.3 [ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面とメニュー項目一覧

[ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面構成とメニュー項目一覧について説明します。

(1) [ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面構成

[ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面構成を次に示します (項番は項目の説明の番号と対応しています)。



1. タイトルバー
タイトルには、ファイル名と「ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能」が表示されます。
2. メニューバー
コマンドメニューが表示されます。
3. ステータスバー
環境設定の [制御イメージ設定] 画面のラインプリンタ種別に設定されている値が表示されます。
4. 機能キャラクタ表示リスト
ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能で設定できる機能キャラクタの情報が表示されます。
使用：対象となる機能キャラクタが設定されている場合にはチェックマーク が表示されます。
設定対象：設定する機能キャラクタの種類が表示されます。
値：設定対象の機能キャラクタのデフォルト値または変更した値が表示されます。
コード：設定対象および値によって作成される機能キャラクタのコードが表示されます。

(2) メニュー項目一覧

[ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面のメニュー項目一覧を次の表に示します。

表 9-3 [ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面のメニュー項目一覧

メニューバー	プルダウンメニュー	機能
ファイル (F)	新規作成 (N)	ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージを新規に作成します。

メニューバー	プルダウンメニュー	機能
	開く (O) ...	作成済みのラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージを開きます。
	閉じる (C)	作業中のラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージを閉じます。
	上書き保存 (S)	ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージを閉じることなく、[開く]のときに指定したファイルと同じラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージに保存します。
	名前を付けて保存 (A) ...	作業中のラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージを別のファイル名で保存します。
	終了 (X)	ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成を終了します。
編集 (E)	使用する (A)	選択しているすべての機能キャラクタの [使用] 欄にチェックマーク <input checked="" type="checkbox"/> が付きます (機能キャラクタを設定します)。
	使用しない (D)	選択しているすべての機能キャラクタの [使用] 欄のチェックマーク <input checked="" type="checkbox"/> が外れます (機能キャラクタを設定しません)。
	パラメタの設定 (P) ...	選択している機能キャラクタのパラメタを設定する画面を表示します。
ヘルプ (H)	バージョン情報 (A) ...	このプログラムのバージョンなどを表示します。

9.4 ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成の開始と終了

ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成の開始と終了について説明します。

9.4.1 ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージの作成の開始

新規にラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージを作成する場合の開始手順を次に示します。

1. [PDE - Form Designer] - [ラインプリンタ用ユティリティ] - [ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] アイコンを選択します。
[ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面が表示されます。機能キャラクタ表示リストには何も表示されません。
2. メニューバーの [ファイル] から [新規作成] を選択します。
機能キャラクタ表示リストに、すべての機能キャラクタの「使用」、「設定対象」、「値」、「コード」欄のデフォルト値が表示されます。「使用」欄にチェックマーク は入っていません。

9.4.2 作成済みラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージの変更の開始


作成済みデフォルト機能キャラクタイメージを変更する場合の開始手順を次に示します。

1. [PDE - Form Designer] - [ラインプリンタ用ユティリティ] - [ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] アイコンを選択します。
[ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面が表示されます。機能キャラクタ表示リストには何も表示されません。
2. メニューバーの [ファイル] から [開く] を選択します。または [ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面、またはアイコンに FCB イメージのアイコンをドラッグアンドドロップしてください。
[ファイルを開く] 画面が表示されます。
3. 編集するラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージファイルを選択し、[開く] ボタンをクリックします。
機能キャラクタ表示リストに、すべての設定対象が表示されます。開いたラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージに設定されている項目については、使用欄にチェックマーク 、および設定されている値とコードが、画面上に表示されます。未設定項目についてはデフォルト値が表示されません。
[ファイルを開く] 画面で指定したラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージが、PDE - Form Designer のサポート外の形式で作成されている場合は、[エラーメッセージ] 画面が表示されません。

9.4.3 ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成の終了

ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成を終了するには、次の 3 とおりの方法があります。

- メニューバーの [ファイル] から [終了] を選択します。

- タイトルバーの左端のコントロールボックスからコントロールメニューの [閉じる] を選択します。
- タイトルバーの右端の [閉じる] ボタン  をクリックします。

9.5 ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージの編集

ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージを編集する方法について説明します。

9.5.1 使用 / 不使用の編集

機能キャラクタ表示リストに表示されている使用欄を編集するには、次の 3 とおりの方法があります。

- [ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面の機能キャラクタ表示リスト上の対象行にある使用欄のチェックボックスをクリックします。
- [ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面の機能キャラクタリスト上の対象行を選択して、メニューバーの [編集] から [使用する] または [使用しない] を選択します。
- [ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面の機能キャラクタリスト上の対象行を選択して、各項目を設定する画面を表示します。次に示す手順で画面を表示します。
 1. 機能キャラクタ表示リストから対象行を選択します。
 2. メニューバーの [編集] から [パラメタの設定] を選択するか、または機能キャラクタリスト上の設定変更の対象行をダブルクリックします。
各種機能キャラクタを設定する画面が表示されます。
 3. 設定する値を表示させて、[OK] ボタンをクリックします。
[ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面に戻り、選択した行の使用欄にチェックマーク が表示されます。

9.5.2 値の編集

ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージの値を編集する手順を次に示します。

1. [ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面の機能キャラクタ表示リストから、対象行を選択します。
2. メニューバーの [編集] から [パラメタの設定] を選択するか、または機能キャラクタ表示リストの値変更の対象行をダブルクリックします。
各種機能キャラクタを設定するメッセージ画面が開きます。
3. [OK] または [キャンセル] ボタンをクリックします。
[ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面に戻ります。
[OK] ボタンをクリックした場合、選択した行の使用欄にチェックマーク が表示され、値の表示も更新されます。
[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、使用および値欄の表示は、パラメタ設定選択前のままと なります。

9.5.3 各機能キャラクタの設定画面

各機能キャラクタの設定画面を次に示します。

(1) [コード種別] 画面



この画面では、次に示す情報を設定します。

コード種別

コード種別を次に示す項目から選択します。デフォルト値は「1バイトコード」です。

- 1バイトコード
- 2バイトコード

(2) [書体番号] 画面



この画面では、次に示す情報を設定します。

書体番号

使用する書体番号 0 ~ 15 を指定します。デフォルト値は「書体番号 1」です。

(3) [字間値] 画面



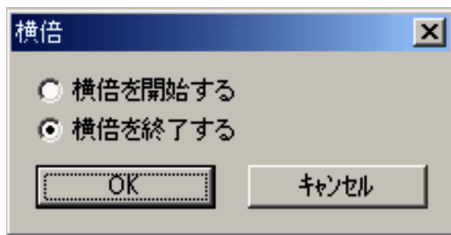
この画面では、次に示す情報を設定します。

字間値

字間値を次に示すどちらかの方法で指定します。デフォルト値は「ポイント指定」です。

- ポイント指定
ポイント単位の字間値を指定してください。設定できる値は、センタ漢字ラインプリンタの場合は 0.0 ~ 62.0 (ポイント)、端末漢字ラインプリンタの場合は 0 ~ 15 (ポイント) です。
- CPI 指定
CPI 単位の字間値を指定してください。選択できる値は、10CPI、12CPI、または 15CPI です。

(4) [横倍] 画面



この画面では、次に示す情報を設定します。

横倍

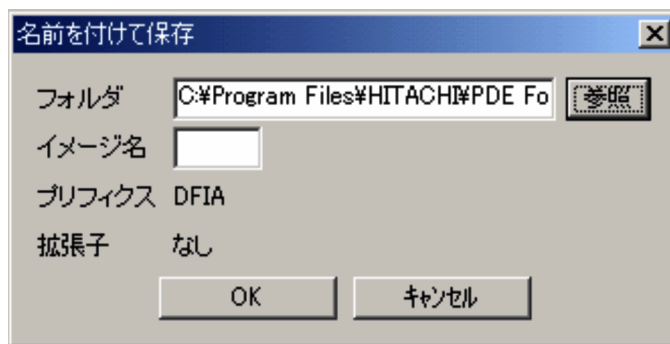
横倍の開始または終了を選択します。デフォルト値は「横倍を終了する」です。

9.6 ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージの保存

[ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能]画面のメニューバーの[ファイル]から[上書き保存]を選択した場合、既存のラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージを開いて編集したときは、ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージが上書き保存されます。新規にラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージを作成したときは、[名前を付けて保存]画面が表示されます。また、編集したラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージの内容を保存しないで、[ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能]画面のメニューバーの[ファイル]から[閉じる]または[終了]を選択した場合、内容を保存するかどうかの[メッセージ]画面が表示されます。

保存を選択した場合、既存のラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージを開いて編集したときは、上書き保存され、新規にラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージを作成したときは、[名前を付けて保存]画面が表示されます。

また、編集操作の有無に関係なく、メニューバーの[ファイル]から[名前を付けて保存]を選択することで、表示されているラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージに名前を付けて保存できます。



この画面では、次に示す情報を設定します。

フォルダ

ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージの格納先フォルダを指定します。

ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージを新規に作成した場合は、環境設定のフォルダ設定で設定、または仮定されたラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ格納フォルダが表示されます。ファイルを開いている場合は、編集ファイルの格納フォルダが表示されます。必要に応じて変更してください。

イメージ名

ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージの名前を半角4けた以内の英数字(0~9, A~Z, _, #, @)で指定します。

ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージを新規に作成した場合は、イメージ名は表示されませんので指定してください。ファイルを開いている場合は、編集ファイルのイメージ名が表示されますので、必要に応じて変更してください。

プリフィクス

プリフィクスが表示されます。変更はできません。

拡張子

拡張子が表示されます。変更はできません。

9. ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能

補足事項

ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージファイル名は、プリフィクスとイメージ名と拡張子を連結した名前となります。ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージのファイル名については、「9.2.1 ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージファイル名」を参照してください。

10 書式記述文生成機能

この章では、PDE - Form Designer 記述文オプションの書式記述文生成機能について説明します。

10.1 書式記述文生成機能とは

10.2 書式記述文生成機能の入出力ファイル

10.3 書式記述文の生成

10.4 コマンドプロンプトを使用した書式記述文生成

10.1 書式記述文生成機能とは

書式記述文生成機能は、PDE・Form Designer の書式定義機能で作成した書式イメージファイルから書式記述文を生成する機能です。GUI による対話的な実行またはコマンドラインによる実行ができます。

書式記述文の生成規則については、「付録 H 書式記述文の生成規則」を参照してください。

10.2 書式記述文生成機能の入出力ファイル

書式記述文生成機能の入出力対象となるファイルとその役割を次の表に示します。

表 10-1 書式記述文生成機能の入出力対象となるファイルとその役割

必要なファイル	入出力	ファイルの役割
書式イメージファイル (*.fog)	入力	書式定義機能で書式设计した内容を保存します。
オプション設定ファイル (option.dat)	入力	書式記述文または書式イメージを生成するためのオプションを保存するファイルです。システム管理者が、あらかじめ設定しておきます。オプション設定ファイルの詳細については、「付録 G オプション設定ファイル」を参照してください。
環境設定ファイル (FDEnv.ini)	入力	画面から操作をする場合に参照するファイルです。生成する書式記述文のイメージ種別、入力する書式イメージファイルのフォルダ、および書式記述文の出力先フォルダの初期設定情報を登録しておきます。登録方法については、「3. 環境設定機能」を参照してください。
書式記述文ファイル	出力	書式記述文生成機能が作成する書式記述文を保存するファイルです。ファイルの名称については、「10.2.1 書式記述文ファイル名」を参照してください。 なお、すでに同一名称のファイルが出力フォルダ内に存在する場合、上書きされます。

10.2.1 書式記述文ファイル名

出力する書式記述文ファイル名は、cccc になります。

入力となる書式イメージに保存されている内容から決まり、入力ファイル名とは関係ありません。

注 cccc：書式名を示します。書式设计機能での [書式情報] 画面の「書式名」の項目で設定した 4 文字以内の英数字です。ただし、書式名が「¥」を含んでいた場合、「¥」は「_」に置き換わります。


10.3 書式記述文の生成

書式記述文を生成する手順を次に示します。

1. プログラムメニューから、PDE Form Designer の書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成のアイコンを選択します。
[書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面が表示されます。
[書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面については、「5.3 [書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面と項目一覧」を参照してください。
2. [書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面の [生成種別] の [書式記述文] を選択します ([生成種別] に [書式イメージ] が選択されている場合は、[書式イメージ] の選択を解除してから [書式記述文] を選択します)。
[出力先] の [書式記述文] に、生成する書式記述文保存先の初期値として環境設定で設定済みのフォルダが表示され、出力先変更のための [参照] ボタンが選択できるようになります。
3. 生成対象ファイルを指定します。
生成対象ファイルを指定するには、次に示す三つの方法があります。
 - [フォルダ] ボタンから生成対象ファイルを追加
[フォルダ] ボタンをクリックすると、[フォルダの参照] 画面が表示されますので、フォルダを選択し [OK] ボタンをクリックしてください。これによって、指定したフォルダ直下にあるすべての書式イメージファイルが、生成対象ファイルとして追加されます。
 - [ファイル] ボタンから生成対象ファイルを追加
[ファイル] ボタンをクリックすると、[ファイルを開く] 画面が表示されますので、書式イメージファイルを選択し [OK] ボタンをクリックしてください。これによって、指定した書式イメージファイルが生成対象ファイルとして追加されます。
 - エクスプローラなどからドラッグ&ドロップで生成対象ファイルを追加
エクスプローラなどに表示されている一つまたは複数の書式イメージファイルを、生成対象ファイルリストへドラッグ&ドロップして追加します。
フォルダのドラッグ&ドロップもできます。フォルダをドラッグ&ドロップした場合は、フォルダ直下にあるすべての書式イメージファイルが生成対象ファイルとして追加されます。

指定したファイルを生成対象から外したい場合は、対象外にするファイル (複数選択可) を選択し、[削除] ボタンをクリックします。
4. [出力先] の [書式記述文] に表示されている出力先以外のフォルダに、書式記述文を出力する場合は、直接入力するかまたは [参照] ボタンをクリックして、出力先を変更します。
[フォルダの参照] 画面が表示されますので、フォルダを選択し [OK] ボタンをクリックしてください。
出力先が設定されていない場合は、マイドキュメントフォルダに出力されます。
5. [生成開始] ボタンをクリックします。
生成対象ファイルから順に書式記述文を生成します。
生成ログボックスに、生成時のメッセージが表示されます。メッセージの詳細については「14. エラーメッセージ」を参照してください。ログ一覧の右上に生成時の処理済みファイル数が表示されます。
6. 生成を中断したい場合は、[生成中断] ボタンをクリックします。
中断のタイミングは、1 ファイル単位となります。
7. 表示されている生成ログをファイルに保存しておきたい場合は、[ログ保存] ボタンをクリックします。
[名前を付けて保存] 画面が表示されますので、ログを保存するファイルを指定します。

生成結果が、生成ログとして [書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面に表示されます。

8. [書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面の [終了] ボタンをクリックするか、またはタイトルバーの右端の [閉じる] ボタン  をクリックします。
[書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面が終了します。

10.4 コマンドプロンプトを使用した書式記述文生成

Windows のコマンドプロンプトで FDSNSO.exe を実行して、書式記述文生成機能を起動します。書式記述文生成機能の起動は、次に示すどれかの方法で行います。

- FDSNSO
- FDSNSO /h
- FDSNSO 入力ファイル名
- FDSNSO 入力ファイル名 /d 出力フォルダ名
- FDSNSO 入力ファイル名 /t イメージ種別
- FDSNSO 入力ファイル名 /d 出力フォルダ名 /t イメージ種別

注

- コマンドプロンプトからの実行では、環境設定機能で設定した内容は無効となります。
- 各パラメタの順番は、上記のとおりで変更できません。

FDSNSO コマンドで指定するパラメタを次の表に示します。

表 10-2 FDSNSO コマンドで指定するパラメタ

パラメタ	説明	省略時の仮定値
/h	/h を指定すると、コマンドの使用方法与バージョンが表示されます。	-
入力ファイル名	入力となる書式イメージファイル (*.fog) を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 絶対パスまたは相対パスで指定できます。 • ワイルドカード指定またはフォルダ指定はしないでください。 	-
/d 出力フォルダ名	生成した書式記述文を保存する既存のフォルダを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 出力フォルダが存在しない場合、フォルダは作成されません。すでに存在するフォルダを指定してください。 • 絶対パスまたは相対パスで指定できます。 • /d と出力フォルダ名は必ず組で指定してください。 	起動時のカレントフォルダ
/t イメージ種別	メインフレームのどの OS と連携して運用されている PDE で使用するために書式記述文を生成するかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • VOS3, VOS1, VOSK, または OPEN (オープン) のどれかを指定します。 • /t とイメージ種別は必ず組で指定してください。 	VOS3

(凡例)

- : 該当しません。

注 出力先フォルダをパス指定する場合は、長さが 244 バイト以下となるように指定してください。

11 書式イメージ生成機能

この章では、PDE - Form Designer の書式イメージ生成機能について説明します。

11.1 書式イメージ生成機能とは

11.2 書式イメージ生成機能の入出力ファイル

11.3 書式イメージの生成

11.4 コマンドプロンプトを使用した書式イメージ生成

11.1 書式イメージ生成機能とは

書式イメージ生成機能は、書式記述文から書式イメージファイルを生成する機能です。GUI による対話的な実行またはコマンドラインによる実行ができます。

書式記述文のサポート範囲および書式イメージの生成規則については、「付録 I 書式イメージの生成規則」を参照してください。

11.2 書式イメージ生成機能の入出力ファイル

書式イメージ生成機能の入出力対象となるファイルとその役割を次の表に示します。

表 11-1 書式イメージ生成機能の入出力対象となるファイルとその役割

必要なファイル	入出力	ファイルの役割
書式記述文ファイル (* または *.txt) 1	入力	書式の定義が記述されたテキストファイルです。
書式記述文部品ファイル (*.txt) 1 2	入力	書式記述文から参照されるセグメントやユーザ定義マクロが記述されたテキストファイルです。
オプション設定ファイル (option.dat)	入力	書式記述文または書式イメージを生成するためのオプションを保存するファイルです。システム管理者が、あらかじめ設定しておきます。オプション設定ファイルの詳細については、「付録 G オプション設定ファイル」を参照してください。
環境設定ファイル (FDEnv.ini)	入力	生成する書式イメージの作画属性や書式情報などを登録しておきます。有効となる設定内容については、「1.4(7) 書式イメージ生成機能」を参照してください。登録方法については、「3. 環境設定機能」を参照してください。
漢字コード変換テーブル (codemap.tbl)	入力	漢字コードマップ機能が生成するシフト JIS コードと KEIS コードの対応関係が定義された実行形式ファイルです。環境設定で [外字マッピング] に [ランダム・マッピング] が設定されている場合、NCODE 文で指定された外字のコード変換に使用します。
書式イメージファイル (*.fog)	出力	書式イメージ生成機能が作成する書式イメージを保存するファイルです。ファイルの名称については、「11.2.1 書式イメージファイル名」を参照してください。 なお、すでに同一名称のファイルが出力フォルダ内に存在する場合、上書きされます。

注 1 文字コードはシフト JIS, 改行コードは (0D0A)₁₆ です。メインフレームからの転送時にコード変換してください。

注 2 ファイル名は、セグメント名.txt またはユーザ定義マクロ名.txt としてください。ただし、セグメント名またはユーザ定義マクロ名が「¥」を含んでいる場合、「¥」は「_」に置き換えてください。

11.2.1 書式イメージファイル名

出力する書式イメージファイル名は、「書式記述文ファイル名.fog」になります。


入力ファイル名から決まり、入力となる書式記述文に保存されている書式名とは関係ありません。

11.3 書式イメージの生成

書式イメージを生成する手順を次に示します。

1. プログラムメニューから、PDE Form Designer の書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成のアイコンを選択します。
[書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面が表示されます。
[書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面については、「5.3 [書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面と項目一覧」を参照してください。
2. [書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面の [生成種別] の [書式イメージ] を選択します ([生成種別] に [書式オーバーレイ] または [書式記述文] が選択されている場合は、[書式オーバーレイ] および [書式記述文] の選択を解除してから [書式イメージ] を選択します)。
[出力先] の [書式イメージ] に、生成する書式イメージ保存先の初期値として環境設定で設定済みのフォルダが表示され、出力先変更のための [参照] ボタンが選択できるようになります。
3. 生成対象ファイルを指定します。
生成対象ファイルを指定するには、次に示す三つの方法があります。
 - [フォルダ] ボタンから生成対象ファイルを追加
[フォルダ] ボタンをクリックすると、[フォルダの参照] 画面が表示されますので、フォルダを選択し [OK] ボタンをクリックしてください。これによって、指定したフォルダ直下にあるすべての書式記述文ファイル (拡張子なしまたは拡張子が「.txt」のファイル) が、生成対象ファイルとして追加されます。
 - [ファイル] ボタンから生成対象ファイルを追加
[ファイル] ボタンをクリックすると、[ファイルを開く] 画面が表示されますので、書式記述文ファイルを選択し [OK] ボタンをクリックしてください。これによって、指定した書式記述文ファイルが生成対象ファイルとして追加されます。
 - エクスプローラなどからドラッグ&ドロップで生成対象ファイルを追加
エクスプローラなどに表示されている一つまたは複数の書式記述文ファイルを、生成対象ファイルリストへドラッグ&ドロップして追加します。
フォルダのドラッグ&ドロップもできます。フォルダをドラッグ&ドロップした場合は、フォルダ直下にあるすべての書式記述文ファイル (拡張子なしまたは拡張子が「.txt」のファイル) が生成対象ファイルとして追加されます。
指定したファイルを生成対象から外したい場合は、対象外にするファイル (複数選択可) を選択し、[削除] ボタンをクリックします。
4. [参照先] の [書式記述文部品] に表示されている参照先以外のフォルダから、書式記述文部品を参照する場合は、直接入力するかまたは [参照] ボタンをクリックして、参照先を変更します。
[フォルダの参照] 画面が表示されますので、フォルダを選択し [OK] ボタンをクリックしてください。
参照先が設定されていない場合は、マイドキュメントフォルダが参照されます。
5. [出力先] の [書式イメージ] に表示されている出力先以外のフォルダに、書式イメージを出力する場合は、直接入力するかまたは [参照] ボタンをクリックして、出力先を変更します。
[フォルダの参照] 画面が表示されますので、フォルダを選択し [OK] ボタンをクリックしてください。
出力先が設定されていない場合は、マイドキュメントフォルダに出力されます。
6. [生成開始] ボタンをクリックします。
生成対象ファイルから順に書式イメージを生成します。
生成ログボックスに、生成時のメッセージが表示されます。メッセージの詳細については「14. エ

ラーメッセージ」を参照してください。ログ一覧の右上に生成時の処理済みファイル数が表示されます。

7. 生成を中断したい場合は、[生成中断] ボタンをクリックします。
中断のタイミングは、1 ファイル単位となります。
8. 表示されている生成ログをファイルに保存しておきたい場合は、[ログ保存] ボタンをクリックします。
[名前を付けて保存] 画面が表示されますので、ログを保存するファイルを指定します。
生成結果が、生成ログとして [書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面に表示されます。
9. [書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面の [終了] ボタンをクリックするか、またはタイトルバーの右端の [閉じる] ボタン  をクリックします。
[書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面が終了します。

11.4 コマンドプロンプトを使用した書式イメージ生成

Windows のコマンドプロンプトで FDSNIMG.exe を実行して、書式イメージ生成機能を起動します。書式イメージ生成機能の起動は、次に示すどれかの方法で行います。

- FDSNIMG
- FDSNIMG /h
- FDSNIMG 入力ファイル名
- FDSNIMG 入力ファイル名 /p 書式記述文部品フォルダ名
- FDSNIMG 入力ファイル名 /d 出力フォルダ名
- FDSNIMG 入力ファイル名 /p 書式記述文部品フォルダ名 /d 出力フォルダ名

注

- コマンドプロンプトからの実行では、環境設定機能で設定した書式記述文格納フォルダおよび書式記述文部品格納フォルダは無効となります。
- 各パラメタの順番は、上記のとおりで変更できません。

FDSNIMG コマンドで指定するパラメタを次の表に示します。

表 11-2 FDSNIMG コマンドで指定するパラメタ

パラメタ	説明	省略時の仮定値
/h	/h を指定すると、コマンドの使用方法与バージョンが表示されます。	-
入力ファイル名	入力となる書式記述文ファイル (* または *.txt) を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 絶対パスまたは相対パスで指定できます。 • ワイルドカード指定またはフォルダ指定はしないでください。 	-
/p 書式記述文部品フォルダ名	書式記述文部品ファイルを保存しているフォルダを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 絶対パスまたは相対パスで指定できます。 • /p と書式記述文部品フォルダ名は必ず組で指定してください。 	起動時のカレントフォルダ
/d 出力フォルダ名	生成した書式イメージを保存する既存のフォルダを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 出力フォルダが存在しない場合、フォルダは作成されません。すでに存在するフォルダを指定してください。 • 絶対パスまたは相対パスで指定できます。 • /d と出力フォルダ名は必ず組で指定してください。 	起動時のカレントフォルダ

(凡例)

- : 該当しません。

注 書式記述文部品フォルダおよび出力先フォルダをパス指定する場合は、長さが 244 バイト以下となるように指定してください。

12 制御イメージ一覧機能

この章では、PDE - Form Designer の制御イメージ一覧機能について説明します。

12.1 制御イメージ一覧機能とは

12.2 制御イメージ一覧機能の入出力ファイル

12.3 [制御イメージ一覧機能] 画面とメニュー項目一覧

12.4 制御イメージ一覧機能の開始と終了

12.5 制御イメージ一覧機能での制御イメージ一覧の表示

12.1 制御イメージ一覧機能とは

PDE・Form Designer で作成またはメインフレームから転送した次に示す制御イメージの概要を一覧表示します。

- 書式オーバーレイモジュール
- 書式イメージ
- FCB イメージ
- デフォルト機能キャラクタイメージ

さらに、PDE・Form Designer のその他の機能と連携することによって、次に示すことができます。

- 書式オーバーレイモジュールおよび書式記述文を生成
- 書式イメージ、FCB イメージ、およびデフォルト機能キャラクタイメージの作成、編集

また、制御イメージの削除および制御イメージ一覧のファイルへの保存もできます。

12.2 制御イメージ一覧機能の入出力ファイル

制御イメージ一覧機能の入出力対象となるファイルと役割を次の表に示します。

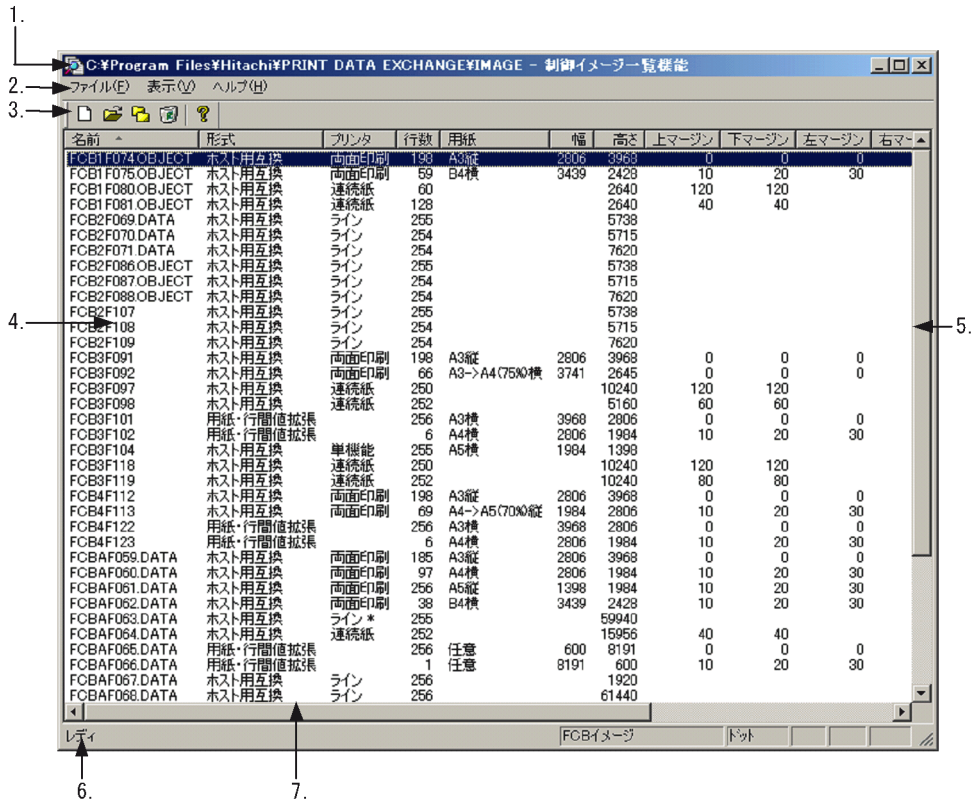
表 12-1 制御イメージ一覧機能の入出力対象となるファイルと役割

ファイル	入出力	ファイルの役割
制御イメージ一覧ファイル	出力	制御イメージの一覧を保存します。
環境設定ファイル	入力	制御イメージを一覧表示および開くときに参照します。制御イメージを一覧表示および開くときの優先度を登録しておきます。設定方法については、「3. 環境設定機能」を参照してください。
書式イメージファイル	入力	書式定義機能で書式设计した書式イメージ、またはメインフレームで作成された書式イメージファイルの概要を一覧表示します。
FCB イメージファイル	入力	FCB イメージ作成機能、またはメインフレームで作成された FCB イメージファイルの概要を一覧表示します。
デフォルト機能キャラクタイメージファイル	入力	デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能、またはメインフレームで作成されたデフォルト機能キャラクタイメージファイルの概要を一覧表示します。
書式オーバーレイモジュールファイル	入力	書式オーバーレイモジュール生成機能、またはメインフレームで作成された書式オーバーレイモジュールファイルの概要を一覧表示します。

12.3 [制御イメージ一覧機能] 画面とメニュー項目一覧

(1) [制御イメージ一覧機能] 画面構成

[制御イメージ一覧機能] 画面構成を次に示します (項番は項目の説明の番号と対応しています)。



1. タイトルバー
タイトルには、フォルダパスを表示し、その右側に「 - 制御イメージ一覧機能」(は半角スペースを示します)が表示されます。
2. メニューバー
コマンドメニューが表示されます。
3. ツールバー
標準ボタンが表示されます。
4. 制御イメージ一覧
制御イメージ一覧が表示されます。
5. 垂直スクロールバー
制御イメージ一覧を垂直方向にスクロールする場合に操作します。
6. ステータスバー (メッセージ領域)
メニューの各操作やボタンのガイダンスを表示します。
7. 水平スクロールバー
制御イメージ一覧を水平方向にスクロールする場合に操作します。

なお、初期表示の画面の大きさは前回終了時と同じとなります。

(2) メニュー項目一覧

[制御イメージ一覧機能] 画面のメニュー項目一覧を次の表に示します。

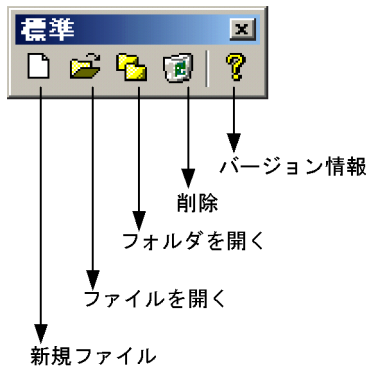
表 12-2 [制御イメージ一覧機能] 画面のメニュー項目一覧


メニューバー	プルダウンメニュー		機能
ファイル (F)	新規作成 (N)	書式イメージ (I)	書式イメージを新規に作成します。
		FCB イメージ (F)	<ul style="list-style-type: none"> FCB イメージを新規に作成します。 FCB イメージ作成機能を新規作成の状態 で起動します。
		デフォルト機能キャラクタ イメージ (D)	<ul style="list-style-type: none"> デフォルト機能キャラクタイメージを新規 に作成します。 デフォルト機能キャラクタイメージ作成機 能を新規作成の状態 で起動します。
	ファイルを開く (O)		選択されているファイルを開きます。
	フォルダを開く (F) ...		フォルダを開きます。
	書式オーバーレイを生成 (V)		選択されている書式イメージから書式オーバ レイを生成します。
	書式記述文を生成 (K)		選択されている書式イメージから書式記述文を 生成します。
	削除 (D)		選択されているファイルを削除します。
	一覧の保存 (S) ...		制御イメージ一覧を保存します。
	MRU リスト		直前に開かれたフォルダを四つまで表示しま す。このフォルダを指定すると、フォルダの指 定作業を省略して直接開くことができます。
	アプリケーションの終了 (X)		制御イメージ一覧機能を終了します。
表示 (V)	標準ツールバー (T)		標準ツールバーの表示の有無を設定します。
	ステータスバー (S)		ステータスバーの表示の有無を設定します。
	書式オーバーレイ (O)		書式オーバーレイの一覧を表示します。
	書式イメージ (I)		書式イメージの一覧を表示します。
	FCB イメージ (F)		FCB イメージの一覧を表示します。
	デフォルト機能キャラクタイメージ (C)		デフォルト機能キャラクタイメージの一覧を表 示します。
	ドット (D)		数値の単位をドットで表示します。
	ミリメートル (M)		数値の単位をミリメートルで表示します。
	インチ (N)		数値の単位をインチで表示します。
	警告ダイアログの表示 (W)		警告ダイアログの表示の有無を設定します。
	すべて選択 (A)		表示している制御イメージをすべて選択状態に します。
最新の情報に更新 (R)		制御イメージ一覧を最新の状態に更新します。	
ヘルプ (H)	バージョン情報 (A) ...		このプログラムのバージョンなどを表示しま す。

(3) 標準ツールバーと標準ボタン

[制御イメージ一覧機能] 画面の標準ツールバーと標準ボタンを次の図に示します。

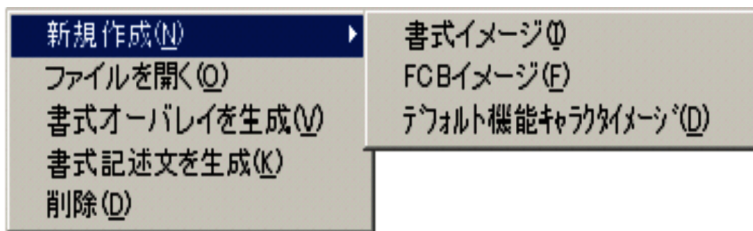
図 12-1 [制御イメージ一覧機能] 画面の標準ツールバーと標準ボタン



新規ファイルボタン  は、制御イメージ一覧に表示しているイメージの新規ファイルを作成します。その他の機能は [制御イメージ一覧機能] 画面のメニューの各コマンドと同じです。

(4) ポップアップメニュー

ポップアップメニューは、制御イメージ一覧上で右クリックすることで表示されます。機能は [制御イメージ一覧機能] 画面のメニューの各コマンドと同じです。



(5) 不活性化

メニューバー、ポップアップメニュー、およびボタンの選択が無意味または使用不可の場合に不活性化表示（無効状態であり、薄く表示されている）になります。

(6) 制御イメージ一覧の項目一覧

制御イメージの種類ごとに表示する項目を次に示します。

注意事項

制御イメージ一覧にはファイル形式の正しい（PDE・Form Designer がサポートしている）制御イメージだけを表示します。ただし、制御イメージ一覧には表示されませんが、ファイルを開くまたは PDE に入力すると、ファイル形式エラーが起こる場合もあります。最終的なファイル形式の確認は、ファイルを開くことで行ってください。

補足事項

ラインプリンタ用の制御イメージは 180dpi、それ以外の制御イメージは 240dpi で表示します。
 リスト表示時にファイルの内容を読み取るためバックグラウンドでファイルを開きますが、ファイルが開けなかった場合は編集中と判断して、ファイル名の後ろに「 *」（ : 半角スペース）を表示します（ファイルが解析できなかったことを示します）。ファイルが編集中の場合は、名前と更新日時だけを表示します。
 また、「カット紙 / 連続紙プリンタ用」または「ラインプリンタ用」を判断できない制御イメージは、プリンタの後ろに「 *」を表示して、制御イメージ設定の「優先度」に従って表示していることを

示しています。

(a) 書式オーバーレイ

書式オーバーレイの制御イメージ一覧の項目一覧を次の表に示します。

表 12-3 書式オーバーレイの制御イメージ一覧の項目一覧

項目	説明
名前	ファイルの名前を表示します。
用紙	用紙の種類, 用紙サイズの拡張の有無を表示します。用紙の大きさが規格外の場合は, 空欄で表示します。用紙の種類と大きさについては, 「4. 書式定義機能」を参照してください。
幅	用紙幅を表示します。
高さ	用紙の高さを表示します。
FCB 右相対距離	FCB の原点から右への相対距離を表示します。
FCB 下相対距離	FCB の原点から下への相対距離を表示します。
水平 / 垂直線	イメージ中に含まれる水平または垂直線の数を表示します。
斜線	イメージ中に含まれる斜線の数を表示します。
円	イメージ中に含まれる円の数を表示します。
円弧	イメージ中に含まれる円弧の数を表示します。
パターン	イメージ中に含まれるパターンの数を表示します。
網掛け	イメージ中に含まれる網掛けの数を表示します。
文字	イメージ中に含まれる文字の数を表示します。
更新日時	ファイルの更新日時を表示します。

注 選択された数値の単位によって表示が変更されます。

ただし, 書式オーバーレイ生成時に図形の分解が起こる場合があるため (例: 2 ドット以上の斜線は 1 ドットの斜線に分解されるなど), 実際の書式の印象より表示されている数が大きくなる場合があります。

(b) 書式イメージ

書式イメージの制御イメージ一覧の項目一覧を次の表に示します。

表 12-4 書式イメージの制御イメージ一覧の項目一覧

項目	説明
名前	ファイルの名前を表示します。
書式名	書式名を表示します。
用紙	用紙の種類, 用紙サイズの拡張の有無を表示します。用紙の大きさが規格外の場合は, 空欄で表示します。用紙の種類と大きさについては, 「4. 書式定義機能」を参照してください。
幅	用紙幅を表示します。
高さ	用紙の高さを表示します。
FCB 右相対距離	FCB の原点から右への相対距離を表示します。
FCB 下相対距離	FCB の原点から下への相対距離を表示します。
直線	イメージ中に含まれる直線の数を表示します。

12. 制御イメージ一覧機能

項目	説明
矩形	イメージ中に含まれる矩形の数を表示します。
円	イメージ中に含まれる円の数を表示します。
円弧	イメージ中に含まれる円弧の数を表示します。
パターン	イメージ中に含まれるパターンの数を表示します。
網掛け	イメージ中に含まれる網掛けの数を表示します。
文字列	イメージ中に含まれる文字列の数を表示します。
更新日時	ファイルの更新日時を表示します。

注 選択された数値の単位によって表示が変更されます。

(c) FCB イメージ

FCB イメージの制御イメージ一覧の項目一覧を次の表に示します。

表 12-5 FCB イメージの制御イメージ一覧の項目一覧

項目	説明	カット紙プリンタ用	単機能プリンタ用	連続紙プリンタ用	ラインプリンタ用	用紙・行間値拡張形式
名前	ファイルの名前を表示します。					
形式	ファイル形式を表示します(「ホスト用互換」または「用紙・行間値拡張」)。					
プリンタ	プリンタを表示します(「両面印刷」,「単機能」,「連続紙」,または「ライン」)。					×
行数	行数を表示します。					
用紙	用紙の種類, 縮小率を表示します。用紙の種類と大きさについては,「6. FCB イメージ作成機能」を参照してください。			×	×	
幅	用紙幅を表示します。			×	×	
高さ	用紙の高さを表示します。					
上マージン	上マージンを表示します。		×		×	
下マージン	下マージンを表示します。		×		×	
左マージン	左マージンを表示します。		×	×	×	
右マージン	右マージンを表示します。		×	×	×	
片面 / 両面	片面 / 両面印刷を表示します。		×	×	×	
桁ずらし	桁ずらし文字数を表示します。					

項目	説明	カット紙プリンタ用	単機能プリンタ用	連続紙プリンタ用	ラインプリンタ用	用紙・行間値拡張形式
とじ代	とじ代の位置を表示します。		×	×	×	
回転	回転角度(0°または180°)を表示します。		×	×	×	
更新日時	ファイルの更新日時を表示します。					

(凡例)

- : 表示します。
- ×
- : ANモードの場合は表示します。Kモードの場合は表示しません。
- : FCBAの場合は表示します。FCB2の場合は表示しません。

注 選択された数値の単位によって表示が変更されます。

(d) デフォルト機能キャラクタイメージ

デフォルト機能キャラクタイメージの制御イメージ一覧の項目一覧を次の表に示します。

表 12-6 デフォルト機能キャラクタイメージの制御イメージ一覧の項目一覧

項目	説明	カット紙/連続紙プリンタ用	ラインプリンタ用
名前	ファイルの名前を表示します。		
プリンタ	プリンタを表示します(「カット紙/連続紙」または「ライン」)。		
コード種別	コード種別を表示します。		
書体	書体番号を表示します。		
文字サイズ	文字サイズを表示します。任意の機能キャラクタコードの場合は、「任意(1A 46 xx)」(xx:任意のコード)の形式で表示します。		×
字間値	字間値と単位を表示します。ただし、拡張ドット指定の場合は、「X(x)ドット」(X:全角の字間値,x:半角の字間値)の形式で表示します。任意の機能キャラクタコードの場合は、標準ドット指定では「任意(1A 47 xx)」(xx:任意のコード)、ポイント指定では「任意(1A A8 xx)」(xx:任意のコード)の形式で表示します。		
文字の向き	文字の向きを表示します。		×
横倍	横倍を表示します。		
抹消表示	抹消表示を表示します。		×
強調表示	強調表示を表示します。		×
行データ右移動	行データ右移動を表示します。		×
更新日時	ファイルの更新日時を表示します。		

(凡例)

- : 表示します。
- ×

注 設定されていない項目は、空欄で表示されます。

(7) 注意事項

表示対象のフォルダに大量の制御イメージが存在する場合、表示するすべての制御イメージに対する処理が完了するまで制御イメージ一覧には何も表示されず、表示待ちの状態となります。表示待ちの状態では、制御イメージ一覧機能の画面に対して操作ができません。使用する PC の性能や構成によっては、表示に時間が掛かる場合があります。

12.4 制御イメージ一覧機能の開始と終了


12.4.1 制御イメージ一覧機能の開始

制御イメージ一覧機能を開始する手順を次に示します。

1. プログラムメニューから、PDE Form Designer の制御イメージ一覧機能のアイコンを選択します。
このアイコンを選択すると、[制御イメージ一覧機能] 画面が表示されます。

12.4.2 制御イメージ一覧機能の終了

制御イメージ一覧機能を終了する手順を次に示します。

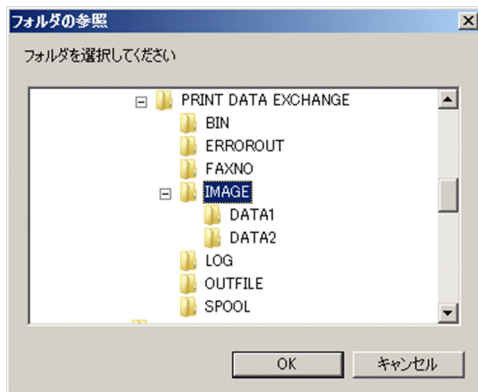
1. [制御イメージ一覧機能] 画面のメニューバーの [ファイル] から [アプリケーションの終了] を選択します。
制御イメージ一覧機能が終了します。
制御イメージ一覧機能を終了するには、このほかにタイトルバーの左端のコントロールボックスからコントロールメニューの [閉じる] を選択するか、またはタイトルバーの右端の [閉じる] ボタン  をクリックする方法があります。

12.5 制御イメージ一覧機能での制御イメージ一覧の表示

12.5.1 表示するフォルダの選択

制御イメージが保存されたフォルダを開く手順を次に示します。

1. [制御イメージ一覧機能] 画面のメニューバーの [ファイル] から [フォルダを開く] を選択します。
[フォルダの参照] 画面が表示されます。



2. 制御イメージが保存されたフォルダを選択し, [OK] ボタンをクリックします。

選択したフォルダの制御イメージが表示されます。

初回の表示では, 次に示す内容で制御イメージの一覧が表示されます。

- 分散タイプ PDE がインストールされている場合
分散タイプ PDE のインストールフォルダ ¥IMAGE
- PDE for Open がインストールされている場合
PDE for Open のインストールフォルダ ¥IMAGE
- 分散タイプ PDE および PDE for Open がインストールされている場合
分散タイプ PDE のインストールフォルダ ¥IMAGE
- PDE がインストールされていない場合
制御イメージ一覧を実行しているフォルダ

次の表示からは, 前回終了時に指定していたフォルダの制御イメージの一覧が表示されます。

アクセス権のないフォルダを選択すると, 制御イメージ一覧に制御イメージが表示されません。フォルダに保存されている制御イメージが制御イメージ一覧に表示されない場合は, フォルダのアクセス権を確認してください。

12.5.2 制御イメージの並べ替え

制御イメージを並べ替える手順を次に示します。

1. [制御イメージ一覧機能] 画面の制御イメージ一覧のヘッダをクリックします。
クリックした項目を基に制御イメージ一覧を並べ替えます。
初期表示および表示する制御イメージを変更した場合, 名前の昇順で表示します。
ヘッダをクリックした項目がソートされていない場合は, 昇順に並べ替え, 以降はヘッダをクリックするごとに昇順と降順で交互に並べ替えます。
空欄は昇順では最後尾, 降順では先頭に表示します。

昇順の場合は [], 降順の場合は [] をソートしている項目名の右側に表示します。

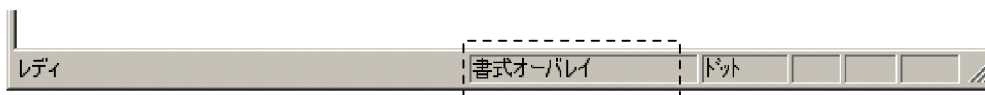
12.5.3 表示する制御イメージの種類の変更

表示する制御イメージの種類を変更する手順を次に示します。

1. [制御イメージ一覧機能] 画面のメニューバーの [表示] から表示する制御イメージの種類を選択します。
[書式オーバーレイ], [書式イメージ], [FCB イメージ], または [デフォルト機能キャラクタイメージ] の中から選択します。
初回起動時の制御イメージは書式オーバーレイ, 次回から初期表示の制御イメージは前回終了時の制御イメージとなります。

補足事項

現在表示している制御イメージは, ステータスバー (メッセージ領域) の右側に表示されます。



12.5.4 表示する数値の単位の変更

表示する数値の単位を変更する手順を次に示します。

1. [制御イメージ一覧機能] 画面のメニューバーの [表示] から表示する数値の単位を選択します。
[ドット], [ミリメートル], または [インチ] の中から選択します。
初回起動時の数値の単位はドット, 次回から初期表示の数値の単位は前回終了時と同じになります。

補足事項

現在表示している数値の単位は, ステータスバー (メッセージ領域) の右側に表示されます。



12.5.5 表示するファイルの選択

制御イメージを開く手順を次に示します。

1. [制御イメージ一覧機能] 画面の制御イメージ一覧から制御イメージを選択 (複数選択可) します。
2. メニューバーの [ファイル] から [ファイルを開く] を選択します。

解説

「カット紙 / 連続紙プリンタ用」または「ラインプリンタ用」を判断できない制御イメージは, 開くときに警告ダイアログを表示します。

なお, 初回起動時の警告ダイアログの表示は有効 (チェックあり) であり, 次回から初期表示の警告ダイアログの表示は前回終了時の設定となります。

12.5.6 警告ダイアログの非表示設定

警告ダイアログを非表示に設定する手順を次に示します。

1. メニューバーの [表示] から [警告ダイアログの表示] を選択します。

2. [警告ダイアログの表示] のチェックを外します。

解説

警告ダイアログを非表示に設定した場合、警告ダイアログを表示しないで、FCB イメージ作成機能およびデフォルト機能キャラクタイメージ作成機能を起動します。

12.5.7 制御イメージの新規作成

制御イメージを新規作成する手順を次に示します。

1. [制御イメージ一覧機能] 画面のメニューバーの [ファイル] - [新規作成] から新規作成する制御イメージを選択します。

選択した制御イメージは、次に示す内容で新規作成状態として起動されます。

- 書式イメージを選択した場合
書式设计
- FCB イメージを選択した場合
FCB イメージ作成機能
- デフォルト機能キャラクタイメージを選択した場合
デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能

環境設定で [制御イメージ設定] 画面の [優先度] に [カット紙 / 連続紙プリンタ用] が設定されている場合は、カット紙 / 連続紙プリンタ用の FCB イメージ作成機能およびデフォルト機能キャラクタイメージ作成機能を起動します。 [ラインプリンタ用] が設定されている場合は、ラインプリンタ用の FCB イメージ作成機能およびデフォルト機能キャラクタイメージ作成機能を起動します。

12.5.8 書式オーバーレイの生成

書式オーバーレイを生成する手順を次に示します。

1. [制御イメージ一覧機能] 画面のメニューバーの [表示] から [書式イメージ] を選択します。
制御イメージ一覧に書式イメージが表示されます。
2. 制御イメージ一覧から書式イメージを選択 (複数選択可) します。
3. メニューバーの [ファイル] から [書式オーバーレイを生成] を選択します。
4. [フォルダの参照] 画面で出力先を選択します。
フォルダの初期表示は、環境設定の [フォルダ設定] 画面で設定されている書式オーバーレイモジュール格納フォルダが表示されます。

書式オーバーレイ生成が異常終了した場合は、エラー画面にメッセージが表示されます。エラーメッセージについては、「14. エラーメッセージ」を参照してください。

12.5.9 書式記述文の生成

書式記述文を生成する手順を次に示します。

1. [制御イメージ一覧機能] 画面のメニューバーの [表示] から [書式イメージ] を選択します。
制御イメージ一覧に書式イメージが表示されます。
2. 制御イメージ一覧から書式イメージを選択 (複数選択可) します。
3. メニューバーの [ファイル] から [書式記述文を生成] を選択します。
4. [フォルダの参照] 画面で出力先を選択します。
フォルダの初期表示は、環境設定の [フォルダ設定] 画面で設定されている書式記述文格納フォルダが

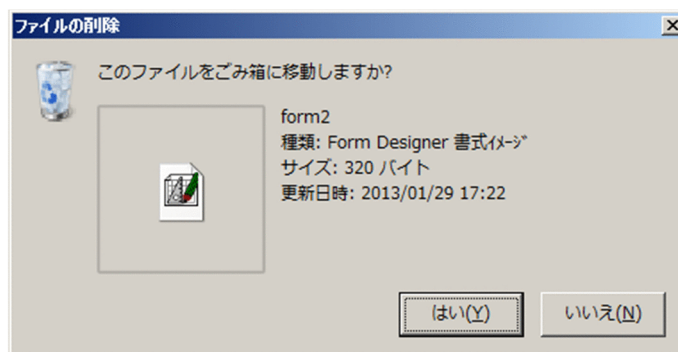
表示されます。

書式記述文生成が異常終了した場合は、エラー画面にメッセージが表示されます。エラーメッセージについては、「14. エラーメッセージ」を参照してください。

12.5.10 制御イメージの削除

制御イメージを削除する手順を次に示します。

1. [制御イメージ一覧機能] 画面の制御イメージ一覧から制御イメージを選択（複数選択可）します。
2. メニューバーの [ファイル] から [削除] を選択します。
[ファイルの削除の確認] 画面が表示されます。



3. [はい] ボタンをクリックします。
制御イメージが削除されます。なお、編集中のファイルは削除できません。

12.5.11 制御イメージ一覧の最新情報への更新

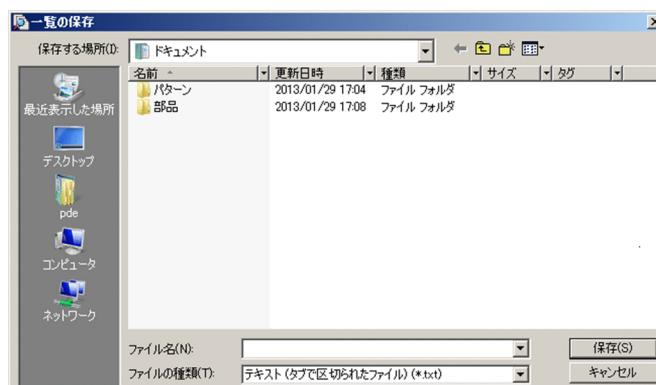
制御イメージ一覧を最新の情報に更新する手順を次に示します。

1. [制御イメージ一覧機能] 画面のメニューバーの [表示] から [最新の情報に更新] を選択します。
制御イメージ一覧が最新の情報に更新されます。

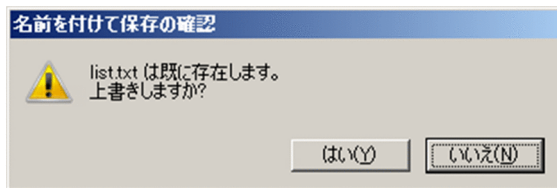
12.5.12 制御イメージ一覧の保存

制御イメージ一覧をファイルに保存する手順を次に示します。

1. [制御イメージ一覧機能] 画面のメニューバーの [ファイル] から [一覧の保存] を選択します。
[一覧の保存] 画面が表示されます。



2. 保存する場所を選択して、ファイル名を入力し、[保存] ボタンをクリックします。
保存する場所に同一ファイル名があれば、確認画面が表示されます。
上書きする場合は [はい] ボタン、上書きしない場合は [いいえ] ボタンをクリックします。



補足事項

FCB イメージの行間値の詳細情報は保存されません。行間値の詳細情報は、編集画面から取得できます。操作手順については、「6.6.4(3) 行情報表示リストのテキストのクリップボードへの保存」(ラインプリンタ用 FCB イメージの場合は、「7.6.3(3) 行情報表示リストのテキストのクリップボードへの保存」)を参照してください。

12.5.13 最近使用したフォルダの表示

最近使用したフォルダの制御イメージを表示する手順を次に示します。

1. [制御イメージ一覧機能] 画面のメニューバーの [ファイル] から [MRU リスト (最近使ったフォルダのパス)] を選択します。
選択したフォルダの制御イメージが表示されます。
アクセス権のないフォルダを選択したときの動作については、「12.5.1 表示するフォルダの選択」を参照してください。

13

トラブルシューティング

この章では、PDE - Form Designer の運用中にトラブルが発生した場合の対処方法などについて説明します。

13.1 障害発生状況別のトラブル

13.2 障害発生に対する備え

13.3 IT Report Utility を利用した保守情報の採取

13.1 障害発生状況別のトラブル

障害発生状況別のトラブルとその対処方法を次に示します。

13.1.1 インストールおよびアンインストールのトラブル

(1) 上書きインストールに失敗して設定情報が消失した

要因

上書きインストール前にサイレントに実行する旧バージョンのアンインストールに失敗しました。

対処

次に示す手順でデータの復旧を行ってください。

1. 環境変数の TMP (TMP がない場合は TEMP) に設定されているフォルダ内の __PDEBackupData フォルダに退避されているファイルを、インストールフォルダ以外の任意の場所に移動してください。
2. [プログラムと機能] に旧バージョンが存在する場合、旧バージョンのアンインストールを実行してください。ここで PDE - Form Designer をアンインストールする場合は、PDE - Form Designer 記述文オプシオンまでアンインストールしないでください。
3. 再度、新バージョンのインストーラを実行してください。
4. 手順 1. で移動したファイルをインストールフォルダ内の同名のファイルと置き換えてください。

13.1.2 環境設定時のトラブル

(1) 環境設定の起動に失敗した

要因

ユーザ権限が Administrators および Power Users ではありません。

対処

PDE - Form Designer のインストール先フォルダへのアクセス権があるユーザでログインしていることを確認してください。

(2) 漢字コード変換テーブルの生成に失敗した

要因

外字先頭コードの設定が正しくありません。

対処

外字第一領域先頭コードが 16 進数で 41 ~ 93 または FF の範囲で、かつ外字第二領域先頭コードが 16 進数で 41 ~ 93 または FF の範囲で指定されていることを確認してください。

13.1.3 コードマップジェネレータ使用時のトラブル

(1) 漢字コード変換テーブル (codemap.tbl) が開けない

要因

ユーザ権限が Administrators および Power Users ではありません。

対処

PDE - Form Designer のインストール先フォルダへのアクセス権があるユーザでログインしているこ

とを確認してください。

13.1.4 書式オーバレイモジュール生成時のトラブル

(1) 入力ファイルが開けない

要因

書式イメージファイルがほかのプロセスで使用中です。

対処

書式設計でその書式イメージを開いていないか確認してください。

13.1.5 PDE 実行時のトラブル

(1) 制御イメージが見つからない

要因

イメージ作成時に指定したイメージ種別と PDE の環境設定のイメージ種別が異なります。

対処

PDE - Form Designer の環境設定のイメージ種別またはコマンド起動時に指定したイメージ種別を、PDE の環境設定「制御イメージ設定」タブで設定されているイメージ種別に合わせて、再度制御イメージを生成してください。

(2) 書式定義時の画面と分散タイプ PDE による印字結果で文字が異なる

「付録 E PDE - Form Designer での文字コードの扱い (分散タイプ PDE だけ適用)」を参照してください。

(3) 書式定義時の画面と PDE による印字結果で書体が異なる

要因

PDE 環境設定の書体設定で 2 バイトコード書体の書体番号ごとに指定するフォントと、PDE - Form Designer で書体番号ごとに指定するフォントが同じではありません。

対処

PDE 環境設定の書体設定で半角文字の場合は 1 バイトコード、全角の場合は 2 バイトコード書体の書体番号ごとに指定するフォントと、PDE - Form Designer で書体番号ごとに指定するフォントを同じ書体にしてください。

(4) FCB の原点からの相対距離が有効にならない

要因

PDE が分散タイプ PDE の場合はバージョンが 01-08、PDE for Open の場合はバージョンが 01-01 以前です。

対処

PDE が分散タイプ PDE の場合はバージョンを 01-09、PDE for Open の場合はバージョンを 01-02 以降にバージョンアップしてください。または、書式を FCB の原点からの相対距離が 0 として再設計してください。

(5) 縦書きフォントが有効にならない

要因

PDE が分散タイプ PDE の場合はバージョンが 01-11 , PDE for Open の場合はバージョンが 01-04 以前です。

対処

PDE が分散タイプ PDE の場合はバージョンを 01-12 , PDE for Open の場合はバージョンを 01-05 以降にバージョンアップしてください。

(6) Windows Vista 以降の環境で制御イメージを変更しても印刷結果が変わらない

要因

Windows Vista 以降を使用している場合、制御イメージが正しく保存されていないおそれがあります。

Windows Vista 以降では、UAC (ユーザアカウント制御) の働きによってシステムの重要なフォルダ (%SystemRoot% 以下, %Program Files% 以下など) は保護されています。これらの保護フォルダへ PDE - Form Designer から制御イメージを保存した場合、生成された制御イメージは別のフォルダへリダイレクトされ、意図したフォルダ内に保存されません。

また、分散タイプ PDE および PDE for Open のデフォルトのユーザイメージライブラリ (印刷時に使用する制御イメージの格納フォルダ) も %Program Files% 以下にあるため、同様に、意図したフォルダに保存されないおそれがあります。

対処

制御イメージの保存先は、UAC で保護されていないフォルダを指定してください。

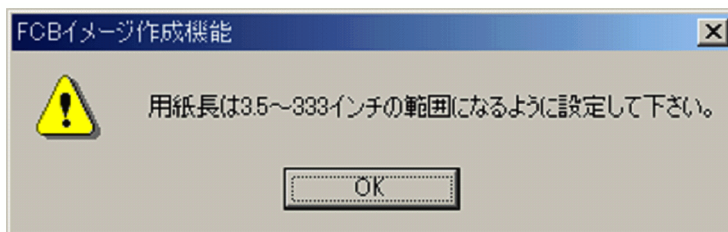
また、UAC の保護フォルダにある制御イメージを変更したい場合は、UAC で保護されていないフォルダに変更後のファイルを保存したあと、そのファイルをエクスプローラなどで UAC の保護フォルダ内にコピーしてください。なお、UAC の保護フォルダ内にファイルをコピーするには、管理者権限が必要です。

13.1.6 連続紙用 FCB イメージ作成時のトラブル

(1) 保存時にメッセージが出力される

次に示すどれかの原因が考えられます。

- (a) 用紙長が 3.5 ~ 333 インチの範囲で設定されていない



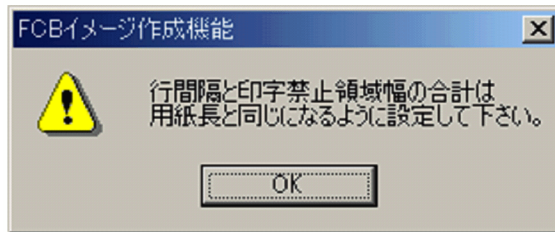
要因

用紙長が 3.5 ~ 333 インチの範囲で設定されていません。

対処

用紙長を 3.5 ~ 333 インチの範囲で設定してください。設定手順については、「6.6.2(3) 用紙長 (連続紙の場合だけ設定)」を参照してください。

(b) 行間隔と印字禁止領域幅の合計が用紙長と同じになっていない



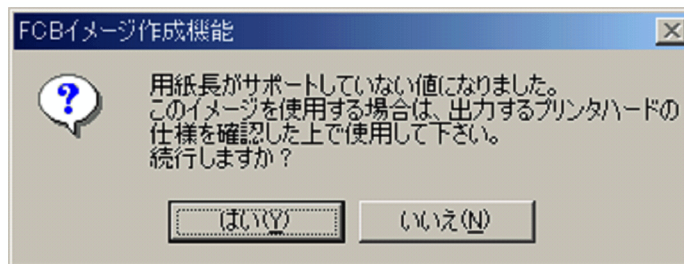
要因

行間隔と印字禁止領域幅の合計が用紙長と同じになっていません。

対処

行間隔と印字禁止領域幅の合計が用紙長と同じになるように設定してください。行間隔の設定手順については、「6.6.4 行情報の編集」、印字禁止領域幅の設定手順については、「6.6.2(4) 印字禁止領域幅（連続紙の場合だけ設定）」、用紙長の設定手順については、「6.6.2(3) 用紙長（連続紙の場合だけ設定）」を参照してください。

(c) 用紙長がサポートしていない値になっている



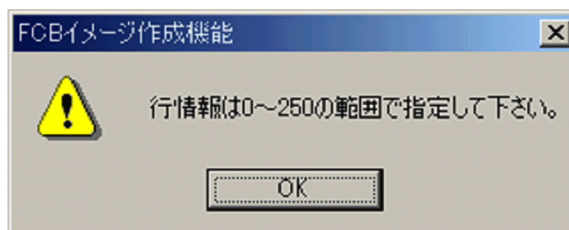
要因

用紙長がサポートしていない値になっています。

対処

上記の画面で [はい] ボタンをクリックして保存したイメージを使用する場合は、出力するプリンタの仕様を確認し、使用してください。[いいえ] ボタンをクリックして用紙長を変更する場合は、用紙長が 10 ドットの倍数相当になるように設定してください。用紙長の設定手順については、「6.6.2(3) 用紙長（連続紙の場合だけ設定）」を参照してください。

(2) 印字禁止領域幅が変更できない



要因

行情報が 0 ~ 250 行の範囲で設定されていません。

対処

行情報を 0 ~ 250 行の範囲で設定してください。行情報の設定手順については、「6.6.4 行情報の編集」を参照してください。

(3) 用紙長が変更できない



要因

行間隔と印字禁止領域幅の合計が用紙長に収まっていません。

対処

行間隔と印字禁止領域幅の合計が用紙長に収まるように設定してください。行間隔の設定手順については、「6.6.4 行情報の編集」、印字禁止領域幅の設定手順については、「6.6.2(4) 印字禁止領域幅 (連続紙の場合だけ設定)」, 用紙長の設定手順については、「6.6.2(3) 用紙長 (連続紙の場合だけ設定)」を参照してください。

13.1.7 書式記述文生成時のトラブル

(1) 入力ファイルが開けない

要因

書式イメージファイルがほかのプロセスで使用中です。

対処

書式設計でその書式イメージを開いていないか確認してください。

13.1.8 書式イメージ生成時のトラブル

(1) 出力ファイルが開けない

要因

書式イメージファイルがほかのプロセスで使用中です。

対処

書式設計でその書式イメージを開いていないか確認してください。

13.1.9 生成した書式記述文を使用するシステムでのトラブル

(1) 書式の文字が書式設計で指定した文字と異なるまたは印字されない

要因

書式定義機能でのコード変換結果が、書式記述文を使用するシステムで該当する文字の文字コードと異なります。

対処

書式定義機能で画面入力した全角文字は、シフト JIS コードから KEIS90 コードに変換され、書式記述文内にはコードの形式で記載されます。書式記述文を使用するシステムの前提が KEIS78 または

KEIS78 と KEIS83/90 の場合，一部の文字が書式设计で指定した文字と異なるまたは印字されないことがあります。詳細については、「付録 E PDE・Form Designer での文字コードの扱い(分散タイプ PDE だけ適用)」を参照してください。

また，丸付き数字などの Windows 固有の文字コードは外字として扱われます。

外字テーブルをカスタマイズするかまたは書式記述文の該当する文字コードをテキストエディタで直接修正してください。修正方法については、「3.4.3 外字領域の設定」を参照してください。

(2) 書式記述文がエラーとなる

要因

PDE・Form Designer で設計した書式イメージから書式記述文を外部のシステムで入力した場合，外部システムで未サポートの書式記述文が生成されると読み込みでエラーとなることがあります。

対処

- 環境設定でエラーとなる書式記述文を設計できないように設定するか，または書式記述文のバージョンを指定してから再生成してください。
禁止項目の設定については、「3.4.2 禁止項目の設定」，書式記述文のバージョンの指定については、「付録 G オプション設定ファイル」を参照してください。
- 文字属性の設定が正しくないおそれがあります。オプション設定ファイルの設定を見直して再生成してください。

13.2 障害発生に対する備え

(1) PDE での出力結果不正の場合

PDE・Form Designer で作成した制御イメージを使用して、PDE で出力した結果に問題がある場合は、まず PDE 側で原因の切り分けをします。その結果、PDE・Form Designer で作成した制御イメージの不正が疑われる場合は、次に示す資料を採取します。

なお、PDE 側での原因の切り分けには、マニュアル「PRINT DATA EXCHANGE」、マニュアル「PRINT DATA EXCHANGE for Open」および「13.1.5 PDE 実行時のトラブル」を参照してください。

書式オーバーレイイメージの場合

1. PDE・Form Designer で作成したオーバーレイモジュール
2. 1 の生成時に入力した書式イメージ
3. 書式記述文から書式イメージを生成した場合は、書式記述文および生成時に使用した option.dat (オプション設定ファイル)

FCB イメージの場合

1. PDE・Form Designer で作成した FCB イメージ
2. メインフレームで作成した FCB イメージを入力して編集した場合は、メインフレームで作成した FCB イメージ

デフォルト機能キャラクタイメージの場合

1. PDE・Form Designer で作成したデフォルト機能キャラクタイメージ
2. メインフレームで作成したデフォルト機能キャラクタイメージを入力して編集した場合は、メインフレームで作成したデフォルト機能キャラクタイメージ

(2) 書式記述文を使用したシステムでの出力結果などが不正の場合

PDE・Form Designer の書式記述文オプションで生成した書式記述文を入力とするシステムで出力結果不正などの問題が発生した場合は、まず書式記述文を入力したシステム側で原因の切り分けをします。その結果、このオプションで作成した書式記述文の不正が疑われる場合は、次に示す資料を採取します。

1. PDE・Form Designer 記述文オプションで作成した書式記述文
2. 1 の生成時に入力した書式イメージ
3. 1 の生成時に使用した option.dat (オプション設定ファイル)

13.3 IT Report Utility を利用した保守情報の採取

Windows Server で IT Report Utility がインストールされている環境の場合、IT Report Utility を利用した保守情報の採取ができます。IT Report Utility のインストール方法、詳細な使用方法については、IT Report Utility (Windows 版) が提供するドキュメント参照してください。

(1) 使用方法

IT Report Utility を利用する場合は、次に示す方法で保守情報を採取して、サポートサービスに連絡してください。

1. Administrator 権限 (コンピュータの管理者権限) で [スタート] メニューの [コマンドプロンプト] を起動します。
2. 次のコマンドを実行します。なお、 はスペースを示します。

```
"%ProgramFiles%\Hitachi\systoru\bin\systoru" -t failure -g "PDE" -g "os"
```

3. 資料採取が完了するとコマンドプロンプト上に次のメッセージが表示されます。
KAIS214-I:Output file = [出力ファイル名]. size = [サイズ] bytes.
4. メッセージに記載された出力ファイルを採取し、サポートサービスに連絡してください。

(2) 採取できる資料一覧

IT Report Utility を利用して採取できる保守資料を次に示します。

Windows イベントログ
環境設定ファイル
option.dat (オプション設定ファイル)
漢字コードマップ定義ファイル
レジストリ情報 (インストール情報)

注意

上記以外の保守資料は、IT Report Utility を利用した採取はできません。障害調査に必要となる保守資料で不足がある場合は、IT Report Utility を利用しないで採取してください。

14 エラーメッセージ

この章では、PDE - Form Designer が出力するエラーメッセージの出力形式と内容について説明します。

14.1 エラーメッセージの出力形式

14.2 エラーメッセージ一覧

14.1 エラーメッセージの出力形式

(1) 書式オーバーレイモジュール生成時に出力するメッセージ (FDSNC)

書式オーバーレイモジュール生成時に出力するメッセージの形式を次に示します。

FDSNC-メッセージ番号-メッセージ種別	メッセージ内容
-----------------------	---------

メッセージ番号

4けたの16進数を示します。

メッセージ種別

- I

情報を示します。

- E

エラーを示します。

メッセージ内容

メッセージ内容については、「14.2.1 書式オーバーレイモジュール生成時に出力するエラーメッセージ一覧 (FDSNC)」を参照してください。

(2) 書式記述文生成時に出力するメッセージ (FDSNSO)

書式記述文生成時に出力するメッセージの形式を次に示します。

FDSNSO-メッセージ番号-メッセージ種別	メッセージ内容
------------------------	---------

メッセージ番号

4けたの16進数を示します。

メッセージ種別

- I

情報を示します。

- E

エラーを示します。

メッセージ内容

メッセージ内容については、「14.2.2 書式記述文生成時に出力するエラーメッセージ一覧 (FDSNSO)」を参照してください。

(3) 書式イメージ生成時に出力するメッセージ (FDSNIMG)

書式イメージ生成時に出力するメッセージの形式を次に示します。

FDSNIMG-メッセージ番号-メッセージ種別	メッセージ内容
-------------------------	---------

メッセージ番号

4 けたの 16 進数を示します。

メッセージ種別

- I
情報を示します。
- W
警告を示します。
- E
エラーを示します。

メッセージ内容

メッセージ内容については、「14.2.3 書式イメージ生成時に出力するエラーメッセージ一覧 (FDSNIMG)」を参照してください。

14.2 エラーメッセージ一覧

14.2.1 書式オーバーレイモジュール生成時に出力するエラーメッセージ一覧 (FDSNC)

書式オーバーレイモジュール生成時に出力するエラーメッセージ内容一覧を次の表に示します。

表 14-1 書式オーバーレイモジュール生成時に出力するエラーメッセージ内容一覧 (FDSNC)

番号	種別	メッセージ内容	対処方法
0000	I	生成処理が終了しました。(入力ファイル名=入力ファイル,出力ファイル名=出力ファイル)	-
8000	E	入力データの形式が不正です。生成処理を中止しました。(入力ファイル名=入力ファイル)	入力データを確認してください。
8001	E	出力データ量が大きくなりすぎます。生成処理を中止しました。(入力ファイル名=入力ファイル)	不要な図形を削除し,出力データ量が小さくなるように訂正して再度実行してください。
8002	E	環境設定ファイルが破壊されています。生成処理を中止しました。環境設定プログラムを起動して,環境設定ファイルを再度作成してください。	環境設定ファイルを再度作成してください。
8003	E	漢字コード変換テーブルが開けません。生成処理を中止しました。	漢字コード変換テーブルがコードマップ定義格納フォルダに格納されていることを確認してください。
8004	E	漢字コード変換テーブルの内容が不正です。生成処理を中止しました。	漢字コード変換テーブルを再度作成してください。
C000	E	引数の形式が不正です。生成処理を中止しました。	コマンドラインの引数を確認してください。
C001	E	ディレクトリパスの長さは244バイト以下で指定してください。	入力/出力ディレクトリのパス長が244バイト以内になるようにしてください。
C002	E	入力ファイルが開けません。生成処理を中止しました。(入力ファイル名=入力ファイル)	次を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> 入力ファイルへのアクセス権限があること。 書式定義機能で入力ファイルを開いていないこと。
C003	E	メモリの確保に失敗しました。生成処理を中止しました。	PCの空きメモリを増やしてください。
C004	E	出力ファイルが開けません。生成処理を中止しました。(出力ファイル名=出力ファイル)	出力ファイルと同名のファイルが出力先フォルダにある場合,ファイルへのアクセス権限があることを確認してください。
C005	E	出力先フォルダが開けません。生成処理を中止しました。(出力先フォルダ名=出力先フォルダ名)	次を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> 出力先フォルダが存在すること。 出力先フォルダへのアクセス権限があること。
C006	E	書式オーバーレイ生成ライブラリ (FDSNC.DLL) がロードできません。	FDSNC.DLL が存在することを確認してください。

(凡例)

- : 該当しません。

注 ゴシックで書かれている部分は、メッセージが表示されるたびに表示内容が変わる個所を示します。

14.2.2 書式記述文生成時に出力するエラーメッセージ一覧 (FDSNSO)

書式記述文生成時に出力するエラーメッセージ内容を次の表に示します。

表 14-2 書式記述文生成時に出力するエラーメッセージ内容一覧 (FDSNSO)

番号	種別	メッセージ内容	対処方法
0000	I	生成処理が終了しました。(入力ファイル名 = 入力ファイル, 出力ファイル名 = 出力ファイル)	-
0001	I	外字が使用されています。(コード名 = CODEEnnn, 行数 = 各コード名単位の行数)	-
8000	E	入力データの形式が不正です。生成処理を中止しました。(入力ファイル名 = 入力ファイル)	入力データを確認してください。
8001	E	出力データ量が大きくなりすぎます。生成処理を中止しました。(入力ファイル名 = 入力ファイル)	不要な図形を削除し、出力データ量が小さくなるように訂正して再度実行してください。
C000	E	引数の形式が不正です。生成処理を中止しました。	コマンドラインの引数を確認してください。
C001	E	ディレクトリパスの長さは244バイト以下で指定してください。	入力/出力ディレクトリのパス長が244バイト以内になるようにしてください。
C002	E	入力ファイルが開けません。生成処理を中止しました。(入力ファイル名 = 入力ファイル)	次を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> 入力ファイルへのアクセス権限があること。 書式定義機能で入力ファイルを開いていないこと。
C003	E	メモリの確保に失敗しました。生成処理を中止しました。	PCの空きメモリを増やしてください。
C004	E	出力ファイルが開けません。生成処理を中止しました。(出力ファイル名 = 出力ファイル)	出力ファイルと同名のファイルが出力先フォルダにある場合、ファイルへのアクセス権限があることを確認してください。
C005	E	出力先フォルダが開けません。生成処理を中止しました。(出力先フォルダ名 = 出力先フォルダ名)	次を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> 出力先フォルダが存在すること。 出力先フォルダへのアクセス権限があること。
C006	E	オプションファイルの内容が不正です。生成処理を中止しました。	オプションファイルの内容を確認して誤りを訂正してください。
C007	E	書式記述文生成ライブラリ (FDSNSO.DLL) がロードできません。	FDSNSO.DLL が存在することを確認してください。

(凡例)

- : 該当しません。

注 ゴシックで書かれている部分は、メッセージが表示されるたびに表示内容が変わる個所を示します。

14.2.3 書式イメージ生成時に出力するエラーメッセージ一覧 (FDSNIMG)

書式イメージ生成時に出力するエラーメッセージ内容を次の表に示します。

表 14-3 書式イメージ生成時に出力するエラーメッセージ内容一覧 (FDSNIMG)

番号	種別	メッセージ内容	対処方法
0000	I	生成処理が終了しました。(入力ファイル名=入力ファイル, 出力ファイル名=出力ファイル)	-
0004	I	文字データ名(文字データ名)に外字が使用されています。(入力ファイル名=入力ファイル[, 部品ファイル名=部品ファイル], 行数=行数) ¹	-
4000	W	書式記述文(書式記述文名)の〔オペランド名の〕指定はサポートしていません。仮定値を設定しました。(入力ファイル名=入力ファイル[, 部品ファイル名=部品ファイル], 行数=行数) ¹	該当する書式記述文(およびオペランド)の指定(または指定値)はサポートしていません。出力結果を確認し、問題がないことを確認してください。
4001	W	書式記述文(書式記述文名)の〔オペランド名の〕指定はサポートしていません。該当書式記述文を無視しました。(入力ファイル名=入力ファイル[, 部品ファイル名=部品ファイル], 行数=行数) ¹	該当する書式記述文(およびオペランド)の指定(または指定値)はサポートしていません。出力結果を確認し、問題がないことを確認してください。
4002	W	書式記述文(書式記述文名)の〔オペランド名の〕指定が不正です。仮定値を設定しました。(入力ファイル名=入力ファイル[, 部品ファイル名=部品ファイル], 行数=行数) ¹	該当する書式記述文(およびオペランド)を確認し、誤りを訂正して再度実行してください。
4003	W	書式記述文(書式記述文名)の〔オペランド名の〕指定が不正です。該当書式記述文を無視しました。(入力ファイル名=入力ファイル[, 部品ファイル名=部品ファイル], 行数=行数) ¹	該当する書式記述文(およびオペランド)を確認し、誤りを訂正して再度実行してください。
4004	W	コメント以外の認識できない文字列がありました。該当行を無視しました。(入力ファイル名=入力ファイル[, 部品ファイル名=部品ファイル], 行数=行数) ^{1 2}	該当行を確認し、問題がないことを確認してください。
4005	W	セグメント/マクロのネストが16を超えました。該当セグメント/マクロを無視しました。(入力ファイル名=入力ファイル[, 部品ファイル名=部品ファイル], 行数=行数) ¹	該当行を確認し、セグメント/マクロのネストを修正して再度実行してください。
4006	W	書式記述文(書式記述文名)がセグメント/書式内に収まりません。該当書式記述文を無視しました。(入力ファイル名=入力ファイル[, 部品ファイル名=部品ファイル], 行数=行数) ¹	該当する書式記述文(およびオペランド)を確認し、セグメント/書式内に収まるように再配置してください。
4007	W	書式記述文(書式記述文名)のオペランド名が指定領域内に収まりません。該当書式記述文を無視しました。(入力ファイル名=入力ファイル[, 部品ファイル名=部品ファイル], 行数=行数) ¹	該当する書式記述文を確認し、指定領域を拡張してください。
4008	W	文字データ名(文字データ名)の総文字列数が上限256文字を超えました。257文字以降を無視しました。(入力ファイル名=入力ファイル) ¹	該当文字データを確認し、256文字以内になるように修正してください。

番号	種別	メッセージ内容	対処方法
4009	W	ドットデータ名指定の書式記述文（GRAPHIC）の数が上限 XX 個を超えました。該当書式記述文を無視しました。（入力ファイル名 = 入力ファイル〔, 部品ファイル名 = 部品ファイル〕, 行数 = 行数） ¹	ドットデータ名指定の GRAPHIC 文の数が XX 個以内になるように修正してください。 ³
4010	W	COPY 文で指定された拡張記述文がありません。COPY 文を無視しました。（入力ファイル名 = 入力ファイル〔, 部品ファイル名 = 部品ファイル〕, 行数 = 行数） ¹	COPY 文に指定された拡張記述文が書式記述文部品格納フォルダに格納されていることを確認してください。
4011	W	COPY 文の指定が不正です。該当行を無視しました。（入力ファイル名 = 入力ファイル〔, 部品ファイル名 = 部品ファイル〕, 行数 = 行数） ¹	COPY 文の指定を確認し、誤りを訂正して再度実行してください。
4012	W	ドットデータ名指定の GRAPHIC 文、異なる文字データ名の各種 CODE 文および CHARC 文の合計が上限 XX 個を超えました。該当書式記述文を無視しました。（入力ファイル名 = 入力ファイル〔, 部品ファイル名 = 部品ファイル〕, 行数 = 行数） ¹	ドットデータ名指定の GRAPHIC 文 ³ 、異なる文字データ名の各種 CODE 文および CHARC 文の合計が XX 個以内になるように修正してください。
4013	W	書式記述文（書式記述文名）のボディサイズと文字属性の文字サイズが一致しません。仮定値を設定しました。（入力ファイル名 = 入力ファイル〔, 部品ファイル名 = 部品ファイル〕, 行数 = 行数） ¹	該当する書式記述文を確認し、ボディサイズと文字属性の文字サイズが一致するように修正してください。
4014	W	文字データ名（文字データ名）は全角文字と半角文字を混在しています。該当文字データを無視しました。（入力ファイル名 = 入力ファイル）	該当する文字データを確認し、全角文字または半角文字のどちらかに統一してください。
4015	W	セグメントのネストが不正です。仮定値を設定しました。（入力ファイル名 = 入力ファイル〔, 部品ファイル名 = 部品ファイル〕, 行数 = 行数） ¹	セグメントのネストが閉じられていません。SGEND 文が正しく指定されているか確認してください。
4016	W	書式記述文の先頭に FORMS 文が指定されていません。仮定値を設定しました。（入力ファイル名 = 入力ファイル〔, 部品ファイル名 = 部品ファイル〕, 行数 = 行数） ¹	書式記述文の先頭に FORMS 文を指定してください。
8000	E	入力データの形式が不正です。生成処理を中止しました。（入力ファイル名 = 入力ファイル）	入力データを確認してください。
8001	E	出力データ量が大きくなりすぎます。生成処理を中止しました。（入力ファイル名 = 入力ファイル）	不要な書式記述文を削除し、出力データ量が小さくなるように訂正して再度実行してください。
8002	E	環境設定ファイルが破壊されています。生成処理を中止しました。環境設定プログラムを起動して、環境設定ファイルを再度作成してください。	環境設定ファイルを再度作成してください。
8003	E	漢字コード変換テーブルが開けません。生成処理を中止しました。	漢字コード変換テーブルがコードマップ定義格納フォルダに正しく格納されているか確認してください。
8004	E	漢字コード変換テーブルの内容が不正です。生成処理を中止しました。	漢字コード変換テーブルを再度作成してください。
8005	E	書式記述文（書式記述文名）の〔オペランド名〕指定が不正です。生成処理を中止しました。（入力ファイル名 = 入力ファイル〔, 部品ファイル名 = 部品ファイル〕, 行数 = 行数） ¹	該当する書式記述文（およびオペランド）を確認し、誤りを訂正して再度実行してください。
8006	E	書式記述文（INCLUDE）のセグメント名で指定されたセグメント（セグメント名）がありません。生成処理を中止しました。（入力ファイル名 = 入力ファイル〔, 部品ファイル名 = 部品ファイル〕, 行数 = 行数） ¹	該当する INCLUDE 文のセグメント名で指定された部品ファイルが書式記述文部品格納フォルダに格納されているか確認してください。
8007	E	書式記述文の数が上限 XX 個を超えました。生成処理を中止しました。（入力ファイル名 = 入力ファイル）	不要な書式記述文を削除し、上限以内になるように修正してください。

14. エラーメッセージ

番号	種別	メッセージ内容	対処方法
C000	E	引数の形式が不正です。生成処理を中止しました。	次を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> • コマンドラインの引数が誤っていないこと。 • 書式記述文のファイル名が、拡張子なしまたは拡張子「.txt」になっていること。
C001	E	ファイルパスの長さは259バイト以下で指定してください。	入力/出力ファイルのパス長が259バイト以内になるようにしてください。
C002	E	フォルダパスの長さは244バイト以下で指定してください。	入力/出力フォルダのパス長が244バイト以内になるようにしてください。
C003	E	入力ファイルが開けません。生成処理を中止しました。(入力ファイル名=入力ファイル)	入力ファイルへのアクセス権があることを確認してください。
C004	E	メモリの確保に失敗しました。生成処理を中止しました。	PCの空きメモリを増やしてください。
C005	E	出力ファイルが開けません。生成処理を中止しました。(出力ファイル名=出力ファイル)	出力ファイルと同名のファイルが出力先フォルダにある場合、次を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> • ファイルへのアクセス権があること。 • ファイルを書式設計機能で開いていないこと。
C006	E	出力先フォルダが開けません。生成処理を中止しました。(出力先フォルダ名=出力先フォルダ名)	次を確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> • 出力先フォルダが存在すること。 • 出力先フォルダへのアクセス権があること。
C007	E	オプションファイルの内容が不正です。生成処理を中止しました。	オプションファイルの内容を確認して誤りを訂正してください。
C008	E	書式イメージ生成ライブラリ(FDSNIMG.DLL)がロードできません。	FDSNIMG.DLLが存在することを確認してください。

(凡例)

- : 該当しません。

XX : 設定値や入力ファイルによって値が異なります。

注 ゴシックで書かれている部分は、メッセージが表示されるたびに表示内容が変わる個所を示します。

注 1 エラー/警告原因の書式記述文が複数行にわたる場合、オペランドの位置に関係なく、該当する書式記述文の先頭行の行数が出力されます。また、書式記述文部品ファイル内の場合、書式記述文部品ファイル内での行数が出力されます。

注 2 複数の行でコメント以外の認識できない文字列があった場合、すべての個所で出力されます。

注 3 ドットデータ名および図形変換種別がすべて等しいGRAPHIC文群は、一つのGRAPHIC文として計算します。

15 書式設計の操作例

この章では、PDE - Form Designer で初めて書式設計をする場合の、基本的な操作手順について説明します。
すでに環境設定、FCB イメージの作成が済んでいることを前提に、新規の書式作成および既存書式の変更について、書式設計から書式オーバーレイ生成までの操作手順について説明します。

15.1 書式設計から書式オーバーレイモジュール生成までの操作手順

15.2 書式設計の操作手順

15.3 書式オーバーレイモジュール生成の操作方法

15.1 書式设计から書式オーバーレイモジュール生成までの操作手順

(1) 新規に書式を作成する場合

書式设计から書式オーバーレイモジュール生成までの手順（新規に書式を作成する場合）について説明します。

1. 書式设计を起動して、書式情報を設定します。
2. 対話的に書式を編集します。
3. 書式イメージを確認します。
4. 書式イメージファイルに保存して、ファイルを閉じます。
5. 書式イメージファイルから書式オーバーレイモジュールを生成します。
6. 書式イメージファイルと書式オーバーレイモジュールを対応づけて管理します。

(2) 既存の書式を修正する場合

書式设计から書式オーバーレイモジュール生成までの手順（既存の書式を修正する場合）について説明します。

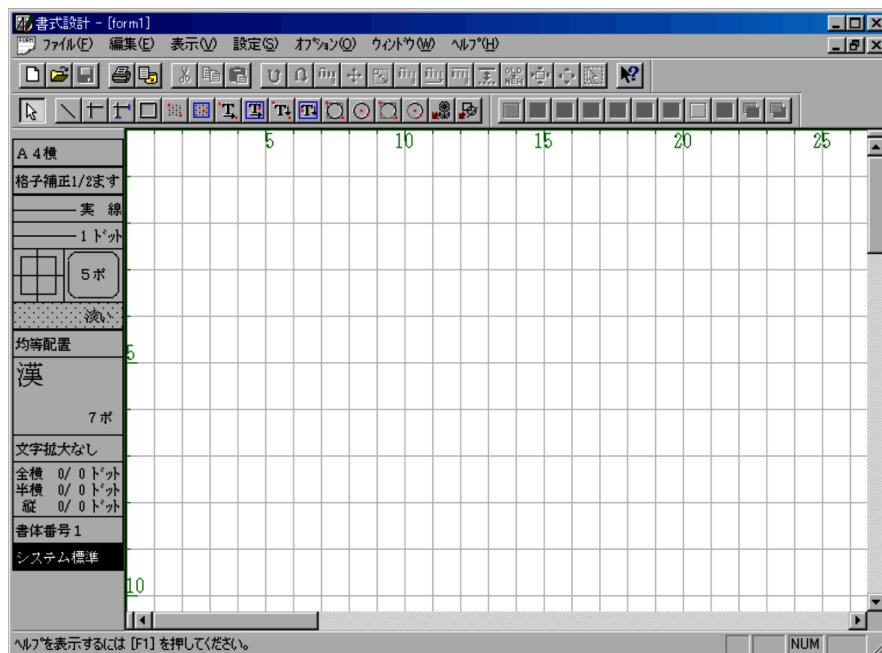
1. 書式设计を起動して、修正する書式イメージファイルを開きます。
2. 対話的に書式を編集します。
3. 書式イメージを確認します。
4. 書式イメージファイルに保存して、ファイルを閉じます。
5. 書式イメージファイルから書式オーバーレイモジュールを生成します。
6. 書式イメージファイルと書式オーバーレイモジュールを対応づけて管理します。

15.2 書式設計の操作手順

15.2.1 新規に書式を作成する場合の操作手順

1. 書式設計の起動

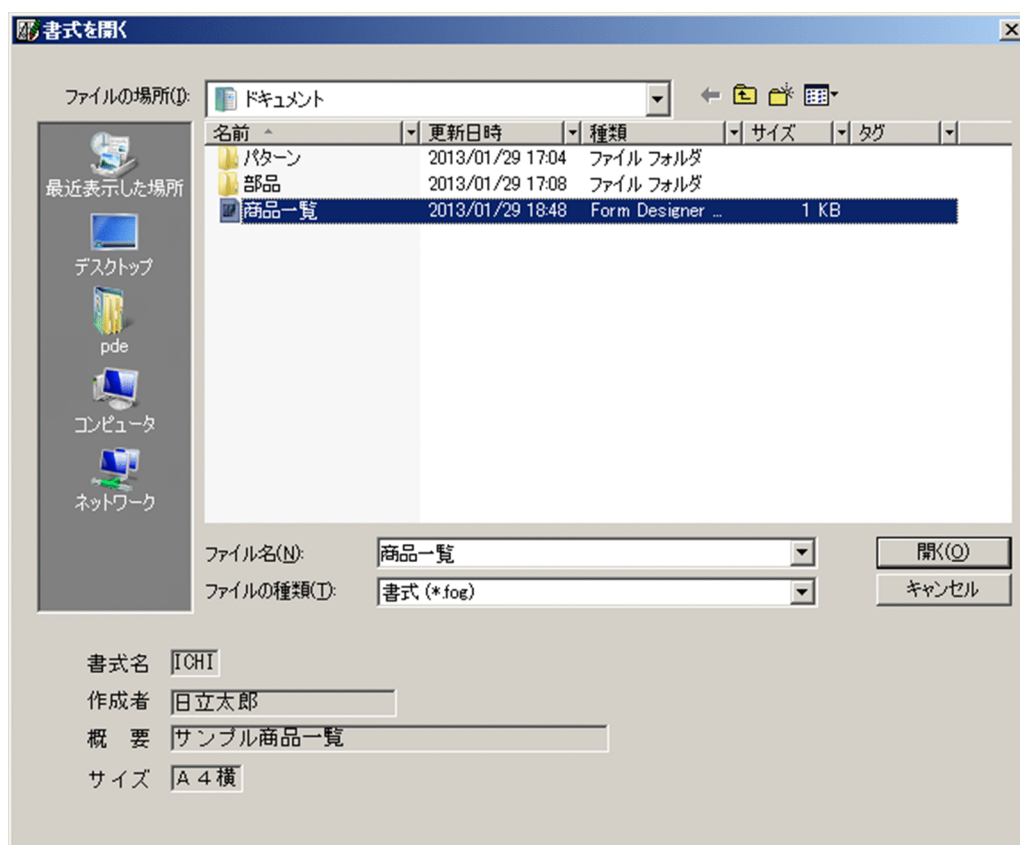
プログラムメニューから、PDE Form Designer の書式設計のアイコンを選択し、書式設計を起動します。次に示す初期画面（[書式設計]画面）が表示されますので、状態表示などを確認してから書式の設計を行います。



2. 書式情報の設定

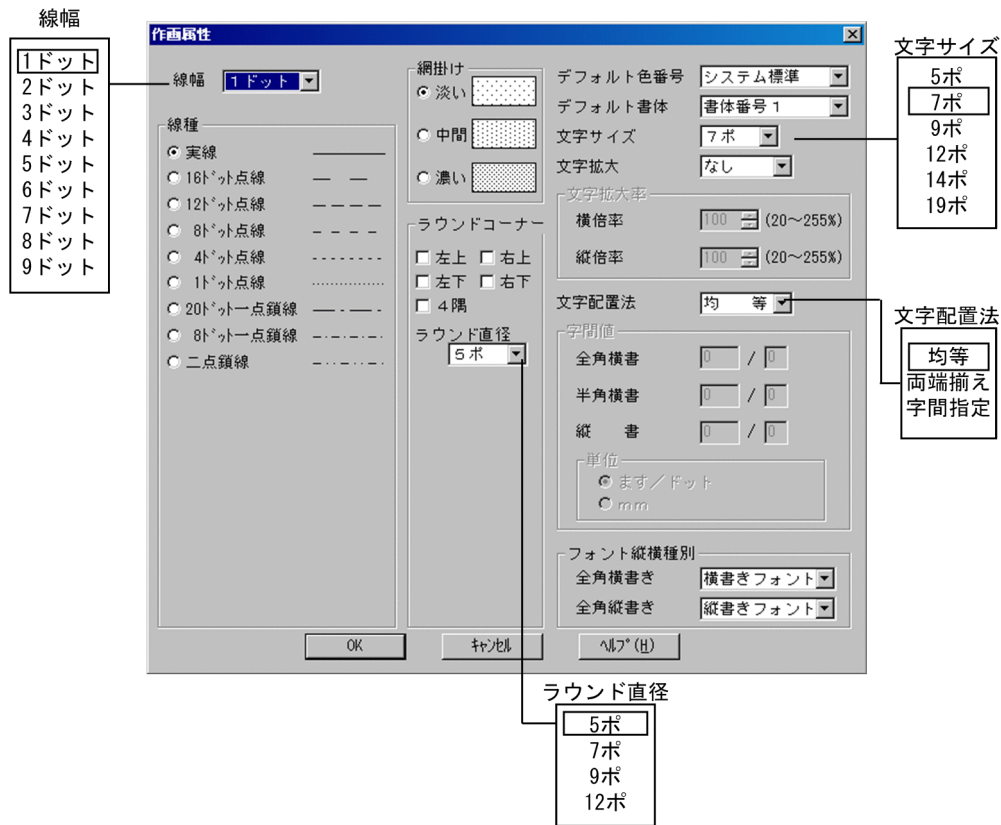
[書式設計]画面のメニューバーの[設定]から[書式情報]を選択して、[書式情報]画面を表示し、書式名や書式サイズなどの書式情報を設定します。

作成者と概要（覚え書き）は省略できますが、書式イメージファイルを開く場合に表示されるので、設定しておくとう便利です。



3. 作画属性の設定

[書式设计]画面のメニューバーの[設定]から[作画属性]を選択して,[作画属性]画面を表示し,線の太さや文字の大きさなどの作画属性を設定します。

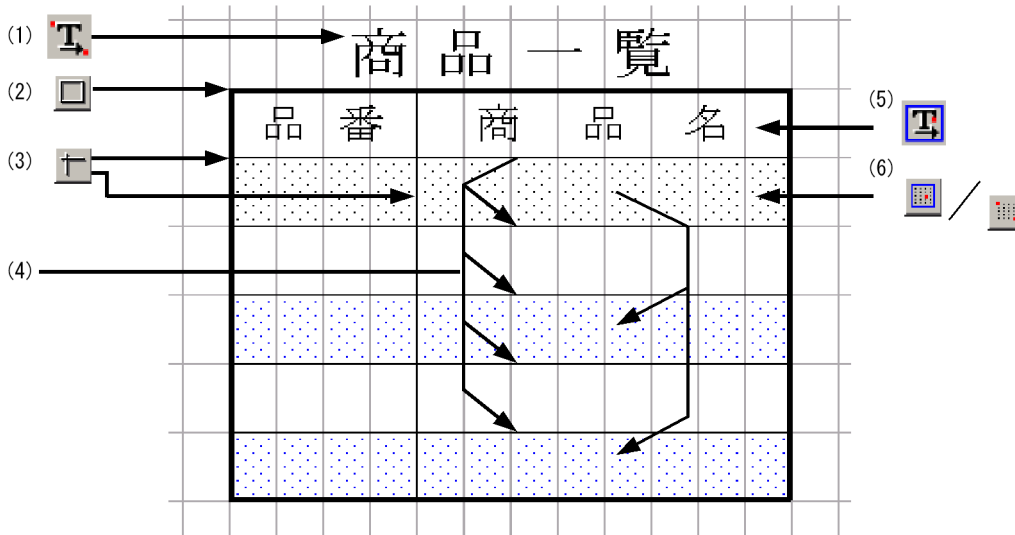


4. 書式の編集

一般的な帳票の形式を用いて、書式設計の操作例を紹介します。

書式設計の操作例を次の図に示します（項番は項目の説明の番号と対応しています）。

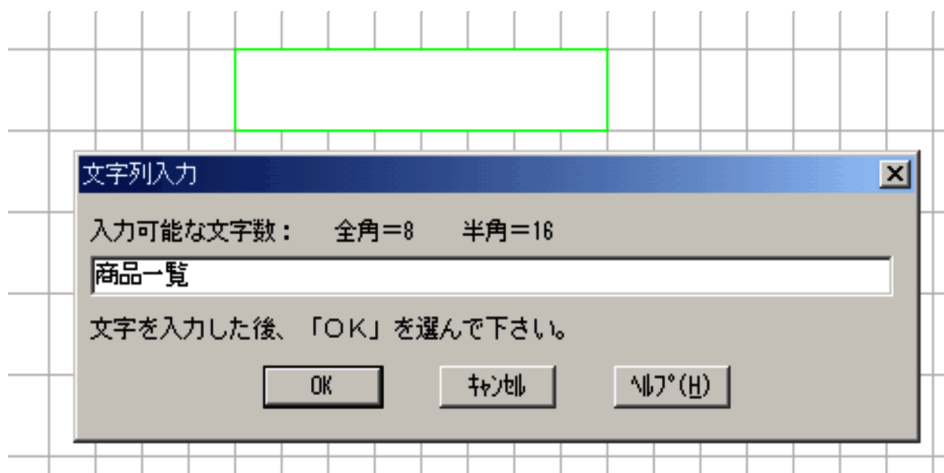
図 15-1 書式設計の操作例



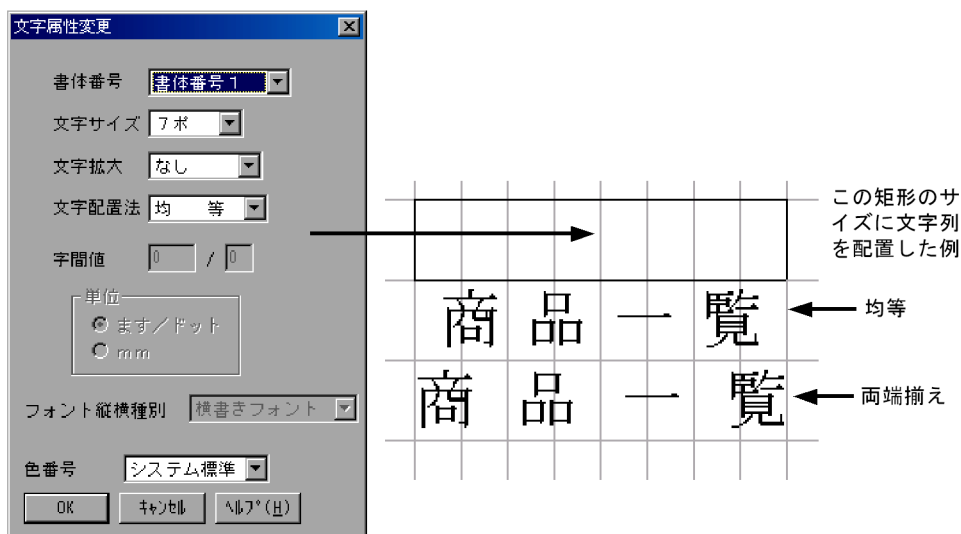
(1) 横文字列（領域を指定して配置）

状態表示の文字配置法が均等または両端そろえとなっていることを確認します。字間指定となっている場合は、状態表示の「字間指定」と表示された領域をマウスでクリックして、これから作画する文字列が矩形指定した領域にバランスよく配置されるように属性を変更します。

T ボタンをクリックして、文字列を配置する領域をマウスで矩形選択します。[文字列入力] 画面が表示されるので、「商品一覧」を入力して [OK] ボタンをクリックします。なお、矩形選択をはじめとする作画時のマウス操作は、[書式设计] 画面のメニューバーの [オプション] の [作画・編集] からドラッグまたは2点クリックのどちらかに設定できます。



文字配置や文字サイズなどを変更する場合は、**M** ボタンをクリックして「商品一覧」をクリックで選択後、ダブルクリックまたは [書式设计] 画面のメニューバーの [編集] から [属性変更] を選択します。[文字属性変更] 画面が表示されるので、必要に応じて変更します。




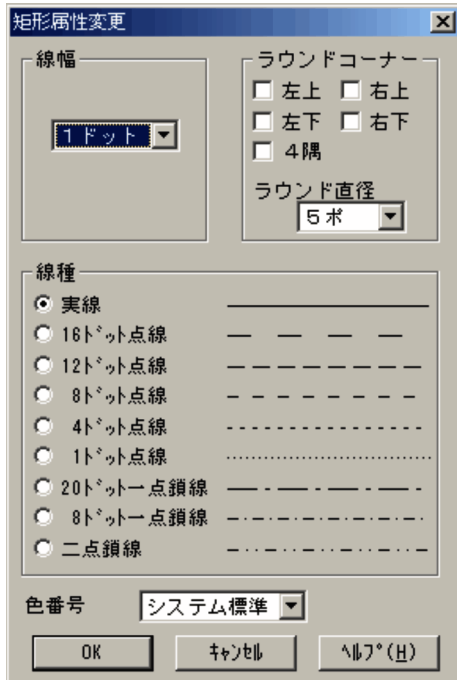
字間値を指定して文字列を配置したい場合や、文字列の終了位置を厳密に問わない場合などは、字間指定で文字列を配置します。**T** ボタンをクリックして文字列開始位置を指定することで、任意の長さの文字列を配置できます。

文字列を変更する場合は、**M** ボタンをクリックして文字列を選択したあと、**OLD/NEW** ボタンまたはマウスの右クリックから [文字列変更] メニューを選択します。


(2) 矩形



R ボタンをクリックして、矩形を配置する領域の左上から右下に、マウスでドラッグします。線の種類、線幅、および、ラウンドコーナー指定（コーナー位置およびラウンド直径）などを変更

する場合は、 ボタンをクリックして作画した矩形をクリックで選択後、ダブルクリックまたは [書式设计] 画面のメニューバーの [編集] から [属性変更] を選択します。[矩形属性変更] 画面が表示されるので、線の種類、線幅、およびラウンドコーナー指定などを変更します。




(3) 水平・垂直線

「品番」および「商品名」欄の下部の水平線と、間の垂直線を配置します。 ボタンをクリックして、マウスで始点から終点までドラッグすることで配置します。

なお、水平線・垂直線を配置する操作の代わりに、 ボタンによる垂直線の作画、または状態表示の格子補正を設定している場合は、 ボタンによる直線の作画の操作でも同じような線が配置できます。

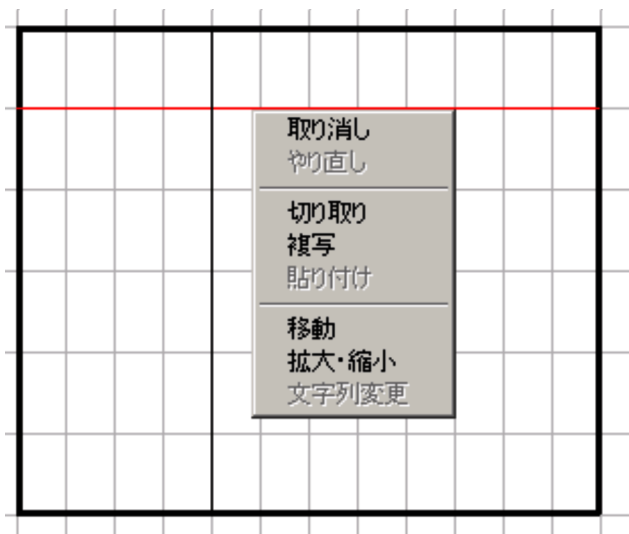
垂線および直線の作画操作については「4.6.3 作画機能」を参照してください。


(4) 配置済みの水平線の繰り返し



 ボタンをクリックして「品番」および「商品名」欄の直下の水平線を選択します。選択した項目に対して可能な操作は、[書式设计] 画面のツールバーの作画ボタンまたはメニューバーの [編集] から表示されるメニューで活性表示となります。また、使用頻度の高いものについては、マウスの右クリックによるメニューからも操作できます。

選択した線を矩形内の各行間に配置する方法を次に示します。


複写による方法




[書式设计]画面のメニューバーの[編集]から[複写]を選択するか、 ボタンをクリックします。

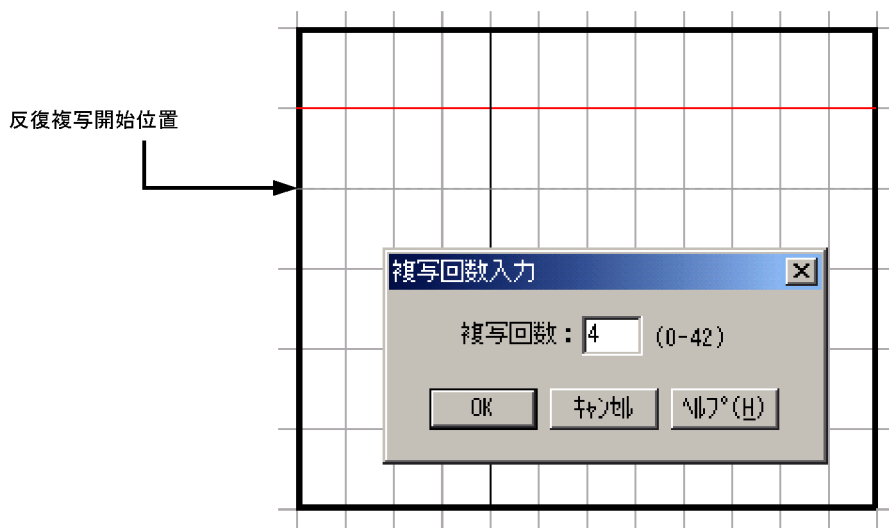
次に右クリックして[貼り付け]を選択するか、または  ボタンをクリックすると、かぎ型のポインタ「」が表示されるので、複写先の左位置をマウスで指定します。



繰り返しの対象となる項目を複写して、貼り付け操作を必要回数繰り返します。
反復複写による方法


水平線を選択し、 ボタンをクリックします。


かぎ型のポインタ「」が表示されるので、反復複写開始位置の左位置（複写元の一行分下）を指定します。

[複写回数入力]画面が表示されるので、複写回数（この例では4回）を指定します。



反復の操作には、ほかに  間隔回数指定、 間隔範囲指定、 範囲回数指定があります。これらも含め、それぞれの違いや操作については「4.6.4 編集機能」を参照してください。


 ボタンのクリックを取り消す場合、右クリックで表示したメニューから「中止」を選択する

か、または  ボタンをクリックします。

(5) 横文字列（矩形内の配置）



「品番」および「商品名」の文字列を配置します。四方をけい線で囲まれた領域内に配置するため、




ボタンが使用できます。  ボタンをクリックすると、+型のポインタが表示されるので、文字列を配置する領域をクリックします。[文字列入力]画面が表示されるので、文字列を入力して[OK]ボタンをクリックします。

(6) 網掛け

「品番」および「商品名」欄の直下に網掛けを配置します。状態表示で網掛け濃度を確認しておきます。

この操作例では、矩形、水平線、および垂直線によって四方が囲まれている領域に網掛けを配置するので、  ボタンを使用します。  ボタンをクリックすると、+型のポインタが表示されるので、網掛けを配置する領域に位置づけ、クリックします。ほかの網掛けが必要な領域にもクリックや複写、反復によって、網掛けを配置します。

網掛けは、  ボタンでも配置できます。このボタンをクリックすると+型のポインタが表示されるので、網掛けを配置する領域をドラッグで矩形選択して配置します。

5. 書式イメージの確認

書式设计機能を使用してできる書式イメージの確認方法を次に示します。

編集中の画面で確認

[書式设计]画面のメニューバーの[オプション]から[表示・印刷]を選択し、表示倍率を変更するなどして、編集中の書式イメージ全体を確認します。


プレビューで確認


編集した書式イメージの全体像を確認します。

[書式设计]画面のメニューバーの[ファイル]から[プリンタの設定]を選択し、書式サイズに応じた用紙を設定したあと、[ファイル]から[印刷プレビュー]を選択すれば、書式の全体像の参照および印刷ができます。

[書式设计]画面のメニューバーの[オプション]から[表示・印刷]を選択し、印刷オプションを変更することによって、目盛りやます目の表示の重ね合わせもできます。

マーカ表示で確認

 ボタンなどがクリックされた状態でマウスを使っている場合、小さな点（非常に短い直線）を配置してしまうことがあるため、これらが残っていないかを確認します。

[書式设计]画面のメニューバーの[オプション]から[作画・編集]を選択し、編集対象図形の明示方法に「マーカ表示」を設定したあと、  ボタンをクリックするかまたはメニューバーの[編集]から[全選択]を選択すると、この小さな点のある個所もマーカ表示されるため、残さないうで削除できます。

6. 書式イメージファイルへの保存

編集した書式を書式イメージファイルに保存します。[書式设计]画面のメニューバーの[ファイル]から[名前を付けて保存]または[閉じる]を選択して、ファイル名を指定します。ファイルに保存したら書式设计機能を終了します。

なお、ファイル名から書式オーバレイモジュールの名称が生成されることはないため、ファイル名には日本語も指定できます。

15.2.2 既存の書式を変更する場合の操作手順

「15.1 書式設計から書式オーバーレイモジュール生成までの操作手順」に示した新規に書式を作成する場合の手順と異なる操作、および書式修正時によく使う操作を次に示します。


1. 書式イメージを開く

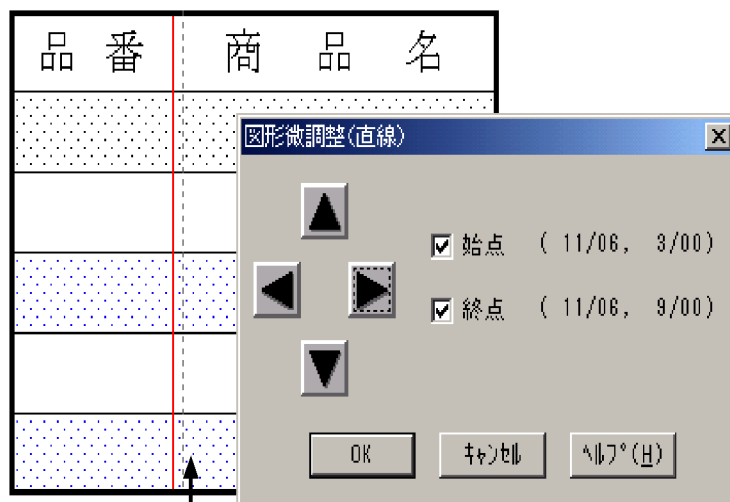
書式設計を起動して、[書式設計]画面のメニューバーの[ファイル]から[開く]、または[開く]ボタンから修正する書式イメージファイルを開きます。または、エクスプローラで表示された書式イメージファイルをダブルクリックするなどして開きます。

2. 書式編集

書式修正の場合に便利な操作を紹介します。

図形微調整

PDEで出力した結果、けい線と行データが接近していて読みにくいケースや、配置した文字列やビットマップの位置をわずかにずらしたい場合などには、 ボタンをクリックするか、[書式設計]画面のメニューバーの[編集]から[図形微調整]を選択して、図形をドット単位で変更します。



変更する方向のステップボタンをクリックします。クリックするごとに1ドットずつ変化します。

数ドットだけ右にずらす

変更する方向のステップボタンをクリックします。

クリックするごとに1ドットずつ変化します。

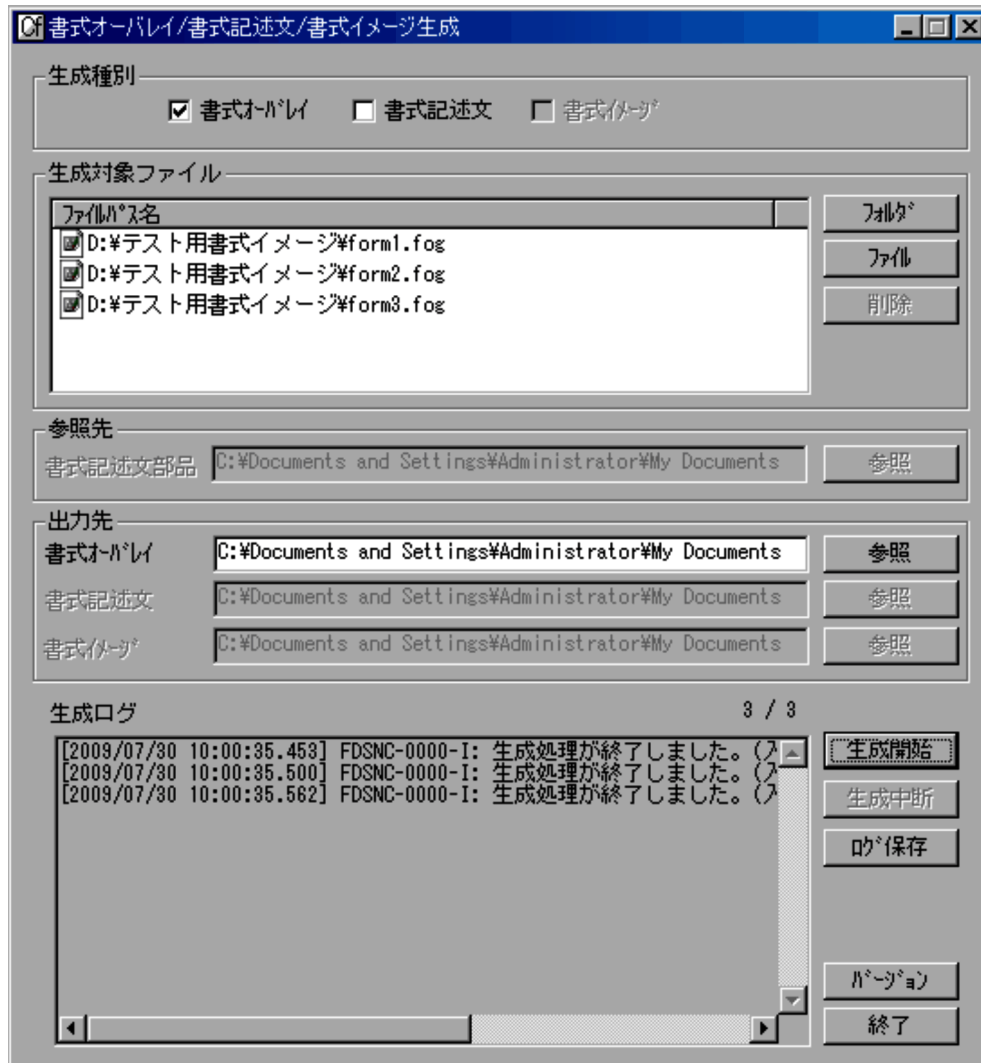
[図形微調整]画面を使った微調整の方法は、対象となる図形の種類によって異なります。詳細については、「4.6.4 編集機能」を参照してください。

15.3 書式オーバーレイモジュール生成の操作方法

書式オーバーレイモジュール生成機能を使用して、書式イメージファイルから書式オーバーレイモジュールを自動生成します。

1. 生成種別と生成対象ファイルの設定

プログラムメニューから、PDE Form Designer の書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成のアイコンを選択し、[書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面を表示させます。



[生成種別] の [書式オーバーレイ] を選択して、生成した書式オーバーレイモジュールの出力先フォルダを指定し、生成対象ファイルを指定します。

2. 書式オーバーレイモジュールの生成

[生成開始] ボタンをクリックします。

生成ログが表示されます。[ログ保存] ボタンをクリックすることでログをファイルに保管できます。

入力した書式イメージファイルと出力された書式オーバーレイモジュールは、対応づけて管理してください。

付録

付録 A VOS3 KAPS E3 (KLIB) 制御文に対するサポート範囲

付録 B VOS1 KAPS (KLIB) 制御文に対するサポート範囲

付録 C VOSK EDIT DCI コマンドに対するサポート範囲

付録 D VOS1 FCB マクロに対するサポート範囲

付録 E PDE - Form Designer での文字コードの扱い (分散タイプ PDE だけ適用)

付録 F STAMPSII からの移行

付録 G オプション設定ファイル

付録 H 書式記述文の生成規則

付録 I 書式イメージの生成規則

付録 J このマニュアルの参考情報

付録 K 用語解説

付録 A VOS3 KAPS E3 (KLIB) 制御文に対するサポート範囲

VOS3 KAPS E3 (KLIB) の制御イメージ作成機能で使用する制御文・オペランド指定値に対する PDE - Form Designer でのサポート範囲を次に示します。

付録 A.1 FCB イメージ作成 (VOS3 KAPS E3 (KLIB))

VOS3 KAPS E3 (KLIB) の FCB イメージ作成機能で使用する制御文・オペランド指定値に対する PDE - Form Designer でのサポート範囲を次の表に示します。

表 A-1 VOS3 KAPS E3 (KLIB) 制御文のサポート範囲 (FCB イメージ)

機能			サポート有無	PDE - Form Designer (FCB イメージ作成機能) での設定	
KLIB 制御文	オペランド	設定項目			
INCLUDE	FEATURE	装置種別	1	[新規作成] 画面のプリンタ	
	MODE	制御イメージの種類		[新規作成] 画面のプリンタモード	
FCB	DIST	行間隔 (ドット指定)		[行の挿入] または [行の変更] 画面の標準行間隔 ([新規作成] 画面の行間隔入力方式で「標準行間隔入力」を選択し、数値の単位に「ドット」を選択)	
	LPI	行間隔 (LPI 指定)		[行の挿入] または [行の変更] 画面の標準行間隔 ([新規作成] 画面の行間隔入力方式で「標準行間隔入力」を選択)	
	CHx	チャンネルコード		[行の変更] 画面のチャンネルコード	
	DEFAULT	デフォルトイメージ指定	x 2	-	
	FORM	用紙サイズ		用紙サイズ	
	DIRECT	用紙向き	回転	2	-
			行の仮定	3	[行の挿入] 画面で挿入行数に「自動」を選択
	LP	LP モード指定	x 4	-	
	WSIDED	両面印刷指定		片面 / 両面	
	POSITION	とじ代の位置		とじ代	
	MARGIN	印字禁止領域		<ul style="list-style-type: none"> • 上マージン • 下マージン • 左マージン • 右マージン 	
	REDUCT	縮小率および縮小後用紙サイズ		用紙サイズ	
	PIB	1 行内のデータを右方向にずらす文字数		桁ずらし文字数 (AN モードだけ)	
	SIZE	連続紙の用紙長		用紙長	

機能			サポート有無	PDE - Form Designer (FCB イメージ作成機能) での設定
KLIB 制御文	オペランド	設定項目		
	BLANK	連続紙の印字禁止領域幅		印字禁止領域幅

(凡例)

- : サポートしています。
- ×: サポートしていません。
- : 制限付きでサポートしています。
- : 該当しません。

注 1 単機能プリンタ (CKCP) の読み込み, 両面印刷プリンタ (CKCP1), および連続紙プリンタ (CKLP, CKLP2) だけをサポートします。

注 2 180°回転指定は, 分散タイプ PDE 01-16 以降および PDE for Open 01-09 以降でサポートしています。また, 印刷時に回転指定を有効にするためには, PDE 環境設定ユティリティでの設定が必要になります。PDE 環境設定ユティリティの設定方法については, マニュアル「PRINT DATA EXCHANGE」およびマニュアル「PRINT DATA EXCHANGE for Open」を参照してください。

注 3 有効印字領域を超えた行の挿入はできません。

注 4 LPI 相当の機能で対応できます。

付録 A.2 デフォルト機能キャラクタ作成 (VOS3 KAPS E3 (KLIB))

VOS3 KAPS E3 (KLIB) のデフォルト機能キャラクタイメージ作成機能で使用する制御文・オペランド指定値に対する PDE - Form Designer のサポート範囲を次の表に示します。

表 A-2 VOS3 KAPS E3 (KLIB) 制御文のサポート範囲 (デフォルト機能キャラクタイメージ)

DFUNC 文	機能キャラクタ				サポート有無
	機能キャラクタ名	コード		パラメタ	
CODE	EBCDIK コード開始	0A	41	なし。	
	漢字コード開始	0A	42	なし。	
ORIENT	横書き開始	0A	54	なし。	
	縦書き開始	0A	55	なし。	
SCOREOUT	抹消開始	0A	A1	なし。	
	抹消終了	0A	A2	なし。	
STYLE	書体 (書体番号 0 ~ 15)	1A	42	80 ~ 8F	
_ 1	強調開始 (アンダーライン開始)	1A	43	81	
	強調終了	0A	43	なし。	
POINT	文字サイズ (7, 9, 12, 14, 19, 38, または 77 ポイント)	1A	46	87, 89, 8C, 8E, 93, A6, CD	
INTERVAL	字間値 (ドット単位の字間値指定)	1A	47	80 ~ 83	

DFUNC 文	機能キャラクタ			サポート 有無	
	機能キャラクタ名	コード			パラメタ
. 1	文字間隔詳細（ドット単位の字間値指定を EBCDIK コードと漢字コードで独立に行う）	1A	57	00 ~ FF	
. 1	拡張字間値（ポイント単位の字間値指定）	1A	A8	80 ~ 8F	
WIDTH	横倍	1A	81	80 , 90	
. 1	行データ右移動（印字を開始する位置をドット数で指定する（0 ~ 255 ドット））	1A	90	00 ~ FF	
USERAREA	ユーザ定義	1A	83	90	x ²

（凡例）

- : サポートしています。
- x : サポートしていません。
- : 該当しません。

注 1 DFUNC 文では作成できません。

注 2 PDE ではサポートしていません。

付録 B VOS1 KAPS (KLIB) 制御文に対するサポート範囲

VOS1 KAPS (KLIB) の制御イメージ作成機能で使用する制御文・オペランド指定値に対する PDE - Form Designer でのサポート範囲を次に示します。

付録 B.1 FCB イメージ作成 (VOS1 KAPS (KLIB))

VOS1 KAPS (KLIB) の FCB イメージ作成機能で使用する制御文・オペランド指定値に対する PDE - Form Designer でのサポート範囲を次の表に示します。

表 B-1 VOS1 KAPS (KLIB) 制御文のサポート範囲 (FCB イメージ)

機能			サポート有無	PDE - Form Designer (FCB イメージ作成機能)での設定	PDE - Form Designer (ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能)での設定	
KLIB 制御文	オペランド	設定項目				
INCLUDE	FEATURE	装置種別	1	[新規作成]画面のプリンタ	環境設定の[制御イメージ設定]画面のラインプリンタ種別	
	MODE	制御イメージの種類		[新規作成]画面のプリンタモード	-	
FCB	DIST	行間隔(ドット指定)		[行の挿入]または[行の変更]画面の標準行間隔([新規作成]画面の行間隔入力方式で「標準行間隔入力」を選択し、数値の単位に「ドット」を選択)	[行の挿入]または[行の変更]画面の行間値([数値の単位]に[ドット]を選択)	
	LPI	行間隔(LPI指定)		[行の挿入]または[行の変更]画面の標準行間隔([新規作成]画面の行間隔入力方式で「標準行間隔入力」を選択)	[行の挿入]または[行の変更]画面の行間値	
	CHx	チャンネルコード		[行の変更]画面のチャンネルコード	[行の変更]画面のチャンネルコード	
	DEFAULT	デフォルトイメージ指定	x 2	-	-	
	FORM	用紙サイズ		用紙サイズ	-	
	DIRECT	用紙向き 回転			用紙向き	-
				2	-	-
	ASSUME	行の仮定	3	[行の挿入]画面で挿入行数に「自動」を選択	-	
	LP	LPモード指定	x 4	-	-	
	WSIDED	両面印刷指定		片面/両面	-	
POSITION	とじ代の位置		とじ代	-		

機能			サポート有無	PDE - Form Designer (FCB イメージ作成機能)での設定	PDE - Form Designer (ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能)での設定
KLIB 制御文	オペランド	設定項目			
	MARGIN	印字禁止領域		<ul style="list-style-type: none"> • 上マージン • 下マージン • 左マージン • 右マージン 	-
	REDUCT	縮小率および縮小後用紙サイズ		用紙サイズ	-
	PIB	1行内のデータを右方向にずらす文字数		桁ずらし文字数 (AN モードだけ)	-
	SIZE	連続紙の用紙長	5	用紙長	設定できません。
	BLANK	連続紙の印字禁止領域幅		印字禁止領域幅	-
	DEFAULT	デフォルトイメージ指定	x	-	設定できません。

(凡例)

- : サポートしています。
- x : サポートしていません。
- : 制限付きでサポートしています。
- : 該当しません。

注 1 H-8174 (CKCP) の読み込み, H-6286, H-6284 (CKCP1), H-6273, H-6274, H-6275, H-6276, H-8172, H-8196 (CKLP), および H-6246 (CKLP2) だけをサポートします。なお, ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能では, H-6246 (CKLP2) だけをサポートします。

注 2 180°回転指定は, 分散タイプ PDE 01-16 以降および PDE for Open 01-09 以降でサポートしています。また, 印刷時に回転指定を有効にするためには, PDE 環境設定ユティリティでの設定が必要になります。PDE 環境設定ユティリティの設定方法については, マニュアル「PRINT DATA EXCHANGE」およびマニュアル「PRINT DATA EXCHANGE for Open」を参照してください。

注 3 有効印字領域を超えた行の挿入はできません。

注 4 LPI 相当の機能で対応できます。

注 5 ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能では, 行間隔合計を表示することで対応できます。

付録 B.2 デフォルト機能キャラクタ作成 (VOS1 KAPS (KLIB))

VOS1 KAPS (KLIB) のデフォルト機能キャラクタイメージ作成機能で使用する制御文・オペランド指定値に対する PDE - Form Designer のサポート範囲を次の表に示します。

表 B-2 VOS1 KAPS (KLIB) 制御文のサポート範囲 (デフォルト機能キャラクタイメージ)

DFUNC 文	機能キャラクタ				サポート有無
	機能キャラクタ名	コード		パラメタ	
CODE	EBCDIK コード開始	0A	41	なし。	
	漢字コード開始	0A	42	なし。	
ORIENT	横書き開始	0A	54	なし。	
	縦書き開始	0A	55	なし。	
SCOREOUT	抹消開始	0A	A1	なし。	
	抹消終了	0A	A2	なし。	
STYLE	書体 (書体番号 0 ~ 15)	1A	42	80 ~ 8F	
-	強調開始 (アンダーライン開始)	1A	43	81	
	強調終了	0A	43	なし。	
POINT	文字サイズ (7, 9, 12, 14, 19, 38, または 77 ポイント)	1A	46	87, 89, 8C, 8E, 93, A6, CD	
INTERVAL	字間値 (ドット単位の字間値指定)	1A	47	80 ~ 83	
-	文字間隔詳細 (ドット単位の字間値指定を EBCDIK コードと漢字コードで独立に行う)	1A	57	00 ~ FF	
-	拡張字間値 (ポイント単位の字間値指定)	1A	A8	80 ~ 8F	
WIDTH	横倍	1A	81	80, 90	
-	行データ右移動 (印字を開始する位置をドット数で指定する (0 ~ 255 ドット))	1A	90	00 ~ FF	

(凡例)

: サポートしています。

- : 該当しません。

注 DFUNC 文では作成できません。

表 B-3 VOS1 KAPS (KLIB) 制御文のサポート範囲 (ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ)

KLIB 制御文	オペランド	設定項目	コード	パラメタ	サポート有無
INCLUDE	FEATURE	装置モニック ¹	-	-	
DFUNC	CODE=EBCDIK	1 バイトコード	0A41	なし。	
	CODE=KANJI	2 バイトコード	0A42	なし。	
	STYLE	書体番号 (1 ~ 15) ²	1A42	80 ~ 8F	
	INTERVAL	字間値	1A47	80 ~ FF	

KLIB 制御文	オペランド	設定項目	コード	パラメタ	サポート有無
	WIDTH	横倍文字	1A81	80, 90	

(凡例)

- : サポートしています。
- : CKLP2 だけサポートしています。
- : 該当しません。

注 1 環境設定の [制御イメージ設定] 画面のラインプリンタ種別で入力します。

注 2 ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能では書体番号 0 ~ 15 になります。

付録 C VOSK EDIT DCI コマンドに対するサポート範囲

VOSK EDIT DCI コマンドに対するサポート範囲を次に示します。

付録 C.1 FCB イメージ作成 (VOSK EDIT DCI コマンド)

VOSK EDIT DCI コマンドの [FCB イメージ定義] 画面に対する PDE - Form Designer での FCB イメージ作成機能のサポート範囲を次の表に示します。

表 C-1 VOSK EDIT DCI コマンドのサポート範囲 (FCB イメージ)

画面入出力項目	漢字プリンタ (H-6284 系)	センタ漢字プリン タ (単票)	センタ漢字プリン タ (連票)	PDE - Form Designer (FCB イ メージ作成機能) での設定
行間隔値				[行の挿入] または [行の変更] 画面の標準行間隔 ([新規作成] 画面の行間隔入力方式で「標準 行間隔入力」を選択し、数値の 単位に「ドット」を選択)
チャンネル番号				[行の変更] 画面のチャンネル コード
用紙の大きさ			-	用紙サイズ
縮小		-	-	用紙サイズ
印刷向き			-	用紙向き
回転印刷	1	-	-	-
LP モード	× ²	× ²	-	-
両面印刷		-	-	片面 / 両面
とじ代の位置		-	-	とじ代
マージン位置		-	-	<ul style="list-style-type: none"> • 上マージン • 下マージン • 左マージン • 右マージン
用紙の長さ	-	-		用紙長
印字不能領域	-	-		印字禁止領域幅

(凡例)

- : サポートしています。
- × : サポートしていません。
- : 制限付きでサポートしています。
- : 画面に表示しません。

注 1 180° 回転指定は、分散タイプ PDE 01-16 以降および PDE for Open 01-09 以降でサポートしています。また、印刷時に回転指定を有効にするためには、PDE 環境設定ユティリティでの設定が必要になります。PDE 環境設定ユティリティの設定方法については、マニュアル「PRINT DATA EXCHANGE」およびマニュアル「PRINT DATA EXCHANGE for Open」を参照してください。

注 2 LPI 相当の機能で対応できます。

付録 C.2 デフォルト機能キャラクタ作成 (VOSK EDIT DCI コマンド)

VOSK EDIT DCI コマンドの [漢字プリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ定義] 画面に対する PDE - Form Designer のデフォルト機能キャラクタイメージ作成機能のサポート範囲を次の表に示します。

表 C-2 VOSK EDIT DCI コマンドのサポート範囲 (デフォルト機能キャラクタイメージ)

画面指定値	機能キャラクタ			サポート有無	
	機能キャラクタ名	コード	パラメタ		
文字コード	EBCDIK コード開始	0A	41	なし。	
	漢字コード開始	0A	42	なし。	
文字向き	横書き開始	0A	54	なし。	
	縦書き開始	0A	55	なし。	
-	抹消開始	0A	A1	なし。	
	抹消終了	0A	A2	なし。	
書体	書体 (書体番号 0 ~ 15)	1A	42	80 ~ 8F	
-	強調開始 (アンダーライン開始)	1A	43	81	
	強調終了	0A	43	なし。	
文字サイズ	文字サイズ (7, 9, 12, 14, 19, 38, または 77 ポイント)	1A	46	87, 89, 8C, 8E, 93, A6, CD	
字間値	字間値 (ドット単位の字間値指定)	1A	47	80 ~ 83	
-	文字間隔詳細 (ドット単位の字間値指定を EBCDIK コードと漢字コードで独立に行う)	1A	57	00 ~ FF	
-	拡張字間値 (ポイント単位の字間値指定)	1A	A8	80 ~ 8F	
-	横倍	1A	81	80, 90	
印刷開始位置	行データ右移動 (0 ~ 255 ドット)	1A	90	00 ~ FF	
ユーザエリア	ユーザ定義	1A	83	90	x ²

(凡例)

- : サポートしています。
- x: サポートしていません。
- : 該当しません。

注 1 画面では設定できません。

注 2 PDE ではサポートしていません。

付録 C.3 ラインプリンタ用 FCB イメージ作成 (VOSK EDIT DCI コマンド)

VOSK EDIT DCI コマンドの画面に対する PDE・Form Designer でのラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能のサポート範囲を次の表に示します。

表 C-3 VOSK EDIT DCI コマンドのサポート範囲 (ラインプリンタ用 FCB イメージ)

画面	設定項目	サポート有無	ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能での設定
制御イメージ作成機能選択画面 (JSTHJM1)	装置種別		環境設定の [制御イメージ設定] 画面のラインプリンタ種別
	制御イメージ名		[名前を付けて保存] 画面のイメージ名
ラインプリンタ用 FCB イメージ定義画面 (JSTHJL1)	1 インチ当たりの行数		[ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能] 画面の行間値
	1 ページ当たりの行数		[行の挿入] 画面の挿入行数
	チャンネル番号		[行の変更] 画面のチャンネルコード
漢字ラインプリンタ用 FCB イメージ定義画面 (JSTHJA1)	用紙の長さ	× ¹	設定できません。
	標準行間隔	× ²	設定できません。
漢字ラインプリンタ用 FCB イメージ行定義画面 (JSTHJA2)	行間隔値		[行の挿入] または [行の変更] 画面の行間値
	行数		[行の挿入] 画面の挿入行数
	チャンネル番号		[行の変更] 画面のチャンネルコード

(凡例)

: サポートしています。

× : サポートしていません。

: CLP と CKLP だけサポートしています。

注 1 行間隔合計を表示することで対応できます。

注 2 [行の挿入] 画面の行間値で対応できます。

付録 C.4 ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成 (VOSK EDIT DCI コマンド)

VOSK EDIT DCI コマンドの画面に対する PDE・Form Designer のラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能のサポート範囲を次の表に示します。

表 C-4 VOSK EDIT DCI コマンドのサポート範囲 (ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ)

画面	設定項目	コード	パラメタ	サポート有無
制御イメージ作成機能 選択画面 (JSTHJM1)	装置種別 ¹	-	-	
	制御イメージ名	-	-	
漢字ラインプリンタ用 デフォルト機能キャラ クタイメージ定義画面 (JSTHJB1)	文字コード (EBCDIK)	0A41	なし。	
	文字コード (漢字)	0A42	なし。	
	書体 (1 ~ 15) ²	1A42	80 ~ 8F	
	字間値	1A47	80 ~ FF	

(凡例)

- : サポートしています。
- : CKLP だけサポートしています。
- : 該当しません。

注 1 環境設定の [制御イメージ設定] 画面のラインプリンタ種別で入力します。

注 2 ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能では書体 0 ~ 15 になります。

付録 D VOS1 FCB マクロに対するサポート範囲

VOS1 FCB マクロで使用するオペランドと、ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能で設定できる機能範囲を次の表に示します。

表 D-1 VOS1 FCB マクロのサポート範囲

オペランド	設定項目	サポート有無	ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能での設定
CHANNEL	チャンネル番号		[行の変更] 画面のチャンネルコード
LINES	行数		[行の挿入] 画面の挿入行数
PPI	シフト文字数		[ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能] 画面の桁ずらし文字数
LPI	行間隔		[ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能] 画面の行間値

(凡例)

: サポートしています。

: 右ずらしだけサポートしています。

付録 E PDE - Form Designer での文字コードの扱い (分散タイプ PDE だけ適用)

PDE - Form Designer では、書式设计機能で書式中に定義する文字としてシフト JIS コードでの入力を受け、KEIS90 コードに変換して使用します。

JIS78 と JIS90 では一部の文字について追加やコード変更があるため、PDE の環境設定の「コード変換設定」で 2 バイトコードを「KEIS78 として扱う」に設定すると、文字によっては書式中に定義した文字と異なる印字が行われる場合があります。

JIS90 の内字の範囲内で影響のある文字について次に示します。Windows 特殊文字、NEC 選定 IBM 拡張文字、外字、および IBM 拡張文字の扱いについては「3.4.3 外字領域の設定」を参照してください。

(1) 印刷不可代替文字の印字が行われる場合

印刷不可代替文字の印字が行われる場合に当てはまる文字の一覧を次の表に示します (文字欄の字が印刷不可代替文字で印字されます)。

注 「」などの JIS83 で追加になったけい線素片以外の非漢字については、PDE の初期値の設定では定義と同じ印字となります。

表 E-1 印刷不可代替文字の印字が行われる場合に当てはまる文字の一覧

文字	KEIS90	SJIS
	A8A1	849F
	A8A2	84A0
	A8A3	84A1
	A8A4	84A2
	A8A5	84A3
	A8A6	84A4
	A8A7	84A5
	A8A8	84A6
	A8A9	84A7
	A8AA	84A8
	A8AB	84A9
	A8AC	84AA
	A8AD	84AB
	A8AE	84AC
	A8AF	84AD
	A8B0	84AE
	A8B1	84AF
	A8B2	84B0
	A8B3	84B1
	A8B4	84B2
	A8B5	84B3
	A8B6	84B4

文字	KEIS90	SJIS
0	A8B7	84B5
	A8B8	84B6
	A8B9	84B7
	A8BA	84B8
	A8BB	84B9
	A8BC	84BA
	A8BD	84BB
	A8BE	84BC
	A8BF	84BD
	A8C0	84BE
凜	F4A5	EAA3
熙	F4A6	EAA4

印刷不可代替文字の印字例を次の表に示します。

表 E-2 印刷不可代替文字の印字例

PDE 環境設定	KEIS83/90 として扱う	KEIS78 として扱う
印字結果	定義と同じ印字となります。	印刷不可代替文字が印字されず (印字例は設定が「A2A3()」のとき)。
印字例 1		
印字例 2		

(2) 印字される字形が入れ替わる場合

印字される字形が入れ替わる文字の一覧を次の表に示します。

表 E-3 印字される字形が入れ替わる文字の一覧

文字 1	KEIS90	SJIS	文字 2	KEIS90	SJIS
鯨	B0B3	88B1	鯨	F2CD	E9CB
鶯	B2A9	89A7	鶯	F2F4	E9F2
蛎	B3C2	8A61	蛎	E9DA	E579
攪	B3C9	8A68	攪	D9F8	9D98
竈	B3F6	8A96	竈	E3DE	E27D

文字 1	KEIS90	SJIS	文字 2	KEIS90	SJIS
灌	B4C3	8AC1	灌	DEF5	9FF3
諫	B4D2	8AD0	諫	EBDD	E67C
頸	B7DB	8C7A	頸	F0F4	E8F2
砒	B9DC	8D7B	礪	E2E8	E1E6
蕊	BCC9	8EC7	藜	E9A2	E541
鞞	BFD9	9078	鞞	F0D7	E8D5
賤	C1A8	9147	賤	ECCD	E6CB
壺	C4DB	92D9	壺	D4E4	9AE2
礪	C5D7	9376	礪	E2EA	E1E8
檣	C5EE	938E	檣	DBED	9E8D
濤	C5F3	9393	濤	DEB9	9FB7
迺	C6F6	93F4	邇	EDEE	E78E
蠅	C7E8	9488	蠅	EAA4	E5A2
桧	C9B0	954F	檜	DBD8	9E77
俥	CBF9	9699	儘	D0D6	98D4
藪	CCF9	96F7	藪	E9AE	E54D
籠	CFB6	9855	籠	E4C6	E2C4

注 文字 1 欄の字が文字 2 欄の字形で印字され、文字 2 欄の字が文字 1 欄の字形で印字されます。

印字される字形が入れ替わる文字の印字例を次の表に示します。

表 E-4 印字される字形が入れ替わる文字の印字例

PDE 環境設定	KEIS83/90 として扱う	KEIS78 として扱う
印字結果	定義と同じ印字となります。	定義とは異なる印字となります。
印字例		

(3) 印字される字形の変更および印刷不可代替文字の印字が行われる場合

印字される字形の変更および印刷不可代替文字の印字が行われる文字の一覧を次の表に示します。

表 E-5 印字される字形の変更および印刷不可代替文字の印字が行われる文字の一覧

文字 1	KEIS90	SJIS	文字 2	KEIS90	SJIS
堯	B6C6	8BC4	堯	F4A1	EA9F
楨	CBEA	968A	楨	F4A2	EAA0
遙	CDDA	9779	遙	F4A3	EAA1
瑤	E0F6	E0F4	瑤	F4A4	EAA2

印字される字形の変更および印刷不可代替文字の印字が行われる文字の印字例を次の表に示します。

表 E-6 印字される字形の変更および印刷不可代替文字の印字が行われる文字の印字例

PDE 環境設定	KEIS83/90 として扱う	KEIS78 として扱う
印字結果	定義と同じ印字となります。	<ul style="list-style-type: none"> 印刷不可代替文字が印字されます (印字例は設定が「A2A3()」のとき)。 定義とは異なる印字となります。
印字例		

(4) 入れ替わる場合

入れ替わる文字の一覧を次の表に示します。

表 E-7 文字が入れ替わる文字の一覧

文字 1	KEIS90	SJIS	文字 2	KEIS90	SJIS
	A2BE	81BC		A2BF	81BD

入れ替わる文字の印字例を次の表に示します。

表 E-8 入れ替わる文字の印字例

PDE 環境設定	KEIS83/90 として扱う	KEIS78 として扱う
印字結果	定義と同じ印字となります。	定義とは異なる印字となります。
印字例		

付録 F STAMPSII からの移行

STAMPSII Windows95 版 書式プロトタイピング機能で作成した書式定義を PDE - Form Designer に移行して使用できます。

移行ファイル別の移行方法を次に示します。

(1) 書式イメージファイル

そのまま使用できます。

(2) 環境設定ファイル

PDE - Form Designer の環境設定機能で作り直します。書式イメージファイルを移行する場合は、外字マッピングの設定を STAMPSII の環境設定と同じにしてください。

(3) 漢字コードマップ定義ファイル (Codemap.def)、漢字コード変換テーブル (codemap.tbl)

そのまま使用できます。PDE - Form Designer のインストール先フォルダ¥BIN の該当ファイルを、STAMPSII で使用していたファイルで置き換え保存してください。

補足

同一環境で分散タイプ PDE 用と PDE for Open 用のオーバーレイモジュールを作成する場合、環境設定のイメージ種別を分散タイプ PDE 用 (VOS3/VOS1/VOSK) または PDE for Open 用 (オープン) に切り替えるだけで作成できます。

付録 G オプション設定ファイル

オプション設定ファイルには、次に示す内容を設定します。

- 書式記述文生成機能で、書式イメージファイルの内容を書式記述文に展開する方法。
- 書式イメージ生成機能で、書式記述文から書式イメージファイルを生成する方法。

オプション設定ファイルのサンプルは、インストール時に提供されているので、書式記述文を使用するシステムの環境や制限に合わせて変更しておきます。変更する場合は、スタートメニューに登録されている [書式記述文 / 書式イメージ生成オプション設定] アイコンから編集します。

Windows Vista 以降の場合は、編集したオプション設定ファイルを環境設定で設定した記述文オプション設定格納フォルダに保存してください。

(1) 形式

オプション設定ファイルの形式を次に示します。

オプション設定ファイルの各行は、先頭カラムから次の形式で記述します。

```
[ FOGVR= 書式記述文バージョン ]
[ GAIJI=( 外字開始位置, 外字使用通知 ) ]
文字属性名 ( 文字サイズ, 全半角種別 [ , [ 書体番号 ] [ , [ 文字拡大指定 ] [ , フォント縦横種別 ] ] )
[ TYPE= 出力タイプ ]
[ COLOR= 色番号出力 ]
[ ROUNDEDBOX= ラウンドコーナー付き矩形出力 ]
[ RLINE=RLINE 文出力 ]
[ NXCODE=NXCODE 文出力 ]
[ NNCONV= 仮名漢字変換置換文字 ]
[ FOGENV= 書式記述文作成環境 ]
```

注 1 空行および「//」で始まるコメント行は任意の行に置くことができます。また、1行に設定できるのは1種類だけです。なお、ファイルの最終行にも改行が必要です。

注 2 文字属性名は複数（1行に一つずつで複数行）記述できます。

有効になる設定項目を次の表に示します。

表 G-1 有効になる設定項目

設定項目	書式記述文生成	書式イメージ生成
FOGVR		-
GAIJI		
文字属性名		
TYPE		-
COLOR	1	-
ROUNDEDBOX	2	-
RLINE	3	-
NXCODE	3	-
NNCONV	-	
FOGENV	-	

(凡例)

- : 有効になります。
- : 無効になります。

注 1 タイプ C 書式の書式記述文の場合だけ有効になります。それ以外の場合は、色番号は出力されません。

注 2 書式記述文バージョンが 3 の場合だけ有効になります。

注 3 書式記述文バージョンが 2 または 3, イメージ種別が VOS1 または VOSK の場合だけ有効になります。

(2) 設定項目

オプション設定ファイルでの各行の設定値を次に示します。

FOGVR= 書式記述文バージョン ~ {1 | 2 | 3}

生成する書式記述文のバージョンを設定します。書式記述文を入力するシステムの仕様に合わせる必要があります。

- 1
FOG2 に入力できる書式記述文を生成します。
- 2
FOG2 E2 02-00 未満でサポートしている範囲の書式記述文を生成します。
- 3
FOG2 E2 02-00 以降でサポートしている範囲の書式記述文を生成します。

GAIJI=(外字開始位置, 外字使用通知)

書式イメージまたは書式記述文での外字使用のレポートの有無を設定します。

- 外字開始位置 ~ < 0 ~ 9 または A ~ F から成る 2 文字の文字列 > 《81》
ユーザ定義文字領域の開始位置に当たる KEIS コードの第 1 バイトの値を設定します。設定する値は、16 進表記した 2 けたの値で 41 ~ 93 の範囲です。なお、開始位置の第 2 バイトは A1, 終了位置は A0FE です。
- 外字使用通知 ~ {Y | N}
- Y
書式イメージまたは書式記述文の中にユーザ定義文字領域の文字が含まれていた場合、メッセージ (FDSNSO-0001-I または FDSNIMG-0004-I) を出力して通知します。
- N
書式イメージまたは書式記述文の中にユーザ定義文字領域の文字が含まれていた場合でも、通知しません。

文字属性名 (文字サイズ, 全半角種別 [, [書体番号] [, [文字拡大指定] [, フォント縦横種別]])

文字属性名と文字属性 (文字サイズ, 全半角文字, 書体番号, 文字拡大指定およびフォント縦横種別) との対応づけを設定します。

書式記述文生成の場合、書式記述文で用いる文字属性の値を設定します。書式イメージ中で指定されている文字属性に一致する文字属性名が書式記述文に出力されます。

書式イメージ生成の場合、書式記述文で用いている文字属性の値を設定します。書式記述文の文字属性名と一致する文字属性名の文字属性が書式イメージに適用されます。

- 文字属性名 ~ < A ~ Z, 0 ~ 9, または 「@」「¥」「#」 から成る 1 ~ 4 文字の文字列 >
CHAR, LAY, または ADJUST 文のオペランド (文字属性) で用いられる値を設定します。
- 文字サイズ ~ < 数字 > {5 | 7 | 9 | 12 | 14 | 19}

文字属性名に対応する文字サイズを設定します。

- 全半角種別 ~ { F | H }
文字属性名に対応する全半角種別を設定します。
 - F
全角文字
 - H
半角文字
 フォント縦横種別「V」(縦書きフォント)と同時に指定できません。
- 書体番号 ~ <数字> ((1 ~ 15))
文字属性名に対応する書体番号を設定します。
書式記述文生成で書体番号を省略した場合、該当する文字属性名はすべての書体番号に一致するものとして扱われます。
書式イメージ生成で書体番号を省略した場合、書体番号 1 が仮定されます。
- 文字拡大指定 ~ { N | H | V | HxxxVyyy }
文字属性名に対応する文字拡大指定を設定します。
書式記述文生成で文字拡大指定を省略した場合、該当する文字属性名はすべての文字拡大指定に一致するものとして扱われます。
書式イメージ生成で文字拡大指定を省略した場合、文字拡大なしが仮定されます。
 - N
文字拡大なし
 - H
横倍角
 - V
縦倍角
 - HxxxVyyy
任意倍率指定
xxx には横方向の拡大率 (%) を yyy には縦方向の拡大率 (%) を 020 ~ 255 の 3 桁の数字で設定します。
- フォント縦横種別 ~ { H | V }
文字属性名に対応するフォント縦横種別を設定します。
書式記述文生成でフォント縦横種別を省略した場合、該当する文字属性名はすべてのフォント縦横種別に一致するものとして扱われます。
書式イメージ生成でフォント縦横種別を省略した場合、横書きフォントが仮定されます。
 - H
横書きフォント
 - V
縦書きフォント
 全半角種別「H」(半角文字)と同時に指定できません。

TYPE=出力タイプ ~ { 1 | 2 | C }

書式の種類を設定します。

- 1
タイプ 1 書式の書式記述文を生成します。
- 2
タイプ 2 書式の書式記述文を生成します。
- C
タイプ C 書式の書式記述文を生成します。

COLOR= 色番号出力 ~ {Y | N}

色番号の出力の有無を設定します。

タイプ C 書式の書式記述文の場合だけ有効になります。それ以外の場合、色番号は出力されません。

- Y

書式記述文に色番号を出力します。

- N

書式記述文に色番号を出力しません。

ROUNDEDBOX= ラウンドコーナー付き矩形出力 ~ {Y | N}

ラウンドコーナー付き矩形出力の有無を設定します。

書式記述文バージョンが 3 の場合だけ有効になります。

- Y

書式記述文にラウンドコーナー付き矩形を出力します。

- N

書式記述文にラウンドコーナー付き矩形を分解して出力します。詳細については、「付録 H 書式記述文の生成規則」を参照してください。

RLINE=RLINE 文出力 ~ {Y | N}

RLINE 文出力の有無を設定します。

書式記述文バージョンが 2 または 3、イメージ種別が VOS1 または VOSK の場合だけ有効になります。

- Y

書式記述文に RLINE 文を出力します。

- N

書式記述文に LINE 文を出力します。

NXCODE=NXCODE 文出力 ~ {Y | N}

NXCODE 文出力の有無を設定します。

書式記述文バージョンが 2 または 3、イメージ種別が VOS1 または VOSK の場合だけ有効になります。

- Y

書式記述文に NXCODE 文を出力します。

- N

書式記述文に CODE 文を出力します。

NNCONV= 仮名漢字変換置換文字 ~ <全角 1 文字> 《 》

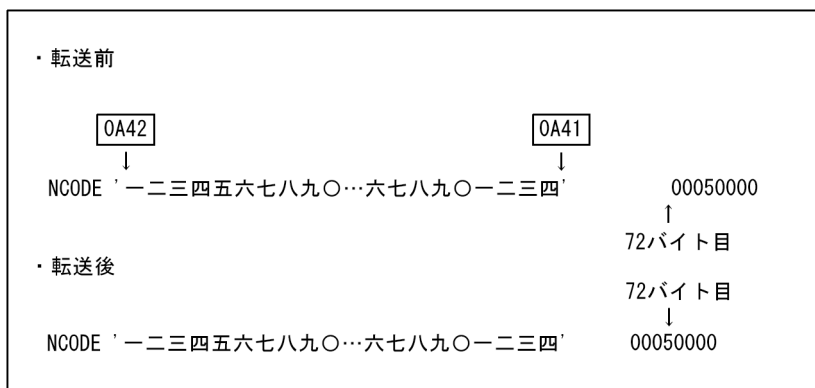
仮名漢字変換の置換に使用される全角 1 文字を設定します。

書式イメージ生成機能では、CONST 文および CHARC 文の変換種別 NN、および NNCODE 文の仮名漢字変換は行われません。これらの文で指定された文字列は、置換文字として設定された 1 文字に置換されます。

FOGENV= 書式記述文作成環境 ~ {M | W}

書式記述文に 2 バイトコードの文字を含む場合の書式記述文作成環境を設定します。

メインフレーム上で作成した書式記述文に KEIS コードの 2 バイトコードの文字を含む場合、シフト JIS コードに変換して PC へ転送する際に、KEIS コードのシフトコード ((0A42)₁₆, (0A41)₁₆) が取り除かれ、1 行のバイト数が変化します。このような場合、継続指定の行を正しく認識できなくなります。



このため、書式記述文作成環境の設定に従い、1行のバイト数を調整します。

- M

連続する2バイトコードの前後にシフトコード ($(0A42)_{16}$, $(0A41)_{16}$) があることを仮定します。

なお、メインフレーム上で2バイトコードを使用する場合、全角スペースを入力したつもりでも二つの半角スペースに置き換わっていることがあります。このような場合、PDE・Form Designer で正しく1行を認識することができないため、書式記述文の修正が必要になることがあります。また、書式記述文のコメントに全角文字を使用している場合、メインフレーム上でのシフトコードの位置によっては、PDE・Form Designer で継続指定カラムを正しく認識できず、警告メッセージ (FDSNIMG-4004-W) が出力されることがあります。このときには、該当する行が継続指定行かどうかを確認してください。継続指定行として認識させるときは、全角文字のコメントを削除して継続指定カラムに半角空白以外を指定してください。

- W

2バイトコードの前後にシフトコード ($(0A42)_{16}$, $(0A41)_{16}$) を仮定しないで、常に72バイト目を継続指定として扱います。

(3) 注意事項

書式記述文生成では、書式イメージ中の文字属性に一致する文字属性がオプション設定ファイルに存在しない場合、文字属性名として規定値「A000」が適用されます。

書式イメージ生成では、書式記述文の文字属性名に一致する文字属性名がオプション設定ファイルに存在しない場合、警告メッセージが出力され、書式記述文で該当する文字属性名が指定された文字列は無視されます。

(4) インストール時に組み込まれるオプション設定ファイルの内容

インストール時に組み込まれるオプション設定ファイルの内容を次に示します。

```
FOGVR=3
GAIJI=(81,Y)
TYPE=C

A05F(5,F)
A07F(7,F)
A09F(9,F)
A0CF(12,F)
A05H(5,H)
A07H(7,H)
A09H(9,H)
A0CH(12,H)
```

(5) オプション設定ファイルの設定例

設定例 1

書式記述文バージョン設定と外字チェック設定に省略時仮定値を適用する場合の設定例を次に示します。

```
KJ85 (5, F)
KJ87 (7, F)
KJ89 (9, F)
KJ8C (12, F)
KJ8E (14, F)
KJ8F (19, F)
KJC5 (5, H)
KJC7 (7, H)
KJC9 (9, H)
KJCC (12, H)
KJCE (14, H)
KJCF (19, H)
```

設定例 2

すべての文字サイズと全半角の組み合わせに対する文字属性を設定しない場合の設定例を次に示します。書式定義機能の環境設定で禁止項目を設定した場合、書式中で使える文字サイズを制限できます。あらかじめ使われないことがわかっている文字属性の設定は必要ありません。

```
//書式中では7, 9ポイントの字しか使われない場合。
//なお, 文字属性指定内での順序は任意
KJC7 (7, H)
KJ87 (7, F)
KJC9 (9, H)
//書体番号を指定する場合
KJ89 (9, F, 2)
```

設定例 3

空行を入れる場合の設定例を次に示します。

```
//生成する書式記述文を入力するFOGのバージョン
FOGVR=3

//ユーザ定義文字領域内の文字の使用を通知
GAIJI=(81, N)

//2バイトコードの文字属性
KJ85 (5, F)
KJ87 (7, F)
KJ89 (9, F)
KJ8C (12, F)
KJ8E (14, F)
KJ8F (19, F)
```


付録 H 書式記述文の生成規則

書式イメージに保存されている図形順（書式设计での定義順）に、次の表に示す書式記述文に変換して生成します。

表 H-1 書式記述文の生成規則

書式イメージ	書式記述文
書式情報	FORMS 文および FRMEND 文
水平線 / 垂直線	<ul style="list-style-type: none"> 書式記述文バージョンが 2/3 またはイメージ種別が VOS1/VOSK、かつ RLINE 文出力設定が有効な場合 RLINE 文 上記以外の場合 LINE 文
斜線	ELINE 文
ラウンドコーナーなしの矩形	BOX 文 ¹
ラウンドコーナーありの矩形	<ul style="list-style-type: none"> 書式記述文バージョンが 1/2 かつタイプ 1 の場合、または書式記述文バージョンが 3 かつラウンドコーナー付き矩形出力設定が有効かつコーナー直径が 1 辺の長さ以上の場合 GRAPHIC 文および LINE 文 上記以外の場合で書式記述文バージョンが 3 かつラウンドコーナー付き矩形出力設定が有効な場合 BOX 文 上記以外の場合 ARC 文および LINE 文
網掛け	GRAPHIC 文
円	CIRCLE 文
円弧	ARC 文
字間指定の全角文字列 ²	<ul style="list-style-type: none"> 書式記述文バージョンが 2/3 またはイメージ種別が VOS1/VOSK、かつ NXCODE 文出力設定が有効な場合 CHAR 文および NXCODE 文 上記以外の場合 CHAR 文および CODE 文
字間指定の半角文字列 ²	CHAR 文および ECODE 文
均等配置の全角文字列 ²	<ul style="list-style-type: none"> 書式記述文バージョンが 2/3 またはイメージ種別が VOS1/VOSK、かつ NXCODE 文出力設定が有効な場合 LAY 文および NXCODE 文 上記以外の場合 LAY 文および CODE 文
均等配置の半角文字列 ²	LAY 文および ECODE 文
両端そろえの全角文字列 ²	<ul style="list-style-type: none"> 書式記述文バージョンが 2/3 またはイメージ種別が VOS1/VOSK、かつ NXCODE 文出力設定が有効な場合 ADJUST 文および NXCODE 文 上記以外の場合 ADJUST 文および CODE 文
両端そろえの半角文字列 ²	ADJUST 文および ECODE 文
パターン	GRAPHIC 文および DOT 文

注 各書式記述文の構文の詳細については、次に示すマニュアルを参照してください。

- マニュアル「VOS3 書式オーバレイゼネレータ FOG2 E2」

- マニュアル「VOS1 書式オーバーレイゼネレータ FOG2 E2」
- マニュアル「VOSK 書式オーバーレイゼネレータ FOG2 E2」

注 1 反復ありの場合は、複数の BOX 文を出力します。

注 2 オプション設定ファイルに文字属性を設定しておく必要があります。

付録I 書式イメージの生成規則

書式イメージ生成機能では、次に示す製品で正常に書式オーバーレイモジュールを生成できる書式記述文をサポートしています。

- VOS3 書式オーバーレイゼネレータ FOG2 E2 03-04
- VOS1 書式オーバーレイゼネレータ FOG2 E2 03-00
- VOSK 書式オーバーレイゼネレータ FOG2 E2 01-00

書式記述文のサポート範囲および書式イメージの生成規則を次の表に示します。

表 I-1 書式記述文のサポート範囲および書式イメージの生成規則

分類	書式記述文	サポート有無	サポート範囲の制限	書式イメージ
書式の構成の設定	FORMS		<ul style="list-style-type: none"> ・ ます目大¹ 10 ~ 100 ・ X 長² 1,064 ~ 8,191 ・ Y 長³ 600 ~ 8,191 	書式情報
	FRMEND		-	-
	END		-	-
	SECTOR	×	-	-
	OPTION	×	-	-
セグメントの作成と配置	SEGMENT		-	線、文字およびドットパターンに展開されません。
	SGEND		-	
	INCLUDE		-	
線の作成	RLINE LINE		<ul style="list-style-type: none"> ・ 線の太さ^{4 5} 1 ~ 9 	水平線 / 垂直線
	ELINE		<ul style="list-style-type: none"> ・ 線の太さ^{4 5} 1 ~ 9 	斜線
	CIRCLE		<ul style="list-style-type: none"> ・ 半径⁶ 2 以上 ・ 線の太さ^{4 7} 1 ~ 9 かつ半径未満 	円
	ARC		<ul style="list-style-type: none"> ・ 半径⁶ 2 以上 ・ 線の太さ^{4 7} 1 ~ 9 かつ半径未満 	円弧
	BOX		<ul style="list-style-type: none"> ・ 線の太さ⁴ 1 ~ 9 	矩形
文字パターン情報の配置	CHAR	8	-	字間指定の文字列
	LAY	8 9	-	均等配置の文字列
	ADJUST	8 9	-	両端揃えの文字列

分類	書式記述文	サポート有無	サポート範囲の制限	書式イメージ
	NXCODE CODE		-	CHAR文, LAY文またはADJUST文の文字列として使用されません。
	NCODE		-	
	NNCODE		文字列は「 」1文字に置換されます。 ¹⁰	
	NACODE		-	
	NKCODE		-	
	NHCODE		-	
	CONST		仮名漢字変換種別 NN の文字列は「 」1文字に置換されます。 ¹⁰	
	ECODE		-	
	CHARC	8	変換種別 NN の文字列は「 」1文字に置換されます。 ¹⁰	字間指定の文字列
	CHSIZE		拡大後のサイズが19ポイントの場合だけサポートします。 ¹¹	-
ドットパターン情報の作成と配置	GRAPHIC		<ul style="list-style-type: none"> ・ X長¹² 1 ~ 256 (ドットデータ名指定時) ・ Y長¹² 1 ~ 256 (ドットデータ名指定時) ・ 網掛け種別 4, 6, 8¹³ 	網掛けまたはパターン
	DOT		-	GRAPHIC文のパターンとして使用されません。

(凡例)

- : サポートしています。
- × : サポートしていません。
- △ : 制限付きでサポートしています。
- : 該当しません。

注 1 各書式記述文の構文の詳細については、次に示すマニュアルを参照してください。

- ・ マニュアル「VOS3 書式オーバーレイゼネレータ FOG2 E2」
- ・ マニュアル「VOS1 書式オーバーレイゼネレータ FOG2 E2」
- ・ マニュアル「VOSK 書式オーバーレイゼネレータ FOG2 E2」

注 2 可変記号が存在する行は無視します。

注 3 書式記述文以外のアセンブラは、MACRO, MEND および COPY を除きすべて無視します。

注 1 まず目大が9以下の場合は10を、101以上の場合は100を仮定値とします(線, 文字およびドットパターンの座標には影響しません)

注 2 FORMS文のX長が範囲外の場合は3,264を仮定値とします。

- 注 3 FORMS 文の Y 長が範囲外の場合は 2,400 を仮定値とします。
- 注 4 線の太さが 10 以上の場合は 9 を仮定値とします。
- 注 5 RLINE 文または LINE 文の長さが 1 で、かつ線の太さが 2 以上の場合、1 を仮定値とします。
ELINE 文の開始位置と終了位置が等しく、かつ線の太さが 2 以上の場合、1 を仮定値とします。
- 注 6 半径が 1 以下の場合は 2 を仮定値とします。
- 注 7 線の太さが半径以上の場合は半径 -1 を仮定値とします。
- 注 8 オプション設定ファイルに文字属性を設定しておく必要があります。
- 注 9 LAY 文や ADJUST 文のボディサイズと文字属性の文字サイズが不一致の場合、文字属性の文字サイズによって文字を配置します。
- 注 10 置換する文字はオプション設定ファイルで変更できます。
- 注 11 文字属性 2 および種別の指定に関係なく、書体番号 1 の 19 ポ (全角は 64 × 64 ドット、半角は 32 × 64 ドット) の文字属性として扱います。
- 注 12 GRAPHIC 文の X 長または Y 長が範囲外の場合、該当する書式記述文は無視します。
- 注 13 GRAPHIC 文の網掛け種別 1 を指定した場合は網掛け種別 8 を仮定値とします。

なお、複数の書式記述文の組み合わせ (セグメントまたはユーザ定義マクロ中での指定も含めます) で、次に示す制限があります。

[オプション設定] 画面の [異なるパターン, 文字, ラウンドコーナ-の合計] の値に「240」「384」「1024」を指定した場合

- (ドットデータ名指定の GRAPHIC 文の数) 99
ただし、ドットデータ名および図形変換種別がすべて等しい GRAPHIC 文群は、一つの GRAPHIC 文として計算します。
- (ドットデータ名指定の GRAPHIC 文の数 + 異なる文字データ名の各種 CODE 文の数 + CHARC 文の数) ([異なるパターン, 文字, ラウンドコーナ-の合計] の値)
ただし、ドットデータ名および図形変換種別がすべて等しい GRAPHIC 文群は、一つの GRAPHIC 文として計算します。
- (LINE 文の数 + RLINE 文の数 + ELINE 文の数 + CIRCLE 文の数 + ARC 文の数 + BOX 文の数 + CHAR 文の数 + LAY 文の数 + ADJUST 文の数 + CHARC 文の数 + GRAPHIC 文の数)
2,047
- ((すべての各種 CODE 文および CHARC 文の変換後文字列の合計が占めるバイト数) + (異なる文字データ名の各種 CODE 文の数 + CHARC 文の数) × 5) 65,520
- ((ドットデータ名指定の GRAPHIC 文の X 長を 8 の倍数に切り上げた値 × Y 長 ÷ 8 の合計数) + (ドットデータ名指定の GRAPHIC 文の合計数 × 2)) 63,520
ただし、ドットデータ名および図形変換種別がすべて等しい GRAPHIC 文群は、一つの GRAPHIC 文として計算します。

[オプション設定] 画面の [異なるパターン, 文字, およびラウンドコーナ-の合計] の値に「4096」を指定した場合

- (ドットデータ名指定の GRAPHIC 文の数) 4,096
ただし、ドットデータ名および図形変換種別がすべて等しい GRAPHIC 文群は、一つの GRAPHIC 文として計算します。

- (ドットデータ名指定の GRAPHIC 文の数 + 異なる文字データ名の各種 CODE 文の数 + CHARC 文の数) 4,096
ただし、ドットデータ名および図形変換種別がすべて等しい GRAPHIC 文群は、一つの GRAPHIC 文として計算します。
- (LINE 文の数 + RLINE 文の数 + ELINE 文の数 + CIRCLE 文の数 + ARC 文の数 + BOX 文の数 + CHAR 文の数 + LAY 文の数 + ADJUST 文の数 + CHARC 文の数 + GRAPHIC 文の数) 4,096
- ((すべての各種 CODE 文および CHARC 文の変換後文字列の合計が占めるバイト数) + (異なる文字データ名の各種 CODE 文の数 + CHARC 文の数) × 5) 65,520
- ((ドットデータ名指定の GRAPHIC 文の X 長を 8 の倍数に切り上げた値 × Y 長 ÷ 8 の合計数) + (ドットデータ名指定の GRAPHIC 文の合計数 × 2)) 5,242,880
ただし、ドットデータ名および図形変換種別がすべて等しい GRAPHIC 文群は、一つの GRAPHIC 文として計算します。

また、FORMS 文の指定より前に次の書式記述文を指定した場合、その書式記述文の直前に FORMS 文が仮定され、以降の FORMS 文は無視されます。

- FRMEND, END, SEGMENT, SGEND, INCLUDE, RLINE, LINE, ELINE, CIRCLE, ARC, BOX, CHAR, LAY, ADJUST, CHARC, CHSIZE, GRAPHIC, DOT, 各種 CODE 文

付録 J このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

付録 J.1 関連マニュアル

関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

- uCosminexus Batch Job Execution Server 使用の手引 (3000-3-E02)
- PRINT DATA EXCHANGE (3020-3-P01)
- PRINT DATA EXCHANGE for Open (3020-3-P02)
- VOS1 書式オーバーレイゼネレータ FOG2 E2 (6150-3-328)
- VOS3 漢字プリンタ使用の手引 (6190-3-122)
- VOS3 書式オーバーレイゼネレータ FOG2 E2 (6190-3-479)
- VOSK 書式オーバーレイゼネレータ FOG2 E2 (650-3-156)
- STAMPSII Windows 95 版 書式プロトタイピング機能 (T179-7-001)

付録 J.2 このマニュアルでの表記

(1) PRINT DATA EXCHANGE 関連

このマニュアルでは、PRINT DATA EXCHANGE 関連の製品名を次のように表記しています。

表記		製品名	
PDE	分散タイプ PDE	PDE - PDF Edition	PRINT DATA EXCHANGE - Portable Document Format Edition
		PDE - Print Edition	PRINT DATA EXCHANGE - Print Edition
	PDE for Open		PRINT DATA EXCHANGE - Electronic Document Option
			PRINT DATA EXCHANGE - Enterprise Printer Option
		PRINT DATA EXCHANGE for Open	
PDE - LP Edition		PRINT DATA EXCHANGE - Line Printer Edition	
PDE - LP Option		PRINT DATA EXCHANGE - Line Printer Option	
PDE - Form Designer	PDE - Form Designer	PRINT DATA EXCHANGE - Form Designer	
	PDE - Form Designer 記述文オプション	PRINT DATA EXCHANGE - Form Overlay Source Option	
PDE イメージ転送		VOS1/FS PRINT DATA EXCHANGE イメージ転送	
		VOS1/LS PRINT DATA EXCHANGE イメージ転送	
		VOSK/FS PRINT DATA EXCHANGE イメージ転送	
		VOSK/LS PRINT DATA EXCHANGE イメージ転送	

(2) PRINT DATA EXCHANGE 以外

このマニュアルでは、PRINT DATA EXCHANGE 以外の製品名を次のように表記しています。

表記	製品名
VOS3	VOS3/AS

表記	製品名
	VOS3/FS
	VOS3/LS
	VOS3/US
VOS1	VOS1/FS
	VOS1/LS
VOSK	VOSK/FS
	VOSK/LS

このほか、このマニュアルでは、次に示す表記方法を使用しています。

- VOS3, VOS1, および VOSK を合わせてメインフレームと表記することがあります。
- このマニュアルでは、数値の単位としてインチを使用しています。1 インチは 25.4mm を示します。

付録 J.3 英略語

このマニュアルで使用する英略語を次に示します。

英略語	説明
CD-ROM	Compact Disc-Read Only Memory
CPI	Character Per Inch
DPI	Dot Per Inch
EBCDIK	Extended Binary Coded Decimal Interchange Kana Code
FCB	Forms Control Buffer
FOG	Forms Overlay Generator
FOG2 E2	Forms Overlay Generator 2 Extended Version 2
FTP	File Transfer Protocol
GUI	Graphical User Interface
JIS	Japanese Industrial Standards
KAPS	Kanji Processing utility System
KAPS E3	Kanji Processing utility System Extended Version 3
KEIS	Kanji Processing Extended Information System
LPI	Line Per Inch
MRU	Most Recently Used
OS	Operating System
PC	Personal Computer
PDF	Portable Document Format
UAC	User Account Control

付録 J.4 KB (キロバイト) などの単位表記について

1KB (キロバイト), 1MB (メガバイト), 1GB (ギガバイト), 1TB (テラバイト) はそれぞれ 1,024 バイト, 1,024² バイト, 1,024³ バイト, 1,024⁴ バイトです。

付録 K 用語解説

(英字)

FCB (Forms Control Buffer) イメージ

行間隔, 行に対するチャンネル番号, 用紙の大きさなどを定義した制御イメージです。さらに, 両面印刷プリンタの場合は, 両面印刷, とじ代位置, 印字禁止領域, 回転印刷, および縮小印刷, 連続紙プリンタの場合は, 印字禁止領域幅が定義できます。

FOG2 E2

VOS3 書式オーバーレイゼネレータ FOG2 E2, VOS1 書式オーバーレイゼネレータ FOG2 E2, および VOSK 書式オーバーレイゼネレータ FOG2 E2 の総称です。

KAPS E3

KEIS に基づいた漢字処理で使う文字, 漢字ハードウェア用各種制御情報, および用語を管理する基盤プログラムです。

LP モード

カット紙ページプリンタの場合, 用紙サイズ A4 横向きにラインプリンタ出力形式 (ページ当たり 66 行) の印刷ができます。ラインプリンタ形式の印刷機能を LP モードと呼び, 特殊サイズの FCB イメージを使用します。

(力行)

外字イメージ

外字の文字パターンで構成する制御イメージです。

各種 CODE 文

文字列を定義する書式記述文の総称です。CODE 文, NCODE 文, NNCODE 文, NACODE 文, NXC CODE 文, NHCODE 文, NKCODE 文, CONST 文, および ECODE 文を示します。

漢字コード変換テーブル

書式设计機能で書式イメージを編集する場合, シフト JIS コードと KEIS コード間のコード変換が発生します。このときに外字をどのようにマッピングさせるかを定義しておくテーブルです。

桁ずらし文字

センタ漢字プリンタでは, プリンタの PIB (Print position Index Byte) 機能を使って, 1 行内のデータを指定文字数分右方向にずらすことができます。桁ずらしする文字の大きさは, 印刷ジョブの CHARS の設定に従い, PDE 環境設定の書体設定で次に示す設定が適用されます。

- 文字配列テーブルまたは EBCDIK 文字セットイメージ名に登録したイメージ名に対応する文字ピッチ

なお, CHARS に指定した値がイメージ名として登録されていない場合は次に示す設定が適用されます。

- 文字順序番号の「順序番号 0」の「文字ピッチ」

(サ行)

書式

プレプリント用紙に代わる 1 ページ分の様式です。帳票の見出しやけい線などの固定部分が該当します。

書式イメージファイル

書式定義機能で作成する書式の定義体です。ファイルは (.fog) 形式です。

書式オーバーレイ

出力データに対して、1 ページ分の書式を同時印刷することです。

書式記述文

メインフレームで、書式オーバーレイモジュールを生成する場合に使用する書式を定義する一連の文です。書式オーバーレイゼネレータ (FOG) の入力となります。使用する書式オーバーレイゼネレータのバージョンに応じて、一部文法が異なります。

書式名

書式を識別するための名称です。書式設計機能の [書式情報設定] 画面で書式イメージファイル中に設定します。書式オーバーレイ生成および書式記述文生成機能使用時に、出力ファイル名およびファイル中でも使用されます。

(夕行)

タイプ C 書式

PRINT DATA EXCHANGE 用の書式でコマンドとして生成する書式です。

タイプ C 書式オーバーレイモジュール (書式オーバーレイモジュール)

PRINT DATA EXCHANGE 用の書式オーバーレイモジュールで、PDE が入力することで、PDE で書式オーバーレイ出力ができます。PDE - Form Designer では、タイプ C 書式だけを対象としているため、このマニュアルでは、書式オーバーレイモジュールとして記載しています。

デフォルト機能キャラクタイメージ

行の先頭に仮定する機能キャラクタを定義した制御イメージです。

(八行)

プリンタ制御データ

書式オーバーレイモジュール、FCB イメージ、およびデフォルト機能キャラクタイメージの総称です。

ホスト用互換形式

ホスト用制御イメージと互換性のあるフォーマットです。

(マ行)

文字属性

書式記述文で、文字サイズと全半角種別を識別するための属性です。

(ヤ行)

用紙サイズ・行間値拡張形式

ホスト用 FCB イメージのフォーマットから用紙サイズと行間値の入力範囲が拡張されたフォーマットです。

索引

記号

- [FCB イメージ作成機能] 画面 147
- [FCB イメージ作成機能] 画面とメニュー項目一覧 147
- [FCB イメージ作成機能] 画面のメニュー項目一覧 148
- [オプション設定] 画面 47
- [外字マッピング] 画面 49
- [環境設定] 画面 38
- [強調表示] 画面 190
- [共通項目] 画面 40
- [行データ右移動] 画面 190
- [行の挿入] 画面 159, 174
- [行の変更] 画面 163, 175
- [禁止項目] 画面 48
- [コード種別] 画面 188, 201
- [作画・編集オプション] 画面 78
- [作画属性] 画面 46, 69
- [字間値] 画面 189, 201
- [書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面 135
- [書式オーバーレイ / 書式記述文 / 書式イメージ生成] 画面と項目一覧 135
- [書式情報] 画面 45, 65
- [書式设计] 画面 58
- [書式设计] 画面とメニュー項目一覧 58
- [書式设计] 画面のカラーツールバーとカラーボタン 62
- [書式设计] 画面の作画ツールバーと作画ボタン 61
- [書式设计] 画面の標準ツールバーと標準ボタン 62
- [書式设计] 画面のメニュー項目一覧 59
- [書体番号] 画面 188, 201
- [新規作成] 画面 149
- [制御イメージ一覧機能] 画面 220
- [制御イメージ一覧機能] 画面とメニュー項目一覧 220
- [制御イメージ一覧機能] 画面の標準ツールバーと標準ボタン 222
- [デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面 183
- [デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面とメニュー項目一覧 183
- [デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面のメニュー項目一覧 183
- [パターン・イメージ] 画面 97
- [パターンファイルの選択] 画面 96
- [表示・印刷オプション] 画面 79
- [フォルダ設定] 画面 40
- [部品イメージ] 画面 99
- [部品ファイルの選択] 画面 99
- [マージンの変更] 画面 152
- [マージンの変更] 画面の設定項目と設定できるマージン値 153
- [文字サイズ] 画面 188
- [文字の向き] 画面 189
- [文字列入力] 画面 91
- [用紙長の変更] 画面 158
- [横倍] 画面 190, 202
- [ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能] 画面構成 171
- [ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能] 画面とメニュー項目一覧 171
- [ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能] 画面のメニュー項目一覧 172
- [ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面 196
- [ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面とメニュー項目一覧 196
- [ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能] 画面のメニュー項目一覧 196

F

- FCB イメージ 295
- FCB イメージ, デフォルト機能キャラクタイメージを作成する手順 22
- FCB イメージ作成 (VOS1 KAPS (KLIB)) 267
- FCB イメージ作成 (VOS3 KAPS E3 (KLIB)) 264
- FCB イメージ作成 (VOSK EDIT DCI コマンド) 271
- FCB イメージ作成機能 9, 141, 142
- FCB イメージ作成機能で設定または操作できる内容 10
- FCB イメージ作成機能の入出力対象となるファイルと役割 145
- FCB イメージ作成機能の入出力ファイル 145
- FCB イメージ作成の開始から終了までの手順 143
- FCB イメージ作成の開始と終了 149
- FCB イメージ作成の終了 151
- FCB イメージ作成の手順 143
- FCB イメージの編集の設定 152
- FCB イメージの保存 165
- FCB イメージファイル 18
- FCB イメージファイル名 145

FCB イメージ名 142

FDSNC コマンドで指定するパラメタ 139

FDSNSO コマンドで指定するパラメタ 210

FOG2 E2 295

I

IT Report Utility を利用した保守情報の採取 241

K

KAPS E3 295

L

LP モード 295

P

PDE - Form Designer 2

PDE - Form Designer および PDE - Form Designer
記述文オプションをインストールした場合に PC に
登録される提供フォルダおよびプログラム 29

PDE - Form Designer 記述文オプションのアンインス
トール方法 31

PDE - Form Designer で作成できる制御イメージのサ
ポート範囲 21

PDE - Form Designer での文字コードの扱い(分散タ
イプ PDE だけ適用) 276

PDE - Form Designer のアンインストール方法 31

PDE - Form Designer のインストール方法 26

PDE - Form Designer の概要 2

PDE - Form Designer の機能概要 6

PDE - Form Designer の適用範囲 20

PDE - Form Designer の特長 3

PDE - Form Designer を利用する場合のシステム構成
と処理の流れ 4

PDE が入力できる書式オーバーレイモジュール 20

PDE 実行時のトラブル 235

S

STAMPSII からの移行 280

V

VOS1 FCB マクロに対するサポート範囲 275

VOS1 FCB マクロのサポート範囲 275

VOS1 KAPS (KLIB) 制御文に対するサポート範囲
267

VOS1 KAPS (KLIB) 制御文のサポート範囲 (FCB
イメージ) 267

VOS1 KAPS (KLIB) 制御文のサポート範囲 (デ
フォルト機能キャラクタイメージ) 269

VOS1 KAPS (KLIB) 制御文のサポート範囲 (ライ
ンプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ)
269

VOS3 KAPS E3 (KLIB) 制御文に対するサポート範
囲 264

VOS3 KAPS E3 (KLIB) 制御文のサポート範囲
(FCB イメージ) 264

VOS3 KAPS E3 (KLIB) 制御文のサポート範囲 (デ
フォルト機能キャラクタイメージ) 265

VOSK EDIT DCI コマンドに対するサポート範囲
271

VOSK EDIT DCI コマンドのサポート範囲 (FCB イ
メージ) 271

VOSK EDIT DCI コマンドのサポート範囲 (デフォ
ルト機能キャラクタイメージ) 272

VOSK EDIT DCI コマンドのサポート範囲 (ライン
プリンタ用 FCB イメージ) 273

VOSK EDIT DCI コマンドのサポート範囲 (ライン
プリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ) 274

あ

値の編集 187, 200

アンインストール方法 31

い

色番号の設定 126

印刷形態の設定 159

印刷不可代替文字の印字が行われる場合に当てはまる
文字の一覧 276

印刷不可代替文字の印字例 277

印字される字形が入れ替わる文字の一覧 277

印字される字形が入れ替わる文字の印字例 278

印字される字形の変更および印刷不可代替文字の印字
が行われる文字の一覧 278

印字される字形の変更および印刷不可代替文字の印字
が行われる文字の印字例 279

インストール/アンインストール 25

インストールおよびアンインストール時の注意事項
32

インストールおよびアンインストールのトラブル
234

インストール方法 26

う

運用時の注意事項 33

え

エラーメッセージ 243
 エラーメッセージ一覧 246
 エラーメッセージの出力形式 244

お

オプション設定ファイル 18, 281

か

外字イメージ 295
 外字領域の設定 49
 概要 1
 各機能キャラクタの設定画面 187, 200
 各種 CODE 文 295
 環境設定機能 6, 35
 環境設定機能一覧 36
 環境設定機能で設定または操作できる内容 6
 環境設定時のトラブル 234
 環境設定の開始 38
 環境設定の開始と終了 38
 環境設定の終了 38
 環境設定ファイル 17
 環境設定ファイルの初期化 39
 漢字コード変換テーブル 17, 295
 漢字コードマップ機能 (漢字コード変換テーブルの作成) 7
 漢字コードマップ定義ファイル 17

き

既存の書式を変更する場合の操作手順 261
 行情報の編集 159
 共通項目の設定 40
 禁止項目の設定 48

け

警告ダイアログの非表示設定 229
 桁ずらし文字 295

こ

コードマップジェネレータ使用時のトラブル 234
 このマニュアルの参考情報 293
 コマンドプロンプトを使用した書式イメージ生成 216
 コマンドプロンプトを使用した書式オーバーレイモジュール生成 139
 コマンドプロンプトを使用した書式記述文生成 210

さ

最近使用したフォルダの表示 232
 作画・編集操作の取り消し 83
 作画・編集方法の設定 78
 作画機能 84
 作画属性の設定 68
 作成済み FCB イメージの変更の開始 150
 作成済みデフォルト機能キャラクタイメージの変更の開始 185
 作成済みラインプリンタ用 FCB イメージの変更の開始 173
 作成済みラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージの変更の開始 198

し

システム構成と処理の流れ 4
 縮小後のマージン値の計算式 155
 使用 / 不使用の編集 200
 障害発生状況別のトラブル 234
 障害発生に対する備え 240
 状態表示バー 81
 使用欄の編集 187
 初期値の設定 45
 書式 295
 書式イメージ生成機能 211
 書式イメージ生成機能の入出力ファイル 213
 書式イメージの生成 214
 書式イメージの生成規則 289
 書式イメージファイル 18, 295
 書式イメージファイル名 213
 書式オーバーレイ 296
 書式オーバーレイモジュール, FCB イメージ, デフォルト機能キャラクタイメージ, および書式記述文の作成手順 22
 書式オーバーレイモジュール生成機能 9, 131, 132
 書式オーバーレイモジュール生成機能で設定または操作できる内容 9
 書式オーバーレイモジュール生成機能の入出力対象となるファイルとその役割 133
 書式オーバーレイモジュール生成機能の入出力ファイル 133
 書式オーバーレイモジュール生成時のトラブル 235
 書式オーバーレイモジュール生成の操作方法 262
 書式オーバーレイモジュールの生成 137
 書式オーバーレイモジュールファイル 18
 書式オーバーレイモジュールファイル名 133
 書式オーバーレイモジュールを作成する手順 22
 書式記述文 18, 296
 書式記述文生成機能 13, 205, 206

書式記述文生成機能で設定または操作できる内容 13
 書式記述文生成機能の入出力対象となるファイルとその役割 207
 書式記述文生成機能の入出力ファイル 207
 書式記述文生成時のトラブル 238
 書式記述文の生成 208
 書式記述文の生成規則 287
 書式記述文ファイル名 207
 書式記述文を作成する手順 23
 書式サイズと各単位での大きさ 66
 書式サイズと各単位でのます目の大きさ 67
 書式情報の設定 65
 書式生成設定の設定 54
 書式设计から書式オーバーレイモジュール生成までの操作手順 252
 書式设计機能（書式イメージファイルの作成 / 編集） 7
 書式设计情報の設定 65
 書式设计で作画できる図形の種類 84
 書式设计で入出力対象となるファイルと役割 57
 書式设计に関する設定 45
 書式设计の開始 64
 書式设计の開始から終了までの流れ 56
 書式设计の開始と終了 64
 書式设计の終了 64
 書式设计の状態表示 81
 書式设计の操作手順 253
 書式设计の操作例 251
 書式设计の入出力ファイル 57
 書式定義機能 7, 55, 56
 書式定義機能で設定または操作できる内容 8
 書式の作成 83
 書式の保存 123
 書式パターンの作成 128
 書式パターンファイル 18
 書式パターン変換機能（書式パターンファイルの作成 / 編集） 7
 書式表示倍率の変更 123
 書式部品の保存 125
 書式部品ファイル 18
 書式名 296
 新規 FCB イメージの作成の開始 149
 新規に書式を作成する場合の操作手順 253
 新規ラインプリンタ用 FCB イメージの作成の開始 173

す

数値の単位の選択 152

せ

制御イメージ一覧機能 14, 217, 218
 制御イメージ一覧機能で操作できる内容 15
 制御イメージ一覧機能での制御イメージ一覧の表示 228
 制御イメージ一覧機能の開始 227
 制御イメージ一覧機能の開始と終了 227
 制御イメージ一覧機能の終了 227
 制御イメージ一覧機能の入出力ファイル 219
 制御イメージ一覧の最新情報への更新 231
 制御イメージ一覧の保存 231
 制御イメージ一覧ファイル 19
 制御イメージ設定の設定 53
 制御イメージの削除 231
 制御イメージの新規作成 230
 制御イメージの並べ替え 228
 生成した書式記述文を使用するシステムでのトラブル 238
 全体設定 40

そ

操作の中止 123
 その他 53

た

タイプ C 書式 296
 タイプ C 書式オーバーレイモジュール 296

て

提供フォルダおよびプログラム 28
 デフォルト機能キャラクタイメージ 296
 デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能 12, 179, 180
 デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能で設定または操作できる内容 12
 デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能の入出力対象となるファイルと役割 182
 デフォルト機能キャラクタイメージ作成機能の入出力ファイル 182
 デフォルト機能キャラクタイメージ作成の開始と終了 185
 デフォルト機能キャラクタイメージ作成の終了 186
 デフォルト機能キャラクタイメージの作成の開始 185
 デフォルト機能キャラクタイメージの編集の設定 187
 デフォルト機能キャラクタイメージの保存 192
 デフォルト機能キャラクタイメージファイル 18

デフォルト機能キャラクタイメージファイル名 182
 デフォルト機能キャラクタイメージ名 180
 デフォルト機能キャラクタ作成 (VOS1 KAPS
 (KLIB)) 268
 デフォルト機能キャラクタ作成 (VOS3 KAPS E3
 (KLIB)) 265
 デフォルト機能キャラクタ作成 (VOSK EDIT DCI コ
 マンド) 272

と

トラブルシューティング 233
 取り消した作画・編集操作のやり直し 83

に

入出力ファイル一覧 17

ひ

ビットマップ 17
 表示・印刷方法の設定 79
 表示する数値の単位の変更 229
 表示する制御イメージの種類の変更 229
 表示するファイルの選択 229
 表示するフォルダの選択 228

ふ

フォルダの設定 40
 プリンタ制御データ 296

へ

編集機能 100

ほ

ホスト用互換形式 296

め

メインフレームと PDE・Form Designer での FCB イ
 メージ作成の流れ 142
 メインフレームと PDE・Form Designer でのデフォ
 ルト機能キャラクタイメージ作成の流れ 180

も

文字が入れ替わる文字の一覧 279
 文字属性 296

よ

用語解説 295
 用紙サイズ・行間値拡張形式 296
 用紙選択と印刷領域の設定 152

ら

ラインプリンタ用 FCB イメージ作成 (VOSK EDIT
 DCI コマンド) 273
 ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能 167, 168
 ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能の入出力対
 象となるファイルと役割 170
 ラインプリンタ用 FCB イメージ作成機能の入出力
 ファイル 170
 ラインプリンタ用 FCB イメージ作成の開始から終了
 までの手順 169
 ラインプリンタ用 FCB イメージ作成の開始と終了
 173
 ラインプリンタ用 FCB イメージ作成の終了 173
 ラインプリンタ用 FCB イメージ作成の手順 169
 ラインプリンタ用 FCB イメージの編集の設定 174
 ラインプリンタ用 FCB イメージの保存 177
 ラインプリンタ用 FCB イメージファイル名 170
 ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ
 作成 (VOSK EDIT DCI コマンド) 273
 ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ
 作成機能 193, 194
 ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ
 作成機能の入出力対象となるファイルと役割 195
 ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ
 作成機能の入出力ファイル 195
 ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ
 作成の開始と終了 198
 ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ
 作成の終了 198
 ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ
 の作成の開始 198
 ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ
 の編集 200
 ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ
 の保存 203
 ラインプリンタ用デフォルト機能キャラクタイメージ
 ファイル名 195

れ

連続紙用 FCB イメージ作成時のトラブル 236